

て、硫酸「ナトリウム」及び硝酸を生ずること次の如し、



第二段の反応を起さしむる爲に熱する時は、硝酸の幾分は次の如く分解せらる、

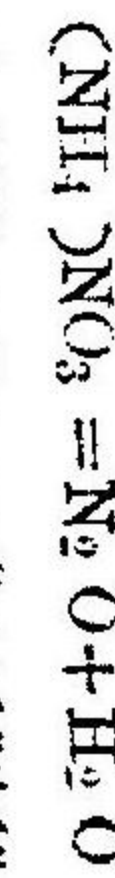


硝酸を製造するに、普通に用ゐらる「レトルト」Aは、鑄鐵製の圓筒にして、時として全部或は一部分を、耐火粘土にて包まる、而して此の「レトルト」は出来るだけ一様に熱せらるる様に爐中に建てらる、又平石にて密閉せられたる「レトルト」の端は確乎と鐵管に密着せり、知利硝石及び硫酸を一小孔より入れたる後、其の孔を密封す、蒸氣は圖に示したる如く、土製の管eによりて運ばれ土製の瓶hの一系列に入る、此等の瓶の最後の物は、「ヨークス」を充したる塔に連れり、故に最後の瓶に凝縮せざる蒸氣が此の塔に至れば、「ヨークス」の上より注下せる水の爲に蒸氣中に含有せる過酸化窒素は吸収せらる、

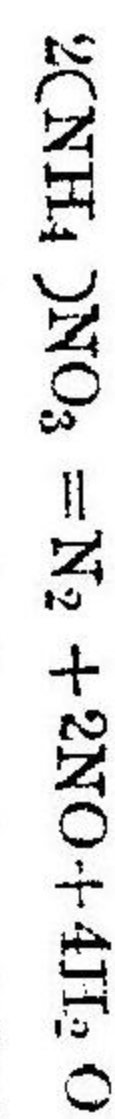
シヨ一 サイアミウム (硝酸アムモニウム) 化英

Ammonium nitrate. NH_4NO_3 此の化合物の天然に存するものは、窒素含有物が微菌が作用して生ずるものにして、其の少量は自然に土中に存在して植物の成長を助く、硝酸に「アムモニヤ」水を加へて得らる、潮解性の無色針狀

の結晶體にして、よく水に溶解す、緩に熱する時は分解して亞酸化窒素及び水を生ず、



然れども急劇に熱する時は、窒素と酸化窒素及び水を生ず、即ち



此の分解は劇烈にして、時としては爆裂することあるが故に注意を要するなり、又硝酸「アムモニウム」が水に溶くる時は温度著しく下る、

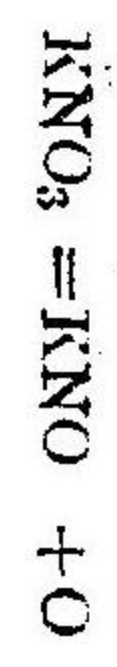
シヨ一 サンカリウム (硝酸カリウム) 化英 Potassium nitrate. KNO_3

通常、硝石と稱す、含窒素有機物の地中に在りて酸化せられて生ずるものなり、硝石は往々硝田に於て製造するものにして、印度の如き熱帶少雨の地に於ては、硝田に木灰を散布し、其の上に動物質の窒素含有物(禽獸糞魚の廢物)を曝す時は、動物質中に含有せる窒素は、微菌の作用に由りて酸化して硝酸となる、而して此の酸は木灰中の「カリウム」と化合して硝石となる、故に數ヶ月後硝田の土を集め、之より水にて硝石を抽出して結晶せしむ、然れども方今歐米に於ては智利硝石の水溶液に鹽化「カリウム」を加へて製造す、其の反應は次の如し、



此の水溶液を熱して濃厚ならしむる時は、食鹽は最初に液中に結晶するが故に之を取り除き、其の殘液を放冷する時は終に硝石の結晶を得、

硝石の水溶液を徐々に蒸發する時は、針狀の無水結晶を得、又其の濃厚なる溶液を放冷する時は、細末狀の結晶を生ず、容易く水に溶解す、水の百分は零度にては十三・三分を、百度にては二十四・七分を溶解す、高温度に熱する時は含有する酸素の一部を游離す、即ち



劇烈なる酸化劑にして、之を可燃物と共に熱する時は、之に酸素を與へて燃焼せしむ、通常の黒色火薬は木炭、硫黄及び硝石の混合物より成れるものなり、火薬の條を見よ、硝石は主に火薬、爆發藥、硝酸の製造、含嗽、解熱、利尿等の醫藥等に供す、

自然に産する硝石鑛は(一)斜方晶系(二)白色(三)白色の條痕(四)玻璃光澤(五)硬度二(六)比重一・九三(七)天然に古き家屋の床下等に産す、

シヨ一 サギン (硝酸銀) 化英 Silver nitrate. AgNO_3

銀に硝酸を加へて熱すれば、速かに溶解して硝酸銀となり、多量の酸化窒素を發す、即ち



此の液を蒸發すれば、硝酸銀は透明の板狀結晶となりて析出す、零度の水の百分は硝酸銀の百二十二分を溶解し、百度にては凡其の十倍を溶かす、水溶液は中性にして金屬性の苦味を有す、百八十九度にて熔融し、赤熱にては全く分解して金屬銀を游離し過酸化窒素を發す、皮膚或は有機物に觸るれば、之を腐蝕して黒色に變ず、故に醫術に於て腐蝕劑として用ゐる、蓋し純粹なるものは光線に觸れて變化せざれども、有機物の存在する時に速かに黒色に變ずるは、金屬銀の游離する爲ならん、此の性質を利用して「アラゼアゴム」液を混和し、綿布等に文字を記するに用ゐる、ことあり、不消「インキ」と稱せらる、硝酸銀を鹽化物の水溶液に加ふるときは、鹽化銀の白色沈澱を生ずるにより、化學實驗室に於ては鹽素の存否を検するに用ゐらる、こと多し、

シヨ一 サンダイイコバルト (硝酸第一コバルト) 化英 Cobaltous nitrate $\text{Co(NO}_3)_2$

此の物は酸化「コバルト」炭酸「コバルト」等を硝酸に溶解したる液を蒸發するとき、赤色針狀の結晶として得らる、化學實驗中吹管分析の際「アルミニウム」「亜鉛」等の化合物を検出するに用ゐらる、

シヨ一 サンダイイチスイギン (硝酸第一水銀) 化英 Mercuric nitrate HgNO_3

此の物を製するには、水銀を濃厚なる硝酸(比重一・二)に溶解し、其の液に少量の

水銀を加へ、蒸發して濃厚となす時は、硝酸第一水銀は美麗なる無色の結晶となりて生ず、此の結晶は少量の水に溶解すれども、過量の水には分解せられて不溶性の鹽基性硝酸第一水銀となる、硝酸第一水銀の溶液は強き酸性反應を呈す、皮膚に觸るれば黒色の痕を生ず、劇毒なるを以て取扱ふには注意すべし、

シヨサンダイイチニッケル (硝酸第一ニッケル) 化

英 Nickelous nitrate, Ni(NO₃)₂。此の物は金屬「ニッケル」或は其の鹽化物を硝酸に溶解して得らる、此の液を濃厚ならしむれば、七分子の結晶水を取りて綠色針狀に結晶し出づ、

シヨサンドー (硝酸銅) 化英 Cupric nitrate,

Cu(NO₃)₂。銅屑或は酸化銅を硝酸に溶解すれば容易く硝酸銅を生ず、



此の液を蒸發すれば、硝酸銅は三分子の結晶水を含める潮解し易き針狀の結晶となる、此の物は酸性の反應を呈し、能く「アルコール」に溶解す、緩に熱すれば、分解して最初は鹽基性の硝酸銅となる、尙ほ強く熱すれば、過酸化窒素瓦斯を發して黑色酸化銅となる、

シヨサントロンチウム (硝酸ストロンチウム) 化英 Strontium nitrate, Sr(NO₃)₂。硝酸「ストロンチウム」は「ストロンチウム」鹽末を硝酸に溶解して製す、善く水に溶解す、之に可燃物を加へて熱すれば、燦然たる赤色の光を放つを以て、煙火の製造に用ゐらる、

シヨサナトリウム (硝酸ナトリウム) 化英 Sodium nitrate, NaNO₃。硝酸「ナトリウム」は南米「チリ」國に殊に多量に産す、故に智利硝石の名あり、硝酸「ナトリウム」は硝石に似たる性質を有し、水に溶解し易き粒狀の結晶體なり、零度の水の百分は硝酸「ナトリウム」の七十三分を、百度にては百八十分を溶解す、多くは硝石及び硝酸の製造又は肥料に供す、

シヨサナマリ (硝酸鉛) 化英 Lead nitrate, Pb(NO₃)₂。此の物は、酸化鉛、炭酸鉛或は鉛を硝酸に溶解したるものを濃厚にすれば、不透明白色の粒狀結晶となりて生ず、水には容易く溶解す、稀薄なる硝酸には僅に溶解すれども、濃厚なる硝酸には溶解せず、熱すれば分解して過酸化窒素瓦斯及び酸化鉛となる、

シヨシ (上肢) 動英 Fore limb。四肢を有する動物の四肢又は手をいふ、
シヨシ (處暑) 地 二十四節氣の一、陰曆七月中、陽曆八月廿三日なり、
シヨシ (小暑) 地 二十四節氣の一、陰曆六月の節、陽曆七月七日なり、
シヨシ (床狀) 鑛 岩鑛に相同じ、
シヨシ (猩々) 動 Pithecius 英 Orang (Outang) 「スマトラ」「ボルネオ」等の地に棲息する「サル」類にして、全面に長き毛を相生し、耳介小にして、口は圓く突出し、尾及び臀に無毛の厚皮部なく、性緩漫なり、
シヨシ (常磁性體) 物 英 Paramagnetic substance。磁性體と同じ、
シヨシ (晶質砂岩) 鑛 英 Crystalline sandstone。水磨せられたる砂粒が、晶質石英にて膠結せられて生成せしものなり、故に一部は層狀、一部は晶質の物質より成り、其の質緻密なり、
シヨシ (硝子膜) 生英 Cuticle。「シヨ」に同じ、
シヨシ (上唇) 動 英 Labrum。昆蟲の口器中最も前方にありて唇狀をなす薄膜をいふ、
シヨシ (顳顬筋) 生英 Temporal muscle。顳顬骨より下顎骨に渉る筋肉にして、收縮すれば下顎を上へ擧げ、咀嚼の用をなさしむ、「ユメカミ」の動くは此の筋の收縮による、

シヨシ (硝子膜) 生英 Cuticle。「シヨ」に同じ、
シヨシ (上唇) 動 英 Labrum。昆蟲の口器中最も前方にありて唇狀をなす薄膜をいふ、
シヨシ (顳顬筋) 生英 Temporal muscle。顳顬骨より下顎骨に渉る筋肉にして、收縮すれば下顎を上へ擧げ、咀嚼の用をなさしむ、「ユメカミ」の動くは此の筋の收縮による、

シヨシ (顳顬骨) 生英 Temporal bone。耳介の上前方にある骨にして、中央部は内方に向かひて厚く、此の内に聽感器即ち耳の諸器官を容る、咀嚼を司る顳顬筋の起點は即ち此の骨なり、
シヨシ (小循環) 生 「ハイジュンカン」を見よ、
シヨシ (硝子樣液) 生英 Vitreous humor。眼球内の「レンズ」と網膜との間を満たす液體をいふ、
シヨシ (消食器) 生 「シヨカキ」に同じ、
シヨシ (鞘翅類) 動 Coleoptera。又甲蟲ともいひ、口器嚙咬に適し、前翅角質にして、變態完全なり、頭及び前胸は角質の硬皮を被り、概ね自在に運動す、觸角の形狀は種々にして、多くは複眼を有す、角質の前翅は靜止するとき後翅及柔軟なる腹背部を保護す、後翅は膜質にして、靜止するとき横折し、脚は走行或は游泳に適し、腹は通常肥大なり、「カミキリムシ」「テントウムシ」「ハンミョウ」「ユガネムシ」等々に屬す、
シヨシ (定數比例の法則) 化 定比例の定律に同じ、
シヨシ (硝石) 化 鑛 英 Nitre or salt petre。硝酸「カリウム」に同じ、
シヨシ (削成山) 地 山脈は、其の成生後、更に水の

根より吸上げられたる水は、莖幹の木質部を上昇して葉に達し大細の葉脈を経て、冷く葉の全面に行き互り、其の大部分は遂に葉の氣孔より蒸發す、之を蒸騰作用又は發散作用と云ふ、

シヨニユーセキ (鍾乳石又石鍾乳) 鑛英 stalactite.
炭酸石灰を抱有する所の水が、石灰洞の上部に来るときは、炭酸を失ふと同時に炭酸石灰を分離し、滴々相次で來るが爲に、炭酸石灰は遂に氷柱の如くなりて垂下するに至る、之を鍾乳石と云ふ、

シヨノ (樟腦) 化英 Camphor.
シヨノノセーシツ (樟腦の性質) 無色透明の塊にして、酒精溶液よりは結晶となりて折出す、一種特異の香を有す、昇華すれば光輝ある柱狀の結晶となる、比重は〇・九八五にして、常温にて氣化し、百七十五度にて熔融す、其の「アルコ

ール」溶液は偏光面を右方に回轉す、
シヨノノセーホー (樟腦の製法) 樟腦は我國及び支那に産する樟樹の各部に存在するを以て、之を製するには細に切りたる樟樹の幹、根及び葉等を鐵器にて乾溜し、溜出するものを凝固せしむ、之を再昇華して純粹にす、又人工的に製造することを得、

シヨノノ (小腦) 生英 Cerebellum. 腦の後下端に接

したる横皺ある小體にして、横徑二寸五分許りあり、大腦と等しく灰白質外面を蔽ひ、皺と共に内部に樹狀をなして侵入す、犬鳩等につきて試験するに、主として運動を調節する作用あるが如し、故に之を切り去れば、正しき運動をなすこと能はず、

シヨハカシヨクツ (松柏科植物) 植 Coniferae.
花は單性又は兩性なり、雄花は唯雄蕊よりなり、雌花は鱗片狀の實葉よりなり、其の上面に突出する一體より、一乃至無數の卵子を生ず、果實は通例繸果稀に核果様なり、葉は針形又は鱗形、又は稀に廣潤なり、樹脂貯藏器あり、
カヤ屬、一位屬、ヒノキ屬、アスナロ屬、松屬、モミ屬、コノハキ屬等之に屬す、

シヨツ (蒸發) 物英 Evaporation. 液體が温度の高低如何に係らず、其の表面より蒸氣を生ずる所の現象を蒸發と稱す、
シヨツツ (蒸發熱) 物英 Latent heat of evaporation. 氣化熱を見よ、

シヨヒ (上皮) 植英 Epithelium. 顯花植物、羊齒植物の諸部の表面を取り圍む所の組織は、通常一層にして扁平なる細胞より成る、之を上皮と稱す、
シヨヒセキ (蔷薇輝石) 鑛英 Rhodolite. 「キセキ」

(輝石)の條につきて其の種類の部を見よ、

シヨヒセキ (蔷薇石英) 鑛英 Rosy quartz.
「セキエー」を見よ、

シヨフ (蕉布) 植 「フシヨ」(蕉蕉)を見よ、

シヨフ (定風) 地 「テフ」に同じ、

シヨクツガン (植物岩) 鑛英 Phytogene rocks. 硅藻土、地瀝青、石蠟の如く、生因を植物に歸すべき岩石を云ふ、

シヨホ (助胞) 植 筋細胞に同じ、

シヨホ (釀母) 化英 Yeast. 醱酵を起す有機酵母をいふ、例へば「イースト」の如し、

シヨホキン (釀母菌) 植 芽生菌又は酵母とも稱し、諸種の砂糖液を醱酵して「アルコール」を産出する菌を云ふ、其の形狀は球形或は楕圓形をなし、其の大きは細菌の大なるものよりも大なり、其の體質一様にして、内に原形質類及二三の空胞を含有す、其の繁殖法に三種あり、

(A) 體の一方に芽を發し、次第に成長して母體と同様なる大さに達すれば、分離して獨立の酵母となり、時としては又芽を生じ、互に相結合して、數個の酵母相連続することあり、

(B) 時として、細胞内に多數の小細胞(芽胞)を作り、漸次膨大して成熟し、遂に破裂分離して一個體となる、

(C) 菌絲を作りて繁殖す、即ち始め細胞の一方突出し、漸次長く延びて遂に絲狀物となり、横に數多に分割せられ、各割分は漸く膨脹して楕圓形をなし、遂に分離して獨立の酵母となる、

シヨマン (小滿) 地 二十四節氣の一、陰曆四月の節、陽曆五月廿一日なり、

シヨミヤク (靜脈) 生英 Vein. 脈搏なき血管を靜脈といふ、換言すれば心臟に歸る血液を容る、血管にして、體循環にありては汚血を有し、肺循環にありては清血を容る、老人に多く見ゆる「アオスツ」は即ち皮膚に近き靜脈なり、かく靜脈は皮膚直下にあるにより、傷を被る恐れ多けれども、靜脈には脈搏なきにより、傷けらるるも動脈に比し危険少し、又皮下の靜脈は壓せらるること屢なるにより、到る處に網狀をなせる連絡ありて、何れかによりて血液を流通せしむ、又血液の逆流を防ぐため、所々に瓣を具す、

シヨミヤクケツ (靜脈血) 生 靜脈内の血液にして、體循環にありては汚血、肺循環にありては清血をいふ、汚血は炭酸瓦斯、尿の如き老廢物を有するにより暗赤色を呈するなり、然れども腎靜脈には尿なく、肺靜脈の血には炭酸瓦斯なし、
シヨノセーパン (醬油の成分) 化 東京衛生試験所に於て、普通の醬油十餘種を分析したる結果は左の如し、

シヨロ

成分	最少數	最多數	平均數
比重	一、一九三	一、二一六	一、二〇五
固形分	三二、五七九	四〇、七五〇	三八、〇一三
葡萄糖	二、二三〇	八、六三〇	四、二九二
埜幾斯篤林 <small>トリキス</small>	〇、七三八	四、一四〇	一、四五八
游離酸(乳酸)	〇、三四七	一、三七七	一、〇四一
窒素	〇、五一二	一、五六四	一、二七九
無機鹽	一七、四七〇	二二、六一〇	二〇、二七一
食鹽	一五、二四五	二一、七六二	一七、八〇五
磷酸(P ₂ O ₅)	〇、一七九	〇、六六五	〇、四七三

固形分百につき食鹽…………… 四六、八四

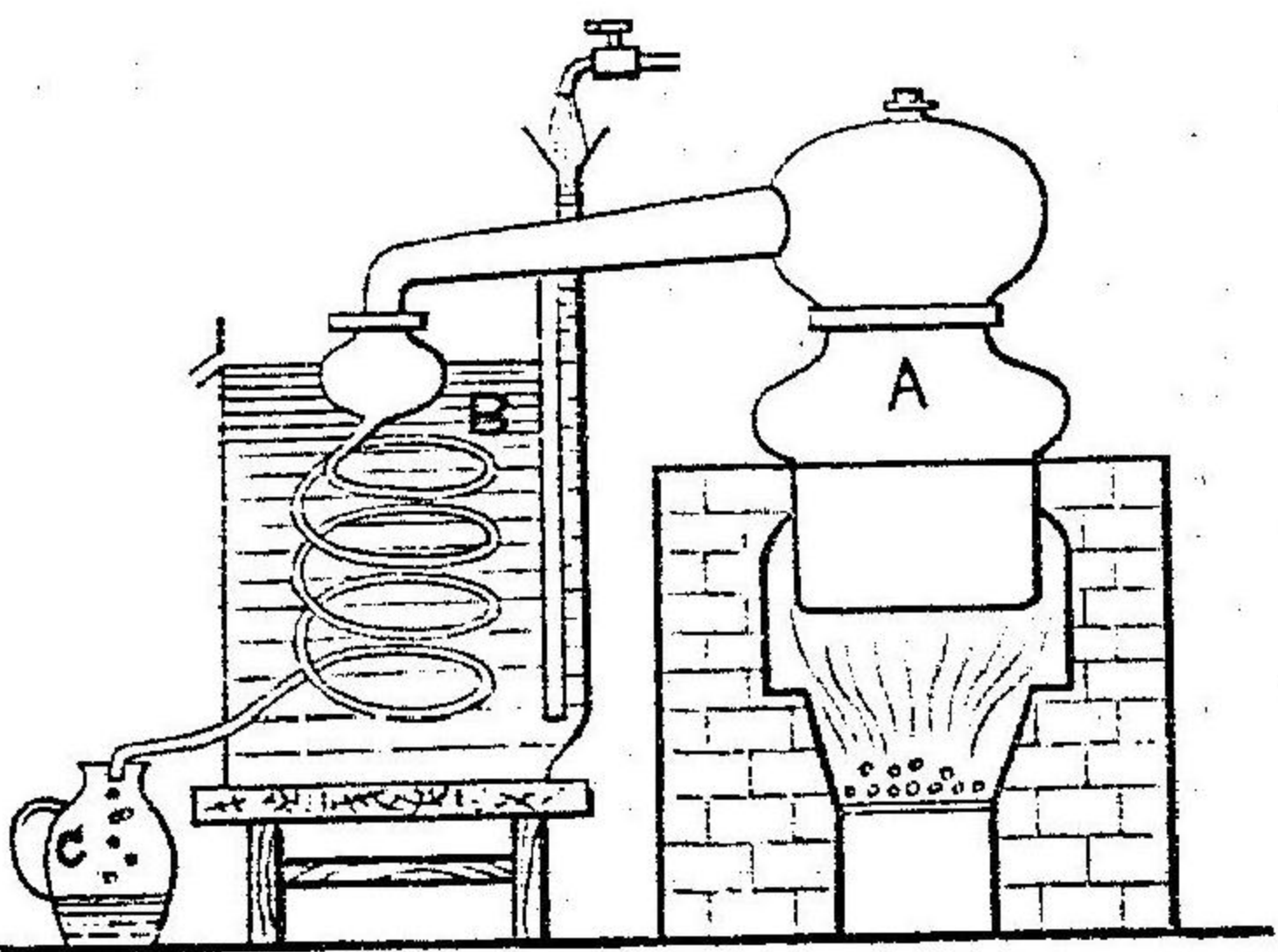
其他製造の際、砂糖又は水飴等を混入するに従て蔗糖或は麥芽糖を含有す、

シヨロ(蒸餾)化英 Distillation. 液體を熱して蒸氣となし、之を冷やして再び液體となし、以て不純物と分かつことを云ふ、

シヨロ(蒸餾)物英 Distillation. 蒸餾とは、蒸發並に液化の理に基きて、沸騰點の異りたる液體の混合せるものを互に分離し、若しくは液體中に在る夾雜物を除くの法にして、即ち液體に熱を加へて之を蒸氣となし、他所に導き、冷却せしめて液化せしむるなり、

シヨロ

シヨロ



シヨロ(蒸餾器)物英のシヨロ 蒸餾器は、液體中の夾雜物を去りて純粹にするに用ゐる器にして、圖の如くAなる器中に液體を容れて之を熱し、其の蒸氣をして蛇管と稱する螺旋形の管Bを通過せしむ、而して此の管は冷水を盛れる器中にあるを以て蒸氣は通過の際冷却して液化し、受器Cに滴下すべし、雜物はA器中に殘留するを以て、C中には純粹なる液を得べきなり、管を圍む水を常に冷やかに保たしむるために、絶えず下方より冷水を注加する装置をなし、温かくなりたる水は上部の孔口より溢れ出でしむ、

シヨロ(松露又麥蕈)植 Mizogogon mikusens, Tr. 菌類にして囊狀を呈し、春季松林に生ず、味佳なり、

胞子は囊中に生ず、

シヨロ(絡新婦)動 (Epeira) の一種) 屋根、枝格間等に大なる網巣を張る蜘蛛にして、腹部は圓筒形をなして大に、黒褐色の地に黄色環あり、脚長し、

シヨロ(小惑星)天英 Minor planets or Asteroids. 天王星發見後、殊に「ボード」の規則出で、より、木星と火星との間に惑星あるべきことを稱へ、歐洲擧げて此が探究に従事するに至れり、千八百一年に以て利人が、Ceres. を發見してより、僅々十年を出でざるに、五百も發見せらるゝに至れり、然して此等は、皆其の軌道を火星と木星との間に有せり、之を小惑星と云ふ、小惑星は、一般に其の大さ非常に小なり、其の軌道も亦 Eccentricity. が大なるものあり小なるものあり、其の軌道の平面が黄道の平面となす角も大なるものあり小なるものあり、又雰圍氣を有するものあり、有せざるものあり、

シラウヲ(白魚)動 Salanx. 白色にして微青を帯び、體長三寸ほどに達する小魚にして、體細長く、頭小に、臀鰭の前部尤も幅廣し、喉鰓類に屬すれども鱗なし、全國沿岸多少の産あれども、武藏、伊勢、攝津、備前を有名とす、近海の魚にして、四五月頃、産卵のため群集して河川を浜上し、淡鹹兩水の混交する所に停り、五六尺の深さにある木葉等に産

卵す、

シラカシ(麵楯又白楯)植 (Quercus salicina, Bl. 殼斗科の常綠木本なり、「アカガシ」に似たれども、其の葉細く、披針形をなし、其の質も薄く、且つ細かき鋸齒を有し、裏面は灰青色なり、故に東京地方にては、「ホソバガシ」「ウラシロガシ」と云ふ、木材は白色にして、鋸、球竿、棍棒、銃槍等を作る、

シラモ(白癬)生 寄生蟲のため、表皮の白粉狀をなすものなり、

シラモキン(白癬菌)植英 Actinon. 寄生菌にして、白癬菌「アコリカン」と稱するものなり、人間の頭髮を犯し、恰も頭部に糊粉を塗りたるが如き觀を呈せしむ、

シラサギ(鷺)動 Herodias 英 Herodias. 涉禽類に屬し、池沼にイみて蟲、魚を食し、嘴、脚共に長くして黒く、羽毛純白色にして翼背に鈎なき「ミノゲ」を被る、此の「ミノゲ」は歐米人の裝飾に用ゐるものにして、價貴し、

シラダ 植 白木質に同じ、

シラビツ 植 「シラバ」に同じ、

シラベ(白檜又白檜會又小龍仙)植 Alies veitchii, [Linn.]. 又「アチホス」又「シラモミ」又「アチヒ」又「シラツガ」と稱し、内地高山にのみ生ず、幹皮は灰白色を呈し、平滑

にして高年に至るも龜裂せず、且つ樹皮の處々に脂腺を有し、膨起して小疣状をなすを特徴とす、常に五千尺乃至八千尺の高山に生ず、

シラミ(蝨)動英 Louse. 重に頭髮中に棲息する有吻類にして、頭胸部小に、腹部は多肉肥大して長し、頭部の小なるは恰も船が海水中を通過するに便せんがため、其の先端を尖らす加し、三對の脚先は屈曲して毛を握るに便なり、腹部第六節の腹面に、左右より内方に向かひて彎曲せる凸起あり、其の先端にて兩者相接すれば此の處に一の穴を生ず、毛を渡らんとするときは、此の間に毛を挟み、以て重き腹部を毛に密着せしむ、

シリョネン(磁場の) (指力線) 物英 Magnetic Gnyves. 磁石の上に硝子板を置き、其の上に鐵粉を撒布する時は、鐵粉は整列して美麗なる一種の曲線を作る、是れ鐵粉が磁石のために感應せられて、各小磁石となり、其の所在點に於ける磁力の方向を指し、順次に整列せるによるものにして、斯の如き曲線を稱して、磁石の指力線といふ、

シロアリ(白蟻)動 Termites. 蟻に類するも、擬脈翅類に屬す、土中、朽木中等に群棲し、三分内外ありて、黒褐色をなす、上顎よく發達し、柱、單筭等を食害することあり、

シロウモ(白雲母)鑛英 Muscovite. (一)單斜晶形

(二)色は白、淡綠、黄(三)白色の條痕(四)眞珠光澤(五)硬度二・一(二五)比重二・七一(三七)成分は $3(Al_2O_3 \cdot SiO_2) + 4H_2O \cdot SiO_2$ (八)近江、美濃、磐城に産す、

シロク(白熊)動 Ursus Maritimus, Desm. 寒帯の海岸に棲息する熊にして、毛は帶褐白色を呈し、八九尺に達するものあり、性勇猛にして動物を捕食す、稀には千島に見ることあり、雄は冬眠をなせど、雌は之をなすことなし、毛の白色なるは、氷雪ある地に棲むためにして、かかる色を保護色といふ、

シロクメツサ植 Ptilotum repens L. 又「オランダゲンゲ」と稱す、豆科草本にして、複葉は三個の小葉よりなる、花は白色にして頭狀に排列するも、其の實短縮せる總狀花序に外ならず、之を家畜の飼料に供す、

シロネ植 Lycopus europaeus, L. 唇形科の草本なり、花は小にして、數個葉腋に簇生し、先端の肥大せる白色の地下莖を有す、之を食用とす、

シロナムシヨケギク植 「ゲルマニヤギク」の條を見よ、此と同物異名なり、

シロメ(白鐵或は白目)化英 Pastic. 錫及び鉛の合金にして、其の割合一定せず、錫三鉛一の割合のものあり又錫一に對し鉛一若くは二の割合のものもあり、此の外種

々あり、錫三、鉛一のもの熔點百七十八度、錫二、鉛一のもの、百七十度、錫鉛等分のもの、百八十八度、錫一鉛二のものは二百二十六度なり、亞鉛細工の接合藥とし、銅鍋の内面に布く等の用あり、

ス

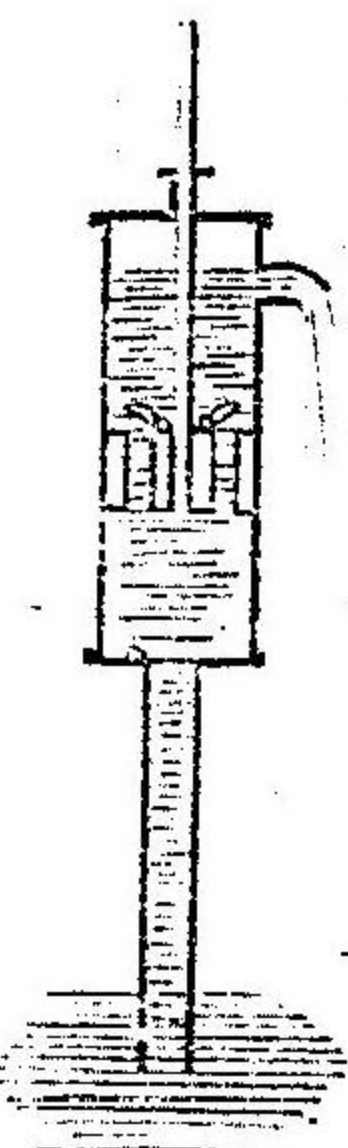
スイ(藤)生 「スイゾー」に同じ、

スイ(錐)鑛英 Pyramid. 等軸晶系外の晶系に於て、三乃至四軸に交る所の面を錐面といひ、かかる錐面の若干個が二乃至三側軸の兩側に於て、各一點に集りて、一の實體をなすときは、之を錐と云ふ、

スイ(髓)植英 Pila. 莖の中央に位し、一條の圓柱軸をなすものを云ふ、其の組織は六角形又は十二角形を有する扁平組織にてなる、幼莖にありては生活力を有し、葉緑を含み且つ養分を含有すれども、後には乾枯して生活作用を營まず、彼の老樹の中心空洞となりても生存に異状なきは、此の理による、

スイアゲポンテ(吸上ポンプ)物英 Suction pump.

吸上「ポンプ」は深き井戸などより水を吸み上げる等に用ゐらるゝものにして、其の水の上昇するは、大氣の壓力の強さ



が水面より活塞までの水柱の重さに勝つによるものなり、されば其の高さ三十二尺より大なるときは、其の用をなさず、其の構造は圖に示すが如く圓筒と活塞と長管とより成り、圓筒の底及び活塞には上方にのみ開く瓣を有せり、今活塞を上ぐれば、其の瓣は閉づるが故に、圓筒内の空氣の壓力を減じ、ために外氣の壓力は水を圓筒内に上昇せしむ、次に之を降下せしむれば、水の壓力によりて圓筒の底なる瓣は閉ざられ、水は活塞

の瓣を押し開きて其の上に出づ、此くすること數次にして、水は遂に活塞上の吐口より流出するなり、

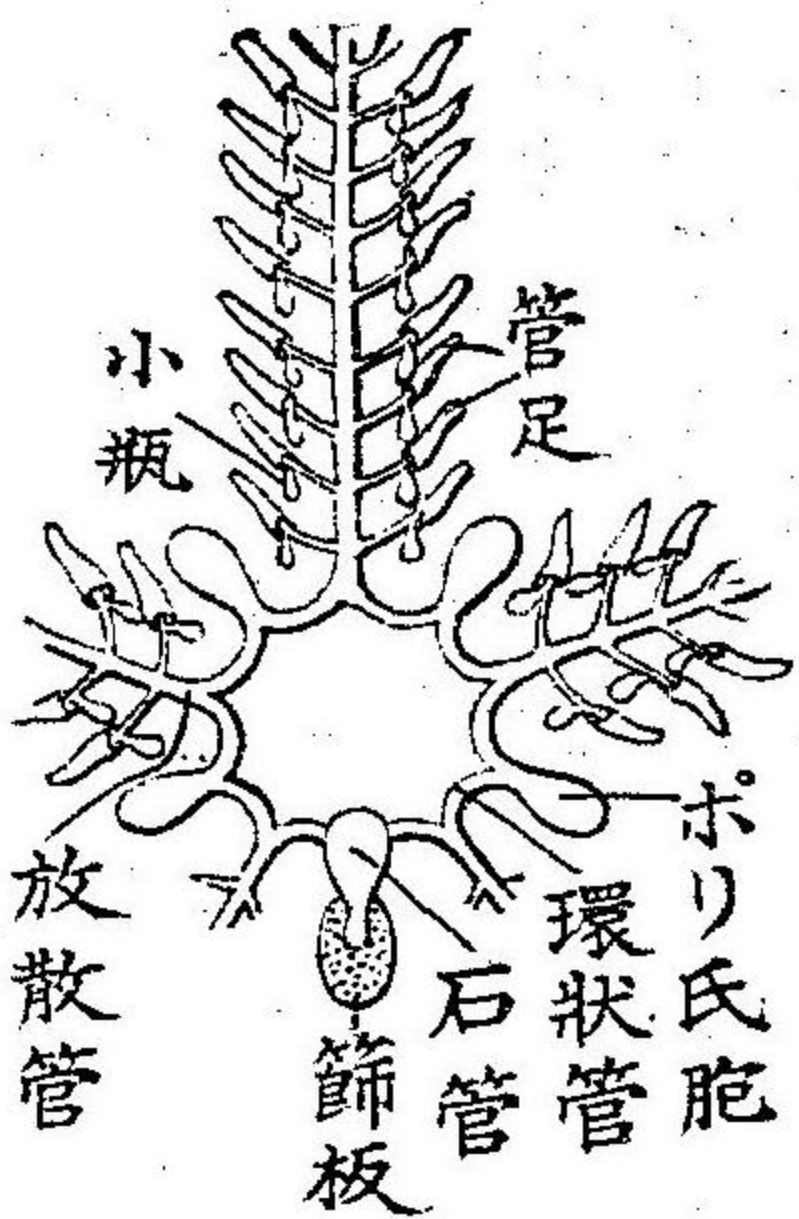
スイアツキ(水壓器)物英 Hydraulic press. 「アラマ」の水壓器を見よ、

スイイキン(隨意筋)生英 Voluntary muscle. 己れの欲するままに伸縮する筋肉にして、四肢、胸竈に頗、頭部の筋肉は即ち是なり、顯微鏡下に檢すれば、此等の筋肉は皆細微なる横紋あるを知る、故に又横紋筋ともいふ、

スイキ(脾液)生英 Pancreatic juice. 脾より分泌する消化液をいふ、「スイゾー」の條を見よ、

スイカンケー(水管系)動英 Water vascular system.

棘皮動物に特有なる移動器にして、全部薄膜より成り、口を穿るや直に食道を圍む環状管あり、此の環状管の歩間帯に當る部に「ポリ」氏胞として四個の球状の囊を附す、而して自餘の一步間帯に當る部よりは細長なる石管と稱する膜管を出し、肛門に接する篩板に接續す、篩板は石灰質板よりなり、此に無數の小孔ありて海水の出入を自在ならしむ、更に環状管の歩間に相當する部より、五個の放射状に走る膜管を出す之



を放射管といふ、放射管は歩間に沿ひて走り、多くの羽状枝を出だし、此の枝の先端は歩間帯にある小孔より殻外に突出するこ

とを得るものにして、之を管足といふ、管足の先端は薄膜なれども吸盤をなす、放散管より羽状に分岐せる枝の中途に、「ポリ」氏囊に似て小なる小瓶各一を附す、棘皮動物が移動せんとするときは、先づ「ポリ」氏囊を膨大し、石管を通じて篩板より海水を吸入し、次に「ポリ」氏囊を收縮して、其の中の海水を放散管に送る、然るときは小瓶は膨大して、

此の海水を吸入す、次に小瓶收縮すれば、海水は管足内に流入し、管足は水の爲めに緊張して、歩間の孔を通り殻外に突出す、管足は其の先端に吸盤を有し、之によりて他物に吸着して以て移動するものなり、

スイカサヨ (水化作用) 鑛 英 Hydromineral process

水は天然に炭酸瓦斯及び酸素瓦斯を含有す、此の如き水が岩石中を通過するときに、左の作用をなす、

- (A) 溶解作用、(石膏、岩鹽の地層の溶解する例あり)
(B) 水酸化作用、(赤鐵鑛に水が加はりて褐鐵鑛となり、同様にして硬石膏が石膏に變するの例あり)

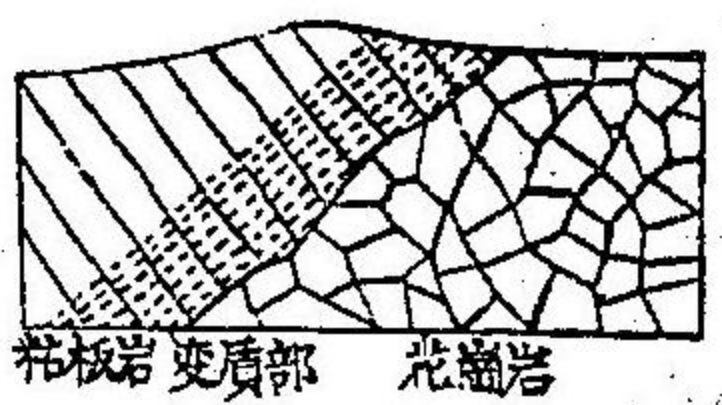
- (C) 酸化作用、(雨水は酸素を吸收溶解す、此の酸素は岩石に作用して、磁鐵鑛を「マータイト」(Magnetite)となし、又は菱鐵鑛を酸化して黑變せしむるの例あり)、

- (D) 變化作用(閃亜鉛の皓礬に變じ、黄銅鑛の丹礬に變じ、方鉛鑛の硫酸鉛に變するが如き例あり)

スイカバラヂウム (水化バラヂウム) 化 Pt.H. 「スイ」

スイカセツシヨサヨ (水化接觸作用) 鑛 英 Hydro-chemical contact metamorphism. 強熱せる水蒸氣

を以て飽和せられたる岩漿が、上昇して近傍の岩石と接觸すれば、含有せる水蒸氣の作用によりて、近傍岩石に質の變



化を起さしむることを云ふ、(A) 石灰が岩漿に觸るときは、大理石に變ず、(B) 花崗岩噴出は粘板岩に接觸作用を及ぼし、圖の如き、變化を呈す、其の變質したる部分の粘板岩の一片を取りて之を見るに、粘板岩中に數多の小黒點を認むべし、

スイギン (水銀) 化鑛 英 Mercury Ho. 原子量二百・三

スイギンイオン (水銀イオン) 英 Mercury Ion. 水銀は二種の「イオン」を生ず、即ち一は一價の水銀「イオン」(Monomerion)にして、「一」は二價の水銀「イオン」(Dimerion)なり、比較的濃厚なる溶液中にては、一價の水銀「イオン」が二價の複「イオン」H₂となりて存在し、極めて薄き溶液中にては一價の單「イオン」Hgとなりて存在するが如し、一價の水銀「イオン」は、金屬水銀の過量に存在する時に水銀鹽の造らるる場合に生ず、然れども金屬水銀の存在せざる時は、一價の水銀「イオン」は酸化して二價の水銀「イオン」となる、水銀「イオン」は何れも無色にして激毒を有す、スイギンシヨサイ (水銀の所在) 水銀は往々游離して岩

石中に含有せらるるものあれども、多くは辰砂鑛(Hg₂S)となりて存在す、

スイギンセーシツ (水銀の性質) 水銀は、錫白色の金屬光澤を有する液體にして、零度に於ける比重は十三・五九なり、之を冷やせば凝固して錫の如き色の固體となる、等軸晶系に屬す、其の熔點は零下三十九度五なり、三百五十七度に熱すれば無色の氣體となる、常温にても僅に蒸發し、其の蒸氣は劇毒なるを以て吸入せざるやう注意すべし、純粹のものには空氣中に放置するも、常温にては光澤を失はず、然れども凡三百度に熱する時は、徐々には酸化して赤色酸化水銀となる「オゾン」、鹽素或は硫化水素に容易に作用せられて、酸化水銀、鹽化水銀、硫化水銀等となる、鹽酸は水銀に作用を呈せずといへども、硝酸及熱したる濃厚の硫酸は容易く之を溶解して硝酸水銀及び硫酸水銀を生ず、水銀は寒暖計及び晴雨計を製し、或は金銀を其の鑛石より抽出するに用ゐらる、詳しくは「アマルガム」を見よ、

スイギンカンタンゲ (水銀寒暖計) 物 英 Mercury thermometer. 寒暖計の條を見よ、

スイギンゲ (水銀漬け) 物 英 Amalgamation. 不純なる亜鉛が電池内にありて局部電流のために絶えず稀硫酸に腐蝕せらるることを防ぐために、表面に水銀を塗

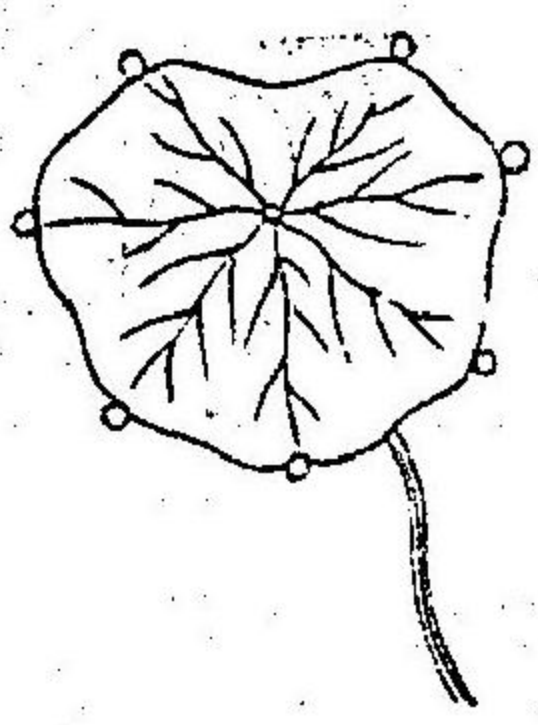
抹することゝ、亞鉛の水銀漬けと稱す。
スイギョー(水牛)動 *Butalus* 英 *Buffalo*. 印度臺灣等に産し、體長七尺に達す、角は大にして切口は稍三角形を呈し、毛は粗にして剛く黒色を呈す、額、肩及頸の前部は長毛を被り、後背、胸及腹は全く裸出す、印材等に用ゐるものは、即ち此の角なり。

スイキセキ(錐輝石)鑛英 *Aemite*. 「キセキ」(輝石)の條につきて其の種類の部を見よ。

スイケン(垂圈)天英 *Vertical circle*. 觀測者の居る場所の垂線を含む平面が天球と交りてなす大圓を垂圈と云ふ、或は又次の如く云ふことを得、天球點と足下點とを通過する大圓を垂圈と云ふ、垂圈の存在する平面を *Vertical plane* と云ふ。

スイケン(水圈)地英 *Hydrosphere*. 氣圈の下部に位置し、地表の低き部分を充たす大洋を云ふ。

スイコー(水孔)植英 *Water-stomate or Water-pore*. 葉の脈端に存在する小孔にして、水又は水様液を吐き出す器なり、氣孔よりも二倍大なり、「ノーゼンハレン」の如きは此の水孔を有す。



スイサンカアエン(水酸化亞鉛)化英 *Zinc hydroxide Zn(OH)₂*. 此の物は水酸化「アルカリ」を亞鉛鹽の溶液に加ふれば生ずる白色の沈澱なり、之に尙ほ多量の水酸化「アルカリ」を加ふれば、沈澱は溶解して亞鉛酸「アルカリ」を生ず、更に此の溶液を沸騰せしむれば、分解して再び水酸化亞鉛を沈澱す。

スイサンカアムモニウム(水酸化アムモニウム)化英 *Ammonium hydroxide, NH₄OH*. 此の物は「アムモニヤ」水中に存在すと考へらるるも、之を分ち取ることを得ず、其の性質等は「アムモニヤ」水の條を見よ。

スイサンカアルミニウム(水酸化アルミニウム)化英 *Aluminum hydroxide, Al(OH)₃*. 此の物は水酸化「アルミニウム」鑛及び含水礬土鑛として存在す、又「アルミニウム」鹽の水溶液に「アムモニヤ」を加ふれば、無定形膠状の沈澱となりて生ず、成酸性と成鹽基性を并有し、硫酸鹽酸の如き強酸に逢ふときは、此等の酸の「アルミニウム」鹽を生じ、水酸化「アルカリ」の如き強き鹽基を加ふれば、水酸化「アルミニウム」は酸の作用を呈して其の「アルカリ」鹽を生ず、
 $Al(OH)_3 + 3KOH = K_3AlO_3 + 3H_2O$

沈澱水酸化「アルミニウム」は、多くの色素と化合して美麗なる不溶性の化合物を生ず、之を「レーキ」*Lakes*. と云ひ、斯體を吸收せしめ、或は他の金屬の水酸化物を製する等に廣く用ゐる者なり、其の濃溶液は動植物に觸るれば劇しく之を腐蝕す、通俗之を苛性加里と稱し、工業上にて石鹼其の他の「カリウム」化合物製造の原料として多量に用ゐらる、
スイサンカカルシウム(水酸化カルシウム)化英 *Calcium hydroxide, Ca(OH)₂*. 生石灰に水を加ふる時は、「二物烈しく化合して熱を發し白色の粉末となる、是れ即ち水酸化「カルシウム」にして、又消石灰と稱す、水酸化「カルシウム」は僅に水に溶解す之を石灰水と稱し、「アルカリ」性の反應を呈す、又水に過量の水酸化「カルシウム」を混じて乳状となせるものは、之を石灰乳と稱し、共に試薬、消毒薬、其の他工業上に廣く用ゐらる、酸と化合して「カルシウム」鹽を生ず、空氣中に放置すれば二酸化炭素を吸收して炭酸「カルシウム」に變ず、數多の金屬鹽に作用して其の金屬の水酸化物を生ず、例へば鹽化第二鐵の溶液に石灰水を加ふれば、水酸化第二鐵の沈澱を生ず、
 $2FeCl_2 + 3Ca(OH)_2 = 2Fe(OH)_2 + 3CaCl_2$

顔料、染色料に用ゐらる、此と同じ理によりて、水酸化「アルミニウム」は染色術に於て屢々染料に供せらる、水酸化「アルミニウム」の鑛物は又明礬其の他の「アルミニウム」化合物を製造する原料に供す。

スイサンカドミウム(水酸化カドミウム)化英 *Cadmium hydroxide, Cd(OH)₂*. 此の物は「カドミウム」鹽の溶液に水酸化「アルカリ」を加ふれば生ずる白色の沈澱なり、之に「アムモニヤ」を加ふれば、容易く溶解す、

スイサンカカリウム(水酸化カリウム)化英 *Potassium hydroxide, KOH*. 水酸化「カリウム」を製するに、炭酸「カリウム」の水溶液を熱したる物に消石灰を加ふ、
 $K_2CO_3 + Ca(OH)_2 = 2KOH + CaCO_3$
生じたる炭酸「カルシウム」は不溶性の者なれば、之を濾過するか、又は沈澱せしめて水酸化「カリウム」の水溶液と分ち得、而して其液を蒸發して濃厚なる粘液となして放冷すれば、水酸化「カリウム」は無定形の白色塊として得らる、又近來は鹽化「カリウム」の電氣分解によりても製せらる、水酸化「カリウム」は濕氣を吸收する故に、之を空氣中に放置すれば濕氣及二酸化炭素等を吸收し、潮解して終に炭酸「カリウム」に變ず、又同量の水に溶解し、其の際多量の熱を發す、水酸化「カリウム」の水溶液は、實驗場に於ては酸性の瓦斯

スイサ

水酸化「カルシウム」の水に溶解する量は、普通の規則に反し温度上るに隨ひて減す、即ち其の一分は冷水の七百分に溶解す、雖も、之を熱するときは液中にある水酸化「カルシウム」の中は沈澱するものなり。

「アムモニヤ」、苛性曹達、苛性加里、漂白粉、鹽素酸「カリウム」等の製造に供す、獸皮より毛を去り、脂肪より脂肪酸を得るに用ゐる、石炭瓦斯中の硫黄化合物を吸收せしむるに用ゐる外、漆喰、「セメント」の原料とし、又肥料となす等、其の用途甚だ廣し。

スイサンカダイイチロム (水酸化第一クロム) 化英

Chromous Hydroxide Cr(OH)_2 鹽化第二「クロム」の溶液に水酸化「アルカリ」を加ふれば黄褐色の沈澱を生ず、是れ水酸化第二「クロム」なり、之を熱すれば、水素瓦斯と水とを發出して、容易に酸化第二「クロム」 Cr_2O_3 に變ず、

スイサンカダイイチテツ (水酸化第一鐵) 化英

Ferrous Hydroxide Fe(OH)_2 此は第一鐵鹽の溶液に水酸化「アルカリ」を加ふれば得らる、純粹なるものは、白色膠狀の沈澱なり、綠色を帯べるものは水酸化第二鐵を混合せるなり、空氣中に放置すれば、直に茶褐色の水酸化第二鐵「 Fe(OH)_3 」となる。

スイサンカダイイチマンガン (水酸化第一マンガン) 化英

Manganous Hydroxide Mn(OH)_2 此の物は第二「マンガン」鹽の溶液に水酸化「アルカリ」を加ふれば得らる、白色の沈澱にして、空氣に觸れしむれば速かに酸化して褐色の水酸化第二「マンガン」となる。

スイサンカダイニテツ (水酸化第二鐵) 化英
Ferric Hydroxide Fe(OH)_3 第二鐵鹽の溶液に「アムモニヤ」を加ふれば、水酸化第二鐵の茶褐色の沈澱を得、水酸化第二鐵は苛性「アルカリ」及び「アムモニヤ」に溶解せずといへども、酸類には容易く溶く。

スイサンカダイニド (水酸化第二銅) 化英

Cupric Hydroxide Cu(OH)_2 硫酸銅の如く水に溶解し易き第二銅鹽の溶液に水酸化「アルカリ」を加ふれば、淡青色の沈澱を生ず、是れ即ち水酸化第二銅なり、例へば水酸化「トリウム」を硫酸銅の溶液に加ふれば、
 $\text{CuSO}_4 + 2\text{NaOH} = \text{Cu(OH)}_2 + \text{Na}_2\text{SO}_4$

スイサンカナトリウム (水酸化ナトリウム) 化英

Sodium Hydroxide Na(OH) 水酸化「ナトリウム」は、其の性質水酸化「カリウム」に似たり、而して水酸化「カリウム」に比して價廉なれば工業上多量に使用せらる、水酸化「ナトリウム」は炭酸「ナトリウム」の水溶液に消石灰を加へて生ずる不溶性の炭酸「カルシウム」を濾過し、其濾液を蒸發して得、

水酸化「ナトリウム」は白色無定形の脆き固體にして、之を空氣中に曝す時は潮解し、二酸化炭素を吸收し、終に炭酸「ナトリウム」となる、又水酸化「ナトリウム」を水に入ると

ば、熱を發して溶解す、「アルカリ」金屬の水酸化物中最も廉價にして劇性の鹽基なり、通俗之を苛性曹達と稱し、石鹼の製造等に多く用ゐる。

スイサンカダイイチニッケル (水酸化第一ニッケル) 化英

Nickelous Hydroxide Ni(OH)_2 「ニッケル」鹽の溶液に苛性「アルカリ」を加ふれば、水酸化第二「ニッケル」の綠色の沈澱を生ず、此の物は苛性「アルカリ」には溶解せずれども、「アムモニヤ」水には溶解す、熱すれば酸化第一「ニッケル」 NiO となる。

スイサンカバリウム (水酸化バリウム) 化英

Barium Hydroxide Ba(OH)_2 水酸化「バリウム」は酸化「バリウム」を水に溶解して得、半透明の結晶體にして、強き「アルカリ」性の反應を呈す。

スイサンカマグネシウム (水酸化マグネシウム) 化英

Magnesium Hydroxide Mg(OH)_2 此の物は含水苦土鹽となりて少量に存す、又「マグネシウム」鹽の溶液に水酸化「アルカリ」を加ふるか、或は酸化「マグネシウム」に水を注げば得らる、白色の粉末なり、微に水に溶解し、其の溶液は「アルカリ」性の反應を呈す、水酸化「マグネシウム」を熱すれば容易く水を出して酸化「マグネシウム」となる、

スイシヨクサン (水蝕山) 地英 Mountain by Erosion

水蝕の作用甚しくして、谿谷を造ること深ければ、其の間に挾まれたる部分は残りて山嶽をなすべく、之を稱して水蝕山と云ふ、其の例極めて多し。

スイシヨクタイ (水晶體) 生英 Crystalline lens

「レンズ」を見よ、
スイシヨクキ (水準器) 物英 Level 或る平面が水平なりや否やを驗する器械なり、其の構造は彎曲したる玻璃管中に着色したる酒精、若しくは「エーテル」を充たし、其の中に豆大の氣泡を存して之を密閉し、適當の蓋を附けたるものにして、之を水平なる平面上に置く時は、其の泡は常に管の最高部即ち中央に位する如く作りたるものなり、

スイシヨクサヨ (水蝕作用) 地英 Erosion 風化作用

の爲に、破碎せられたる大小の岩塊は、河水の爲め漸次下流に轉送せらるるや、摩擦によりて一層河床及河畔を侵蝕し、之に由りて生じたる砂礫は、之を更に下流に轉送す、かくて遂に深き谿谷を削り成すに至るが如きことあり、かゝる侵蝕作用を水蝕作用と云ふ、

スイシヨク (水晶一名六方石) 鑛英 Rock Crystal

透明にして、美觀なる結晶をなすものにして、石英の一種なり、我國にては甲斐の金峰山の近傍より出づるもの最も著名なり、色によりて、之を左の如くに區別す、

スイセ

(イ)黄水晶(Giltin)黄色、
(ロ)紫水晶(Amethyst)紫色、乃至紫青色、又は多少灰色を呈す、

(ハ)黒水晶(Morion)及煙水晶(Smoky quartz)黑色乃至煤褐色、

(ニ)草入水晶：他の礦物を包裹するものにして、其の礦物は通例纖維状をなして入れるが故に、屢々草を含めるかの觀あり、草入水晶の名より出づ、

スイセイ(慧星) 天英 Comet. 慧星とは、時々現はるゝ所のものにして、俗に「ホーキボシ」と云ふ、他の天體とは外見の異なるものにして、中央に輝きたる部分を有し、其の周圍には薄光を發つ部分あり、又之に附屬して光を發つ長き尾を有せり、其の軌道は多くは太陽を焦點に有する拋物線にして、又雙曲線なるものあり、楕圓なるものあり、慧星の光りは、一部分は太陽より、一部分は自己固有のものより成る、慧星は初め太陽系以外のものなりしならんが、太陽系に近づきたる爲、其の大なる引力に感じて其の進むべき道を變ぜられ終に太陽系に入りたるものならんか、其の軌道が拋物線又は雙曲線を畫くものは、再び歸らざるも、或は太陽系の爲に軌道が楕圓形に變じて永く太陽の周を旋轉するものありと知らる、又慧星は其の形極して頗る大なれども、其の

スイセ

三四〇

比重は甚だ小なるものゝ如し、
スイセイ(水星) 天英 Mercury. 水星は、第一惑星中 Eccentri. 最大の最大なるものにして、又軌道の黄道に對する傾斜も最大なり、此の惑星の發見時期、自轉の有無、雰圍氣の有無は確ならず、水星には衛星なし、地球より之を見るときは、月の如く缺けて見え、且つ殆ど太陽と出沒の時刻を同じくするが故に觀察しやすからず、

スイセン(水仙) 植 Narcissus Tuzotii, Tr. var. chinensis Roem. 石蒜科の草本にして、其の鱗莖は粘液を有す、之にて蠟石印材等の缺損せるを接合するに妙なり、又乳腫、齒痛、突き目等に、此の粘液を取り紙に塗りて貼るときは、良效ありと云ふ、花に香氣あり、冬春盆栽として玩賞す、

スイセイガン(水成岩又沈澱岩) 地鑛英 Aqueous or Sedimentary rocks. 風雨の侵蝕力の爲、又は火山破裂の爲に一旦破壊せられたる岩石の碎片が、流水の爲に河の下流に向ひて運搬せられ、遂に河床若くは湖底に入りて、沈積固結せしもの、若しくは海水中より化學的に沈澱せしもの、或は古代動植物の遺體の堆積して固結したるものなり、通常は層をなし、又化石を含むものあり、例へば砂岩、粘板岩、凝灰岩、硅岩、石灰岩等之に屬す、從ひて今日此等の

岩石にて成れる地方は、皆嘗て水底たりし處にして、地殼の變動の爲に隆起して、斯の如く陸地とは成りたることを知るべし、

スイセイガン(水成岩成因) 地鑛

一 無機成因 Mineralogenic 化學的堆積 Chemical sedimentary, 器械的堆積 Mechanical sediments,

二 動物成因 Zoogenic.

三 植物成因 Phytogenic.

スイセキ(燧石) 鑛英 Flint. 緻密にして破碎し易き一種の石英なり、介殼狀の斷口著し、古代の民之にて刀鑿を作れり、又我國に於て「マッチ」の流布せざる以前は、多くは鋼鐵板と燧石とを打ち合はせ、かくして火を得たるものなり、(尙ほ角石の條を見よ)

スイセイキン(水生菌) 植 Saprolegnia, Jatrox. 鮭其の他の水魚に寄生して、鼻すれ魚又は盲魚等を生ず、一旦此の如き水生菌が池中に生じたる時は、よく石灰を撒布して之を消毒す可し、

スイソ(水素) 化英 Hydrogen, H. 原子量一・〇〇八
スイソシヨサイ(水素の所在) 水素は酸素と化合し水となりて多量に存在す、即ち水の百中十一・一分は水素なり、又水素は炭素、酸素若くは窒素等と化合して動植物の體中に

スイセ

スイソ

三四一

あり、
スイソシヨシツ(水素の性質) 水素は無色無臭無味の瓦斯體にして、諸物體中最も輕きものにして、空氣に對する比重は、〇・〇六九二六、標準溫度、標準氣壓に於ては、「一リットル」の重量は、〇・〇八九五七八「グラム」なり、水素瓦斯は僅に水に溶解す、水の百容は水素の一・九三容を溶解す、零下百五十度に於ては六百五十氣壓にて液體に變ぜしむることを得、液體水素の沸點は零下二百十五度なり、常溫にて酸素と化合せしむるには、之を熱するを要す、水素に火を點すれば、極めて薄き微青色を發して燃ゆ、然れども之が爲に發する處の熱は極めて多くして、之に白金の針金を挿し入る時は、赤熱となりて烈光を發す、水素は多くの單體と化合す、高溫度に於て金屬酸化物に觸れしむる時は、酸素を奪ひて之と化合し、金屬を游離することあり、即ち水素は一の還元劑なり、高溫度に熱せらるゝ時は、多量の水素を吸收する金屬あり、例へば「パラヂウム」の容は九百六十倍の水素を吸收して、PtHなる式に符合する合金に似たる物を生ず、

スイソセーホー(水素の製法) 水素を製する最も簡便なる法は、亞鉛に稀硫酸を作用せしむるにあり、其の反應は次の如し、



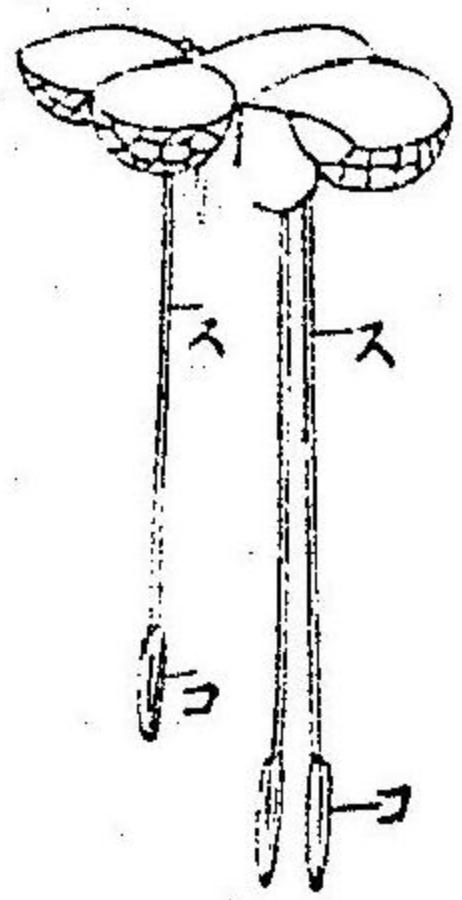
水素瓦斯は輕氣球に用ゐらるゝことあり、

スイソ (膵臓) **生英** Pancreas. 膵は胃の直下に横ばる白紫色の腺なり、柔軟にしてその外觀稍睡腺に似たり、此より分泌する膵液は、無色透明にして數種の有機物質を含有し、唾液、胃液、膽汁の三者の性を兼ね備へ、澱粉及び蛋白質を變化し、また脂肪を乳化する能あり、特に澱粉を糖化する働の如きは遙に唾液に優るものなり、

スイチユー (水柱) **地英** Water column. 海面上に起る龍巻によりて生ずる所の海水の柱をいふ、

スイチヨクテキシセツ (垂直的肢節) **地** 陸地にある垂直的肢節とは、山岳のことをいふ、

スイチユーコン (水中根) **植** 單に植物體の養分吸收を營むものにして、水中に沈在し、植物體を支持するものにあらず、從て、甚だ柔軟にして根毛を缺く、時としては、根端に所謂根冠(俗稱なり)と稱するものあり、例へば「ウキクサ」の如し、圖は「アオウキクサ」の一種を示す、「ス」は水中根、「コ」は根冠なり、



スイチユーシヨククツシ (水中植物群) **植** 水中に生活する

植物にして、淡水に生ずるものと、鹹水に生ずるものと區別あり、淡水に産するものは、ハス、カハホネ、ジュンサイ、ヒツシクサ、オニバス、ヒシ、フト井、マコモ、アチミドロ等あり、鹹水に産するものは、アナノリ、アサクサノリ、アラメ、カジメ、ホンダツラ、テンカサ、ムカデノリ等あり、

スイハイ (水肺) **動** 「コキユーシュ」に同じ、

スイバイカ (水媒花) **植英** Hydrophilous Flower. 水力によりて花粉を傳送する花を云ふ、淡水産鹹水産の藻類の如き、之に屬す、

スイハンキユー (水半球) **地** 英吉利と「ニュージラランド」とを兩極とし、地球を上下の兩半球に分ち、其の南半球を水半球といふ、蓋し海面の非常に多きによるものにして、陸地の割合は、陸半球の陸十九に對して、水半球の陸は僅に二に當る、

スイヘーケンギキョ (水平顯微鏡) **植英** Horizontal Microscope. 微小なる植物體の成長を測定するに用ゐるものなり、

スイヘード (水平動) **地英** Sideward motion of Earthquake. 地震の震動の一種にして、地分子が水平に振動するを云ふ、震央より遠く離るゝに従ひ、上下動は減じて水平動に傾くを常とす、

スギ (杉又楮) **植** Cryptomeria Japonica, Don. 松柏類の最も普通なる種にして、日本全國到處に産す、東北方殊に秋田縣には、廣大なる松の單純林あり、幹身直にして、老大なものは周圍四五丈、高さよく二十五間に達するものあり、「スギ」とは、蓋し、幹の直さを意味するものなり、

葉は針形、花は單性異花に生ず、杉の邊材は白色、心材は淡赤色、中に暗黒色を呈するものあり、木理は通直にして堅軟其の宜しきを得、其の用も廣し、小なる器より屏板板、大小の板、貫、柱、各種の器具、器械、家屋、船、橋の大に至るまで、其の用枚擧に遑あらず、又其の皮は屋根を葺くべく、葉は線香、抹香等となすに宜し、本邦林業上最も必要なる樹木なりとす、

スギナ (土馬騮) **植** Polytium commune L. 蘚類に屬する多年生の小草にして、地上到る處に發生す、小梗を抽出して頭に一個の子囊を作り、白色線の毛等即ち蘚帽を被る、季節秋にして、種類多し、胞子は綠色なり、此の葉杉葉に似たるを以て「スギナ」名くと云ふ、

スギナ (問荆又筆頭菜) **植** Equisetum hyemale L. 木賊科植物にして、其の實莖を食用とす、之を「ツクシ」と稱す、

スイヘーシシチシケ (水平振子地震計) **地** 極めて鋭敏なる地震計にして、よく微震をも記録し、地球上いづれの部分に起る地震といへども、大抵之に感ぜざるることなし、

スイシカサン (睡眠火山) **地英** Dormant volcano. 休火山に同じ、

スイヨエキ (水様液) **生英** Aqueous humor. 眼球の角膜と「レンズ」との間にある液をいふ、

スイリクソフ (水陸の分布地) **地** 地殼の一部の水圏上に露出せる處を稱して陸地といふ、地表に於ける水陸の分布は平等ならずして、陸一に對する水二・五四の比をなし、又陸地の大部分は北半球に集まれり、

スオーノキ **植** 「イチイ」に同じ、

スガイコツ (頭蓋骨) **生英** Cranium. 腦體を包蔽する八個の骨の總稱なり、

スカシホ (酸模) **植** Ranunc acetosa L. 「スイバ」とも云ふ、蓼科草本にして莖葉共に酸味を帶ぶ、葉を食用とす、

スカシ **動英** Skink. 北米に棲む食肉類にして、「イタチ」の如く臀部に惡臭を放つ腺あり、兎大にして、白、褐の斑を有し、尾長く長毛密生す、臭氣ある物質を二三間も後方に飛ばし得べく、爲めに犬等は近づくと能はず、嗅氣極めて強し、

スーシク(樞軸)生英 *Trifida* 「ダイニクーツイ」に同じ、
スーシツセー(趨日性)植英 *Heliotaxis* 單細胞藻類の游

走子、又は「ミドリムシ」の如く、光線の刺激に應じ、之に向
かふ性を云ふ、蓋し、此の場合に於ては、光線の刺激はよく
植物全體を移動せしむるを以て、向性と同別するなり、

ススキ(芒)植 *Miscanthus Sinensis* 「ス、キ」は又「チ
バナ」(尾花)と稱す、禾本科植物にして秋の七草の一なり、
「イトススキ」「タカノハススキ」「マホノススキ」等の種類
あり、「薄」の字は叢生の意なり、

スツタケ(若竹)植 *Bambusa semunensis*, *Kr. et Sav.*

又「ミスス」「ヤマタケ」等と稱せらる、稈の高さ八九尺枝甚
しく肥大して、葉も割合に大なり、結實すると夥し、之を食
料に供すべく、所謂、竹米是なり、信州より産するもの多し、
スツムシ(金鐘兒)動 七八分の體長を有する直翅類にして
觸角長く、翅は褐色を帯び、透明にして縦横に脈を有す、鳴
聲愛らしく、「チンチロリン」と鳴く、

スズメ(雀)動 *Passer montanus*, *L.* 英 *Sparrow*.

人家に近く棲む鳴禽類にして、穀物を食す、保護色を有する
により、稻中において身を隠すに便なり、性鋭敏にして容易
に捕ふること能はず、然れども「カラス」を以て之を誘ひ、網
を蔽へば捕ふること易し、蓋し「スズメ」は「カラス」の居る

所は安全なりと信するによるるべし、

スズ(錫)化英 *Tin*, *Su* 原子量百十八・五

錫は主として錫石となりて存在す、錫石に木炭を加へて灼
熱すれば得らる、

錫は銀の如き光澤ある白色金屬にして、比重七・三、熔點二
百七十三度なり、錫の熔融せるものを冷やせば、容易に結晶
す、展性を有するを以て打ちて薄葉となす、又延性あり、棒
状を爲せるものを揉むときは一種の奇なる音を發す、常溫
にては空氣中にて光澤を失はざれども、高温にては酸化し
て酸化第二錫となる、鹽酸に溶解して鹽化第一錫となり、硫
酸に溶ければ二酸化硫黄瓦斯を發して硫酸第一錫となる、

スズイオン(錫イオン)英 *Stannion* 錫は二種の「イオ
ン」を生ず、即ち一は二價の「イオン」にして一は四價
「イオン」を成し、

二價の錫イオン (*Distannion*) は無色にして有毒なり、四價
の錫「イオン」(*Tetastannion*) も無色なり、

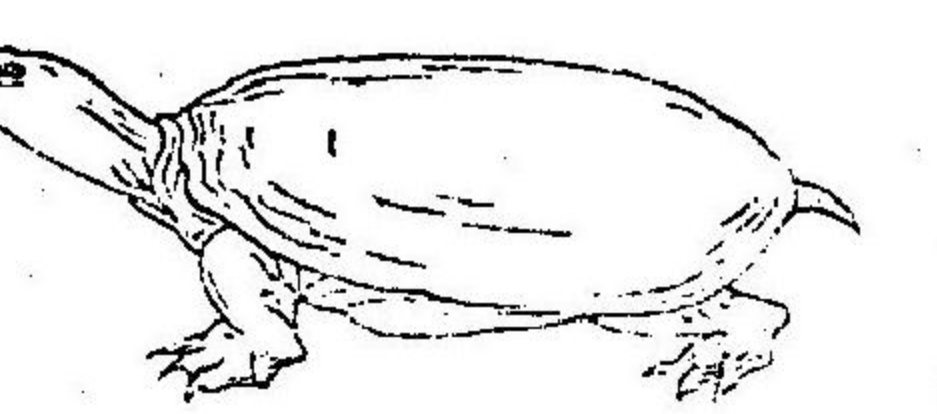
スズノット(錫の用途) 錫は青銅、白鐵、ブリタニヤ金等の
合金を製するに用ゐる、又水銀に溶解して板硝子の面に塗
りて姿見鏡を製す、

空氣中にて容易く酸化せざるを以て、鐵器、銅器等の面を被
ひて腐蝕を防ぐ、「ブリキ」と稱するものは、鐵板に錫の薄皮

を被へるものなり、錫箔は物體を包みて濕氣等を防ぐに用
ゐる、

スツノ(裾野)地 *The plain adjoining the foot of a*
volcano. 火山の麓にして、傾斜極めて緩なる部分をいふ、

スツボ(鰐)動 *Trionyx japonicus*, *Schlegel* 味美なるに
より有名な龜類にして、背甲稍圓く、其の



中央部のみ堅硬にして、腹甲は小なり、背面
淡黄灰色にして、腹部は淡し、尾短く、頭頸
長く、體長六寸に達するものあり、本邦西南
の内海及東海諸州の淡水中に産す、食餌は
小魚、甲殻類等にして、産卵は一年數回之を
行ふ、穴を穿ち其の中に産卵し、後又之に土
を被ふ、

スツボツタケ 植 *Elaphoglossum japonicum*

(*L.*) *Fries* 蕨類植物にして、傘は圓く尖り、頂に小孔あり、
黒味ある綠色の網の目の状をなし、縁悉く莖を離る、柄は白
く、高さ五六寸許、鰐肌なり、子實(胞子)は暗き褐色を帯ぶ
る綠色にして、長楕圓形をなし、細小なり、塵林中に生ず、惡
臭ありて食ふ可らず、

ステアリン化英 *Stearin*, $C_{18}H_{36}O_2$ 「ステア
リン」酸と「グリセリン」との化合物にして、脂肪中にあり、

ステアリンサン(ステアリン酸)化英 *Stearic acid*,
 $C_{18}H_{36}O_2$ 此の物は硬脂酸と稱し、「バター」或は羊脂より
得べし、六十二度に於て熔融する光澤ある結晶にして、水
には溶解せざれども「アルコール」「エーテル」には容易く
溶解す、蠟燭を製するに用ゐる、

ストリキニン 英 *strychnine* $C_{22}H_{33}NO_7$ ストリキ
ニンは、番木鱈子 *Strychnos Nux Vomica* の果實中にあり、

稜柱狀の結晶體にして、熔點は二百八十四度、常溫にては千
倍の水に溶く、一酸鹽基にして、甚しき苦味を有す、劇毒
にして劇しき痙攣を起して死に至らしむ、其の硫酸鹽の一
瓦の三十分の一は猶ほ以て人を殺すに足る、

ストロンチウム化英 *Strontium*, *Sr.* 原子量八十七・六

「ストロンチウム」は、天然には主に天青石(*ストロンチウム*
ロンチウム) $SrCO_3$ となりて存在す、

金屬「ストロンチウム」は、熔融せる鹽化「ストロンチウム」
を電氣分解して得らる、「ストロンチウム」は「カルシウム」
に似たる性質を有し、真鍮の如き光澤あり、比重二・五、熔
點は凡そ六百度なり、空氣に觸るれば容易に酸化し、水に觸
るれば水素を遊離して水酸化「ストロンチウム」となる、

ストロンチウム 石屑石礫が、一層河水の消磨作用を受
け、碎分せられて、豌豆大乃至粟大の小粒となりたるもの

スナザ

を云ふ、
スナザラ(砂皿)化 砂浴に用ゐるものにして、鐵皿に硅酸の砂を盛りたるものなり、
スナメリ 動 三四尺の體長を有する鯨類にして、六尺以上に達するものは稀なり、口は圓くして多く突起せず、背鰭を缺く、全體「クツラ」に似たり、

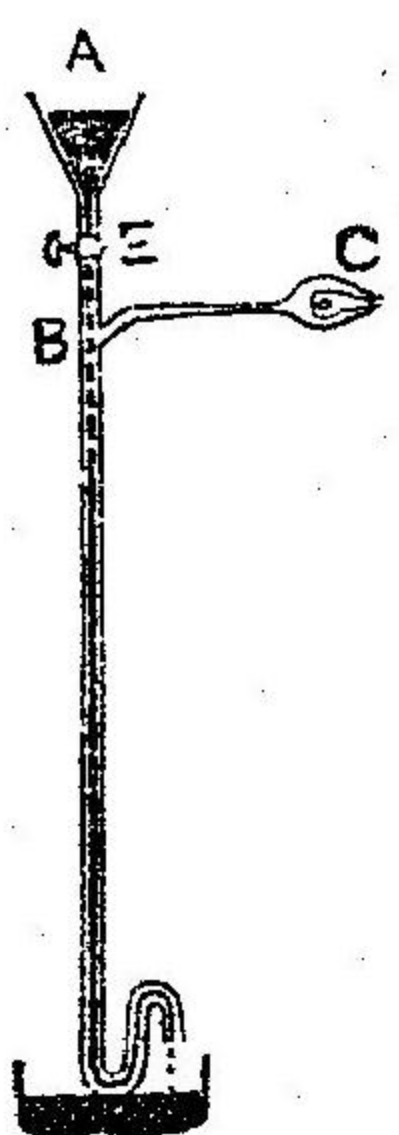
スネ(脛)生英 *Sinia* 膝より足踵までないふ、
スネーアン(酢の成分)化 東京市内に於て販賣せる最も著名なる酢を、農商務省地質調査所分析掛に於て分析せしに、其の成分は左の如くなりしといふ、

山吹印	三〇富印	⑤印
性状	褐色透明	濃黄色透明
比重	一、〇二〇二	一、〇一五九
成分(百立方「センチメートル」中の「グラム」量)	三、三六八	三、一七
固形物全量(百五度にて三時間乾燥したる)	三、六九	三、六九
不揮發酸(琥珀酸とし)として計算す	〇、三三	〇、三〇
糖(「デキストロース」)として計算	無	〇、〇七五
糊精	無	〇、一四
灰	〇、二九〇	〇、二三八

スプレ

窒素物等

スプレゲルポンプ物英 *Sprenger's pump* 「スプレメンゲル」の水銀「ポンプ」は、白熱電燈に用ゐる硝子球内の空気を抜き去るに應用

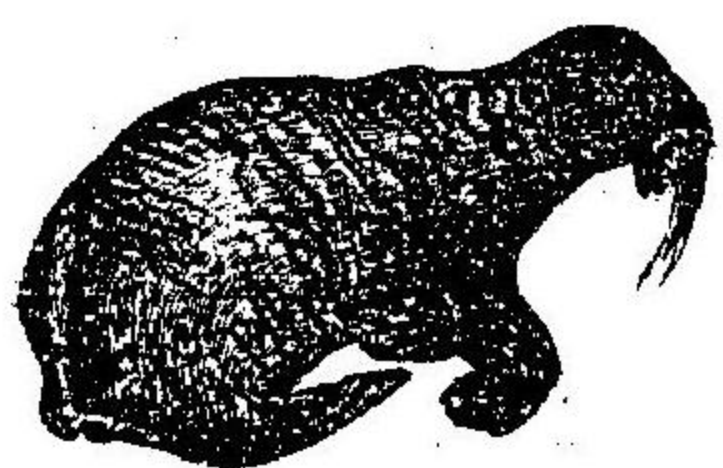


を抜き去るに應用

おらる、ものにして、其の構造は圖に示すが如く、上端に漏斗Aと活栓Eとを有する長さ四尺許りの玻璃管にして、活栓の少しく下方Bより枝管を生じ、空気を抽出せんとする器Cに通ず、今漏斗に水銀を入れ、活栓を廻して滴々之を流下せしむる時は、C中の空気が漸次水銀の滴粒間に夾まれ下方に送り出され、遂にCには殆んど完全なる真空を作ることを得るものなり、

スペクトル物英 *Spectrum* 暗室の側壁に穿てる細長なる孔より日光を導き入れ、稜を細孔と平行に置きたる「プリズム」を以て其の日光を受け、之を透過せしめたる光を、適當の距離に於て白き衝立を以て捕ふる時は、其の光の衝立を照らすに當り、種々の色の順次に排列することを認むべし、之を「スペクトル」と稱す、其の中の主なる色を區別して、紫、藍、青、綠、黄、橙、紅の七色とす、
スペクトルセキ(スペクトル分析)物化英 *Spectroscopy*

セ



セウチ(海象)動 *Trichechus* 北海に棲息する鯨足類にして、二間乃至二間半に達し、體は殆んど無毛にして、上頷の犬齒は少しく内方に風し、長く口外下方に突出す、此の犬齒は海象牙と稱し、印材、義齒に用ゐらる、

セウケー(晴雨計)物英 *Barometer*

晴雨計は氣壓の強弱を測る器械にして、其の種類多し、雖も、皆な「トリチエリー」の實驗の理に基きて作れるものなり、普通に用ゐらるるものを「フォルトマン」の晴雨計、及び「アネロイド」晴雨計とす、詳細は各其の條下に就きて見よ、
セーミン(正鹽)化英 *Normal salt* 金属を置換し得る酸中の水素を悉く金属等にて置換して生じたる鹽をいふ、
例へば硫酸「ナトリウム」(Na₂SO₄)、硝酸「アムモニウム」(NH₄NO₃)等の如し、

セキ(咳嗽)生英 *Coughing* 咽喉、氣管内に液體或は固體の入れるとき、或は排泄物等の集積せるとき、之を呼出せんがため、主に腹筋を急激に收縮して、多量の空気を一時

スミ

セー

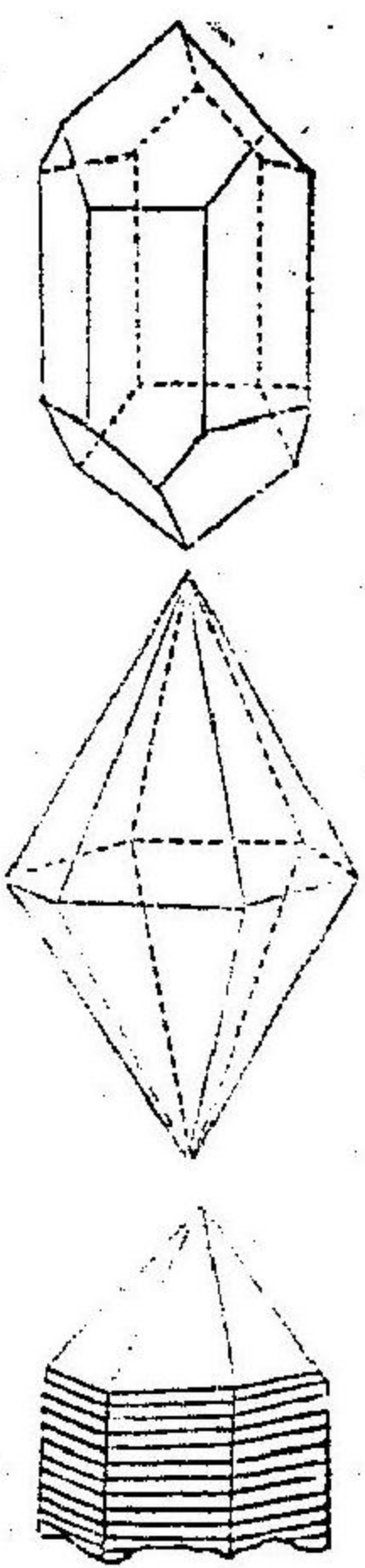
burn analysis 各元素が、其の稀薄なる蒸氣の状態に於て、熱せられて發する所の光は、各特殊の輝線「スペクトル」を生ずるが故に、此の性質を利用し、與へられたる物體を無色なる燭中に置き、依りて生ずる所の光を分光器によりて檢して之を已知の物體の「スペクトル」と比較して、其の物體中に含有せられたる元素の種類を判知することを、「スペクトル」分析といふ、この法は「キルヒホッフ」及「アンゼン」の創めて用ゐたる所にして、彼の「ガリウム」「インヂウム」「タリウム」「ルビヂウム」「シシウム」等は之によりて發見せられたるものなり、
スミ(炭)化 木炭と同じ、
スミン(紫花地丁)植 *Viola patrinii DC.* *Var. chinensis* (Ginseng) 蕘菜科植物にして、多年生草本なり、原野到處に生ず、花は濃紫色にして春夏に開花し可憐なり、種類甚だ多し、「マチツボスミン」「ツボスミン」「アギスミン」「キスミン」「マルバツボスミン」等の種類は普通なるものなり、中央露西亞、北亞細亞、支那、印度、朝鮮等に産し、虻媒及蜂媒花なり、蒴果は裂けて種子を散布す、
スモトリバナ植 「スミン」に同じ、

に呼出するなり、従ひて平常の状態にある聲帯も、此の多量の空気に觸れて發音するなり、

セキイド (赤緯度) 天英 Declination. 一點の地球上の赤緯度とは、其の點を通過する時圈が赤道と交る點と其の點との間の大圓の弧を以て計る角を云ふ、或は其の觀測する一點を觀測者の目とを結びつくる直線が赤道の平面となす角を云ふ、赤緯度は赤道より北の方に九十度まで正に計り、南の方に九十度まで負に計る、

セキウン (積雲) 地英 Cumulus. 塊状をなせる綿絮の如くにして、所謂夏雲多奇峯と稱するものは是れなり、即ち殊に夏天に多く、日中蒸發愈盛なるに従ひ其の量増し、夕景に至り漸々に消滅す、

セキエー (石英) 鑛英 Quartz. 六方晶系に屬し、六方柱と六方柱との聚形の外、六方柱と三角錐と結合せるものあり、其の他種々の結晶ありて、其の數實に百七十餘種に及び、柱面には横條線あり、是れ黄玉石と異なる所なり、無色



乃至赤黄紫褐黑色等をなす、條痕は白色なり、光澤は玻璃又は脂肪光澤を呈す、硬度は七、比重二・五—二・八、成分はSiO₂、硝子と比すれば光澤強く且つ冷やかなり、是れ其の「ガラス」と異なる所なり、

石英の種類は甚だ多し、

(一) 水晶, *Rock crystal* (水晶の條を見よ)

透明にして黄色乃至灰色なるもの

黒褐色なるもの

黒色なるもの

(黄水晶)
(煙水晶)
(黒水晶)

甲州金峰山は有名なる産地にして、主として無色のものを産す、煙水晶は近江田上山、美濃中津川邊より産す、

(二) 紫水晶, *Amethyst* (紫水晶は水晶の條にもあり)

紫色、紫青色又は多少灰色なり、晶簇をなして産出す、

陸前田原郡小原村、伯耆日野郡藤屋村は有名なる産地にして、其の他足尾銅山、岩代の半田銀山、佐渡の相川等より産す、

(三) 普通石英 *Common Quartz* 水晶の如く透明ならず、又光澤少きものを云ふ、

甚だ廣く散布し、地殻を構成する主要なる材料なり、

花崗岩、片麻岩、雲母片岩、石英斑岩等主要なる岩石中に存し、固有の硬度を附與す、

又脈石となりて往々方解石の假像をなす、又砂及砂岩となりても産す、其の變種左の如し、

(イ) 蔷薇石英 *Rosy Quartz.*

塊状にして美麗なる蔷薇色を呈す、是れ酸化「チタン」と稱するものを少しく含むによる、裝飾用とす、日光に晒すときは色は次第に褪去す、

(ロ) 草水晶又綠石英 *Prase.*

陽起石を含有し、葱の如き綠色を呈す、

(ハ) 纖維石英 *Fibrous-Quartz.*

纖維状のもの

(ニ) 猫睛石 *Cats' eyes.*

石絨を其の中に含有し、圓く研磨するときは、猫眼の如き様を呈す、よりに「ネエノメイシ」の名あり、印度「セーロン」島より産す、寶石として有名なり、

(ホ) 砂金石 *Aventurine.*

鐵雲母を含有し、爲に黄金の如く輝くものなり、

(ヘ) 虎眼石又虎睛石 *Tiger eyes.* (ホーセキを見よ)

青又は褐色にして閃光を放つ纖維石英なり、「アフリカ」喜望峯、オレンシ自由國等より生ず、寶石として有名なり、

(四) 鐵石英 *Ferruginous Quartz.*

結晶又は結晶質にして、鐵分を含有し、赤色又は黄色なり、陸中の花輪村より生ず、

(五) 碧玉 *Jasper.*

緻密質にして、赤黄青等種々の色をなし、必ずしも碧色をなせるにはあらず、水酸化鐵を含むによりて、黄色又は褐色をなし、酸化鐵を含むものは赤色なり、貝殻状断口を有し、著しく不透明なり、瑪瑙よりも美麗ならず、緒締め、扣鈕等の裝飾品を作るに用ゐらる、

(六) 角石 *Hornstone.* 「カクセキ」を見よ、

(七) 試金石 *Quartz slate or Basanite.* 「シキンセキ」又は「ナチクロ」を見よ、

此の他尙ほ王髓、瑪瑙蛋白石等は皆石英に屬す、

セキエーヘンガン (石英片岩) 鑛英 Quartz schist.

雲母片岩中の石英が多量となるときは、他の一成分たる雲母を壓倒して、雲母片岩は遂に石英片岩に變移す、

セキエン (石鹽) 鑛一ガエン に見よ、

セキカイカ (石灰華) 鑛英 Calcareous sinter. 石灰岩の條につき其の種類を見よ、

セキカイガン (石灰岩) 鑛英 Limestone. 炭酸石灰より成り、酸に逢ふときは炭酸瓦斯を發生す、是もと方解石の緻密なる集合に外ならず、

セキカ

(イ) 大理石 (Marble) 粒状石灰岩にして、方解石の微粒より成る、之を顕微鏡下に窺ふときは、規則正しき條線あり、是れ方解石の雙晶の集りたるものなることを示せり、

(ロ) 緻密石灰岩 (Compact lime stone) 最も普通なり、之に海百合石灰岩 (海百合の化石を含む) 豆斑、錢石、珊瑚石灰岩等あり、又一種鮫石を稱するものあり、

(ハ) 鮠状石灰岩 (Oolite limestone) 魚卵状の小球よりなる、

(ニ) 石灰華 (Chalk) 微細なる土質又は粗粒の塊にして、無色なること稀なり、

(ホ) 白堊 (Chalk) 非晶質の石灰岩なり、中に、有孔蟲の遺骸を含有すること往々なり、

セキカイゼン (赤外線) 物英 Ultra-red line. 熱線を見よ、

セキカン (石管) 動英 Stone canal. 「スイカンケー」を見よ、

セキケード (赤經度) 天英 Light ascension. 天球上一點の赤經度とは、其の點の時圈が赤道と交はる點と春分點とのなす角距離を云ふ、或は春分點を通過する時圈と其の點を通過する時圈とのなす角と云ふもよし、赤經度を計

セキケ

三五〇

るには、時角及び方位角と反對に、東の方に正に計り三百六十度まで計る、故に春分點の赤經度は零なり、

セキケツゼン (赤血鹽) 化英 Potassium ferricyanide $K_3Fe(CN)_6$ 「フェロ」青化「カリウム」即ち黃血鹽の水溶液に鹽素瓦斯を通ずれば生ず、其の反應は左の如し、

$$2K_3Fe(CN)_6 + Cl_2 = 2K_3Fe(CN)_6 + 2KCl$$

此の物は暗赤色斜方形の結晶にして、容易に水に溶解す、常溫に於ては凡そ三倍の水に溶く、其の溶液は時を經るに従ひて徐々に還元して黃血鹽に變ず、「アルカリ」の存在するときは、強き酸化劑として作用す、

$$6K_3Fe(CN)_6 + 6KOH = 6K_2Fe(CN)_6 + 3H_2O + 3H_2$$

赤血鹽は又赤色血滿鹽と稱せらる、

セキコー (石膏) 化英 Gypsum. 地上に頗る廣く分布する所の礦物にして、歐洲には厚層をなして食鹽の層と相累積して出づれども、本邦には未だかゝる厚層を發見せず、火山地方に産するものを以て主とす、(一)單斜晶系にして、菱形又は其の雙晶をなし、或は數結晶集合して放射狀をなすことあり、又結晶不明にして纖維狀をなすものを纖維石膏といふ、細粒にして大理石の如き外觀をなすものを雪花石膏といふ、(二)透明若くは不透明にして、色は無色、白色、蜜黃、黝、紅、青等なり、(三)條痕白色なり、(四)眞珠又は絹

セキサ

絲光澤を有す(五)硬度・五二にして、爪を以て癢くる、とならるにより方解石と紛る、を防ぎ得べし(六)比重二・二二・四(七)成分は $CaSO_4 + 2H_2O$ なり(十)性質及反應、鹽酸に溶解しやすき礦物なれども、水には僅に溶解するのみにして、四百五十倍の水に溶く、懸泉水中に含有せらるゝことを見る、石膏を取り百度に熱すれば、水の幾分を失ひ、白色の粉末所謂巴黎膏 Plaster of Paris となる、之に水を加へて糊狀となし、乾燥すれば再び水と化合して凝固す、若し熾熱して二百度に至るときは、水の全量を失ひて硬石膏となり、再び速に水と化合する力を失ふべし、(十一)彫刻材、裝飾品、肥料、接合料其の他に用ゐらる、

セキサシ (脊索) 動英 Notochord. 脊椎動物が發生の初期に有する棒狀體にして、脊髓に接し、之に並行して、其の腹面を走る軟骨様の棒なり、動物によりては、終生之を有し(例「ヤツメウナギ」「ナメクジムシ」)或は成長の後には、多少消滅し、更に數多の脊椎骨を生じ、所謂脊梁をなすに至る(魚類以上、即ち脊椎動物)魚類の脊椎骨の凹入せる部分を充たせるものは、即ち脊索なり、

セキサシバン (石蠟板) 動「シマン」に同じ、

セキシヨクケツゼン (赤色血滿鹽) 化 赤血鹽に同じ、

セキシヨクサンカドー (赤色酸化銅) 化 酸化第一銅に同じ、

セキシ

三五二

セキシヨシ (石松子) 植 「ヒカゲノカヅラ」の胞子を粉末とせるものなり、丸薬に附けて之を包むに用ゐる、

セキシヨルイ (石松類) 植 Lycopodium. 判然たる葉あり、胞子は葉腋に生じ、或は枝の頂端に着生す、例へば「イハヒバ」「ヒカゲノカヅラ」の如し、

セキシヨクサンカミガン (赤色酸化マンガン) 化英 Manganese oxide, Mn_2O_3 茶褐色の輝「マンガン」礦となりて存在す、他の酸化「マンガン」を大氣中に於て灼熱すれば、赤色酸化「マンガン」を生ず、茶褐色の粉末なり、之に硝酸を加ふれば、其の一部分溶解して硝酸第一「マンガン」となり、二酸化「マンガン」の粉末を残す、薄き硫酸に入れば、硫酸第一「マンガン」及二酸化「マンガン」を生ず、

セキシヨニー (石鐘乳) 鑛 「シヨニーニユーセキ」の條を見よ、

セキシユン (石筍) 地 英 Stalagmite. 炭酸石灰を溶解せる地下水が、地中の空洞(主に石灰洞)の壁より滴下して鐘乳石を生成する際、剩餘の水が洞床上に滴落し、其の含める炭酸石灰が沈澱遊離して、床上に堆積したるものを云ふ、其の狀恰も筍の生じたる如くなるにより此の名あり、

セキシイ (脊髓) 生英 Spinal cord. 脊椎骨の後方に突起せる部分の中に存する白色羊羹様の棒狀體にして、外

部は白色を呈す、此を横断して其の内部を見れば、巴形のもの二つを背にて合はせたる如く見ゆる灰白色の物質あり、即ち脊髓は内部に灰白質ありて、其の外面を白質にて被ふものなり、脊髓は其の側面より二對の細枝を生ず、各側面の枝は、何れも脊椎骨を出づる前に合一し、一本となりて左右より椎骨外に出づ、其の前より出づるものを前根といひ、運動を司り、後より出づるを後根といひ、知覺を司る、

セキスイシンケイ (脊髓神經) 生英 Spinal nerves.

脊髓側面より出づる三十一對の神經にして、背、腹及手足に分布し、その知覺と運動とを司る、各神經幹は二個の根ありて、脊髓側面の前部と後部とに起れども、直に合して一本となり、次第に分岐して體の各部に達したる後、更に分かれて一半は皮膚に至り、一半は筋肉に終る、

セキヤ (石精) 鑛英 Naphtalin. 石油の純精にして揮

發性のものを云ふ、

色(三)黒、黒褐の條痕(四)金屬、脂肪、無澤(五)硬度0.5-2.5(六)比重1.1-1.8(七)成分は炭素、水素、酸素なり、此に左の種類あり(炭素の多少によりて)

- (イ) 無燐炭(Anthracite) 百分中九十分以上の炭素を含有す、金屬光澤あり火力最も強し、
(ロ) 黒炭(Pitch-coal) 百分中七十乃至九十分の炭素を有す通常石炭と稱するもの是なり、
(ハ) 褐炭(Brown coal) 又は Lignite) 百分中六十乃至七十分の炭素を有す、火力黒炭に劣る、我國の炭田に産する石炭の大半は即ち是なり、
(ニ) 泥炭(Peat or Turf) 僅に、五十乃至六十分の炭素を含有、火力最も弱し、

セキタンセーユーライ (石炭生成の由来) 鑛 石炭は非

晶質の鑛物にして、緻密状、又罕には纖維状若くは板状組織をなす、本鑛は、もと植物質の空氣の供給不十分なる所にて腐敗せしものなり、蓋し植物質は炭素、水素、酸素の三元素より成るを以て、若し空氣中にて腐敗するときは、炭素は空氣中の酸素と化合して、炭酸となり、消失し去るものなり、されどもし、地底又は水中の如く空氣少き所に於て、腐敗するときは、三元素は互に化合して、炭酸と水(水素酸素の化合物)とを生ずべし、然るに其の炭素の量は酸素に比して頗

る多きを以て酸素は炭酸を生成するが爲め、悉く皆消費せらるるも、炭素は猶ほ餘分を存すべし、此のもの相集りて遂に石炭となれるものなり、されば植物の此の種の腐敗を特に炭化と稱す、抑も炭化の完了したる植物は純粹の炭素のみなるべけれども、否らざるものは、猶ほ其の中に酸素と水素とを含む、故に石炭を苛性カリ液にて煮るときは、黒褐色を呈すべし、是れ其の中に多少の炭水化合物例へば澱青の如きもの存し、其が苛性カリ液に溶解したるが爲なり、

セキタンゲンリョーシヨクツ (石炭の原料植物) 鑛 石炭

となれる植物は、皆前世紀の産にして、時代によりて其の種を異にす、長大なる木本状の羊齒類各種あり、又蘇鐵科植物あり、又木賊石松の如きものあり、蘆木、鱗木、封印木等あり、其の他針葉樹、潤葉樹の類もあるなり、此等のもの、地殼の變動によりて地中に埋没せられ、非常なる長年月を経て、以て今日の石炭となれるものなり、

セキタンガス (石炭瓦斯) 化英 Coal gas.

セキタンガス(石炭瓦斯の成分) 石炭瓦斯の成分は用ふる石炭の種類によりて異なるを以て、左に一二の例を擧げん、

Table with 2 columns: Gas type and composition values.

セキタ

Table with 2 columns: Gas type and composition values.

Table with 2 columns: Gas type and composition values.

セキタンガス(石炭瓦斯の製法) 石炭瓦斯を製

造する装置は、左の圖に示せるが如し、即ち甲は瓦斯爐、乙は冷却室、丙は洗滌塔、丁は清淨器、戊は瓦斯溜り、己は瀝青炭或は燐炭の粉末を鑄鐵製或は粘土製の「レトルト」(A圖に於ては七個を示せり)に入れ、Bの竈にて「コークス」を燃焼し、Aを熱すれば瓦斯は發生すべし、此の瓦斯はCの鐵管(圖に於ては七本を示す)を昇りて、Dの大鐵管中の水に入りて洗はれ、「タール」を分離せらる、次にFの冷却管に至れば分離したる「タール」は二本の下管より「タール」溜りに入る、而して瓦斯は乙なる冷却室に入り、數多の直立

セキタ

部は白色を呈す、此を横断して其の内部を見れば、巴形のもの二つを背にて合はせたる如く見ゆる灰白色の物質あり、即ち脊髓は内部に灰白質ありて、其の外面を白質にて被ふものなり、脊髓は其の側面より二對の細枝を生ず、各側面の枝は、何れも脊椎骨を出づる前に合一し、一本となりて左右より椎骨外に出づ、其の前より出づるものを前根といひ、運動を司り、後より出づるを後根といひ、知覚を司る、

セキタインシグー(脊髓神經) 生英 Spinal nerves.

脊髓側面より出づる三十一對の神經にして、背、腹及手足に分布し、その知覚と運動とを司る、各神經幹は二個の根ありて、脊髓側面の前部と後部とに起れども、直に合して一本となり、次第に分岐して體の各部に達したる後、更に分かれて一半は皮膚に至り、一半は筋肉に終る、

セキセー(石精) 鑛英 Naphtalin. 石油の純精にして揮

發性のものを云ふ、

セキタン(石炭) 鑛英 Coal. (一)非晶塊 (二)褐、褐黒、黒

る多きを以て酸素は炭酸を生成するが爲め、悉く皆消費せらるるも、炭素は猶ほ餘分を存すべし、此のものと相集りて遂に石炭となれるものなり、されば植物の此の種の腐敗を特に炭化と稱す、抑も炭化の完了したる植物は純粹の炭素のみなるべけれども、否らざるものは、猶ほ其の中に酸素と水素とを含む、故に石炭を苛性カリ液にて煮るときは、黒褐色を呈すべし、是れ其の中に多少の炭水化合物例へば瀝青の如きもの存し、其が苛性カリ液に溶解したるが爲なり、

セキタンゲリョーシヨラツ(石炭の原料植物) 鑛 石炭

となれる植物は、皆前世紀の産にして、時代によりて其の種を異にす、長大なる木本狀の羊齒類各種あり、又蘇鐵科植物あり、又木賊石松の如きものあり、蘆木、鱗木、封印木等あり、其の他針葉樹、潤葉樹の類もあるなり、此等のもの地殻の變動によりて地中に埋没せられ、非常なる長年月を経て、以て今日の石炭となれるものなり、

セキタンガス(石炭瓦斯) 化英 Coal gas.

セキタンガス(石炭瓦斯の成分) 石炭瓦斯の成分は用ふる石炭の種類によりて異なるを以て、左に一二の例を擧げん、

Table with 2 columns: 水素 (Hydrogen) and メタン (Methane). Values range from 50.0 to 99.9.

色(三)黒、黒褐の條痕(四)金屬、脂肪、無澤(五)硬度0.5-2.5(六)比重1.1-1.8(七)成分は炭素、水素、酸素なり、此に左の種類あり(炭素の多少によりて)

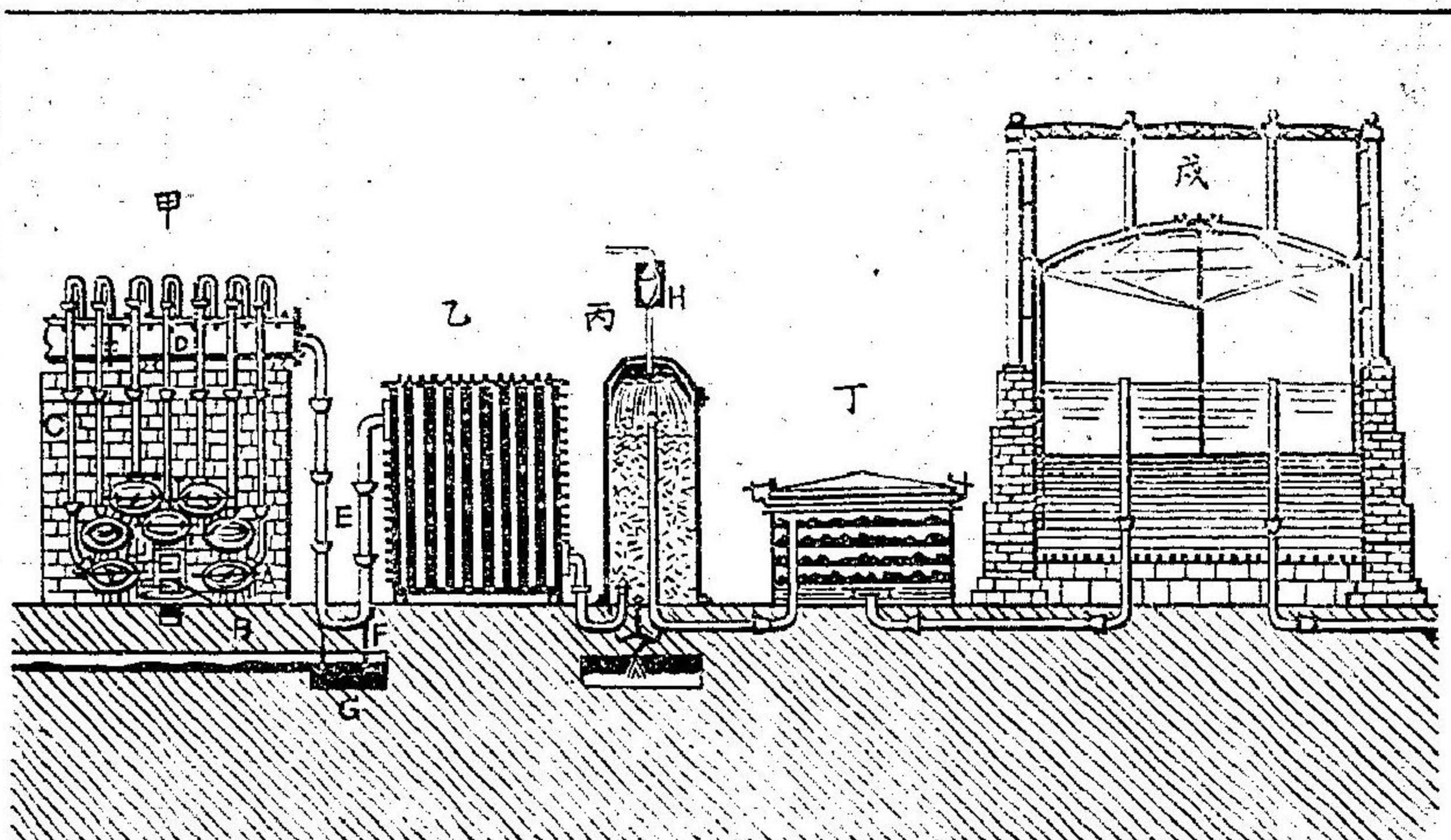
- (一)無燐炭(Anthracite) 百分中九十分以上の炭素を含有す、金屬光澤あり火力最も強し、
(二)黒炭(Bituminous) 百分中七十乃至九十分の炭素を有す、通常石炭と稱するものは是なり、
(三)褐炭(Brown coal) 又は Lignite) 百分中六十乃至七十分の炭素を有す、火力黒炭に劣る、我國の炭田に産する石炭の大半は即ち是なり、
(四)泥炭(Peat or Turf) 僅に、五十乃至六十分の炭素を含有し、火力最も弱し、

セキタンセーセーユライ(石炭生成の由來) 鑛 石炭は非晶質の鑛物にして、緻密狀、又罕には纖維狀若くは板狀組織をなす、本鑛は、もと植物質の空氣の供給不十分なる所にて腐敗せしものなり、蓋し植物質は炭素、水素、酸素の三元素より成るを以て、若し空氣中にて腐敗するときは、炭素は空氣中の酸素と化合して、炭酸となり、消失し去るものなり、されども、地底又は水中の如く空氣少き所に於て、腐敗するときは、三元素は互に化合して、炭酸と水(水素酸素の化合物)とを生ずべし、然るに其の炭素の量は酸素に比して頗

Table with 2 columns: 一酸化炭素 (Carbon monoxide) and 二酸化炭素 (Carbon dioxide). Values range from 12.89 to 74.01.

セキタンガス(石炭瓦斯の製法) 石炭瓦斯を製造する装置は、左の圖に示せるが如し、即ち甲は瓦斯爐、乙は冷却室、丙は洗滌塔、丁は清淨器、戊は瓦斯溜り、瀝青炭或は燐炭の粉末を鑄鐵製或は粘土製の「レット」(A圖に於ては七個を示せり)に入れ、Bの竈にて「コークス」を燃焼し、Aを熱すれば瓦斯は發生すべし、此の瓦斯はCの鐵管(圖に於ては七本を示す)を昇りて、Dの大鐵管中の水に入りて洗はれ、「タール」を分離せらる、次にFの冷却管に至れば分離したる「タール」は二本の下管より「タール」溜りに入る、而して瓦斯は乙なる冷却室に入り、數多の直立

不純物(窒素) 稀釋分(水素) 二酸化炭素 硫化水素 殆三・五分



鐵管を経て冷却せられ、且つ「アムモニヤ」及び二酸化炭素の幾分を洗ひ落され、丙の洗滌塔に入る、此の塔中には「コークス」の小塊を充たせり、而して其の上部には、丑なる如露仕掛けに少量の「アムモニヤ」を含める水を噴出せしむ、瓦斯はこゝに於て多量の「アムモニヤ」等を吸収せらる、次に丁の清淨器に入れば、數個

の棚の上に撒布せられたる、酸化鐵、石灰及び鋸屑の爲に、二酸化炭素、硫化水素を悉く失ひて全く清淨となる、清淨の瓦斯は「ボンブ」にて戊の瓦斯溜に送らる、之を鐵管によりて各所に分送し使用するなり、Aの「レトルト」中の石炭は、數時間の後には「コークス」となりて全く瓦斯を發生せざるに至る、故に之を取り出し、水を注ぎて火を消す、是れ即ち「瓦斯」「コークス」と稱するものにして、火力は普通の「コークス」より弱しと雖ども、薪炭に比すれば數倍せるを以て燃料として賞用せらる、「コークス」を取り出したる後「レトルト」には更に石炭を入れて前述の方法によりて瓦斯を製造す、「タール」に就きては其の條を見よ、又洗滌塔等にて集められたる「アムモニヤ」は種々の「アムモニヤ」化合物の製造原料として甚だ貴重なるものなり、
セキタンサン(石炭酸)化英 Carbohic acid, or Phenol. C₆H₅OH. 此の物は「コールタール」の主成分をなせり、又食草動物及人間の尿中に存す、長針狀の結晶塊にして、熔點四十一度沸點百八十三度なり、零度に於ける比重は一・〇八四、十六度にて水の十六分に溶解す、「アルコール」「エーテル」「クロロホルム」「グリセリン」等には容易に溶解す、吸濕性を有し空氣中にて赤色となる、特異なる臭と燒くが如き

味とを有し、甚だ有毒なり、重要な防腐劑にして皮膚を腐蝕す、苛性加里に溶解す、鹽化第二鐵を加ふれば其の溶液は紫色となる、通常の消毒には二十倍乃至五十倍の石炭酸水溶液を用ゐる、

セキタン(石彈)地英

Volcanic bomb.

火山の噴出

竝に破裂のために飛散する、岩片、熔岩片の大なるものをいふ、

セキチユー(脊柱)動生英

Vertebra column.

又脊梁といふ、頸部内にありて其の中軸をなし、數多の椎骨より成れる柱狀體をいふ、俗に言ふ「セボネ」是れなり、

セキツイ(脊椎)動生英

Vertebra. 脊柱をなす骨片を

いふ、脊椎骨、或は椎骨とも稱す、脊椎は所々によりて、形状大小及構造を異にすれども、本體は石臼の如き骨よりなり、其の後方に一の孔を有し、此の孔の兩側及後方には各一個の突起を有す、脊椎は即ち此の孔の中を通せるなり、

セキツイトーツ(脊椎動物)動

Vertebrata. 脊椎動物

物は體制最も複雑にして、其の左右同形なる體軀は、概ね頭、軀幹及び尾の三部分に區分せられ、且つ四肢を具ふ、魚、鳥、獸の類即ち是れなり、

此の類は皆内部骨格を有し、發生中心す脊索を生ずと雖も、其の形狀を變ぜずして終生存在する者稀にして、更に軟骨

性或は硬骨性の脊梁と名づくる柱狀骨格を生じ、脊索に代ふ、然れども脊梁中尙ほ多少の脊索部分を殘存するものなり、脊梁は脊椎と稱する骨體の數多相繼りて成るものにして、往々之を頭、胸、腰、薦及び尾の五部に分ち、每脊椎は其の主部を椎體と稱し、上部に一對の突起を生じ、左右相會して脊髓を通ずる所の弓門を形成し、其の頂部より更に棘狀の一突起を生出す、尾部の椎體は通常其の下部に於ても亦の突起を生じ、往々左右相會して血管を通ずる弓門を形成一對し、且つ下方に向ひ一突起を生じ、其の狀恰も椎體上部に於けると同一なることあり、其の他脊椎は兩側に向かひて突出する所謂横突起、並に諸脊椎を連接せしむる所謂關節突起を具ふるを常とす、軀幹中諸内臓を包含する體腔壁は、數對の肋骨と名くる弓狀骨を以て支持す、是れ脊椎と相應じて關節的に排列し、其の背部は心す脊椎と關節し、腹端は遊離し或は胸前壁の胸骨に接着す、其の他樞軸骨格に連接する者は、頭骨及び四肢骨格とす、頭骨は頭蓋及び顔部より成る、頭蓋とは腦を被包する部分を云ひ、顔部とは眼及び鼻腔の部分並に上下顎骨を云ふ、此の他顔部に附屬するものにて、鰓骨と名くる者あり、是れ鰓を支持する數對の弓狀骨にして、水呼吸を營む者に在りては大に發達すと雖も、空氣呼吸を爲すものに在りては、纔に舌骨となりて殘存する

のみ、頭骨は下等の脊椎動物に在りては全く軟骨より成り、其の頭蓋は單に函状をなす、是れ頭骨の原状を示すものにして、之を原頭骨と稱す、而して稍高等の脊椎動物には、此の原頭骨は不完全に發達し、之を補ふに許多の扁平若しくは不正形骨片より成れる硬骨性頭骨を以てす、四肢は前後二對にして、其の形狀は動物生活の状況に従ひ一様ならずと雖も、構成の要點は皆同一なり、而して之を支持するため、肩帶及び腰帶と名くる骨格により輻軸骨格と相連接す、體面を被覆する皮膚は、上皮及び下皮の二層より成り、上皮は外胚葉細胞の組成する皮膜にして、數種の角質附屬物を生じ、且つ種々の腺之に屬す、下皮は(真皮とも云ふ)纖維狀組織より成り、魚類の鱗は下皮より生ず、

神経系中樞は、頭蓋中にある腦及び脊梁上部の弓門中を走る脊髓より成る、中樞は對偶的に排列する夥多の神經を分出し、其の作用は専ら感覺を司る者と、筋肉運動を掌る者との二種あり、系中更に交感神經と名くる者ありて、體腔中の植物性諸内臓に分布し其の作用を監督す、

感覺器は觸官、嗅官、聽官、及び視官の四種にして、觸官器は體面皮膚中に散在し、其の口腔に在る者は特に味官を掌る、之を味官器と云ふ、嗅官は鼻腔皮膚の營む所にして、鼻腔は概ね一對あり、頭端に於て外開し、而して空氣を呼吸す

る者に在りては口腔或は咽頭と相通す、聽官器は必ず一對を存し、顛部部の骨中に埋没せる所謂迷路は其の最要部たり、視官器即ち眼も亦一對あり、各々右腔の球狀體にして、前部の角膜を透入する光線は、其の中に在る水晶體を通過するに際し、集束せられ、後部裏面を覆ふ所の網膜に物像を影じ感覺を起すものなり、

筋肉は概ね横紋纖維より成ると雖も、不隨意運動を營む者には往々平滑纖維よりなるものあり、筋は皮膚、骨格、或は其の他諸器官に附屬し、諸部運動の方法に従ひ種々に區別す、

消化官は口に起る所の管狀器官にして、口腔中、上下顎に齒を列生し、食物咀嚼の用を司る、齒は魚類に在りては常に顎上に生ずるのみならず、亦口腔内面の所々に生ずるものあり、口腔に次ぎて咽頭あり、此の部は、水呼吸者に在れば、數對の鰓孔を開通し、呼吸水を流出せしむべしと雖も、空氣呼吸者に至りては、鰓孔は發生中一時之を生ずることあるも、更に閉鎖して其の跡を留めず、咽頭は食道により胃に通ず、胃は囊狀をなす部分にして、小腸及び大腸之に連り、腹腔中を多少屈曲して走り、終に肛門を開く、食物の消化及び營養、吸收は主として胃及び小腸の營む所にして、糞塊は大腸に聚積し終に肛門より排出せらる、消化管と接續せる數種

の腺あり、口腔に開口する唾腺、小腸始部に開通する肝臟及び脾臟は其の主なる者にして、皆食物消化に必要な液体を分泌す、

呼吸器は二種あり、即ち水呼吸者の鰓、及び空氣呼吸者の肺にして、兩種を共有する脊椎動物は只稀に之れ有るのみ、鰓は鰓骨に由て支持せらるるものにして、概ね櫛齒狀をなすと雖も、稀に羽狀を爲し頭の兩側に突出するものあり、肺は胸腔中に在る囊狀物にして、氣管と稱する管により咽頭と相通す、肺は空氣及び血液の接觸を増加せんが爲め、内に向ひて夥多の襞褶を生じ、或は無數の小房に區分せられ、空氣の出入は特別の装置ありて順正に之を行ふものなり、比較解剖學の示す所によれば肺は魚類の鰓と相同物なりとす、

循環系は、體腔又は外界と交通することなく、血液は無色の血漿及び赤、白二種の血球より成る、赤血球は、橢圓形若しくは圓形の盤狀物にして、無數に存在し、血液に濃紅色を與ふるものなり、血液の循環する血管は、動脈、毛細管及び靜脈の三種にして、胸腔中腹部に必ず心臟を具ふ、其の壁、肉質にして順正に收縮膨脹して血流を起す、血管と連續する管系にして淋巴管と名づくる者あり、是れ「アメーバ」狀細胞を含める水様液を流通せしむる細管にして、普く諸體部に分布し、其の作用は毛細管より漏出する血液部分を血流

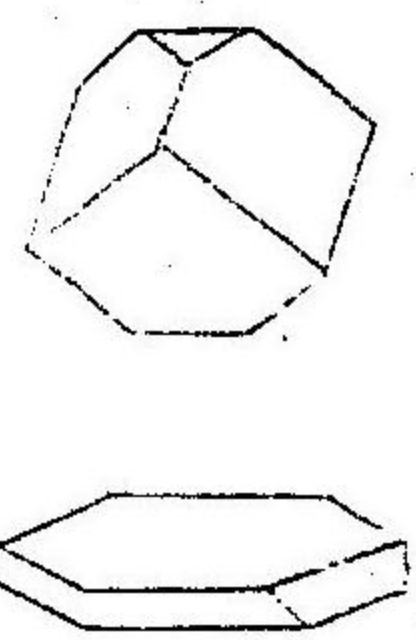
に返戻し、且つ消化管の吸收し得たる滋養物を血液に輸送するにあり、泌尿器には、一對の腎臟ありて體腔中脊梁の直下に位し、其の輸管は概ね一管に合し、往々膀胱を具ふるものあり、硬骨魚に在れば、尿道は肛門の直後に於て外開し、其の他の者に在れば(哺乳類を除き)肛門直内の排泄腔と名くる腸部に開口す、

脊椎動物は僅少の例外ある外、皆雌雄異體にして、卵生及胎生の二種あり、其の生殖器本部は體腔中一對ありて、輸管は(哺乳類を除き)概ね排泄腔に開口す、卵は受精の後は順正或は不同に分割し、必ず三胚葉を生ず、有羊膜類と名くる一大部類に在れば、胚は發生中に羊膜と稱する一種の膜質被包を生ず、

脊椎動物を大別して五綱となすこと左の如し、

- 哺乳類 例、「ヒト」「クモノ」
- 鳥類 例、「トリ」
- 爬虫類 例、「ヘビ」「ヤモリ」
- 兩棲類 例、「カヘル」「イモヤ」
- 魚類 例、「ウチ」
- 附被囊類 例、「ホヤ」
- セキツツウ(赤鐵鑛) 鑛英 (Fusulinite) (晶系及性狀)(一)六方晶系に屬し、半面像なり、菱體又は菱體と桌面

との聚形あり、圖の如し、又斜方十二面體等あり、又柱狀、粒狀、片狀、雲母狀、葡萄狀、鐘乳狀、塊狀、土狀の如き諸種の



群晶像に現出す、(二)断面は半具殼狀又は粗面狀をなす、(三)金屬光澤強し、種類によりては燦光を發す、(四)暗黝鋼色 或は鐵黑色

(五)條痕色は桃紅色或は赤褐色なるにより磁鐵鑛と區別せらる、(六)硬度五・五(六・五)(七)比重四・五(五・三)(八)成分は Fe₃O₄ 又「チタニウム」又は「マグネシヤ」を含むことあり、

(反應及識別)吹管にて之を熱するも熔けず、然れども鹽酸には溶解す、又稀磁鐵性あり、

(種類)

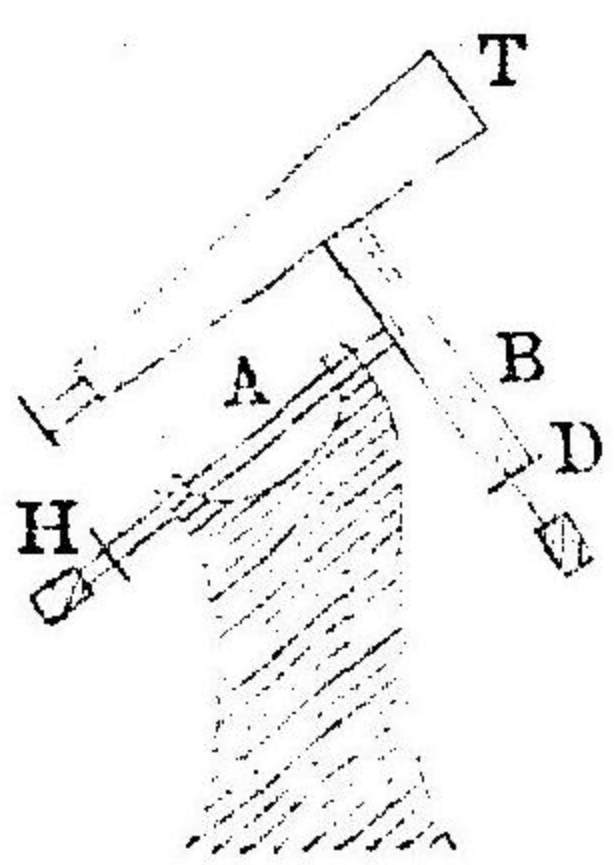
- (一)輝鐵鑛 Sphenular Iron or Iron glance、色澤美麗にして燦光を放つものを云ふ、
- (二)雲母鐵鑛 Micaceous Iron ore、輝鐵鑛の雲母狀をなせるものを云ふ、
- (三)普通赤鐵鑛 Hematite、塊狀、粒狀に顯はれ赤褐色を帯べるものを云ふ、
- (四)代赭石 Red ochre、粒狀をなし粘土と混味せるものを云ふ、

(産地及效用)美濃、駿河、越前、陸中仙人鐵山、越後赤谷鐵山等に産し、外國にも多く産す、製鐵の原料なるのみならず、又染料、鐵劑等を製し、其の他種々の工業用に供せらる、

セキド (赤道儀) 地英 Equatorial instrument、地軸に直交する地球表面上の大圓を赤道といふ、又地軸の兩端即ち南北兩極より等しき距離にある大圓なりといふことをうへし、

セキドウ (赤道雨) 地英 Equatorial rain、熱帯の雨の條を見よ、

セキドギ (赤道儀) 天英 Equatorial、赤道儀とは、經緯儀の垂直軸を地軸の方向に向けたるものなり、Aは地軸



の方向にある軸なり、Aに直角に望遠鏡あり、A及Bの兩端にH及Dの二つの目盛せる環あり望遠鏡はB軸及A軸を軸として廻轉することを得、B軸中に望遠鏡の廻轉せる軸が箱入り、其の外筒はAの軸に固着せり、かくて望遠鏡をしてAの軸の周圍を廻轉せしむれば、其の廻轉度はHの目盛により知りうべく、而してこの廻轉は地軸の周圍を廻轉するなる故、其の度は時角の差を現はすべし、よりにてHの目盛は時角を計るに用ゐらる、又目盛り

せるDなる環は地軸に平行なる面なり、故に時角のDの角度即ち赤緯度を計るに用ゐらる、かくてHを時環と云ひ、Dを赤緯環と云ふ、

セキドニー (赤銅鑛) 鑛英 Cuprite、酸化第一銅にして One O なる成分を有す、等軸晶系に屬す、硬度三・五(四)比重五・七(六)製銅の原料たり、暗赤色にして光澤強し、黃銅鑛自然銅等と共に諸銅山に産す、通常八面體に結晶す、時として、大氣中の炭酸と化合して炭酸銅となり、八面體の孔雀石を生ずることあり、所謂假像をなす、

セキドーンリユー (赤道反流) 地英 Equatorial counter current、赤道流の條を見よ、

セキドールタイ (赤道無風帶) 地英 Zone of equatorial calm、赤道に於ける無風の部分にして、南北の兩貿易風が相會する處及び此兩者が下層に降り來る反對貿易風と相會する處なり、赤道地方は、氣流常に靜穩なり、之を赤道無風帶と稱す、南北の兩貿易風が相會する處にして且つ此の兩者が下層に降り來る所の反對貿易風と相會する處なり、

セキドールユー (赤道流) 地英 Equatorial current、海水が赤道の南北貿易風帶に沿ひて東より西に流れ、大陸に衝突し其の南岸に沿ひて北又は南に向ひ、漸次東方に偏

して遂に他の大陸の西岸に到り、再び低緯度の地に出て、還原す、其の赤道を流るゝ部分を赤道海流と云ふ、此の回流の内側は水波靜穩にして海藻繁茂し、藻海の稱あり、而して此の西流する赤道流の間に在りて、恰も赤道無風帶に當る處には赤道流と反對の方向に流るゝ海流あり、之を稱して赤道反流と云ふ、

セキノエーゼノユライ (石腦油生成の由來) 鑛 石腦油は種々の炭、水二素化合物の混合液なり、此の成因につきて二説あり、(A)説一般に採用せらる、

(A)魚類其の他の動物の遺骸が地層中に埋没せられ、上部よりの壓力、及び下部よりの熱によりて、現今の状態に液化したるものなり、其の例證に曰く、燐鑛と石油とは相伴ふものなり、而して燐鑛の有機物より來りたることは屢なり、是によりて石油も亦有機物より生ずるなりと、又曰く、石油と自然瓦斯とは相伴ふ、而して此の瓦斯は人工的に石炭より製出することを得、故に石油も亦石炭の如く生物の遺骸なるべしと、現今此の説採用せらる、

(B)石油は無機物より生ずるものなり、此の説にては、地球生成の當時に於て他の無機體と同じく、諸元素の反應によりて生ずるものなりと、

セキツイシ(石筆石) 鑛 滑石の一種にして、其の質極めて緻密なるものを云ふ、之を蠟石とも云ふ、備前、備中の産にして、白、淡赤、又は白と淡赤との斑色を帯び、種々の用に供せらる、就中文房具とし又石筆として其の用最も大なり、此のものを吹管にて熱すれば、明光を放ち膨脹して硬くなる、此のものは苦土を含める岩石の分解によりて生ずると多し、

セキボク(石墨) 鑛 英 Graphite. (一)六方晶系(二)鐵黒又は鉛黝色(三)條痕は黒くして輝く(四)金屬光澤(五)硬度一・一・五(六)比重二・二(七)成分はCなり、熱電氣の良導體なり(八)飛彈、加賀、伊勢、三河、長門等より産す(九)一旦粉とし之を用ゐて鉛筆の心とし、又粘土に和して坩堝を作り、減摩劑として油に代へ、尙ほ鐵器の鑄を防ぐ爲め之に塗る等に用ゐる、(十)反應及識別、本鑛は、之を指頭にて摩すれば、平滑の感を覺えしめ、且つ木炭の如く指頭に附着す、又之を吹管にて熱するも毫も熔融せず、火を點するも容易に燃えざることを金剛石よりも甚し、但し燃ゆれば必ず炭酸瓦斯を生ず、又酸類に溶解することなし、

セキボクヘンガン(石墨片岩) 鑛 英 Graphite schist. 石墨が片岩の主成分となり、之に石英雲母等を混じたるものにして、時としては雲母の含量多きがために雲母片岩に

セキユ(石油) 鑛 英 Petroleum. (一)液體(二)黄或は褐色(三)比重は〇・七・〇・九(四)成分はC₁₂H₂₂(五)米國及露西亞に大に産出す、我國にては、越後、羽後、陸奥、北海道、遠江、臺灣等に産出するを見る、(六)動植物の分解より來り、地層中に貯溜せられたるものなり、(セキユセーノノコライ)を見よ、

セキユ(石油) 化 英 Petroleum. 石油は太古海中に棲息せし動物の脂肪質が、地熱と強壓とによりて乾溜せられて生成したるものなりといふ説と、金屬の炭化物が水に作用せられて生じたるものなりとする説とあり、而して兩説共に眞なるが如し、

燈用石油は沸點百五十度乃至二百度にして、比重は〇・七八乃至〇・八二なり、主にC₁₅H₃₂よりC₂₅H₅₂に至る間の炭化水素より成れり、

セキエーテル(石油エーテル) 化 英 Petroleum ether. 粗製石油を分溜する時に、四十度より七十度の間に蒸溜する部分を集めたるものなり、樹脂、油、エム等の溶劑に供す、

セキリン(赤燐) 化 燐の條を見よ、

セキリョー(脊梁) 生 「セキヤチ」に同じ、

セキニー(鵝鴿) 動 Motacilla 英 Wharf-tail. 水邊に棲息する鳴禽類にして、飛翔するや必ず波状をなし、止るや必ず尾を上下す、嘴長く、色種々にして、或は黄色なるあり、或は黒白の交れるあり、或は背面黒きあり、或は胸部黒きあり、害蟲を啄むにより、保護鳥の一に數へらる、

セキローシューデンキ(石蠟蓄電器) 物 石蠟蓄電器と同じ、

セキローチンデンキ(石蠟蓄電器) 物 英 Paraffine Condenser. 石蠟蓄電器は多量の電氣を蓄積するに用ゐるものにして、熔かしたる石蠟に浸したる紙と錫箔とを交互に重ね、其の錫箔を一つ置きに連結せるものなり、其の電氣を蓄積し得るは、一方の錫箔に或る種の電氣を送れば、感應によりて蠟を隔て、他の錫箔に異種の電氣を起し、互に相束縛するが故なり、

セコー(整合) 地 英 Conformable. 新しく生じたる地層が、舊地層の上に并行して、整然相累積する状態をいふ、

セコーテン(正交點) 天 英 Ascending node. 月が南半球より北半球に移るとき通過する交點を正交點と云ふ、

セーサン(靑酸) 化 「シヤン」酸に同じ、

セーシ(靜止) 物 英 Rest. 物體が其の位置を變ぜざることを靜止といふ、然れども此の靜止てふ語は、相對的のもの

のにして絶對的のものにあらず、故に必ず之に對するものなるべからず、吾人の謂ふ所の靜止とは、自己又は地球に對していふものなり、

セーシ(精子) 動 「セーチャー」に同じ、

セーシ(精子) 植 英 Spermatozoid. 運動力を有する雄素なり、動物には

ソテツノ精子 イテフノ精子

大概精子あり、左圖は下等隱花植物及「ソテツ」[イテフ]にあるものを示す、核及纖毛を有す、

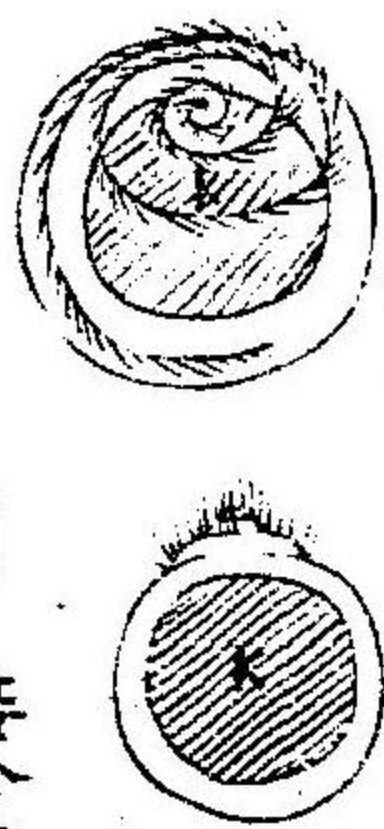
セーシキカコーガン(正式花崗岩) 鑛 花崗岩の條を見よ、

セーシキゲンアガン(正式玄武岩) 鑛 玄武岩を見よ、

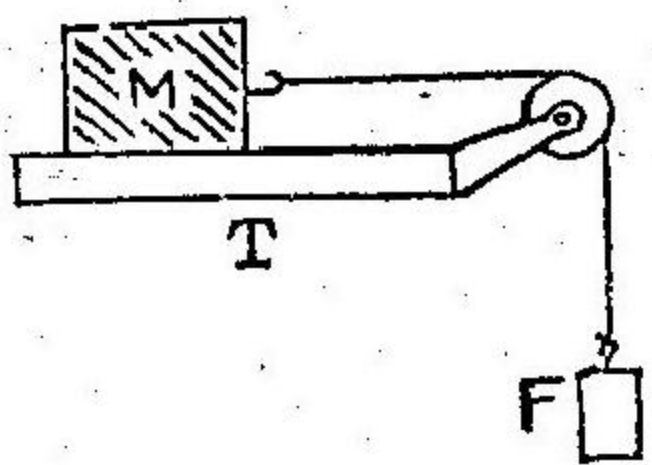
セーシサ(正時差) 地 時差の條を見よ、

セーシマサツ(靜止摩擦) 物 英 Static friction. 一の物體をして他の物體の表面上を這らしめんとするに際し、接觸する表面相軋して、其の運動を起さしめんとするものあることを見るべし、之を靜止摩擦と稱す、

セーシマサツグエー(靜止摩擦係數) 物 英 Coefficient of Static friction. Mなる質量を有する物體



接合線、精子



をT机の上に置き、Fなる質量を有する物体を吊り下げて之を引かしむるに、FとMとが一定の割合に達したる時、Mは運動を初むべし、一般にFはMより小なるものにして、このF/Mなる分數を稱して、Mなる物体と机面との静

止摩擦係數といふ。

ゼーシヤ(青砂) 鑛 一シヤガン 砂岩の條を見よ。

ゼーシヤ(星宿) 天 英 Constellation. 星を種々の群に分かちたるものを星宿又は星坐と云ふ、其の分ちる方は學者により異なり、頗る廣く星學者間に行はる、方は八十九に分ちたるものなり、星宿の名稱は神の名、獸の名を以てしたるもの多し、又各星宿の星の名は、多くは其の星宿の名に希臘「アルハベット」を冠したるものなるが、又特別の名を附したるもの少からず。

ゼーシヨギヨ(青晶玉) 鑛 英 Sapphire. 鋼玉石の一種にして「ビルマ」國に産す、錫蘭島の産最も貴くして、一カラットの價、七十五圓より百圓の間あり、「ビルマ」産のものはその質不良にして、一カラットの價僅に十圓に下るものあり、現今までの青玉の最大なるものは、九百カラット(四百五十一匁)ありと云ふ。

ゼーシヨク(生殖) 動 英 Reproduction. 生物の成長一定の度に達するときは、分殖して二個體若くは數個體の同生物となる、此の機能を生殖と云ふ。

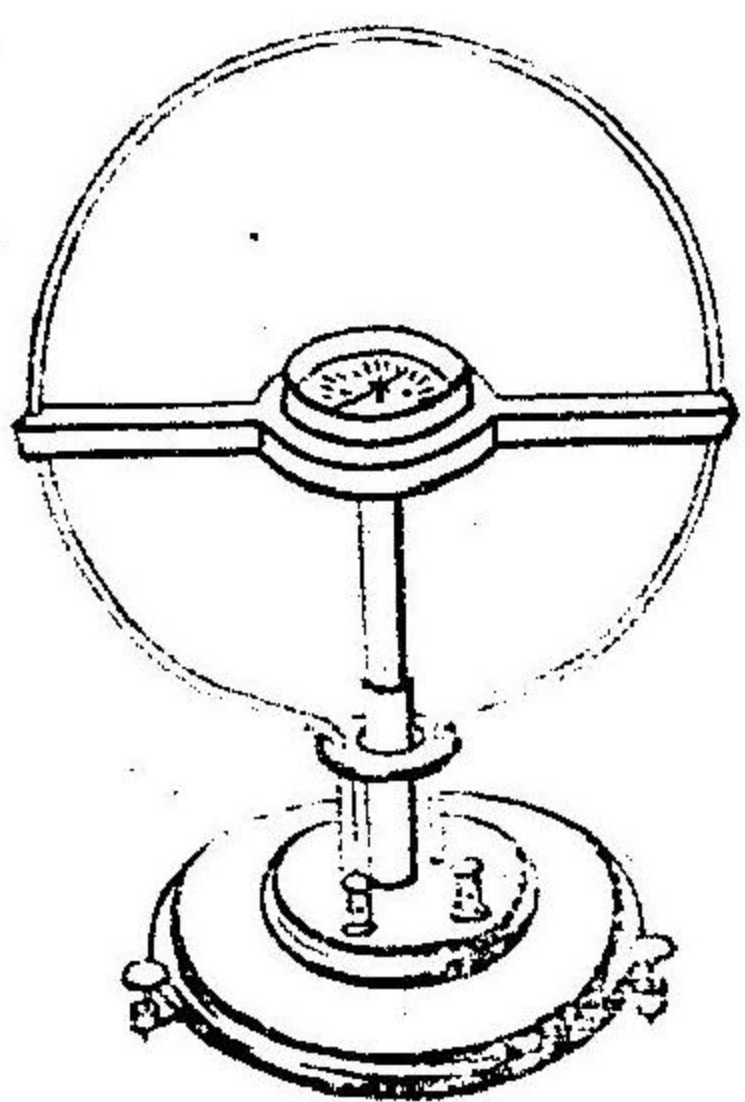
ゼーシヨク(生殖板) 動 英 Genital plate. 「ウニ」類の肛門の周圍に接し、歩間帯の先端にありて、多角形なす所の石灰板にして、生殖物は此の板にある孔より出づるものなり。

ゼーシヨテン(正焦點) 物 英 Principal focus. 主焦點を見よ。

ゼーシヨセキルイ(青晶石類) 鑛 英 Sapphire variety. 「コーギョクセキ」(鋼玉石)の條を見よ。

ゼーセーカ(整齊花) 植 英 Regular flower. 花の各輪内に於て、其の部分の形状大小互に相同じき花を云ふ。

ゼーセカイ(生石灰) 化 英 Quicklime. 酸化「カルシウム」に同じ。



ゼーゼツデンリョウケイ(正切電流計) 物 英 Tangent galvanometer. 正切電流計は、磁針の偏りによりて電流の強さを

を計る器械にして、垂直なる大圓輪の周圍に絶縁したる導線を幾回となく巻き附け、其の中心に於て水平に動き得べき磁針を置き、其の偏りの角は周圍に劃したる目盛りによりて知ることを得べきものなり、今この大圓輪を磁石千午面と一致せしめ、磁針の指北極をして零度を指さしめたる後、導線に電流を通すれば磁針は偏倚すべし、而して電流の磁針を偏らしむる作用は電流の強さに比例し、又其の作用は偏角の正切に比例するを以て、電流の強さは偏角の正切に比例すべし、是れ其の名ある所以なり。

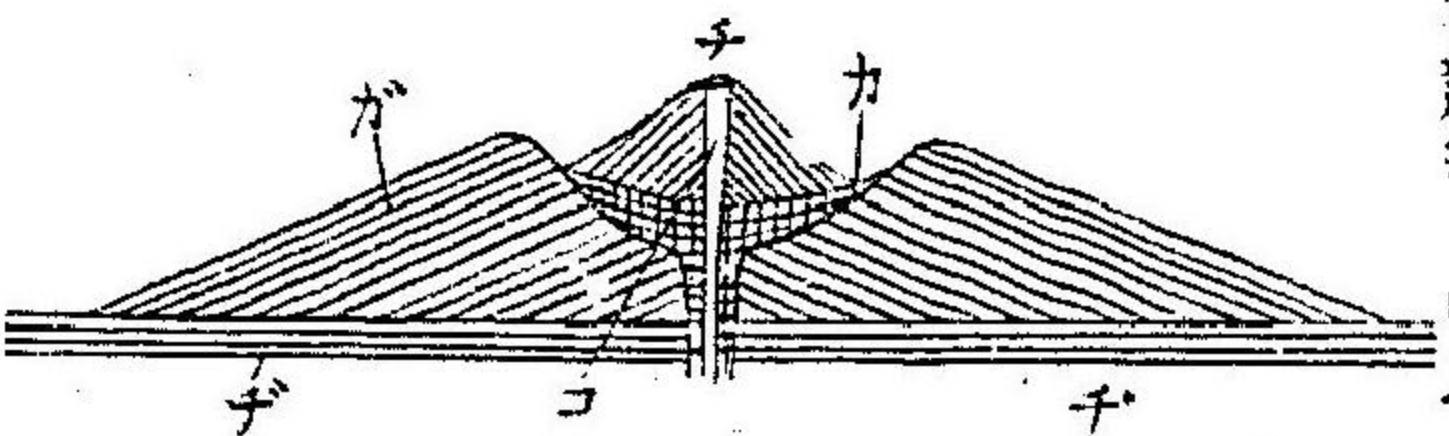
ゼーゼネツ(生成熱) 化 單體が化合する時に發する熱を化合物の生成熱といふ。

ゼーゾカサン(成層火山) 地 英 Strato-volcano. 又層狀火山と云ふ、火山より噴出する砂、灰が相重りて生ずる火山をいふ、成層火山の内部は、外観上、層を爲せる物質よりなれり、然れども、其の實際融の状態にありし噴出物の堆積に外ならず、其の断面につきて各部を示せば、下の如し。

ゼーゾガン(成層岩) 地 層々相重なる岩石をいふ、即ち水成岩のことなり、「スイセーガン」を見よ。

ゼーシキョトツ(生存競争) 動 英 Struggle of existence. 動物の數多くして食物足らざる時は、其の動物は食物を得て生存せんがために種々の争を生ず、此の争を生

存競争といふ、「シンカロン」の條を参照すべし。



ゼータイ(聲帯) 生 英 Vocal cords. 發聲するとき、空氣が觸るゝによりて振動する所の肉帯をいふ、「コート」の條を参照せよ。

ゼータイ(世代) 動 英 Generation. 動物に於ける時代をいふ、例へば青年時代、有性時代等といふ場合に、時代なる語の代りに用ゐる語なり。

ゼータイコカン(世代交換) 動 「ゼータイコバン」を見よ。

ゼータイコタイ(世代交代) 動 「ゼータイコバン」に同じ。

ゼーダイゴバン(世代交替) 動 英 Alternation of generation. 雌雄の性を有する時代と、性を有せざる時代と、交替に循環することをいふ。

ゼーダイゴジ(世代交替) 植 英 Alternation of generations. 一種の生物にして、有性世代と無性世代との二時代ありて、各時代は甚しく異なりたる形態構造を具備し、相交互して顯はるることを云ふ、今植物につきて例解す可し、(A) 隠花植物、

ゼーチ

(イ)羊齒類、通常目撃する羊齒體、(孢子を生ず) 孢子より發生せる扁平體、(雌器及雄器を有す) 無性世代、有性世代、

(ロ)藻類、通常目撃する藻體、(雌雄異株) 有性世代、無性世代、藻體に生ずる子囊體、(孢子を生ず)

(ハ)苔類、通常見る所の苔體、(雌雄異株) 有性時代、此有性時代の苔類上に蒴胞を生ず、(孢子を生ず) 無性時代、

(B)顕花植物、通常見る所の植物體、(蒴、胚珠を造る) 無性時代、無性時代の植物體上に生ずる蒴中の花粉が花粉管を生じ胚嚢内にある卵細胞に雄性核を放出する時代、有性時代、

ゼーヂク「レンズの」(正軸)物英 Principal axis 「レンズ」の主軸を見よ、

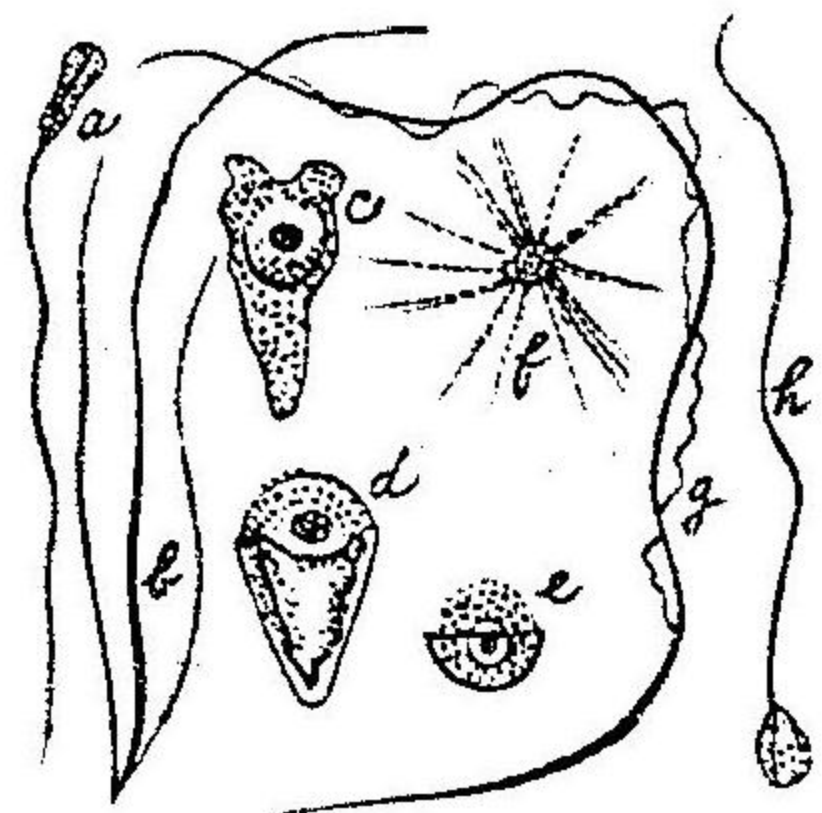
ゼーチユー(成虫)動英 Imago 昆蟲類の最後の時代をいふ、「カホコ」につきて云へば、繭を破り出でたる後なり、

ゼーチユー(精蟲)植 精子に同じ、

ゼーチユー(精蟲)動英 Spermatozoon 雄の生殖物

ゼーチ

とより成る、

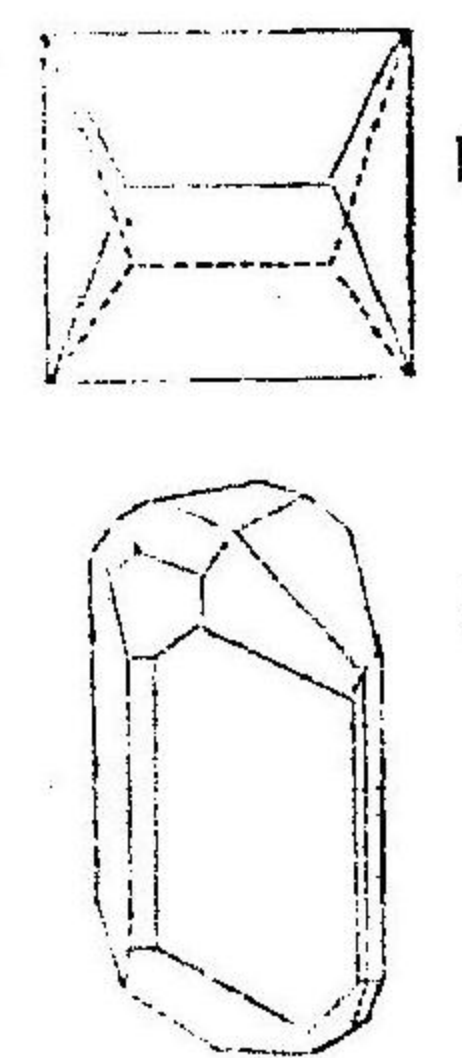


左圖は、a、人類、b、渦蟲類、c、圓蟲類、d、甲殼類、e、いもり類のもの、h、精蟲普通の形を示す、

ゼーチユー(成長)動英 (Proth. 凡そ生物は其の同化作用により、己の實質を増量せしめ、一定の度に達するまで成長するものなり、

ゼーチユーケー(成長計)植英 Auxanometer. 植物の成長の速度を計る器械にして、其の原理は頗る長さ標杆を用ゐて、成長の速度を甚しく膨大して之を計るにあり、

ゼーチユーセキ(正長石)鑲英 Orthoclase. (一)單斜晶系に屬し、其の結晶形頗る多し、其の單一なるものは甲圖の如く、其の複雑なるものは乙圖の如し、又此の者は往々面白き雙晶をなす、其の形状丙丁戊圖に於て見る



ゼーチユーテン(成長點)植英 (Growing point. 根及莖幹は其の先端に生長點を有す、即ち盛に細胞増殖して伸延成長をなす部分なり、莖にありては、之を保護するに嫩葉を以てし、根にては之を保護するに根冠を以てす、

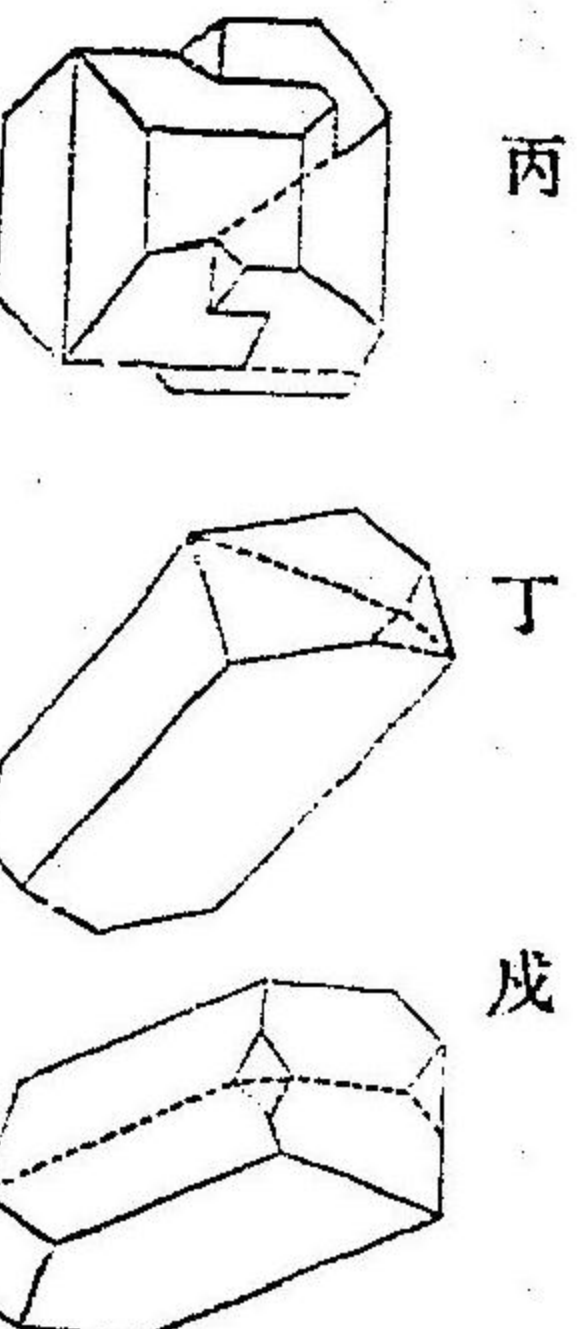
ゼー(節)動英 Proth. 「サナダムシ」の各節片をいふ、環節と稱する人もあれども「サダナムシ」は、各節片皆獨立して生活、生殖をなし得るものなれば、環蟲類、節足動物等の體の一部をなす環節とは異なるものなり、故に節或は節片といふ、

ゼーセン(絶縁線)物英 Insulated wire. 導線の周りに、不導體なる絹、木綿等を捲きて、其の中を通ずる電流の漏洩を防げるものを絶縁線といふ、

ゼーエンタイ(絶縁體)物英 Insulator. 絶縁體とは、電流の擴布を許さざる所の物體にして、凡ての不導體は、みな絶縁體なりといふことを得べし、

ゼーカイ(石灰)化英 Lime. 酸化「カルシウム」に同じ、

ゼーカイスイ(石灰水)化英 Lime water. 石灰を水に溶かしたるものにして透明無色なり、然れども之に炭酸或は炭酸瓦斯を通ずれば、炭酸「カルシウム」を生じ、始は乳濁となるが、終には炭酸「カルシウム」は、酸性炭酸「カルシウム」となりて溶解し、液は再び無色透明となる、其の液を沸



が如し、(一)白、黝、肉紅色等(二)玻璃又は眞珠光澤(四)硬度は六・一六・五

(五)比重は二・四二・六(六)成分は Kalsite O₃なり(七)劈開面は二ありて互に直角をなす、故に正長石又は直長石の名あり、

(產地)我國近江美濃等に産す、(種類)此に左の種類あり、

(イ)氷長石、Achnolia. 無色又は白色透明なる正長石なり、硬度計に用ゐるは此の種なり、

(ロ)月石又月長石、Moon-stone. 青色を呈す

(ハ)玻璃長石、Smilime. 白色又は黝色にして、最も玻璃光澤の強き長石なり、片状をなし、本邦火成岩中に生ず、

(ニ)天河石、Amazon-stone. 美綠色の正長石にして、飾玉に用ゐる、信州濃州の國界に産す、

ゼーチユーセン(成長線)動 貝殻を有する動物の貝殻(二枚貝、螺)の表皮に於て、其の縁に並行して存する所の線をいふ、此の各線は嘗て一度は殻線たりしことあるものなり、

ゼーチ

ゼーチ

煮すれば、再び炭酸カルシウムを生じて乳濁となる、

セツカイトー (石灰燈) 化 「ドラモンド」燈に同じ、

セツカイドー (石灰洞) 地 鑛英 Limestone Cave.

炭酸瓦斯を含有する地下水が、石灰岩層の中に滲入するに
き、次第に之を溶解して他に持ち去り、其の極途に地中に造
らるゝ所の空洞を云ふ、備中高山に此の例あり、

セツカイニユー (石灰乳) 化英 Milk of Lime. 石灰を
少量の水に混じて溶かしたる乳状物なり、

セツカン (節間) 物英 Inter node. 植物の莖幹に於て、
節と節との間のを云ふ、

セツキ (節氣) 地 二十四節氣に同じ、

セツケツキユー (赤血球) 生英 Red corpuscle. 「ケツ
モキ」の條を見よ、

セツケンキユーノイロ (石鹼球の色) 物英 Color of
soda ball. 薄膜の色を見よ、

セツゴホー (接合法) 植英 Conjugation. 同一體の
異部又は同種類に屬する二體より生じたる、二個の同形原
形質塊が癒合して一塊をなし、遂に一の新體となる所の繁
殖法を云ふ、

セツゴツ (舌骨) 生英 Hyoid bone. 舌根の附着する骨
にしてU字形をなし、左右に一對の突起あり、

セツゴセイシヨウ (接合生殖) 動英 Conjugation.

下等の動物に見る生殖法にして、例へば「ゾーリムシ」の如
きは或時代に達すれば、二個體相接觸し、暫くして再び別離
す、此の法は直接には繁殖の用をなさざれども、此がため
大に勢力を恢復し、更に盛に分裂することを得べからしむ、

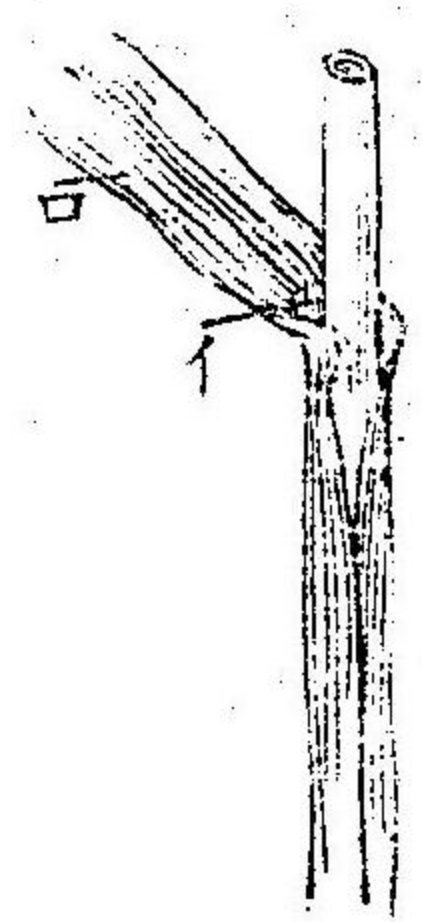
セツゴセントー (接合半島) 地 昔、島なりしもの、土地
の隆起に由り陸續となりしものを接合半島と云ふ、黒海
中に突出する「クリミヤ」の如きは其の一例なり、而して其
の接合半島なる證據は、大陸に結び附くに、極めて新しく生
じたる低地を以てするにあり、

セツゴルイ (切甲類) 動英 Entomostraca. 體制單一
にして、皆小形なり、環節及び肢の數一定せざる一類にし
て、甲殼類に屬する一目なり、

セツサイセン (雪際線) 地英 Snow line. 積雪せる部分
と、雪なき部分との境界線をいふ、又雪線とも稱す、雪線の
高さは其の土地の緯度の高低、地勢、及び季節によりて變ず
るものなり、

セツシヨクデキ (接觸電氣) 物英 Contact electricity.
接觸電氣とは、異種の金屬、例へば鋅鉛と「マンチモン」とを
接觸する時、其の接合部に顯はるる所の電氣をいふ、

セツシヨヘン (舌狀片) 植英 Lingule. 葉身の脚部、過生



して爲れるものにして、本
本科植物に其の例を見る、
上圖は「ヌ、キ」の葉にして
(ロ)は葉片、(イ)は舌狀片
なり、

セツセン (節線) 物英 Nodal line. 「クラドニ」の圖を
見よ、

セツソドーフツ (節足動物) 動 Arthropoda. 節足動物
は、體面に一種の硬皮(殻)を被り、且つ毛、刺等を生じ、其の
成長するに際しては、膜嚢皮を脱し新皮を生ずる者なり、其
の有紋纖維より成れる筋肉は、悉く硬皮内面に附着し、而し
て内部骨格は存在せざるなり、食管系は常に能く發達し、泌
尿作用は、腸内面にて營み、或は之が爲め腸に開通せる特
別の管狀器官あり、「マルヒギー」氏管是れなり、神經系は、
主として食道直前に位せる腦、食道を圍繞せる神經環、及
び腹部正中を縦走せる神經球連鎖より成る、感覺器には、頭
端に一對乃至二對の觸角と云へるものありて、觸管及び嗅
官を主り、口器に附屬する觸鬚と名くるものも亦觸管機能
あり、眼は單複の二種あり、複眼は一般にして數多の六角鏡
の聚合なりとす、其の鏡毎に特に水晶體及び神經を有し、各
一眼の資格を具ふ、單眼は複眼の唯一鏡に匹敵する者にし

て、甚だ小なるを常とす、兩種の眼を共に具ふる者あり、或
は唯其の一種を具ふる者あり、時としては觸角若くは脚に
聽官器の存するを認む、血管系には心臟ありて、常に食管よ
りも背部に位せり、其の往々血球を含める無色の血液は、體
腔中若くは血管中を循環す、呼吸は體面により營まれ、或は
特別なる呼吸器を有するものあり、其の水に用ゐる所の鰓、
及び大氣に用ふる所の肺囊、若くは氣管即ち是れなり、鰓は
總狀或は羽狀にして脚に附着す、肺囊及び氣管は體内にあ
りて氣孔と稱する門を以て外開す、蓋し肺囊とは囊狀にし
て、其の裡面壁を爲すものを云ひ、氣管とは數々分岐せる
細管にして、硬き螺旋絲を以て其の膜壁を支持するものを
云ふ、概ね雌雄異體にして、有性的に生殖し、稀に單爲生殖
を爲す者あり、此の門中左の四綱を區別す、

節足動物

- 昆蟲類 例、セミ、アリ
- 多足類 例、ムカデ、ゲジゲジ、
- 蜘蛛類 例、クモ、サソリ
- 甲殼類 例、カニ、エビ
- セツクルイ (楔足類) 動 「ペンサイルイ」に同じ、
- セツタイオンド (絶對溫度) 物英 Absolute tempera-
ture. 絶對溫度とは、攝氏寒暖計の零下二百七十三度を

〇度として起算したる目盛りの読み方をいふ、即ち攝氏の零度は絶対温度の二百七十三度にして、攝氏百度は其の三百七十三度(273+100=373)なり、

ゼータイレド (絶対零度) 物英 Absolute zero.

絶対温度の零度を云ふ、「シヤール」の定律の示す所によれば、諸種の氣體は攝氏零度より始め一度冷却する毎に、其の容積の二百七十三分の一だけ縮小するものなり、故に今攝氏零度に於て二百七十三の容積を有する氣體を冷却して、零下二百七十三度に至れりとせば、其の容積は零となり、物體分子の運動は全く減却して静止の有様に達すべく、温度の起點は茲に始まるものと考ふるも可なるが如し、斯の如き温度を絶対零度と名づく、

ゼツン (節分) 地 雑節の一にして二月四日頃なり、寒明けに當り季節の分かるるきとす、俗に冬の陰氣を鬼とし、此の日、豆を散じて此の鬼を拂ふなり、

ゼツン (節片) 動 「セツ」に同じ、

ゼツリ (節理) 鑛英 Joint. 塊状火山より噴出せる熔岩が、其の冷却するに當りて、無流動體なる地殻の表面の如何に關し、此が影響により特異の構造を呈す、之を節理と云ふ、此に二様の別あり、板狀節理、及柱狀節理是なり、

(A) 板狀節理 (Joint) 部分によりて、冷却の度を異にするによりて生ず、

るによりて生ず、
(B) 柱狀節理 (Columnar joint) 急傾斜の地盤にして、粘質大なる熔岩流出するときは、稍急峻なる圓錐形をなし、柱狀の構造を呈す、

ゼード (青銅) 化英 Bronze. 銅、亞鉛と錫との合金にして、各の分量は一定せず、銅六十五分乃至八十四分、錫三分乃至四分、亞鉛十一分乃至三十二分を混合したるものなり、

ゼガメ 動 「イシガメ」の子をいふ、

ゼゴケ (地錢) 植 Conocephalus (Conica Corda).

苔類にして綠色扁平なり、莖葉の區別なく、陰濕の地に數き生ず、梗を抽て其の頭に數裂せる笠の如き物を造る、是れ即ち子囊の存在する所とす、季節は夏秋なり、其の發生の始め恰も錢の如く増大するによりて此の名ありと云ふ、

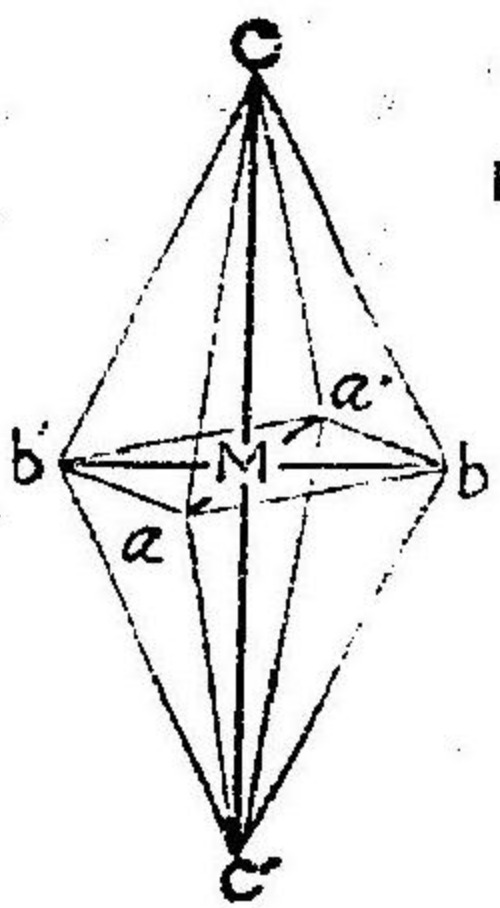
ゼハンノー (正反應) 化英 Direct reaction. 可逆反應の條を見よ、

ゼフツエーリョク (生物の營力) 地 生物は地殻の變動に與りて大に力あるものなり、植物は其の根株を岩石の間に下して次第に之を裂開し、其の腐朽せるものは有機酸を生じて岩石の分解を促し、又其の沼澤或は地中に埋没するや、多量の炭素を遺して泥炭石炭等を生じ、以て地殻の一部を

造ることあり、動物に在りても、穿孔介は水濱の岩石を穿ちて其の崩壊を促し、或は蚯蚓が土塊を輸して地表に廣大なる土堆を造るが如きことあり、されど其の偉大の作用をなすものは、却て下等の動植物中に著しきものあるを見る、珊瑚蟲、硅藻の珊瑚礁、硅藻土を作るが如き其の一例なり、

ゼーエーシヨシシ (西部標準時) 地 東經百二十度の子午線の時を我國西部の標準時とす、即ち臺灣、及び宮古並に八重山列島の標準時にして、中央標準時より後ること一時間なり、

甲

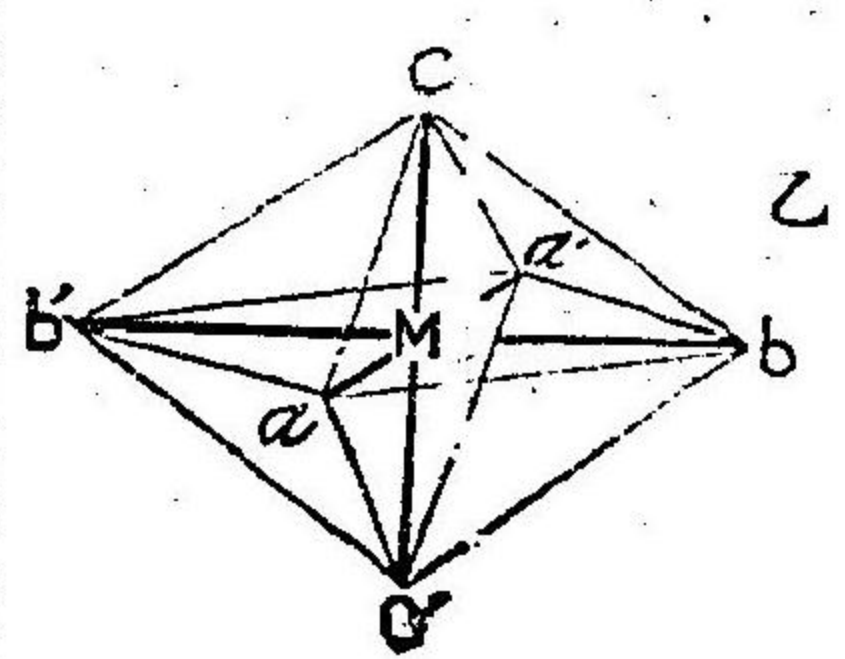


ゼーフリーユ (西風流) 地 黒潮の本流が北東の方向を取り、南海東海の兩道を撫でて、下總國大吠岬の東に至り東折し、西風に押されて北亞米利加の西岸に向ふ海流をいふ、

ゼラ 動英 Zebra. 「アマウマ」に同じ、

ゼーホーシヨケー (正方晶系) 鑛英 Tetragonal system.

三軸互に直角をなせども、側軸(二)は等長にして、及皮は食用



ゼーン

ゼン

三六九

主軸(一)より長きか又は短し、上の兩圖に於て、 ac は主軸にして、 ab の二側軸と直角をなし、而して、二側軸は亦互に直角に交りて等長なり、甲圖に於ては、主軸が側軸より長き場合を示し、乙圖に於ては主軸の側軸より短き場合を示すものなり、

ゼン (蟬) 動 Cicada. 夏日樹木の間において、午睡の夢を破る有吻類にして、種類甚だ多く、皆不完全の變態をなし、口器は吻状をなし、葉、根の液汁を吸収し、農家に大害をなす、鳴聲を發するは雄のみにして、蓋し雌をして自己の位置を知らしめんがためなり、發聲器は胸と腹との境界にある「キチン」質の皺ある小膜にして、背側の蓋状をなせるものを去れば容易に知ることを得、胸部と腹部とを引離せば、V字形の束状筋肉あり、此の筋肉は即ち前記の發音板に連るものにして、此の筋の收縮により發音板は振動し、發音するものなり、

ゼンシラ (脊美鯨) 動英 Balæna. 體長十間餘に達する鯨にして、頭極めて大に、體長の三分の一を占め、背鰭なく、下唇廣大にして上唇を覆ふ、鬚は上顎にのみありて、長さ三尺餘あり、先端細裂して、其の數三百六十枚あり、體色純黒にして腹部は白し、太平洋に産し、紀伊、土佐、長門、肥前等の沿海に來游す、性悍猛にして、二三頭群をなす、肉

ゼン

に供せられ味頗る佳なり、脂肪層は厚く一尺を越え、油は一頭にて二百石を得らる、其の質純良なり、鬚は細工に用ゐらる。

ゼン(翹)動英 Down. 翼或は尾をなさざる鳥の毛をいふ、體二面に生ぜるもの即ち是なり、

ゼン(腺)生英 Gland. 生物體中、一種の液を分泌する部分をいふ、例へば唾液を分泌する所を唾腺と云ふが如し、

ゼイン(纖維素)化英 Cellulose (C₆H₁₀O₅). 植物の主成分にして、細胞膜は皆此の物を以て成れり、紙木綿の如きものは殆ど純粹なる木纖維なり、多くの溶剤には不溶なれども、銅の「アンモニヤ」液には變化なく溶解す、又鹽化亞鉛を鹽酸に溶かしたる溶液にも溶く、其の水溶液に酸類、種々の「アルカリ」鹽及び砂糖を加ふる時は、纖維素は膠状塊となりて沈澱す、之を「アルコール」にて洗滌すれば白色無定形の粉末となる、或時間中強硫酸を作用せしむるときは、「デキストリン」を生ず、之を稀薄にして沸煮するときは、直に葡萄糖に變ず、

ゼンイセキコー(纖維石膏)鑛英 Fibrous-Quartz.

「セキコー」の條につきて其の種類を見よ、

ゼンオンカイ(全音階)物英 Whole scale. 音樂上或る振動數を有する音を原音と定め、其れと其の原音の二倍

ゼンケ

三七〇

の振動數を有する音との間に六音を取り、其の振動數を次の如き關係になしたるものを全音階と稱す、

1 9 5 4 3 2 1 5 2
(一) 7 (二) 4 (三) 3 (四) 2 (五) 1 (六) 5 (七) 2

されば原音(一)の振動數を二百五十六とすれば、(二)は二百八十八(256 x 1.5)の振動數を有すべきなり、

ゼンケトドーツ(蠕形動物)動 Vernes. 蠕形動物は、其の體質柔軟、形狀延長し、左右同形にして、單一或は前後に連る數環節より成り、三胚葉の構成する所なり、常に明瞭なる神経系ありて、體中腹部に其の位置を占む、概し腸腔と分離したる體腔あり、特別なる泌尿器あり、又往々血管系ありて、體腔一般に腔腸動物の上に出づる者とす、稀に其の體面に介殼を生ずる者あり、有節の脚は必ず闕如す、此の門中更に三綱を置く、

環蟲類 例、蚯蚓、
蠕形動物 圓蟲類 例、蛔蟲、
扁蟲類 例、絛蟲、

ゼントシヨキ(穿孔腫起)動「シマン」に同じ、

ゼンヨキ(旋光性)化英 Activity. 分極光線の面を回轉する性質を云ふ、

ゼントタイ(穿孔體)動「シマン」に同じ、

ゼンツ(薦骨)生英 Sacrum. 脊椎の下端にして、無名骨の間に挟まれ、無名骨と共に骨盤を形成する骨をいふ、

ゼンリョク(旋光力)化英 Rotary power. 分極光線の面を回轉する力を云ふ、

ゼンザンコー(穿山甲 又 鱗鱗)動 Manis 英 Pangolin.

一尺五寸に達する貧齒類にして、臺灣に多く産し、腹面以外には瓦を重ねたる如き鱗あり、此の鱗は毛の變形物にして、魚類の鱗とは發生上大に異なるものなり、四肢には大なる爪を生じ、敵に逢へば體を球形にし害を免る、地を掘りて蟻を食す、鱗は古、穿山甲といひ藥用に供したり、

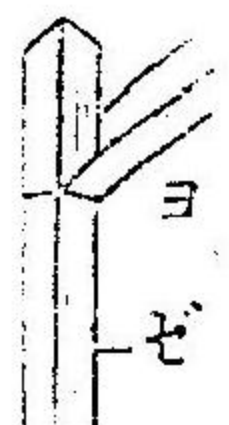
ゼンシ(前肢)動英 Fore limb. 四肢を有する動物の前一對の肢をいふ、

ゼンシヨ(全鞘)植英 Intercal vagina. 莎草科の葉柄の如く、裂け目なき鞘を云ふ、下圖

「ヨ」は葉身、「ゼ」は全鞘を示す、

ゼンシヨシツ(潜晶質)鑛英 (Micro-crystalline. 鑛物の結晶微小にして、顯微鏡下に於て、始めて其の晶體たることを認識し得べき形質を云ふ、

ゼンシヨースペクトル(線狀スペクトル)物英 Line spectrum. 輝線「スペクトル」を見よ、



ゼンシヨシキ(腺狀組織)鑛英 Druzy structure. 鑛脈中處々に孔隙あり、此の孔隙の周壁に他鑛物の結晶を存するものを云ふ、

ゼンシヨシキ(染狀組織)鑛英 Dye-mineral structure. 鑛物の細粒、若くは小結晶が、粒狀、又は緻密狀を呈せざるものの中に、點々存在するものを云ふ、例へば石英中に金鑛の存するが如し、

ゼンタクワダ(洗濯曹達)化 炭酸ナトリウムに同じ、

ゼンタイモン(蘚苔門)植 Bryophyta. 蕨葉の區別は羊齒類の如く判然せず、維管束あれども其た不完全にして、大概柔組織を以て成る、例、「スギゴケ」「ミツゴケ」「セネゴケ」「ウラボゴケ」等之に屬す、

ゼンテ(前庭)生英 Vestibule. 内耳中、三半規管と蝸牛殻との中間にある室をいふ、中耳と卵圓窓を以て相接す、

ゼンテツ(銑鐵)化英 Pig iron. 鑄鐵に同じ、

ゼンド(蠕動)生英 Peristaltic movement. 腸内を食物が通過するとき、腸壁を造れる筋肉の環狀纖維が伸縮するによりて、腸管の廣狹を來たし、又同筋肉の縱走纖維が伸縮するによりて、腸管の長さに長短の差を起し、この兩運動同時に起りて、食物を先方に送ること、恰も蠕形動物

ゼンロ

ゼンシ

三七一

(例へば「ミミズ」の進むとき體を「モクモク」するが如し、此の運動を稱して蠕動と云ふ、)

ゼントーコ (前頭骨) 生英 Frontal bone. 額をなす大なる骨をいふ、

ゼンネツ (潜熱) 物英 Latent heat. 熱の作用を受け、固體が變じて液體となり、液體が化して氣體となる時、其の熔融及び沸騰の始まりてよりは、如何に多く熱を供給するも、たゞ其の熔融及び沸騰を盛ならしむるに止まり、其の溫度は決して上昇することなし、是れ熱はこれら物體の分子の凝集力に打ち勝ち、其の相互の間の位置を變ずる仕事をなせるものにして、溫度の變更には與らざりしなり、此の如く寒暖計に感ずることなき熱を稱して潜熱といふ、

ゼンハンシヤ (全反射) 物英 Total reflection. 光線が密なる光媒より疎なる光媒に向かひて進入するに當りて屈折するには、其の入射角に一定の制限ありて、此の制限よりも大なる角を以て來る光線は屈折することなくして、普通の反射の法則に従ひて全部反射するものなり、この現象を全反射といふ、

ゼンイー (旋風) 地英 Cyclone. 低壓が急に或處に生じて、其の四近の高壓部より其の低壓部に向かひて氣流集中する時は、此の風は「バイスバロット」及び「フェルレル」の

法則により、螺旋狀に進みて所謂旋風をなすべく、其の猛烈なるものを稱して颶風と云ふ、風向は北半球にては時計の回轉と反對にして、南半球にては之と同じ、又之に反して、高壓部時として急に生ずるときは、前者と反對なる方向をなして四方に溢流することあり、之を稱して逆旋風と云ふ、

ゼンクガ (潜伏芽) 植英 Latent bud. 數年間發育せずして生存する芽を云ふ、例へば「カシ」又は「バナ」の如き芽は、往々樹皮下にありて、數年間生存し、老生したる莖部より、直に嫩條を發生す、

ゼンボーチョー (線膨脹) 物英 Linear expansion. 物體が溫度の變化によりて、其の長さの増大することを線膨脹と稱す、
ゼンボーチョーリツ (線膨脹率) 物英 (Coefficient of linear expansion. 線膨脹率又は長さの膨脹率とは、溫度一度昇る毎に増す長さの原の長さに対する比をいふ、今なる長さの物體を一度だけ温めたる時、なる長さとなりたりとすれば、この物體は平均一度につき「 α 」だけ其の長さを増したるなり、故に之を原の長さ「 l 」に除したる「 $\alpha \cdot l$ 」は、この物體の線膨脹率なり、
諸物質の線膨脹率は次の如し、
白金 〇、〇〇〇〇八九 黄金 〇、〇〇〇〇一四七

銀 〇、〇〇〇〇一九四 銅 〇、〇〇〇〇一六七

真鍮 〇、〇〇〇〇一八七 鉛 〇、〇〇〇〇二八〇

亞鉛 〇、〇〇〇〇二九八 錫 〇、〇〇〇〇二三〇

アルミ 〇、〇〇〇〇二三〇 鐵 〇、〇〇〇〇一三三

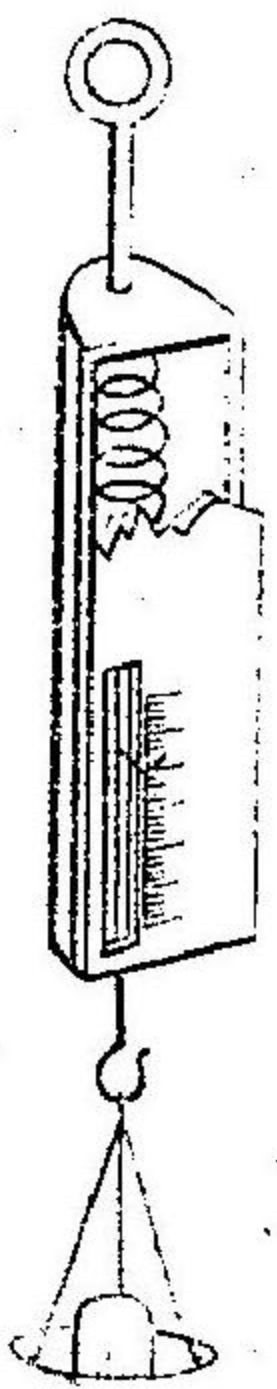
ニウム 〇、〇〇〇〇二二〇 金剛石 〇、〇〇〇〇一三三

玻璃 〇、〇〇〇〇八六〇 松材 〇、〇〇〇〇〇六一

氷 〇、〇〇〇〇六四〇

ゼンマイ (薇) 植 Osmunda regalis L. var. japonica Mild. 羊齒類の草本にして、其の嫩葉を被包する綿狀の毛を織物料に供し、又嫩葉柄を食用となす、

ゼンマイバカリ (ゼンマイ秤) 物英 Spring balance. 「ゼンマイ」秤は彈性ある鋼鐵の針金を螺旋狀に曲げて、圖の如く之を圓筒内に納めたるものにして、其の下端の鉤に物體を懸け、其の「セイマー」の伸縮を指針によりて示し、其



の伸縮の度によりて物體の重量を量るに用ゐらる、この秤の示す目方は、他の精確なる秤に合はせて記せるものなれども、長く使用せるものは、其の「ゼンマイ」延長して、物體を下げざる時に於ても、指針は零を示さざることあるが故に、之を使用するに際しては、指針が零を示せりや否やを検

せざるべからず、

ゼモ (織毛) 動英 Olla. 動物に生ずる、細小にして多數なる毛をいふ、

ゼモシツ (織毛室) 動英 (Clined chamber. 「カイメン」の所々に散在する小室にして、必ず水の出入する二孔を有し、内面に多くの海綿動物の個體を生ず、

ゼリョー (染料) 化英 Dyestuff. 染色に用ゐる顏料をいふ、

ゼルイ (蕨類) 植 Muscinæ. 小植物にして群生し、葉は判然たり、覆瓦狀に排列す、有柄或は無柄の子葉體を生ず、例、「スギゴケ」「ミツゴケ」等、

ゼマー (清明) 地 二十四節氣の一をいふ、陰曆三月節、陽曆四月五日に當る、

ゼメンシナ 植 「ムシクダシヨモギ」を見よ、

ゼメント化英 Cement. 粘土及び石灰石の混合物を焼き粉砕したるものなり、通常我國にて「セメント」と稱するものは、歐洲にて呼ぶ所の「ポーランド、セメント」にして、築港、架橋、鐵道等の土木工事、及び建築事業に用ゐる一種の漆喰を云ふなり、

ゼーキ (生油氣) 化英 (Olefant gas. 「エチレン」に同じ、

ゼラチン(膠質或骨膠) 英 Gelatine. 動物の結締組織に水を混じ、長時間煮沸すれば透明の液を生じ、之を冷やせば弾力性の軟塊を生ず、之を膠と名く、純粹のものは無色の塊にして、無味無臭なり、冷水中に漬けて置くときは膨脹し、煮沸すれば透明の液となる、之を冷却すれば凝固す、強醋酸を加ふるか或は少量の硝酸にて煮沸すれば、其の水溶液は膠状となる性を失ふ、「タンニン」酸を其の水溶液に加ふるときは「タンニン」酸膠の黄色沈澱を生ず、

ゼーラン(青藍) 化 「ランショー」藍澱に同じ、

ゼリ(水芹) 植 Yenanthe stolonifera DC. Simm

Sium 繖形科草本にして、數多の小葉より成る複葉を有す、白色の花を開き、其の形小にして、複繖形花序に排列す、其の葉を食用とし一種の香氣あり、

ゼーリガク(生理學) 生英 Physiology. 體軀の諸器官に於ける理化學的諸作用の規則及其の變化、即ち生活の現象を研究する學なり、

ゼーリンサンカルシウム(正磷酸カルシウム) 化 英 Calcium phosphate (Ca₃(PO₄)₂) 鹽化「カルシウム」

の水溶液に「アンモニヤ」を加へ、之に磷酸「ナトリウム」を加ふれば、白色膠状の正磷酸「カルシウム」を沈澱す、此の物は、天然には燐塊石及び燐灰石となりて多量に存在す、又

骨の主成分にして、骨灰百分中には八十五分の正磷酸「カルシウム」あり、其の他鳥糞中にもあり、水に溶解せざるを以て、動物の骨を肥料として用ゐるには、之に硫酸を加へて熱し、先づ之を可溶性磷酸「カルシウム」となすことを要す、

セルロース 化 英 Cellulose. 纖維素に同じ、

セルロイド 化 英 Celluloid. 「セルロイド」は火綿と樟腦との混合物なり、少しく温度を高むる時は弾性を増して任意の形になすことを得、冷却すれば再び堅硬となる、此の物は人造象牙、或は人造「ゴム」と稱し、種々の裝飾品を製するに用ゐらる、

ソ

ソ(相) 化 英 Phase. 物體が固體なるか、液體なるか或は氣體なるか、或は此等の混合物なるかの有様をいふ、

ソ(像) 物 英 Image. 一點Pより出づる總ての光線が、反射鏡又は「レンズ」によりて方向の變化を受けたる後、悉く他の一點Qを通過する時は、Qを稱してPの像といふ、而して光線が實際集まれる時は之を實像と稱し、光線の後方に延長して初めて像を作る時は、之を虚像と稱す、

ゾ(象) 動 英 Elephant. 「インドゾ」及「アフリカゾ」の二種あり、「チョービレ」の條参照、

ゾイ(層位) 鑛 英 Position of strata. 水成岩は生成の當時に於ては、水平の位置をなすを當然とす、然るに、生成後の變動によりて、多少傾斜し、甚しきは直立の位置を占むるに至る、其の原因に二あり、

(A) 地球は、漸次熱を失ひ冷却するにより、地皮は收縮して、地層に褶曲を生じて傾斜す、其の褶曲の度甚しく地殼の弾力性以上に及ぶときは罅裂を生じ、一方は迂りて斷層をなす、

(B) 地皮の横壓力の爲に褶曲を生じ、地層は波状をなす、此の作用烈しきときは、地層屢々顛倒することあり、

ゾウン(層雲) 地 英 Stratus. 地平線に平行して層状をなす雲なり、夏夜間に當り下層の大氣冷却するにより、地面近く現れ、日出と共に消滅するものにして、冬にありては、終日天を蔽ふことあり、

ゾーミン(蒼鉛) 化 英 Bismuth Bi. 原子量二百八・五蒼鉛は、稍稀なる金屬にして、往々遊離して存在し、又硫蒼鉛 Zn₃Bi₂となりて存在す、赤色の光澤を有する美麗なる結晶體なり、二百七十度にて熔融し、高き温度にては氣體となる、種々の合金を製す、其の合金中には極めて低き熔點を有

するものあり、例へば「ローセ」氏の合金は、凡鉛一分、錫一分及び蒼鉛二分より成れるものにして、熔點九十度、「ウー」ド氏の合金は、凡蒼鉛七分鉛二分、錫二分及び「カドミウム」一分より成れるものにして、熔點六十六度なり、是等の合金は、凝固するに當りて膨脹するが故に、石膏にて模型を造り、之に熔融せるものを注入すれば、凝固するに當りて膨脹し、模型中の繊細なる刻畫を残す處なく充たして鮮明に模造す、合金の或ものは、汽罐の安全弁をなすことあり、是れ汽罐の熱過度なる時は、合金は自然に熔融し、蒸氣をして逃げ去る途を得しめ、以て汽罐の破裂を防ぎ得る故なり、蒼鉛は硝酸に溶けて硝酸蒼鉛となる、又王水に溶解して鹽化蒼鉛となる、

ゾオン(噪音) 物 英 Noise. 大砲の音又は馬車の音等の如く、其の振動が急激に生滅するか、或は不規則なる振動をなすがため、之を聞きて吾人に不快の念を起さしむるものを稱して噪音といふ、

ゾーカイ(藻海) 地 英 Sulu Sea. 大西洋中、襟流の一周する中央には、水波靜穩の一區域あり、此の處を藻海と稱し、藻類夥しく聚合繁茂せり、

ゾーカクイ(雙殼類) 動 「ペンサイレイ」に同じ、
ゾーガンキョー(雙眼鏡) 物 英 Opera Glass. 雙眼鏡は

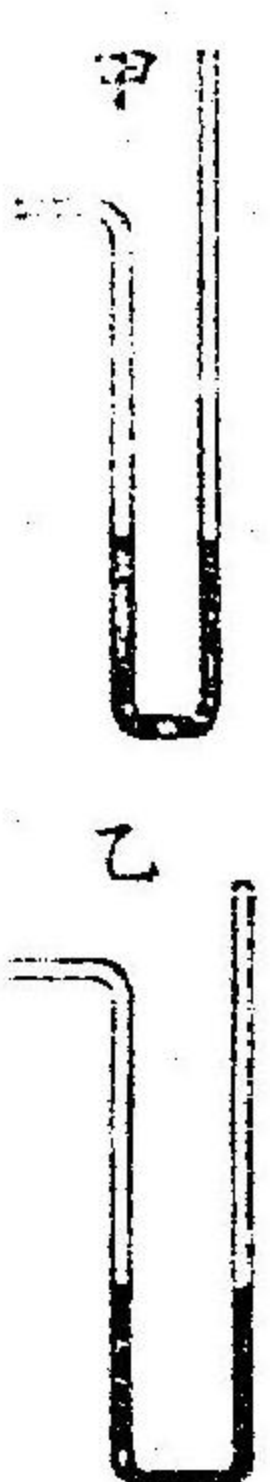
遠方にある景色等を見るに使用せらるゝ望遠鏡にして、對物「レンズ」として凸「レンズ」を用ゐ、接眼「レンズ」には凹「レンズ」を用ゐて、以て尙像の倒立せざる様にす、通常使用するものは、此の種の望遠鏡二個を組み合せ、左右兩眼に當て、見る様になし、雙方の接眼「レンズ」を同時に進退し得るために、中間に捻止めを設く、今捻止め廻はし、接眼「レンズ」を前後せしめて、對物「レンズ」によりて生ずる倒像の前方に置く時は、之によりて光線を擴散するが故に、其の前方に直立したる虚像を認むるなり、

ソーキルイ (走禽類) 動 *Cursors.* 走禽類は、翼は極めて小形にして飛翔の用を爲さず、之に反し、走脚強大にして跳は二乃至四あり、嘴の形狀一定せずと雖も、頸は常に長し、其の飛翔力を開くと共に骨中に氣窩なく、又胸骨に隆起なし、而して鎖骨は或は至て小形、或は全く闕如せり、腰帶の下部は左右相會合し、以て走脚の基礎を堅固ならしむ、駝鳥、「ヒクヒドリ」の類即ち是れなり、

ゾ (屬) 動 英 *Genus.* 分類學上、科の下に置くべき一類をいふ、

ゾアツキ (測壓器) 物 英 *Manometer.* 密閉したる氣體の壓力を測るに用ゐるものにして、壓力小なるものを用ゐるものは、甲圖に示したるが如く、開通したる曲管に水銀

を入れたるものなり、今兩枝に於ける水銀面の差に於て、此の時の晴雨計の高さとなるときは、器中の氣體の壓力は「エロ」なり、又壓力の甚だ大なるものに用ゐるは、乙圖の如く一端を密封したる曲管に水銀を入れ、其の端に空氣を密閉したるものにして、之を用ゐて壓力を知るには、密閉せられたる空氣の容積を測り、「ホイッ」の定律によりて之を算出す、



封したる曲管に水銀を

ゾアツリヨク (側壓力) 物 英 *Horizontal pressure.* 玻璃管の側壁に穿てる孔に硝子板を接し、液體中に沈むるに落下することなれば、筒内に之と同種の液體を注入し、凡そ外部の水面と同高に至る時は、硝子板の落つるを見れば、このものは、其の上層に於ける液體の重量に等しき力を以て、側方より壓し附けられたることを知るべし、この力を液體の側壓力と稱す、

ゾカクキ (測角器) 鏡 英 *Goniometer.* 鏡物の結晶面のなす角度を測定するに用ゐる器にして、此に二種あり、接觸測角器 (*Contact Goniometer*) 反射測角器 (*Reflecting Goniometer*) 是なり、

ゾカザン (側火山) 地 *Lateral cone.* 寄生火山に同じ、

ゾカテン (足下點) 天 英 *Nadir.* 觀測者の目を通過する垂直線が、足下にて交る點を足下點と云ふ、

ゾクシケキ (足神經球) 動 英 *Pedal ganglion.* 二枚貝の類に明瞭なる所の、足にある神經球をいふ、

ゾモン (側線) 動 英 *Lateral line.* 魚類の體側を縱走する線にして、各鱗に存する溝狀物の連續して生ずるものなり、此の所には神經の末端多く來りて分布するにより、或る感覺を司るものなるべしといへども、未だその何なるやを詳にせず、鱗の縱數は常に側線のある鱗或は其の直上の鱗數を數ふるものなり、

ゾタイセキ (側堆石) 地 鏡 英 *Lateral Moraine.* 氷河の運動するに際し、其の兩岸を削り、岩塊石片が氷河の兩側に堆積して列をなすものを云ふ、此に中堆石、終堆石、底堆石等の別あり、

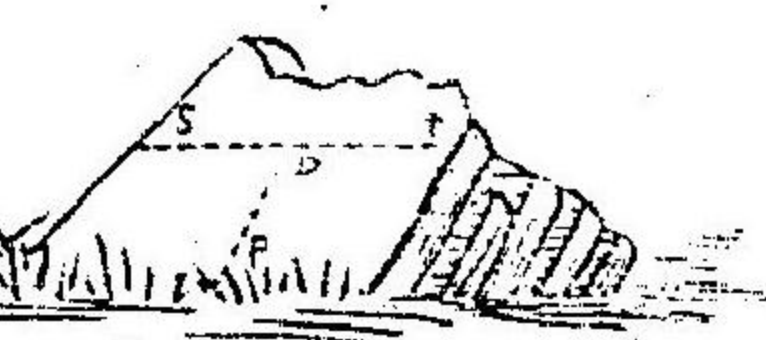
ゾタク (側軸) 鏡 英 *Lateral axis.* 結晶に於て主軸と切り合ふ横軸を云ふ、

ゾト (唧筒) 物 英 *Pump.* 「ポンプ」と同じ、

ゾド (速度) 物 英 *Velocity.* 速度とは、物體の位置の變化の割合をいふものにして、即ち一秒時間に物體の經過すべき距離を以て、其の物體の速度とす、一定の速さを以て直線に運動する物體にありては、或る二點間を運動するに

要したる時間を以て、其の二點間の距離を除したるものなり、其の速度とす、又速さ一定ならずして曲線に沿ひて運動する物體ある時は、其の曲線中のある一點の兩側に極めて接近したる二點を取り、この間を運動するに要したる時間を以て之を除したるものを、其の速度とす、

ゾバツネキ (束縛電氣) 物 英 *Bond charge.* 帶電せる導體が、不導體を隔て、此れと異種の發電體と相對する時は、この導體は電氣の現象を現はすことなし、是れ導體の電氣は、他の電氣のために牽引拘束せられたるものにして、斯くの如く、異種の電氣のために束縛せられたる電氣現象を現はすことなき電氣を、束縛電氣と稱す、



St 走向 DP 傾斜

ゾイゲ (象牙) 動 英 *Ivory.* 象の牙をいふ、他動物の牙と異り、上顎門齒の發達せるものなり、
ゾイゲヤシ (象牙椰子) 植 此に「ミッコカールバ」象牙椰子及「マクカールバ」象牙椰子の二種あり、各項に述べたり、
ゾコー (走向) 鏡 英 *Strike.* 地層の面と水平面と相交りてなす直線の方法を云ふ、
ゾコー (霜降) 地 二十四節氣の一をいふ、陰曆九月中、陽曆十月二十三日に

當る、

ソコカンゾー (相互感應) 物英 Mutual induction. 一の輪道内に流通する電流が、他の輪道内に感應電流を起す所の現象を相互感應と稱す。

ソコタレ (底雪崩) 地 山上、山腹の堆雪、其の底より悉く沁り落つるものをいふ。

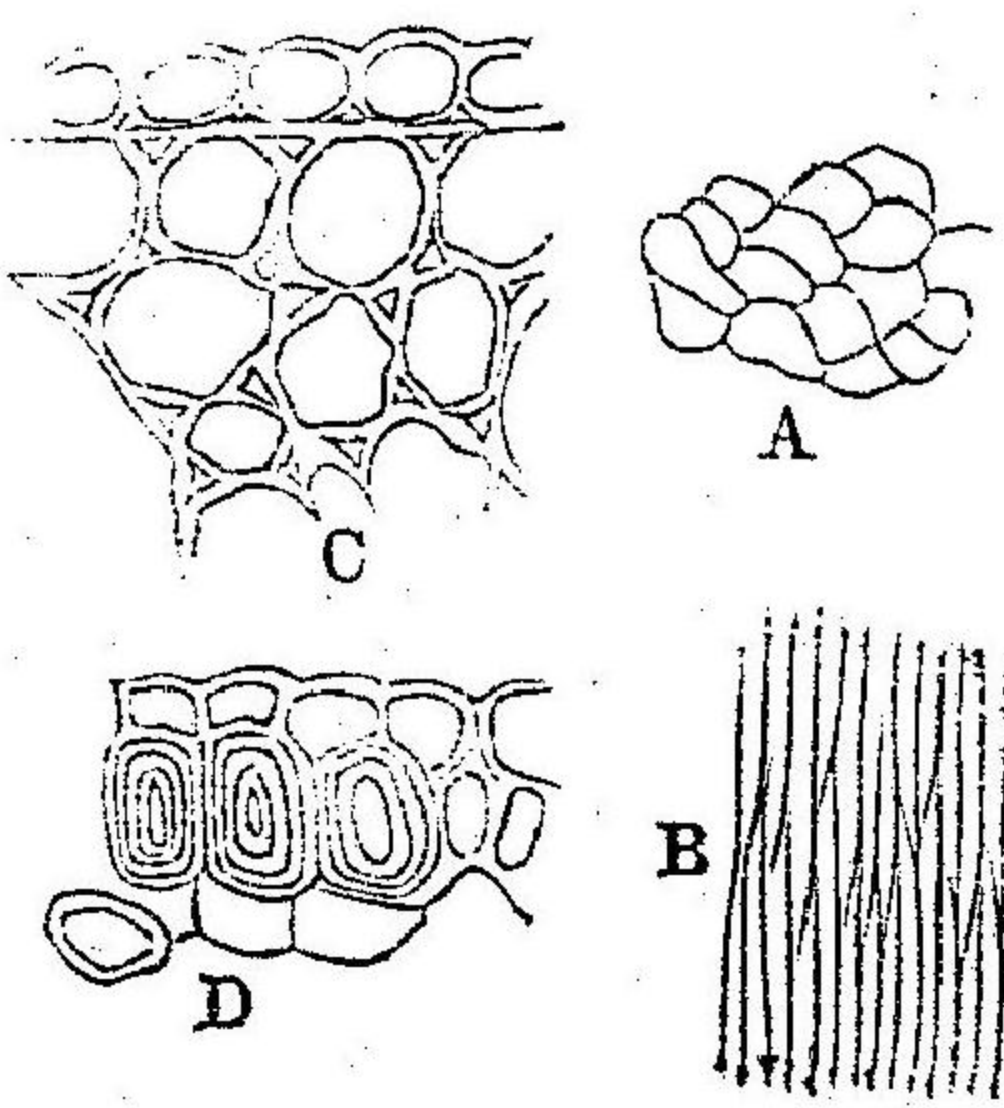
ソコサイルイ (總鰓類) 動 Tophobranchii. 總鰓類は、甲板状の鱗を被り、頭端管状に延長し、其の末端に無齒の口を開き、鰓は總状を爲し、鰓裂は狭小にして往々腹鰭を闊く、此の類の雄は腹部に一種の皮囊を存し、其の中に卵を容れ孵化せしむ、皆海産の小魚にして、「タンノカトシビ」「ヨシツウチ」は其の最も普通なる者なり。

ソコジ (相似) 動英 Analogy. 形態學上全く異りたる器官の只作用上に於て相等しきを示す語にして、鳥の翼、及昆蟲の翅は、均しく空中飛行の器官たりといへども、形態上より見るときは全く別物にして、只相似の器官といふべきのみ、相似は分類學上殆んど價值なきものなれども、人為分類に於ては、かかる類似に重きを重くものなり。

ソシカザン (雙子火山) 地 「フタゴカザン」に同じ。
ソシキ (組織) 生英 Tissue. 構造、作用の相似る細胞の一團を組織といふ。

ソシキ (組織) 植

英 Tissue. 細胞數多相集り、互に細胞膜にて結合せるものを云ふ。此に、左の種類あり、



(A) 扁平組織又柔組織 (Parenchyma tissue.)
(B) 紡錘組織 (又硬組織) (Proenchyma tissue.)
(C) 厚角組織 (Collenchyma tissue.)
(D) 厚膜組織 (Sclerenchyma tissue.)

ソシキカク (組織學) 動英 Histology. 動物の成體について、其の構造、組織を論ずる學をいふ。

ソシキク (咀嚼) 生英 (Jawing). 口腔内に於て、食物を噛み砕くことをいふ。

ソシキキ (咀嚼器) 生 咀嚼をなさんがために用ゐらるる器にして、齒、舌、頬、唇、顎面をいふ。

ソシキキン (咀嚼筋) 生英 Muscle masseter. 齧骨より下顎骨の下縁に渉る筋肉にして、收縮すれば嚙咬の

用をなす、又咬筋とも稱す。

ソシヨ (相稱) 動英 Symmetry. 「メーター」に同じ。
ソシヨケイ (雙子葉莖) 植英 Dicotyledonous stem. 種子に二個の子葉を有する植物の莖を云ふ、例へば薔薇科、十字科、豆科等是なり。

ソシヨシヨツ (雙子葉植物) 植 Dicotyledonae. (一) 發芽の際に二子葉を生ず、(二) 維管束は無限に生長し、莖の横断面に輪状をなして排置せらる、(三) 葉は羽状又は掌状を普通とし、葉脈は網状を呈す。

ソシヨメシ (雙品面) 鑛英 Twin-plane. 二個の同品が結合して雙品をなすとき、相對して對稱をなす所の、元の各品の結晶面を云ふ。

ソシルイ (雙翅類) 動 「ニシルイ」の條を見よ。
ソシダ (曹達) 化英 Sola. 單に「ソウダ」と稱するは炭酸「ナトリウム」のことなり。

苛性曹達、炭酸曹達等の曹達と云ふ語は、「ナトリウム」てふ語に相當す、例へば苛性曹達は苛性「ナトリウム」(或は水酸化「ナトリウム」)にして、炭酸曹達は炭酸「ナトリウム」のことなり、以下類推すべし。

ソシダガラス (曹達硝子) 化英 Soda glass. 硝子の條を見よ。

ソウダセカイ (曹達石灰) 化英 Soda-lime. 苛性曹達と石灰との混合物なり。
ソウダム 化英 Soda. 「ナトリウム」に同じ、本書にては殆ど「ソウダム」と云ふ語に「ナトリウム」てふ語を用ゐたり、是現今の教科書に於て多く用ゐらるるを以てなり。

ソウダツ (蘇鐵又鳳尾松) 植 Cycas revoluta, Thunb. 蘇鐵科植物にして、花は單性にして花被なし、雌花は莖の頂端に生ず、其の形扁平にして、其の縁邊に裸出せる胚珠を有す、雌花を有する葉は雄花を有する葉よりも大なり、而して雌花は之を着生する葉の裏面に小芽胞房を生じ、小芽胞房よりは精蟲を生ず、是先年理學士池野成一郎氏の發見に係る所にして、植物分類學上に至大の影響を與へたり、本邦に産する此の科の植物は、一屬一種にして、種子及其の嫩莖より一種の澱粉を製す。

ソウド (相同) 動英 Homology. 器官の作用如何を論ぜず、形態學上同一なることを示す語なり、例へば人の手、獸の前脚、鳥の翼は、作用上大に異りといへども、其の發生共に構造の要點は三者皆同一なり、之を相同の器官といふ、動物を分類するに當り、相同的の近似は、動物間に存する類縁を確定するに依頼すべき目標なりとす、但し相同を發見することは容易の業にあらずして、常に解剖のみなら

す、又發生を攻究するにあらざれば認定すること能はざる
ことあり、

ソート・タイン・イッシン (相當單一振子) 物英 *Equivalent simple pendulum*. 複振子と同週期を以て振
動する所の單振子を相當單一振子と稱し、複振子の懸りの
點と振りの中心との二點間の距離を以て、其の長さとする、

ソニー (嚙嚙) 動英 *Clap*. 鳥類の消食器にある一囊に
して、食道の中途にあり、食物は一時この囊内に溜りて、少
しづつ胃の方に移行り行くなり、

ソビ (蕎麥又甜蕎) 植 *Fagopyrum esculentum*
Moench. 角ある「ムギ」の義なり、蕎麥科の一年生又は二年
生草本なり、圃園に栽培す、無被花にして、春夏風媒花を開
く、子粒は飯に炊きて食し、又澱粉は「パン」又は麵類に製
す可く、味噌、醬油及「ビール」の原料とし、其の他其の葉ま
で種々の用に供し得べし、

ソバカス (雀斑) 生英 *Freckle*. 表皮の粘液層に色素の
多く集るによりて生ず、

ソバツルイ (搔撥類) 動 「ニハトリルイ」に同シ、

ソビロー (叢水) 地英 *Paek-ice*. 浮氷の叢狀に集合せ
るものをいふ、

ゾーフ (臟腑) 生英 *Viscus*. 體腔内にある一切の器官を

總稱す、

ソーパー (總苞) 植英 *Involucre*. 菊科植物に見る如く
鱗狀の苞、數多相集りて、花を維持するものを云ふ、

ソーパーキン (僧帽筋) 生英 *Trapezins*. 背面の上
にある菱形をなせる大筋にして、收縮すれば頭を仰がしめ、
兩肩を引がしむ、

ソーパーベン (僧帽瓣) 生英 *Mitral valve*. 「シマンバー」
の條を見よ、

ソーパー (疎密波) 物英 *Wave of condensation*
and rarefaction. 太き金屬棒を縦に打つか、又は發音體
の周圍に起る所の空氣の波の如く、各分子の振動する方向
と同方向に振動が傳達して、交互に疎密を生ずる波を、疎密
波又は縱波と稱す、

ソーパーガン (粗面岩) 鑛英 *Trachyte*. 正長石、玻璃長
石、少量の角閃石、黑雲母、等よりなれる新火山岩の一種な
り、本邦に於ては、唯空に露出するを見るのみ、

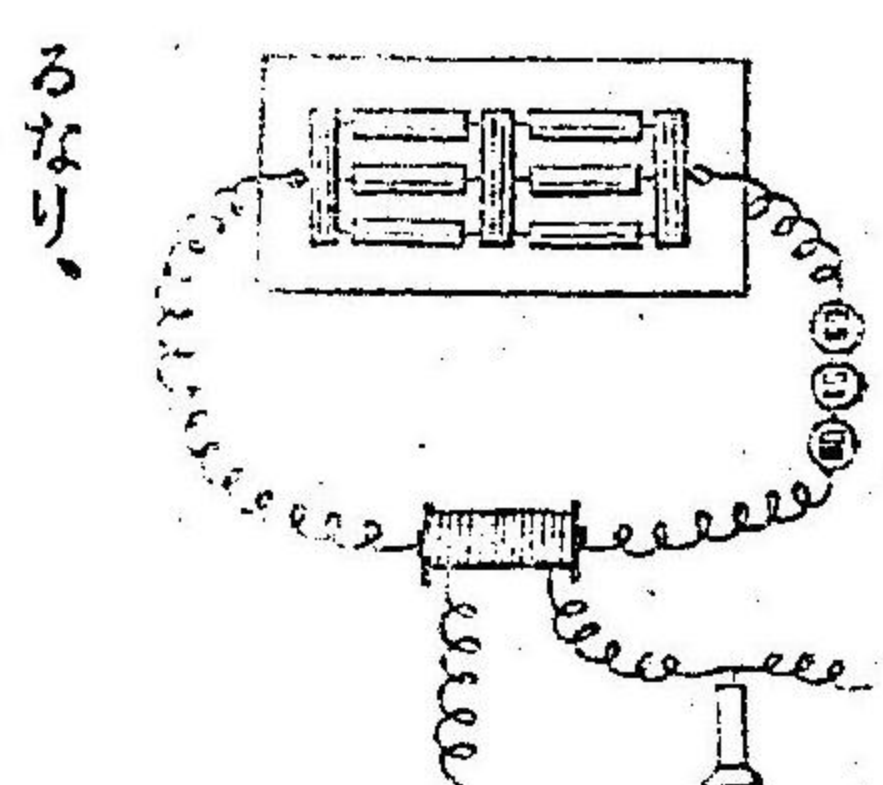
ゾーリムシ (草履蟲) 動 *Paramecium*. 原始動物に屬
する小動物にして、體面に細短なる毛を簇生し、之を振りて
活潑に運動す、體は扁平長楕圓形にして、一側に口を有し、
之に次ぎて短き食道あり、肛門は特別の構造を有せざれど
も一定す、體質中に核あり、體質透明にして、口より入れる

食物は内肉中に消化せられ、收縮胞となりて體内に送られ、
不消化分は肛門より排泄せらる、繁殖するは、細胞分裂によ
り、時々二蟲接合することあり、此の動物は、淡水中の汚物
間を游泳す、顯微鏡を用ゐれば容易に發見することを得、

ソールイ (藻類) 植 *Algae*. 水中(淡水鹹水)に生じ、葉狀、
絲狀、粒狀等種々の形狀をなす、且つ葉緑の他に種々の色素
を有す、例「アラメ」「コンブ」「アサケサノリ」「テングサ」「ト
サカノリ」「ツカメ」等

ソレノイド 物英 *Solenoid*. 「ソレノイド」とは、圓形輪道
の多數を平行に配列し、同一の軸を圍繞せしめて圓筒狀と
なせるものにして、即ち導線を螺旋狀に巻きたるものなり、
「ソレノイド」は磁石と同一の性質を有し、其の北極は、電流
の流動する方向が時計の針の運動の方向と反對なる方にし
て、其の南極は、電流の方向が、時計の針の運動の方向と同
一なる方なり、

ソーマキ (送話器) 物英 *Transmitter*. 送話器は、談話
を他方に送るべき器械にして、發音器の稍進歩したるもの
なり、其の構造は、談話を言ひ込むべき口の下に木板あり
て、之に發音器即ち炭素棒が配列せられ、別に小なる感應器
を備ふ、而して是等の炭素棒の一端は電池に連なり、他端は
感應器を経て電池に接続す、又感應器の第二「コイル」をな

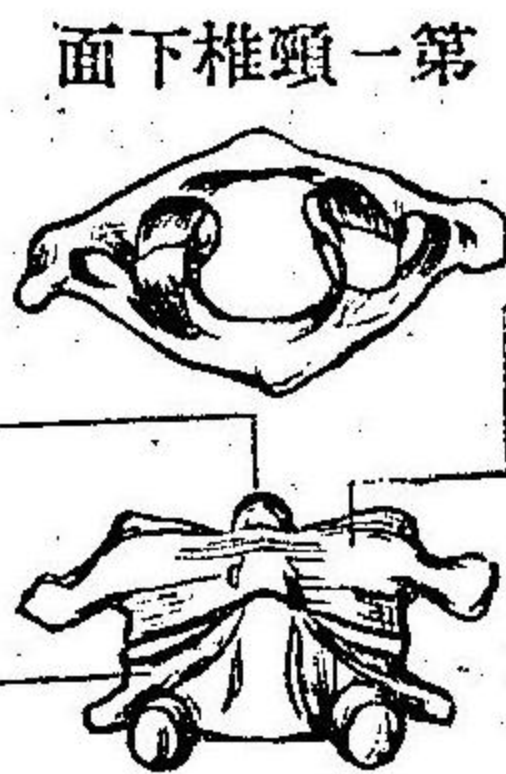


タ

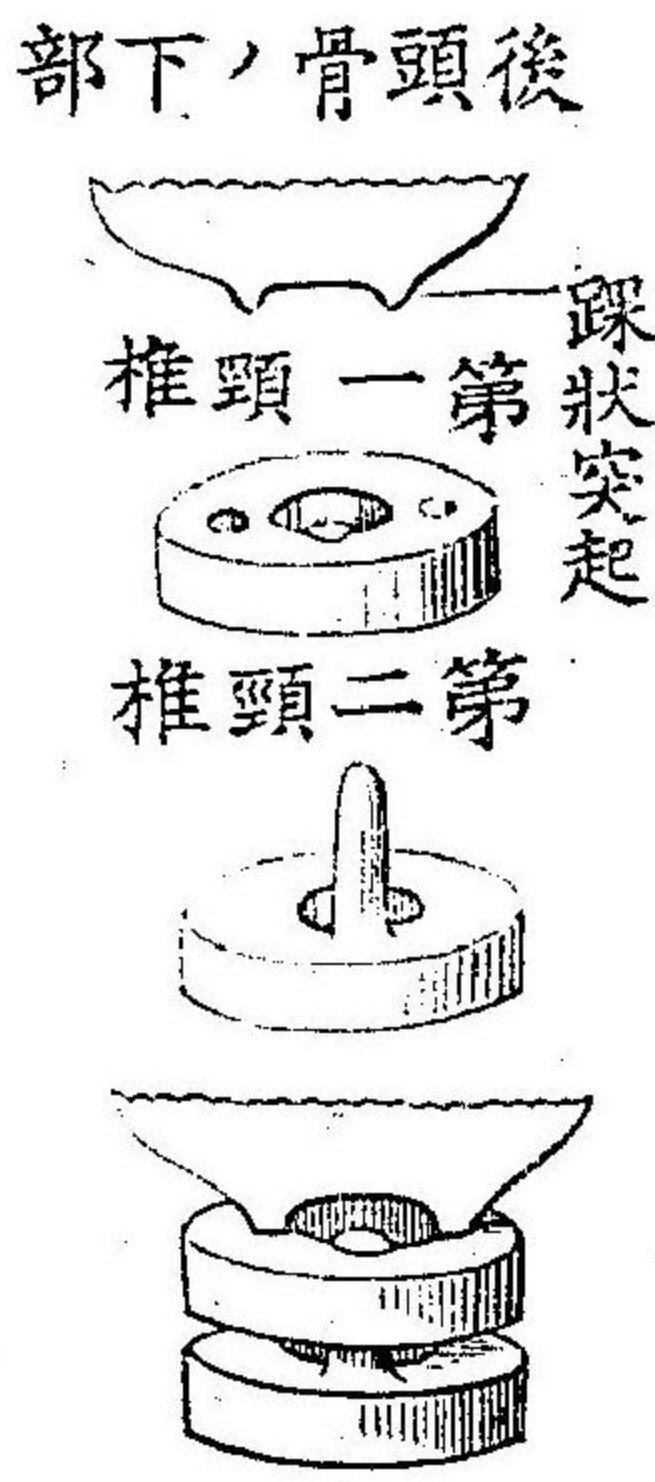
ダイイチアルコール (第一アルコール) 化英 *Primary Alcohol*. 「エチルアルコール」「メチルアルコール」等の如
く、弱く酸化すれば「マルアロート」($C_2H_5.O$)となり、強
く酸化すれば酸 ($C_2H_5.O_2$) となる所の「アルコール」を第
一「アルコール」と云ふ、例「エチルアルコール」($C_2H_5.OH$)
を弱く酸化すれば「マセチックアルデヒド」
($C_2H_5.OHO$) 即ち單に「マルアロート」と稱するものとなり、
尙ほ之を酸化すれば「酢酸」($C_2H_5.OOH$) となる、
ダイイチケーツイ (第一頸椎) 生英 *Atlas*. 後頭骨の
直下に位する椎骨にして、他の椎骨の體に相當する部分は

ダイイ

中空となり、第二頸椎より出づる突起は其の孔に入り込み、自由動くことを得べからしむるにより、頭を水平に回轉することを得しむ、其の上面の左右には凹所一對を有し、此に後頭骨の二突起を載せ、以て頭を俯仰することを得しむ、又載域と



第一頸椎突起 第二頸椎



第一頸椎後 第二頸椎 部下ノ骨頭後 蹠狀突起

稱せらる、

ダイイチコイル (第一コイル) 物英 Primary coil.

感應「コイル」の内部の「コイル」を第二「コイル」と稱す、通常、太き絶縁したる導線を巻きて作る、

ダイイチワセー (第一惑星) 天英 Primary Planets.

太陽系統の惑星中、水星、金星、地球、火星、木星、土星、天王

ダイイ

星、海王星、の八つを第一惑星と云ひ、之を又二部類に分かてり、即ち地球類の惑星と大惑星と是なり、

ダイイッシュニコカン (第一種の槓杆) 物 第一種の槓杆は、支點中央に位し、力點支點其の左右にあるものにして、支點が支點に近き程力に益する所多かるべし、各種の天秤、釘拔、ハネ釣瓶、鐵槌、金切鋏、木鋏等之に屬す、

ダイインゲツ (太陰月) 天英 Synodic revolution or synodic month. 新月より次の新月まで、或は満月より次の満月までの時間を、太陰月と云ふ、此の長さは一定ならず、平均の價は二十九日十二時四十四分二秒六八四なり、太陰月は即ち太陽に對して月が地球を一週する時間なり、

ダイインギ (太陰曆) 天 古に用ゐたる曆にして、太陰即ち月の公轉を基礎とせるものなり、彼の舊曆は即ち是れにして、支那にて創作せる所のものなり、

ダイオン (體温) 生人の身體中、口腔、腋下等の如き外部に曝されざる所に於て、其温度を測るときは、毎に略三十七度を示すべし、之を體温と云ふ、然れども體温は種々の事態によりて變動あり、冬時は夏時よりも〇・一乃至〇・三度低く、日中は體温漸く上り、午後五時乃至八時に最も高く、夜間は次第に減じ、午前二時乃至六時に最も低し、而して平均温

ダイカイ (大塊) 鑛英 進發岩の大塊が、圓錐形若しくは鐘狀をなして地上に噴き出でしものを云ふ、(岩脈の圓を見よ)、

ダイガク (大顎) 動 「ジョーサイ」に同じ、

ダイカン (大寒) 地 二十四節氣の一をいふ、陰曆十二月中、陽曆一月二十日に當る、

ダイガレンズ (對眼レンズ) 物英 Oculine. 對眼「レンズ」とは、顯微鏡又は望遠鏡に於て眼に接する方の「レンズ」をいふ、接眼「レンズ」に同じ、

ダイカロリー (大カロリー) 物 「カロリー」の條を見よ、

ダイキ (太氣) 物 化英 Atmosphere. 太氣とは吾地球を圍繞する所の空氣の全體を稱するものにして、上方のものは次第に下方のものを壓縮するが故に、地面に近づくに從ひて、漸次其の密度を大にし、高く上るに從ひて其の密度次第に小となる、されば其の最高限は十分に知ることが能はざれど、光線屈折の理により、或は流星の位置によりて推測すれば、約三百軒に及ぶと云ふ、

大氣は、無色透明なる瓦斯體にして、動搖するとき風を起す、之によりて其の存在を知ることを得べし、容積にて凡七九%の窒素と凡二%の酸素と及び微量の「アルゴン」との混合物にて成り、通常は水蒸氣を含み、此の他炭酸瓦斯粒に

は朝食後第三時にあり、食事後には常に少しく體温上り、飢餓の時には下るものなり、又年齢によりても體温は一ならず、幼兒にありては三十七度五六分にして、老人にありては體温少しく低く、又體温は人により多少異なるものなり、體温の本は食物にして、其の食物の消化せられて營養物質となりたるものが、身體中にて血液中の酸素(肺より吸收したる)に遇ひて燃焼するものにして、其の發熱の能は物質によりて同じからず、其の能、脂肪は最も大に、蛋白質之に次ぎ、含水炭素は最も小なり、即ち五十二瓦の脂肪、百瓦の蛋白質、百十四瓦の澱粉、百二十九瓦の葡萄糖は各同量の熱を發するなり、

身體を運動すれば、體温の昇るは、これが爲に空氣の呼吸、血液の循環共に激しくなり、從ひて體内の酸化作用盛となるによるなり、

ダイカ (退化) 動 或る器官の構造、作用が漸々に簡單となり、遂に其の作用をなさざるに至ることといふ、かく器官の退化するは、其の器官を使用すること少きによるものにして、其用ある度の少きに從ひ、愈々其の退化の度を増すものなり、例へば、吾人の毛根には、立毛筋とて毛を立てしむる筋肉あれども、獸類の如く之を立てる必要なく、從て使用せざる結果は、今や殆んど其の用をなさざるに至れるが如し、

ダイカ

ダイカ

微細なる有機物質を交ふ、後の三者は特に都市の大氣に其の量多しとす。

タイキカン(大氣圈)地鏤英 Atmosphere. 水圈及岩石圈を包圍する大氣の層を云ふ。

タイキノウインドー(大氣の運動)地 大氣の壓力に不平均を生ずるとき、大氣が其の平均を保たんと欲して起す所の運動を云ひ、大氣は高氣壓の部より低氣壓の部に向かひて流動す、風即ち是れなり。

タイキノエーリョク(大氣の營力)地英 Agent of Air.

大氣の營力は其の中に含める酸素瓦斯炭酸瓦斯水蒸氣等の化學的作用によりて行はるゝのみならず、又其の運動即ち風によりて著しく行はるゝものなり、地表の岩石の破壊せるものが風に遭ふときは、次第に粉碎して砂となり、砂は又風に吹き散らされ、風が絶えず岩石の表面を掠むるときは、次第に之を削磨して、宛も水蝕と同一なる現象を呈する。とあり、されど一方にては、風は運搬的、建設的作用をなすものにして、沙漠海岸其の他の砂地にては、砂は常に風に吹き上げられて沙陸を造り、沙陸は風向に直交せる脈をなして走り、又、風の強弱多寡に従ひ、次第に其の位置を變じて前進することあり、又、北支那地方にては、中央「アジア」より吹送られたる黄土の數百メートルの厚層をなして横はれるも

のあり、風は又昆蟲鳥類を伴ひ、或は植物の花粉、種子、胞子等を吹きて遠隔の地に至らしめ、生物の蕃殖分布を媒助すること少からず。

タイキヤクシヤ(對脚者)地 吾人の立脚點より地球の中心を貫き一直線を畫き、其の再び地球面に出づる點を對脚點と云ひ、此の處に住む者を對脚者と云ふ、對脚者の地は其の緯度同一なりと雖も、南北其の處を異にするのみならず、又經度百八十度を隔つるなり、故に季節及び時刻兩ながら常に相反對せり、即ち一方にて夏日の正午なるとき、他方にては冬日の夜半なるが如し。

タイキン(對均)動英 Symmetry. 「フォーケー」に等し、**タイキヤクラン(對脚點)地** 對脚者の條を見よ。

タイキョーキン(大胸筋)生英 Pectoralis major. 胸骨、肋骨より上臍骨の上前端に渉る筋肉にして、其の收縮により、手を前方に運動せしむ。

タイコー(體腔)動英 Body cavity. 體內にある腔所をいふ。

タイコー(退合)天英 Inferior conjunction. 内惑星に於て、惑星が地球と太陽とを結合する直線上にありて、惑星が其の間に來るときは、之を惑星の退合と稱す、即ち地球及び惑星の動徑のなす角零なるときなり。

タイコカイ(太古界)鑛地英 Archean Group.

(甲) ローレンシア系 (Laurentian system)

成立、片麻岩、角閃岩、石灰岩、石英岩、蛇紋岩等よりなる、且つ石鑛(領家片岩)を有するを特點とす、化石、純然たる化石なし。

分布、濃飛の高原、阿武隈山系、陸奥山脈の南部、葛城山、笠置山脈等、(本邦)

(乙) ヒューロニヤン系 (Huronian system)

成立、雲母片岩、千枚岩、石英岩等より成る、紅簾片岩を特點とす、化石、同前。

分布、秩父山系、四國、肥前杵築半島、天草半島等(本邦)

タイコン(菜菔)植英 Raphanus sativus. 十字科の草本なり、葉は不整齊羽狀に分裂し、其の形大なり、花は紫色又は白色を呈す、果實は長角にして裂開せず、根は紡錘形をなして肥大し、煮又は漬物として食用に供す、又葉は鹽漬として食す可し、本邦食菜の第一に位し、日常缺くべからざるものなり、四季共に食用とす。

タイザ(胎座)植英 Placenta. 胚珠が、子房壁に着生する部位を云ふ、其の位置によりて、左の數種に別かつ、(1) 中軸胎座(ツバキ、百合、ナシ、キキョー)……多室子房

の中軸に於ける胎座を云ふ、

(2) 側膜胎座(ケシ、スミレ、エンドー)……側膜に於ける胎座を云ふ、

(3) 特立中央胎座(ミ、ナグサ、クリンソウ、サクラソウ、ナデシコ)……單室子房の中央に特生せる胎座を云ふ、

ダイサイ(大顯)動 「ジョーサイ」に同じ。
ダイサンアルコール(第三アルコール)化英 Tertiary alcohol. 酸化するも、同数の炭素原子を有する「アルコール」或は「ケトン」或は酸とならずして、炭素原子の少き「ケトン」或は酸なるものを、第三「アルコール」と稱す、例へば「ニメチル、カービニル」即ち「第三アチル、アルコール」(OH₂ & COOH)の如し。

ダイサンシユノコカン(第三種の槓杆)物 第三種の槓杆は、力點が支點と重點との間にあるものにして、この種の槓杆に於て、力が釣合を得るためには、力點に加ふる所の力は、常に重點にかゝれる重量より大なることを要するが故に、力に益する所なし、通常の木綿織りに屬す。

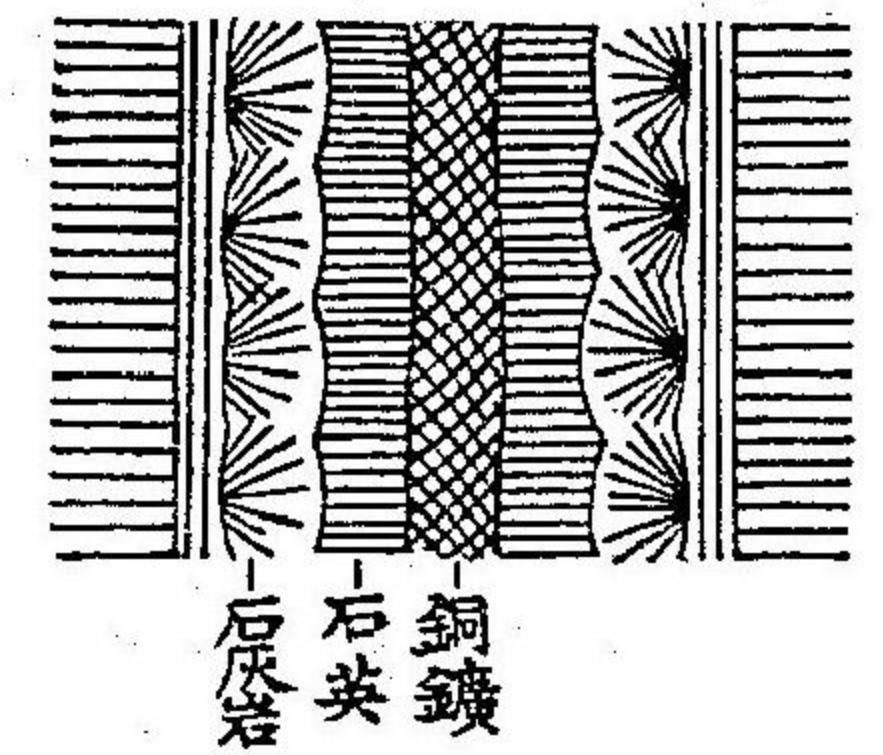
タイシヤセキ(代赭石)鑛英 Red ochre. 赤鐵鑛の粘土を混じて出づるものをいふ。

タイシユンカン(體循環)生英 Systematic circulation. 左心室を出でたる血液が、全體を循環し、到る所の組織を養

ひ、更に歸りて右心耳に入るまでの循環をいふ、
ダイジュンカン(大循環) 生 「ダイジュンカン」に同じ、
ダイシヨ(大暑) 地 二十四節氣の一をいふ、陰曆六月中、
陽曆七月二十三日に當る、
ダイシヨ(對稱) 動英 Symmetry. 「キョウター」に同
じ、

ダイシヨコソ(帶狀構造) 鑛英 Banded structure
true. 剝岩は其の特性として、之を作せる鑛物の平行排列
をなせることを云ふ、
砂岩、頁岩に於て見るが如し、

ダイシヨシキ(帶狀組織) 鑛英 Symmetrically
banded structure. 地中の裂隙を填充して成れる鑛脈
を見るに、其の鑛物に數種あり
て、其の各鑛物の沈澱する狀は、
各種何れも長く連續し、然かも
互に並行し、且つ圖の如く、中
央に存する最後の沈澱物とし
て、銅鑛のあるれば、其の兩側
には石英脈をなし、石英脈の兩
側には又石灰石の脈をなし、石
灰岩は終に母岩に固着し、
恰かも縞ある帯を引延ばせるが



流れるるとき、兩崖より崩壊落下する岩石の碎片が輸送せ
られて、其の下流の縁邊に堆積するものを云ふ、
タイセキト(堆積島) 地 河口の洲の如く、河より流出す
る土砂の沈澱堆積して成りし島嶼、或は亞弗利加「コー
ド、コースト」の砂丘嶋の如く、風と波浪との作用に由りて
成りし島嶼を云ふ、

タイセツ(體節) 動英omite. 「カンセツ」に同じ、
タイセツ(大雪) 地 二十四節氣の一をいふ、陰曆十一月節、
陽曆十二月七日に當る、
ダイタイコツ(大腿骨) 生英 Femur. 肢にある大骨に
して、體中尤も太く、尤も長き骨なり、
ダイチ(臺地) 地 英 Deak. 水流が著しく平地の周圍
を削磨するときは、其の殘留せる部分は臺地をなすべし、臺
地は此の斷層によりて成り、或は熔岩氾濫して地表を蔽ふ
によりて生ずることあり、

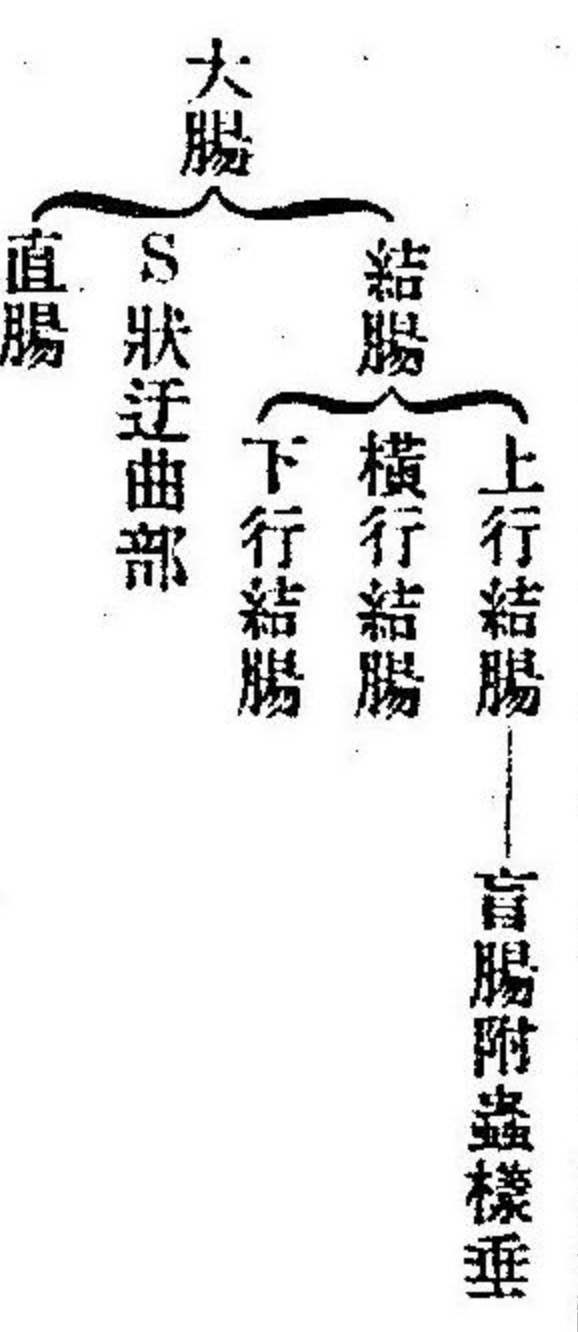
ダイチヨ(大腸) 生英 Great intestine. 大腸は小
腸に續きて、腸部の右下隅に起り上行し、胃の下部を左方に
横行し、更に折れて下行し、其の終りの部は後方に至りS字
狀に迂曲し、更に眞直ぐに肛門に開くものなり、此の起始部
を盲腸といひ、上行、横行、下行部を結腸、迂曲部をS狀迂曲
部、直部を直腸といふ、

タイセ

如くなるものなれば、之を呼びて帶狀組織と云ふ、
ダイシヨミヤク(大靜脈) 生 英 Vein cava. 全靜脈
中の最大なる脈にして二本あり、一は脚より來る二本の靜
脈合一し、種々の小靜脈を併せ、右心耳に入るものにして、
他の一は手より來る兩鎖骨下靜脈が頭部より來る頸靜脈と
合し、更に此兩靜脈が合一し、右心耳に入るもの是なり、
ダイスイソ(帶水層) 地 地層中、其の下方に粘土層を有
する砂の層は通常水を含有するものなり、此の層を帶水層
といふ、

タイセイ(胎生) 動英 Viviparous. 子が母體を出づる
とき、哺乳類等の如く被物を被らずして生ずるをいふ、卵生
に對して云ふ語なり、
タイセイ(體制) 動英 Organization. 諸器官は相結
び相依りて、以て全體のために働くものなり、即ち個體の
組成に純粹の分業制度あり、之を體制と名づく、
タイセイ(對生) 植 英 Opposite. 莖幹の每節より二葉
を出し、其の二葉が莖の反對の面に著くものを云ふ、
例「ナアシヨ」櫻麥、「シヨ」紫蘇、「モミシ」槭樹等、
タイセイ(大青又松藍) 植 Isatis tinctoria L. 十字
科の草本にして、其の葉より青色の染料を製す、
タイセキ(堆石) 地 英 Moraine. 氷河が谿谷に沿ひて

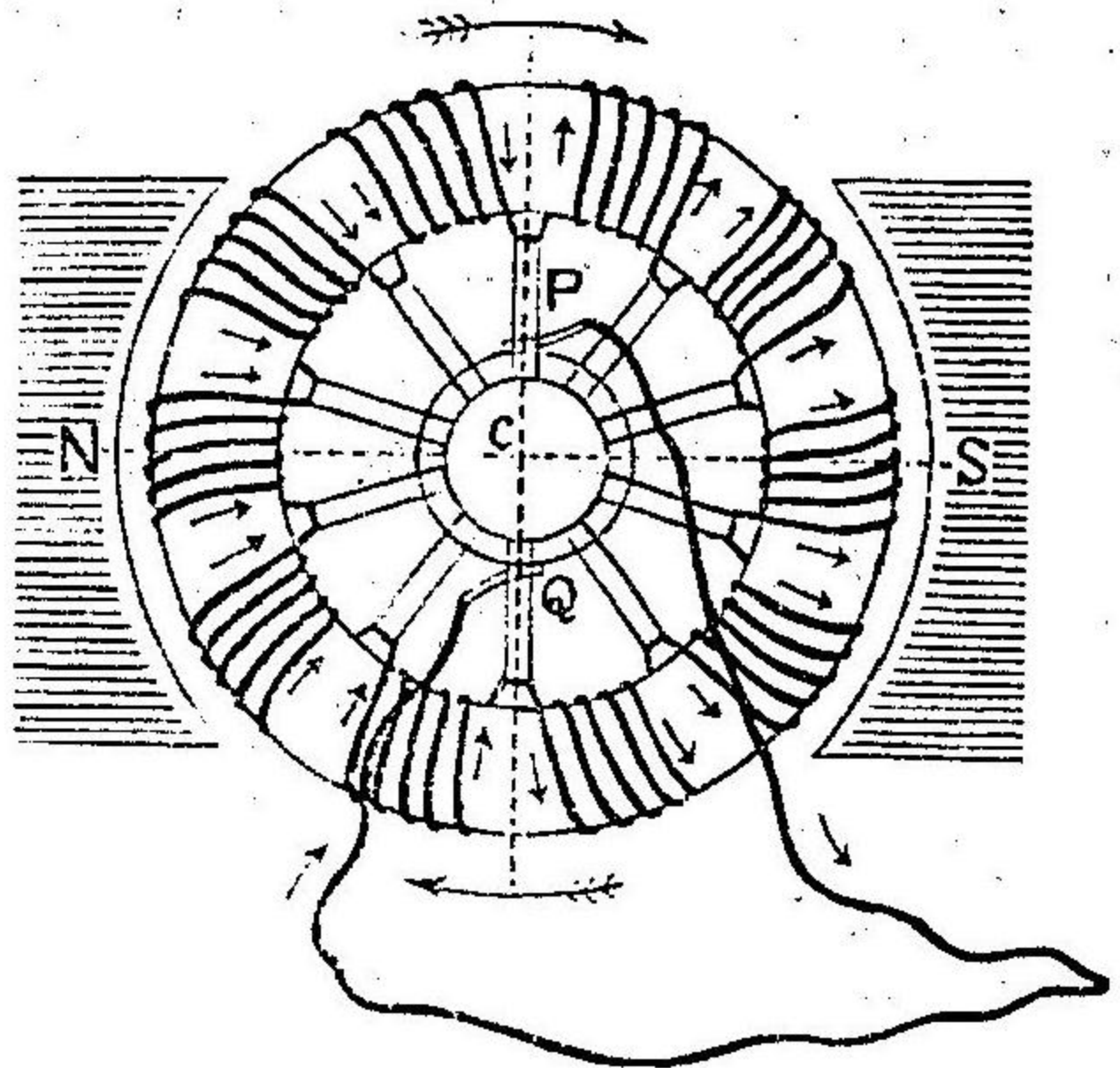
大腸にては殆んど養分の吸収なく、只水のみを吸収す、彼の
遠足、運動などを爲せる後、大便の秘結するは是がためな
り、
ダイチヨ(大潮) 地 英 Spring-tide. 満月或は新月の
時、即ち太陽と月とが同じ直線内にありて地球を引くとき
に生ずる潮汐を云ふ、この時の潮汐は海水の膨起すること
平常よりは大きなる故に之を大潮といふ、
ダイツ(大豆又黃大豆) 植 英 Glycine hispida
Maxim. 豆科の一年生草本にして、圃園に栽培す、花白色
或は紫色をなし、季節夏にして蟲媒花なり、支那印度朝鮮に
も産す、子粒は食用に供す、味噌醬油は之を以て造り、頗る
滋養に富む、豆腐は又之より製する佳良の食品なり、
ダイデンキン(大臀筋) 生 Musculi Intensus maxims.
無名骨より大腿骨に渉る大筋にして、腎部の後側方にあり、
收縮すれば腰を延ばさしむ、
ダイドミヤク(大動脈) 生 英 Aorta. 左心室より出



ダイチ

で、上行し分岐して、主幹は下行し、更に多くの枝脈を出し、下腹部に於て二本に分れ、各左右の下肢に入る、心室を出で、より此の分岐点までの間を大動脈と云ふ、

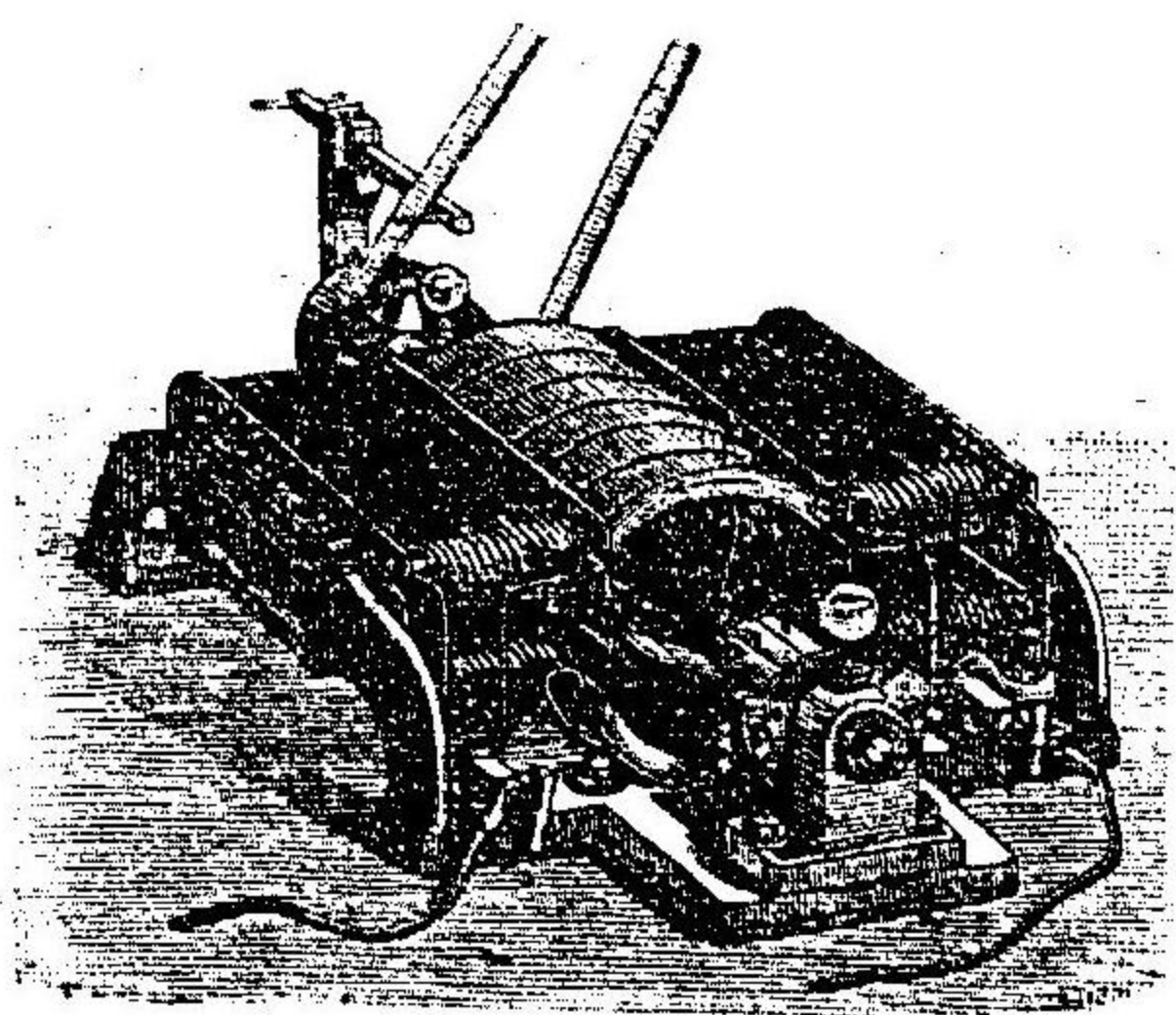
ダイナモ物英 Dynamo. 「ダイナモ」は、感應作用によりて強い電流を得べき装置にして、現今諸般の事業に利用せらるゝ所甚だ多し、其の構造の主要なる部分ば、軟鐵輪の周りに導線を巻き、其の各部を軸に集めたるもの、即ち所謂「グラム」環と稱する一の「アーマチュア」を磁石の兩極間に置きたるものなり、されば「グラム」環のS極に近き部分ば北極



となり、N極に接近する部分は南極となるが故に、環が中心Cを軸として、時計の針の運動と同方向に廻轉する時は、Qより右方の環の半分の「コイル」と、Pより左方の環の半

分の「コイル」との内に「レンツ」の定律により、方向反對なる電

流を生ず、故にPQを連結する導線内には、絶えず同方向の電流流通すべし、而して通常鋼鐵磁石に代ふるに、蹄形なせる軟鐵を以てし、別に電池を用ゐるか、或は此の器械によりて起る所の電流を利用して、強大なる電磁石を生ぜしめ、「アーマチュア」を其の中に廻轉せしむるものなり、



ダイナモイト 化英 Dynamite. 「ニトログアセリン」の條を見よ、

ダイニアルコール (第二アルコール) 化英 Secondary alcohol. 弱く酸化すれば「ケトン」となり、尙之を酸化すれば炭素原子少き酸となるものを、第二アルコールと稱す、例へば「イソプロピルアルコール」(C₃H₇)₂=CH-OHを酸化すれば「アセトン」(C₂H₅O)となり、尙之を酸化すれば醋酸及び二酸化炭素となる、

ダイニケーツイ (第二頸椎) 生英 Cervicæ. 他の脊椎の體部に相當する所は上方に突出し、第一頸椎の凹所に入込み、以て頭部を水平に回轉しうべからしむ、又樞軸椎或は廻旋椎とも稱せらる、「ダイイチケーツイ」の條參照、

ダイニョイル (第一コイル) 物英 Secondary coil. 感應「コイル」の外部の「コイル」を、第二「コイル」と云ふ、多くは甚だ細き絶縁したる導線を幾回も巻きたるものなり、

ダイニシニコーカーン (第二種の横杆) 物 第二種の横杆は重點が支點と力點との間に位するものにして、重點が支點に近き程力に益する所多し、押切、ボートの櫂等之に屬す、

ダイノイ (大脳) 生英 Cerebrum. 頭蓋の内部中、後下方の凹所を除き、其の他の空所を充たす所の白色皺褶ある柔軟塊にして、外部は灰白質より成れり、之を大脳皮質と云ふ、後下方には延髓を出し、小脳に接す、又大脳の下部即ち大脳脚より多くの神経を出せり、大脳は思考、記憶、判斷、意志等凡て高尚なる精神作用を営むものなり、

ダイノイハシキユイ (大脳半球) 生英 Cerebrum-hemispheres. 大脳は前後に走る溝によりて、略同形の兩半球に分かたる、此の半球を大脳半球といふ、

ダイバン (胎盤) 動英 Placenta. 哺乳類の胎兒が、子宮内に於て母體に連接する爲の母體の部分といふ、

ダイフツレンズ (對物レンズ) 物英 Objective. 顯微鏡又は望遠鏡に於て、物體に近き方の「レンズ」を、對物「レンズ」といふ、

ダイボーチョー (體膨脹) 物英 Volume expansion. 温度の變化によりて、物體の容積の増大することを、其の體膨脹といふ、

ダイボーチョーリツ (體膨脹率) 物英 Coefficient of Volume expansion. 體膨脹率とは、温度一度高まる毎に容積の増しの原の容積に對する比をいふ、今、立積Vなる物體の温度をt度だけ高からしめたる時、其の立積Vとなりたりとすれば、此の物體は平均一度に付、Vの立積を増したるなり、之を原の立積Vにて除したるものは、この物體の體膨脹率なり、又體膨脹係數と稱す、諸物質の體膨脹率(○度より百度までの平均)は次表の如し、

硝子	○、○〇〇二七	白金	○、○〇〇〇二六六
黄金	○、○〇〇四一	銅	○、○〇〇〇五〇〇
銀	○、○〇〇五八三	鉛	○、○〇〇〇八四〇
亞鉛	○、○〇〇八九三	アルコール	○、○〇〇一〇四
硫化炭素	○、○〇〇二二	「エーテル」	○、○〇〇一六
水銀	○、○〇〇一八	水(四度より百度迄)	○、○〇〇四四

タイマイ (毒瑠) 動 Chelonia imbricata, L. 背甲の

各片は相接して覆瓦状をなす、主甲十三枚縁甲二十四枚あり、尾は甲外に露出せず、角鞘にてなれる嘴は強く彎曲し、其の形猛鳥類の如く、其の縁は鋸齒状をなす、前肢に二爪あり、較や長し、後肢には只一爪あり、背甲は淡黒色にして黄色を帯び、深黒色の小斑點あり、胸甲は黄黒色なり、體長三尺餘に達す、太平洋、太西洋及び印度洋に産す、本邦にては小笠原嶋、琉球諸嶋、臺灣等に産す、海洋に棲息し、性強暴にして、屢々人を咬む、常に小魚等を食とし、三月頃磯地の海岸に上り産卵す、肉は臭氣ありて食すべからざるも、卵は食すべし、背甲は鱗甲(ベッコウ)と稱し、古來諸の裝飾品に製作せらる、殊に其の肋骨甲を珍重す、

ダイノ 物英 Dyne. 一秒時の間、一瓦の質量を有する物體に働きて、一秒時に付一種の加速度を興ふる所の力を、「ダイノ」と稱す、力の絶對單位として用ゐらる、所のものなり、故に一瓦の質量を有する靜止せる物體に、「ダイノ」の力が一秒時間働くときは、其の物體は一秒時間に一種を進むべき速度を以て運動を始むべし、平地に於ける重力の強さは約九百八十「ダイノ」なり、

ダイノガハリ 樋 日光其他各所の溪流にありて、岩石に附着せる藻の一種なり、乾燥してアサクサノリに代用す可し、**ダイノ** (太陽) 天英のSun. 太陽は、一つの恒星にして、

其の諸屬星の表面に起る諸の活動は、皆是れ太陽の放射線より得る所の「エネルギー」に因るものなり、太陽と地球との距離は、一四、九五〇、〇〇〇キロメートル、太陽の視直徑は三十二分四秒にして、其の直徑は八六〇、〇〇〇哩、太陽の表面積は、地球の二二、〇〇〇倍、其の體積は一、三〇〇、〇〇〇倍、太陽の質量は地球の三三二〇〇倍なり、又地球の密度を一とすれば、太陽の密度は〇、二五五にして、太陽表面の重力は、地球表面の重力の二七、六倍なり、

ダイノケ (太陽系) 天英 Solar system. 太陽系とは、太陽を中心となせる天體の一系統を云ふ、太陽系中の諸天體は、皆太陽の引力の爲に其の運動を支配せらる、其の天體の主なるものは、水星、金星、地球、火星、木星、土星、天王星、海王星、及小惑星、衛星、彗星、流星星なり、

ダイノト (大洋島) 地英 Oceanic islands. 其の成立の初より島なりし所の島をいふ、即ち大陸に關係なきものをいひ、通常、洋中であり、又洋島といふ、

ダイノニチ (太陽日) 地英 Solar day. 太陽の上方中天のときより次の上方中天のときまでの時間を云ふ、然して地球は自轉と共に公轉をなして、其の位置を移すにより、太陽日は一自轉に要する時間よりも長し、**ダイノニカスルワセーノイチ** (太陽に關する惑星の位

置) 天英 Heliocentric position of the planets. 惑星を太陽より見たる所の位置を Heliocentric position. と云ふ、其の位置、惑星の黄道面に下せる射影及其の惑星の位置を夫々太陽に結合せる二直線のなす角と、其の射影及春分點を、夫々太陽に結合せる二直線のなす角とを以て示す、前者を名けて Heliocentric latitude. とす、後者を Heliocentric longitude. とす、

ダイノノクメン (太陽の黒點) 天英 Sun Spot. 望遠鏡を以て太陽の表面を窺へば、時々其の面に黒點の顯るゝことを見る、之を名けて Sun spot. と云ふ、黒點は始終動き居り、凡そ二十七日四分の一にて太陽面を一週す、此の黒點は太陽の面に在る凹所にして、或は顯れ或は消ゆるものなり、其の生滅は太陽面に有る Photosphere. のツムツに關係し、黒點の顯るゝや、地球磁力の變化及北光と密接の關係あること知られたり、

ダイノノシンドー (太陽の視運動) 天英 Apparent motion of the sun. 觀測者が地球の中心にありと考ふれば、太陽及天體は出沒するゝことなるべく、又此の位置より毎日太陽を見れば、太陽は天球の中を動くべし、即ち星の間を變位すべし、此の運動を名けて太陽の視運動と云ふ、如何にして其の運動を知るかと云ふに、毎日太陽の子午

線經過の時、太陽の高度を計るに、毎日異なることを見、又毎日太陽の没する時、東の方より昇る星を見るに、其の星同一ならず、前者は太陽の高度の始終異なるを示し、後者は其の赤經度が變化することを示す、而かも一年中同じ月日に於ては、其の高度及赤經度が同一なるを見るによりて、太陽は一年間に一回星の間を運動することを知らるなり、

ダイノノシテン (太陽の自轉) 天英 Sun's Rotation. 太陽の表面には時々黒點顯る、之を太陽の黒點と云ふ、此の黒點の各は皆同方向に動き、又殆ど同じ時間に太陽の周圍を一週す、之によりて太陽が或る軸を自轉軸として自轉をなせることを知るべし、地球より見れば黒點は二十七日四分の一にて一週するを以て、之より計算すれば、太陽の自轉の週期は、二十五日三五なり、

ダイノレキ (太陽曆) 天英 Solar Calendar. 現今用ゐる曆にして、太陽と地球との關係より創作せるものなり、即ち地球が太陽の周圍を一周する時間を以て一年とす、太陽曆にては、一年の眞の長さは三百六十五日二四二二なり、之を平分年と云ふ、然して實際に曆を作るには、通常三百六十五日を以て一曆年とす、從て毎年二四二二日づゝ異なる故に四年目には一年を三百六十六日として閏年を作りて其の差を補ふ、然れども四年目毎に一日を増せば、又曆年

と平分年とは精密に相符合せず、故に四年目づゝに閏年を置く中、百年目には閏年を置かず、但し四百年目には閏年を置く、然するときは曆は實際と殆ど能く一致するなり、

ダイリセキ (大理石) 鑛英 Marble. 「セキカイガン」(石灰岩)の條につきて其の種類を見よ、

タイリクトー (大陸島) 地英 Continental Island. 古昔にありて大陸の一部なりしものが其の後の變動により、大陸より分離して島と爲りたるものを云ふ、

タイリユー (対流) 物英 Convection. 大試験管に水を盛り、其の下底を温むるに、水は不導體なるに係らず、尙ほ其の全部の暖まるを見る、是れ其の底に接する部分の温められて軽くなりたるものは上昇し、他の寒冷にして重きものに代はり、更に熱を受けて上昇し、次第に循環して全部の温度を高むるなり、このことは水のみならず、他の液體及び氣體に於ても行はるゝものにして、斯くの如く、液體若しくは氣體の中に於て温度の不同を生ずる時、其の物質の運動循環によりて、熱の移動する所の現象を稱して、熱の對流といふ、彼の太平洋中に起る海流、空氣中に起る風、又は室内空氣の交代等は、主として此の現象なり、

タイルイ (苔類) 植 Hepaticae. 莖葉の區別概ね判然たらず、例、セニゴケ、ウルクゴケ等、

ダイワセー (大惑星) 天英 Major Planet. 太陽系統の第一惑星中、木星、土星、天王星、海王星の四つを、大惑星と云ふ、此等は地球等に比し大きく、質量も頗る大なり、物理的性質も亦互に類似せり、大惑星の軌道は Eccentricity が餘り大ならざる所の楕圓にして、軌道の平面は地球軌道平面と餘り大ならざる角をなし、其の運動は順運動なり、又大惑星は零圍氣を有し、其の零圍氣は可なり多量にあり、又其等大惑星の軌道は互に頗る隔たれり、

タイワンタコキ (臺灣タコノキ) 植 Paulownia edulis Simsus, H. 琉球又は臺灣に産す、其の實は鳳梨に酷似す、其の樹はよく防風防潮の用をなす、琉球人は之を「アゲン」と云ふ、

タエキ (唾液) 生英 Salivary juice. 唾腺より分泌する液をいふ、多少「アルカリ」性を帯び、澱粉を糖化する性質あり、永く米飯を咀嚼して甘味を覺ゆるは、即ち是がためなり、「アリクヒ」、「センザンコ」等の唾液は粘性に富み、之を以て舌先に蟻を粘着せしむ、

タエキサン (多鹽基酸) 化英 Polyantheic acid. 二鹽基酸、三鹽基酸、四鹽基酸等の一鹽基酸ならざる酸をいふ、例へば硫酸の O_2 、磷酸の PO_4 等の如し、

タカジュー (他花受精又他花受粉) 植英 Cross

Fertilization. 多くの花は、自花の胚珠を受胎せしむるに、他花の花粉の實質を受くるを常とす、此の現象を他花受精と云ふ、

タカダイ (高臺) 地英 Table-land, or Plateau. 高き土地にして、其の頂上山岳の如く急傾斜をなさずして、起伏少く稍々平坦なる處をいふ、

タカノアルコール (多價のアルコール) 化英 Polyhydric alcohol. 水酸根の二つ或は三つより多くを有する「アルコール」をいふ、例へば「グリセリン」 $\text{C}_3\text{H}_7(\text{OH})_3$ 等の如し、

タガメ (田鼈) 動 Batostoma. 半翅類に屬し、俗に「カッパムシ」と稱し、暗褐色にして體扁平なり、體長二寸餘に達し、第一對脚は物を挟むに適す、夜燈火の許に集る事あり、

タカラカネ (子安貝) 動 Cypraea. 又「コヤマガヒ」と云ふ、江の島近海に多き腹足類にして、彩色種々あれども、何れも滑にして光澤あり、螺の口は細長にして凸凹の齒あり、形狀により種々の異名あり、

タタノ (托葉) 植英 Stipule. 葉脚に對生する一雙の附屬物なり、

例一、エンドーの托葉、(大形綠色にして、同化作用を營む)、
例二、蓼科植物の托葉、(二托葉合して鞘状をなし莖を包む)

圖中下方のものはなり、



例三、茜草科の「ヨツバムシ」(輪生葉の觀を呈するもの)の中二個の葉は眞正の葉にして、他の二葉は、各葉の有する二托葉

の各が次の托葉と合生して、一個の托葉状をなせるものなり、例四、「ハリエンジュ」の托葉(棘)に變ず、圖中上方のものはなり、

タケイ (多形) 動英 Poly morphism. 「クダクラゲ」の如く群體をなし、多くの個體は皆共同肉に附着して、各生活に關する諸作用を分掌する時に於ては、此の分掌は恰も尋常個體中の諸器官に於けるが如し、かく一群體に諸作用を分掌する多くの異形體を有することを多形といふ、

タケニサヤチヤバギク (博落廻) 植 Maclaya Cordata R. Br. Boconia cordata Willd. 罂粟科植物にして、丈一丈許、大形の葉を有し、其の形「イチヤク」に似たり、莖葉を切れば黄汁出づ、有毒なり、此の草は竹を煮るに用ゐる故に此の名あり、

タケノ (筍) 植 禾本科に屬する竹類の根莖より生ずる嫩

枝にして、之を食用とし、籐を種々の工業用に供す、之にて草履を製すること、及、物を包むに用ゐる。こ等は、人の普く知る所なり、孟宗竹、淡竹、苦竹の筍は皆食ふ可し、
タケノコシムシ(竹節蟲) 動 Bacillus. 「ナナフシムシ」に同じ。

タケモミ一名ニシローモミ又アオホーモミ又ウラシロモミ又ニモミ 植 *Alies brachyphylla*, Maxim. 日光山に多く生ず、針葉は他の「モミ」よりも細短にして、先端針の如く尖り、長五分乃至一寸許ありて、葉裏は白色なり、果實は長き圓柱状をなす、高山に生ぜず、低所に生じ、採伐に便なり、板材とす。

タケヤシ(竹椰子) 植 *Raplia palmum*. 一名「ラヒアヤシ」と云ひ、之に二種あり、
(A) 東「アフリカ」の「タケヤシ」又酒椰子、
(B) 西「アフリカ」の「タケヤシ」又酒椰子、

果實は前者よりも長く、又雄花は柄を有せず、其の皮は「太物」と稱し、各種の用殊に箒、靴拭等とす、新芽より酒を作るべし、
タコ(章魚) 動 *Octopus*. 軀幹小にして球状をなし、介殼及肉鱗なし、八觸手を具へ、吸盤は觸手上に二條に列べり、俗に軀幹部を頭と稱し、觸手を脚と稱す、游泳し或は靜止するとき、所謂頭部即ち軀幹部を下にし、脚基の中央にある口を上にするものなり、又海岸の芋を掘食すといふことあれども、蓋し無稽の談に過ぎず、頭足類に屬す、「マダコ」「イヒダコ」「シヤクダコ」等の種類あり、何れも食用に供す、
タコ生 同一の體部を反覆使用せるため其の部の表皮が厚化せるものを云ふ。

タコノキ(露兜樹) 植 *Pandanus linnensis*, Warb. 一名「小笠原タコノキ」と云ふ、露兜樹科植物にして、高さ二丈餘の喬木なり、基部に大なる氣根を發出し、恰も章魚の足に似たり、故に「タコノキ」と云ふ、雌雄異株、果實は集果にして大なるものは人頭大に及び、重量七八百匁に達す、此の果實は豚の飼料となせるものにして、人間の食用には適せず、頗る潮水に堪へ、往々海中に落ち潮流に従ひて漂流し、暗礁に打ち上げられ、其の處に發生し、恰も海中より天然植物の生ずるが如き觀を呈することあり、雄花は其の香氣桶に類す、之より油を製す、之を「クオラ」油(*Quora*)と稱す、葉は夏帽子、鞆、敷物、巻煙草入等に作り、又疊表となし、又は屋根を葺くに用ゐる。

タコノズ(多孔板) 動 「シバン」に同じ、

タコネ 動 「タコ」に近き動物にして、體より船形の貝殻を分泌し、其の中に體を容れ居るものなり、此の殻を支持せんがためには、二對の脚先は板状をなす、之を殻外に出し、蹠の用をなし或は海面に浮び風を之に受けて、其の運動に便す、

タサンエキ(多酸鹽基) 化英 *Poly acid base*. 水酸化「カルシウム」 $Ca(OH)_2$ 、水酸化第二鐵 $Fe(OH)_2$ 等の如く、二酸鹽基、三酸鹽基等の鹽基をいふ。

タキ(惰性) 物英 *Inertia*. 慣性を見よ。

タキ(唾腺) 生英 *Salivary gland*. 唾液を分泌する腺にして、三對あり、耳下腺、顎下腺及舌下腺是なり、耳下腺は耳介の下後方にあり、顎下腺は、下顎の兩側にて、第一大臼齒下に當る所にあり、舌下腺は下顎の舌下に當る所にあり、共に指頭にて壓すれば、口腔に唾液の分泌を感ずべし、但し腺は平時唾液を貯蓄するものにあらず、唾液は「アルカリ」性にして澱粉を砂糖に變ず。

ダー(打象) 鑠英 *Percussion figure*. 結晶の面を尖端を以て鋭く打つときは、其の面の打ち當てられたる點より、放射狀の割れを起す、而して其の割れ目の形狀は結晶の異なるに従ひ、それ／＼特異の形象を呈するものなり、之

を打象と稱す。

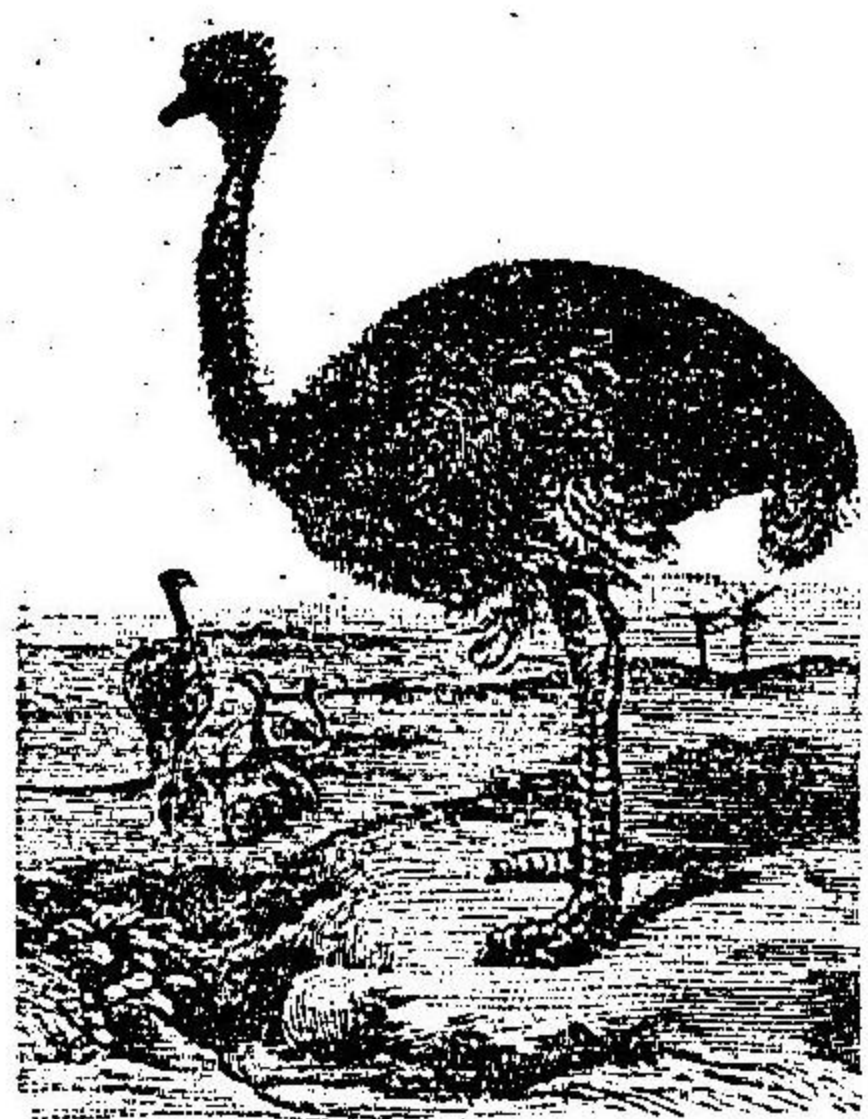
タソルイ(多足類) 動英 *Myriopoda*. 多足類は節足動物に屬し、「ムカデ」「ゲジゲジ」「ヤスデ」等を含み、體は頭及び軀幹を以て成り、其の形延長にして、圓筒状或は扁平をなす、頭上に數個の單眼あり、前端に一對の鞭狀觸角を具ふ、口器は上顎一對及下顎一對乃至二對あり、軀幹は十乃至百七十の同形環節相連りて成り、環節毎に一對或は二對の脚あり、各一鈎爪を以て終れり、呼吸は氣管系を以てし、氣孔は環節毎に其の一對を側縁或は下面に開く、腸は直線に縱走し、唾腺、肝臟、「マルピギ」氏管等を具へ、心臟管は腸の首部に於て體の全長に沿ひて走れり、此の類は、概ね濕地に棲息して日光を厭忌し、動物性或は植物性物質を以て食となす、其の雌蟲は地中に産卵し、善く之を看守すと云ふ、幼蟲は初め少數の環節より成りて、僅に六脚を有すと雖も、蛻皮するに隨ひ、其の數増加し、終に完全數に達するものなり。

タチアヒ(蜀葵) 植 *Althaea rosea* L. 錦葵科植物にして、丈高き草本なり、花は白色若くは淡赤紫色なり、花粉粒甚だ大にして刺狀突起多く、之によりて互に釣りてからみ合ひ、又よく昆蟲の體部につく、蜂媒花にして、蜂は花の中央に立つ筒狀の雄蕊束の柱に上り、之を軸として、其の周圍を廻りて花底の蜜を吸ふを以て、よく其の花粉粒を體に

附着し行くなり、今を去る事千年前、支那より輸入せるものなり、故に古名を「カラアフリヒ」とも云ふ、

タチバナ(橘) 植 「ミカン」に同じ、

タチヨ(駝鳥) 動 *Struthio Camelus, L.* 英



Ostrich. 亞弗利加に産する走禽類にして、頭の高さ一丈に達するものあり、頭部は殆ど裸出し、嘴は扁廣にして、耳孔を見ることを得、脚の發達よろしくして歩歩に適し趾は二本あり、然れども翼は之に反し殆んど痕跡を存するのみ、

毛は小鈎を有せず、灰白色を呈す、

タツキユ(脱臼) 生 俗に骨の「ハツレ」と稱するものにして、無名骨にある窩の内の大腿骨頭が此の窩を脱出せる如き、即ち其の例なり、

タツスイ(脱水) 化英 *Dehydration* 結晶物等の如き

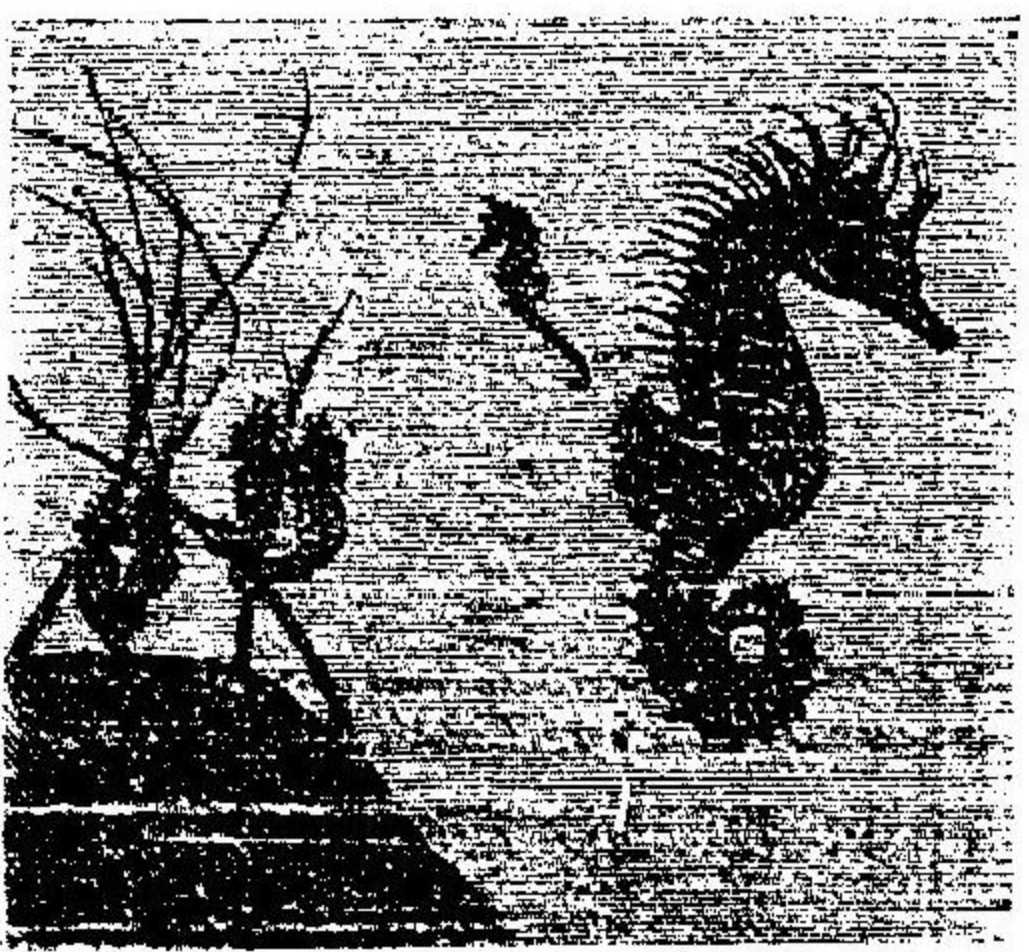
水を含めるものの中より水を取り去ることを云ふ、

タツスイザイ(脱水劑) 化英 *Dehydrating agent* 硫酸、五鹽化磷、鹽化、カルシウム等の如く、他物より水を

取り去る作用をなす藥品をいふ、

タツノオトシゴ 動 *Hippocampus*. 總鰐類に屬する小動物にして、海中の木、藻等に

附着し、長さ一寸餘、皮膚は多少硬化せる骨板を有し、頭部は馬の頭部に似、腹稍太く、尾部は細し、共に環状の突起ありて、尾端は他物に捲付くことを得、游泳するときは體を立て、尾端を前後に動かして前進す、

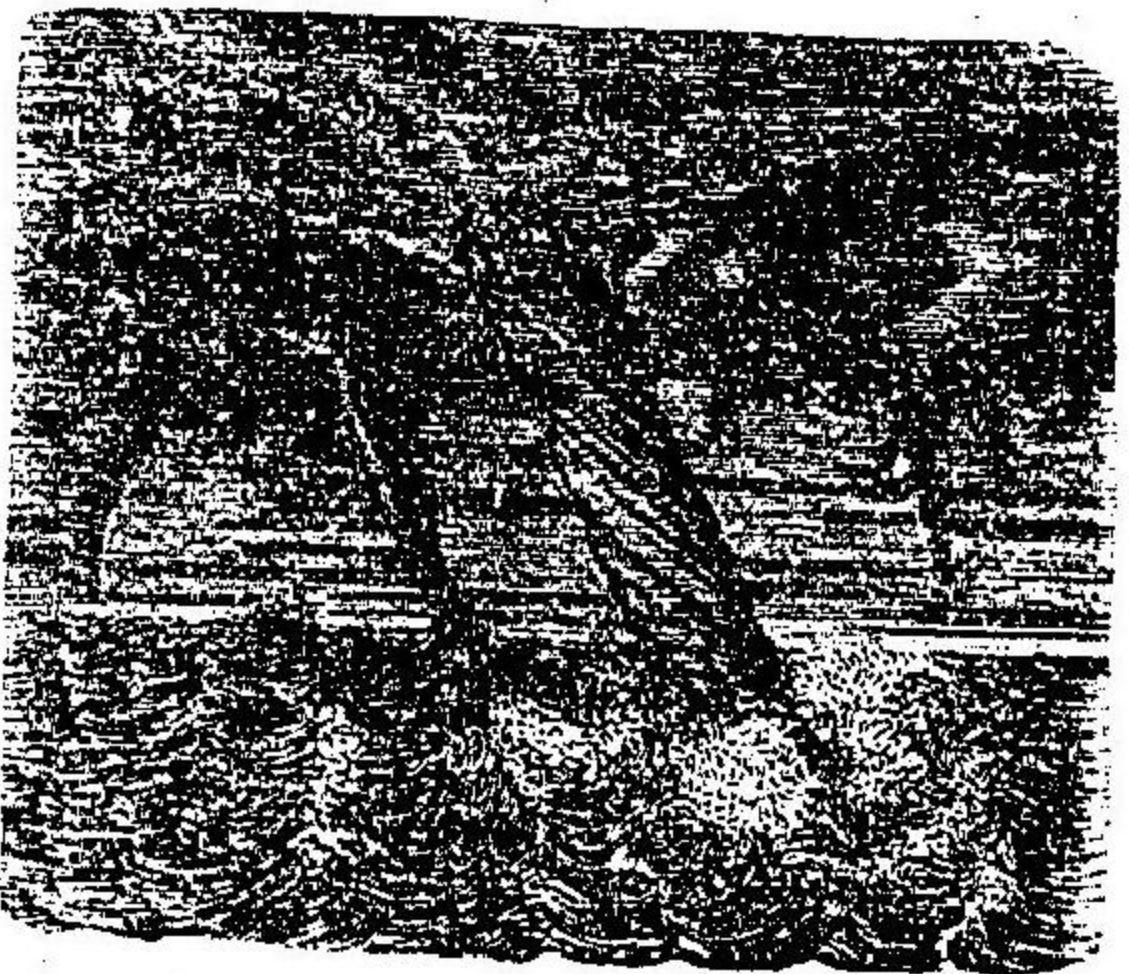


タツビ(脱皮) 動 爬蟲類節足動物等に行はるる方法にして、成長せんがために皮膚を脱するものなり、蓋し此等の動物の皮膚は、人類等の皮膚と異り、一定の大きさを有し伸縮すること能はざるにより、成長せんとせば、必ず先づ脱皮をなさざるべからず、

タツキ(龍卷) 地英 *Whirlwind*. 急激なる小旋風が海面上に起るとき、海水を其の中に巻き上ぐることをいふ、(挿圖参照)

タテコ(堅坑) 鑛 炭山の地面上より、井戸の如く垂直に穿てる坑を云ふ、捲上機械を具へ、以て坑夫の往來及石炭

の運搬を便にする



タテタニ(縦谷) 地

「ツエーコク」に同じ、

タテノシンドー(縦の振

動) 物英 *Longitudinal oscillation*

縦振動と同じ

タテノミ(縦の波)

物英 *Longitudinal wave*. 疎密波を見よ、

タテノハイレン「電池の」(縦の排列) 物英 *Arrangement in series*. 「ギョーナラ」行並を見よ、

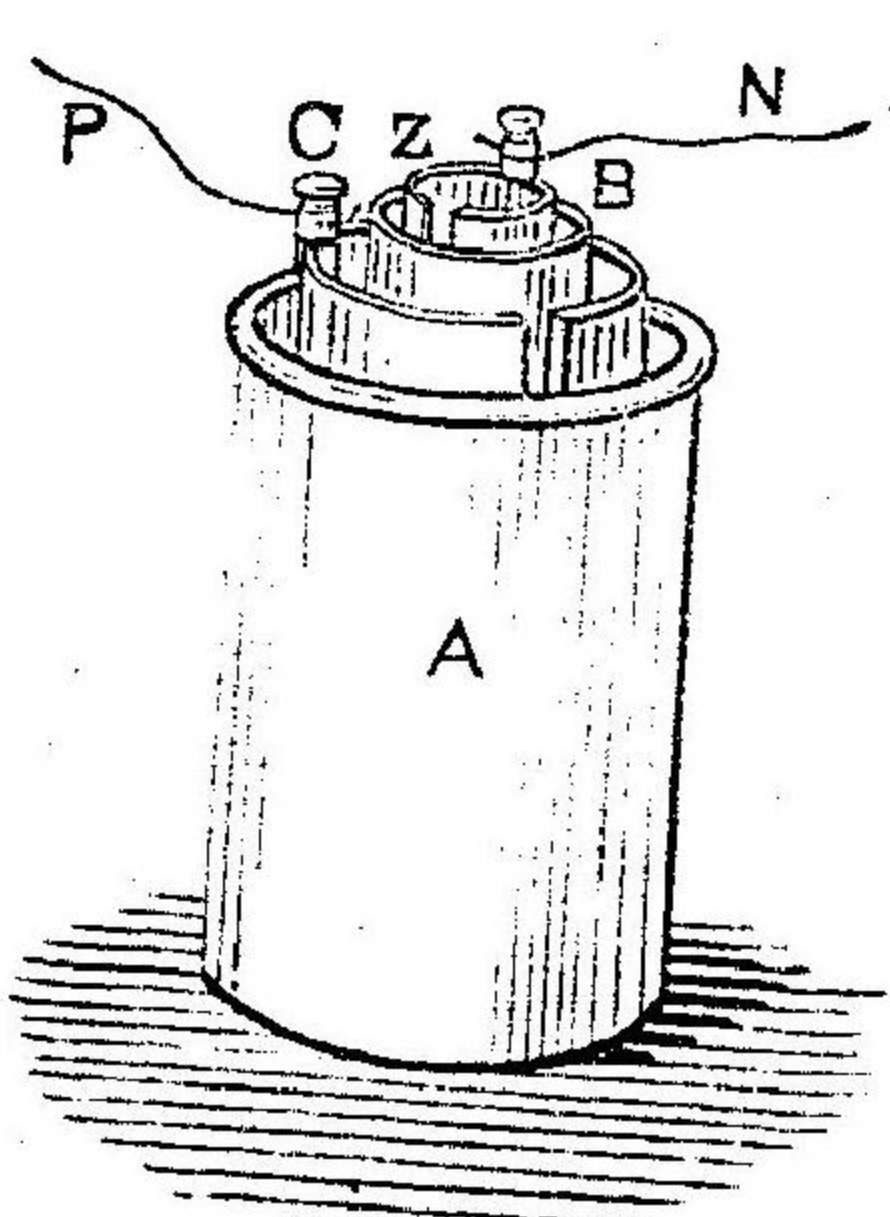
タトールイ(多糖類) 化英 *Poly saccharide*. 澱粉、糊精、纖維等の如く ($C_6H_{10}O_5$)_nなる分子式を有するものをいふ、

タニ(谷) 地 英 *Valley*. 地殻に生ずる長き凹處にして、

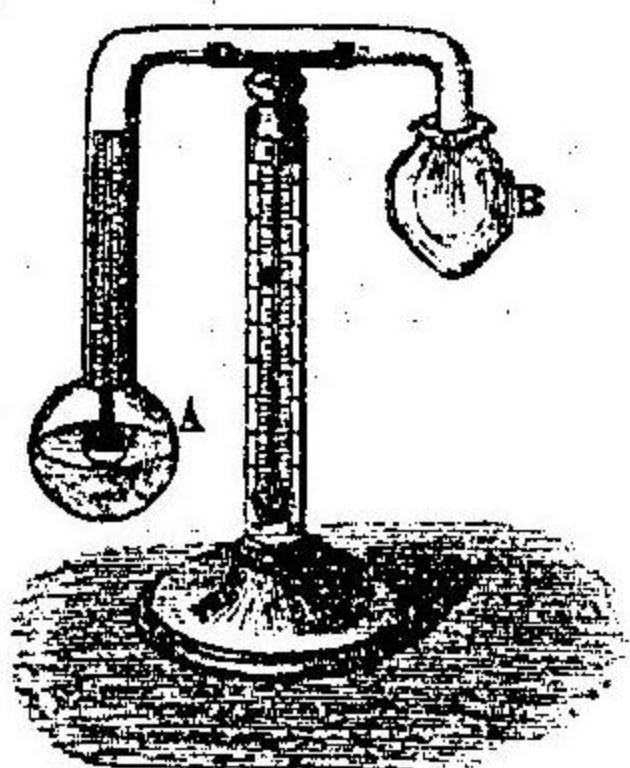
地皮の褶曲より生ずる凹地、斷層山に沿へる一帯の低地、及び流水の侵蝕せる凹處等は是れなり、

タニ(波の)(谷) 物 英 *Trough*. 高低波に於て、波の最も低き部分を波の谷と稱す、

タニエルデンチ(ダニエル電池) 物英 *Daniel's cell*. 「ダニエル」の電池は、硫酸銅の飽和溶液と其の結晶とを入れたる器の中に、稀硫酸を盛りたる素燒の器Bを入れ、其の中に亞鉛Zを入れて陰極となし、硫酸銅液中に銅Cを入れて陽極とす、然るときは硫酸は亞鉛に作用して硫酸亞鉛と水素とを生じ、水素は素燒を通して外部に出で、硫酸銅を分解し硫酸と銅とを生ず、この電池は電動力弱しと雖も、其の電動力久しく變ざらざるが故に呼び鈴、電信機、電話機等に用ゐらる、



タニエルヒゲトメ(ダニエルの湿度計) 物 英 *Daniel's Hygrometer*. 「ダニエル」の湿度計は、空氣中の湿度を測るに用ゐる所の器械にして、兩端に小球を有する玻璃の曲管にして、其の中より空氣を排除し、一の球Aには半ば「エーテル」を充たし、其の中に寒暖計を浸し、他の球Bは之を布にて包めり、之を使用するには、B球に少量の「エーテル」を注ぐ、然る時は其の蒸發のために湿度下り、球

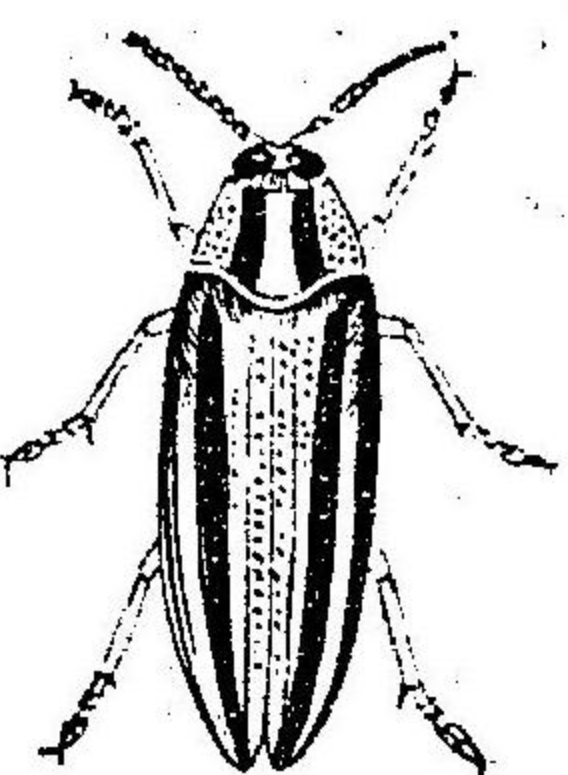


中の「エーテル」蒸氣は之がために液化し、其の壓力減するが故に、A球の「エーテル」は蒸發して其の温度下るを以て、球に接したる空氣は冷却せられ、從ひて球の外面に露なれば、故に、球中の寒暖計の示す所の温度に對する水蒸氣の最大張力と其の時の空氣の温度に對する水蒸氣の最大張力との比を求め、之を以て現在の空氣の温度とす、

タニシ(田螺) **動** Paludina. 水田中に棲息する腹足類にして、螺は泥色を呈し、厖を有す、山地に於ては之を食す、
タヌキ(狸) **動** Canis procyonides. 我國及支那に普通なる食肉類にして、體長二尺餘、耳は短廣なり、多毛なる尾は踵に達し、毛皮は褐色の長密毛を生ず、魚及鼠等を食す、
タヌキモ(狸藻) **植** Utricularia vulgaris, L. 狸藻科植物にして、水草なり、葉は細裂し、其の裂片の處々に小囊を有し、花は黄色にして圓錐形の距を有す、小囊は即ち捕蟲囊にして、四角形の口を有し、此の處に内部の方にのみ開き得べき瓣膜ありて、一旦此の膜を排して入りたる水蟲は、再び出づることを得ず、其の後蟲類は其の囊中にて死し、腐敗すれば、囊の内面に生ぜる十字形の毛より、其の養分を

吸收するなり、此の囊中に入るものは、主として小形の甲殻類(ミジンコ)なりとす、
タネニン(多年根) **植** Perennial root. 多年生植物の根を云ふ、一般の木本類に見る所なり、
タバコ(煙草) **植** Nicotiana glauca, L. 雙子葉類茄科の一年生草本にして、園圃に栽培す、花は淡紅色をなし、季節夏、蟲媒花なり、南米の原産にして、元龜天正年間本邦に渡來せり、葉を喫煙料とし廣く用ゐらる、米國の産最も多し、又薬用とす、甾醇性あり、是れ其の成分に「ニコチン」(Nicotin)と稱する「アルカロイド」を含有するに由る、
タビ(鯛) **動** 海産魚類中尤も有名にして、美味なる棘鱗類にして近海に産し、小魚、甲殻類、及貝類を食す、兩顎上にある齒は強大にして、鱗棘亦堅強なり、古來視魚として賞讃せらる、種類甚だ多く、「クロダビ、オビダビ、マダビ、タカノハダビ」等を有名とす、
タマ(卵) **動** 英 Simple. 雌動物に生ずる生殖物にして、雄動物の生殖物たる精蟲と合體して後、漸次成長し遂に成體となるものなり、胎生動物の卵は外殻を有することなくれども、卵生動物の卵には、通常、石灰よりなれる外殻を被る、かかる卵には精蟲の入りべき孔を一端に有し、又外面に散布する小孔より呼吸をなす、

タムシ(吉丁蟲) **動**



Chrysobothris. 長楕圓形の甲蟲にして、雄は其の鞘翅金綠色を呈し、黄金色の縦線あり、甚だ美なり、雌の彩色は殆んど眼を惹かざるものなり、幼蟲は松の害蟲なり、

タムシ植 人の皮膚病に「タムシ」と稱するものあり、これ寄生菌の一種「タムシキン」(頑癬菌) Trichophyton の寄生するに原由するなり、
タマシ(ダム椰子) **植** 亞弗利加産にして、此木の實は淡泊なる甘味を有す、食料となすに宜し、野獸も亦之を食すと云ふ、

タン(痰) **生英** Phlegm. 喉頭、氣管、氣管支、並氣管細支等の内面粘膜より分泌する粘液排泄物にして、「セキ」と共に口腔に送らるるものを云ふ、
タンイオン(單イオン) **化英** Simple ion. 一種の元素より成れる「イオン」を單「イオン」と稱す、例へば水素イオン「鹽素イオン」「ナトリウムイオン」等の如し、
タンイゼーシヨク(單爲生殖) **動英** Parthenogenesis. 雌のみにて繁殖作用を行ふことなり、例へば「アリイキ」の如く、夏時交接することなくして、子を産むことをいふ、

タマム

タニツシン(單一振子) **物英** Simple pendulum. 單振子を見よ、

タニツキカイ(單一機械) **物** Simple machines. 槓杆、滑車、輪軸、斜面、楔、螺旋を總稱して、單一機械といふ
タンカ(炭化) **化英** Carbonisation. 炭になることなり、

タンカサヨ(炭化作用) **鑛英** Carbonization process. 太古の植物朽敗して、沼地に堆積し、又は河口に流出して土砂に蔽はれ、酸素の供給不十分なるが爲に、分解作用十分に行はれず、たゞ游離し得べきものは、僅かに游離し去りて、後に炭素の大部分を留め、幾多の星霜を経て、遂に今日の石炭となるに至れり、此くの如く、植物の炭素化することを炭化作用と云ふ、

タンカザン(單火山) **地英** Simple Volcano. 簡單なる火山にして、寄生火山を有することなきものをいふ、
タンカスイソ(炭化水素) **化英** Hydrocarbon. 炭素と水素との化合物を炭化水素と云ふ、例へば「メタン」(CH₄)、エタン(C₂H₆)、「エチレン」(C₂H₄)、「アセチレン」(C₂H₂)、「ベンゼン」(C₆H₆)等の如きものなり、
タンガン(單眼) **動英** Simple eye. 節足動物の有する一種の眼にして、其の中には一個の水晶体を有するのみ、

タンイ

タンキニー(段丘)地英 Terrace 溪谷の底部、河岸に沿ひ階段状をなせる平地を云ふ、是れ嘗て河底たりし處なるが、水流の作用に變化を生じて、一層深く之を侵蝕したるが爲に、今は丘陵状をなすに至りたるものなり、其の水流變化の原因一ならず、或は洪水により、或は上流より運搬する土砂の量の減少せるにより、或は下流の地にて、水深を増加したる影響により、或は又此の地方の地層の變動により、河道傾斜の度増加せし等、其の主要なるものなり、

タンゲンビキョー(單顯微鏡)物英 Simple microscope. 蟲眼鏡を見よ、

タンゴ(淡湖)地英 Fresh lake. 淡水湖に同じ、

タンゴ(炭坑)鑛 炭田に於きて、石炭を採掘する坑を云ふ、

タンゴ(斷口)鑛英 Fracture. 鑛物を破碎して、破片に生ずる所の面が劈開面にあらざる時は、通例不定の破面をあらはすものなり、其の面を斷口と云ふ、斷口には(一)貝殻状(Conchoidal)例、石英、硝子、(二)多片状(Fragmentary)例、燧石、(三)絨狀(Frubby)例、金屬、(四)土狀(Earthly)例、土、等の種類あり、

タンゴキョー(淡紅銀鑛)鑛英 Proustite. 六方晶系にして、略濃紅銀鑛に類し、コチニール紅色なり、條痕色

も之と同色にして、時に空紅色なることあり、常に輝銀鑛、濃紅銀鑛に伴ひて生ず、産地も濃紅銀鑛に同じ、成分は Ag_2S ナンタニにして六十五「パーセント」の銀を含む、製銀用の鑛物として必要なるものなり、

タンシ(單根)化英 Simple radical. 一種の元素より成れる根を單根と稱す、Na、Cl等の如し、

タンシロイ(單孔類)動 Monotremata. 單孔類は哺乳類に屬す、深洲及び其の近島に産し、唯「カモノハシ」及び「ハリモケラ」の二屬あるのみ、此の類は生殖上井に生殖法に於て、鳥類若くは爬虫類に近縁を示すものにして、排泄腔あり、即ち泌尿生殖器は肛門内に開口す、鎖骨及び鳥喙骨の長く發達せること、猶ほ鳥類に於けるが如し、口吻長じて嘴状を爲し、真正の齒は全く闕如せり、眼は小形にして瞬膜あり、耳に外殻を具へず、四肢短く、指趾五ありて銳爪を具し、以て地を穿つに便す、雌雄共に袋骨を有し、卵生なり、而して乳房は乳房を爲さずして直に皮面に開口す、

タンサイホードーツ(單細胞動物)動 全體が一個の細胞よりなる動物をいふ、「アメーバ」の如き即ち是なり、

タンサン(炭酸)化英 Carbonic acid H_2CO_3 . 炭酸は二酸化炭素を水に通じて得らる、此の酸は非常に不安定なれば、水溶液を熱し若しくは蒸發する時は、容易く分解し

て二酸化炭素及び水となる、
 $H_2CO_3 = CO_2 + H_2O$

炭酸は二個の水酸根を含有する二鹽基度の酸なり、

タンサンイオン(炭酸イオン)化英 The Ions of Carbonic acid. 炭酸は二鹽基性酸なるを以て、二種の「イオン」を生ず、即ち一は二價の「イオン」(CO_3^{2-})にして、一は二價の「イオン」(CO_3^{2-})なり、炭酸は弱酸なるを以て解離すること少量なり、二種の「イオン」中、前の一價の「イオン」は、二價の「イオン」よりも少しく多量に生ず、水溶液に於ては、主として一價の「イオン」を生ずるを以て、炭酸の特性は此の「イオン」による、

タンサン(炭山)鑛 「タンゴ」炭坑に同じ、

タンサンアモニウム(炭酸アムモニウム)化英 Ammonium carbonate. $(NH_4)_2CO_3$. 炭酸「アムモニウム」は白色の固體にして、「アムモニヤ」の如き強き臭を有し、水に容易く溶解す、之を五十八度に熱すれば、分解して二酸化炭素、水及び「アムモニヤ」となる、通常炭酸「アムモニヤ」と稱するものは、礫砂又は硫酸「アムモニウム」を石灰石末と共に熱して得る所の白色の結晶塊にして、炭酸「アムモニウム」、炭酸「アムモニウム」水素及び「カルバミン」酸「アムモニウム」の混合物なり、此の物は試薬として有用なり

タンサンガス(炭酸瓦斯)化 二酸化炭素に同じ、

タンサンカリ(炭酸加里)化 炭酸「カリウム」に同じ、

タンサンカリウム(炭酸カリウム)化英 Potassium carbonate. K_2CO_3 . 草木を燃焼する時は、其の中に含有せる「カリウム」の化合物は、主に炭酸「カリウム」となりて殘留す、されば木灰に水を加へて溶質を溶解せしめ、之を蒸發乾涸して得る所の固體中には、割合に多量の炭酸「カリウム」を含めり、此の溶液を俗に灰汁と云ひ、其の固體を「ポタース」と稱す、昔時は炭酸「カリウム」を多く木灰より製せしが、今は甜菜の糖蜜、羊毛の洗汁、或は硫酸「カリウム」により多量に製す、炭酸「カリウム」は、白色の固體にして、空氣中に放置する時は容易く潮解す、常温にては其の二分は一分の水に溶解す、其の水溶液は強き「アルカリ」性の反應と苛味とを有す、此の物は他の「カリウム」化合物、硝子、石鹼等の製造に多量に用ゐらる、

タンサンコト(炭酸孔)地 火山の附近にありて、炭酸、酸化炭素を噴出する孔をいふ、

タンサンスイ(炭酸水)化 炭酸瓦斯を多量に溶かしたる水なり、「ラムネ」等の如し、

タンサンストロンチウム(炭酸ストロンチウム)化

英 Strontium Carbonate. SrCO₃. 此の物は天然に「ストロンチウム」礦 Strontianite SrCO₃として存す、白色の斜方結晶體にして、其の性方解石に類す、又炭酸「ストロンチウム」は「ストロンチウム」鹽の水溶液に炭酸「アルカリ」を加ふるときは、白色の沈澱として得らる。

タンサンゼン(炭酸泉)地鑛英 Carlinated Spring. 炭酸石灰を多量に含有する鑛泉にして、其の近傍には石灰華の堆積を見ること多し。

タンサンジダ(炭酸曹達)化 炭酸「ナトリウム」に同じ。

タンサンダイイチマンガン(炭酸第一マンガン)化 英 Manganous carbonate. MnCO₃. 此の物は自然には菱「マンガン」礦となりて存在す、第二「マンガン」鹽の溶液に炭酸「アルカリ」を加ふれば、炭酸第二「マンガン」の淡綠色の沈澱を生ず、此の沈澱に酸を加ふれば容易く溶解す、又熱すれば分解して四酸化「マンガン」Mn₂O₄及び二酸化炭素となる。

タンサンダイイチテツ(炭酸第一鐵)化 英 Ferrous carbonate. FeCO₃. 此の物は菱鐵礦となりて自然に存在す、淡綠色の結晶なり、純粋の水には溶解せざれども、二酸化炭素を含有せる水中には溶解するを以て、往々鑛泉中に含有せらるること、伊香保、有馬の溫泉にて見るが如し。

第一鐵鹽の溶液に炭酸「アルカリ」を加ふれば、炭酸第一鐵の白色の沈澱を生ず、空氣に觸るれば、酸化せられて二酸化炭素及び水酸化鐵となる。

タンサンドーカサヨ(炭酸同化作用)植英 Carbonic acid Assimilation. 植物が、炭酸瓦斯と水とより有機物を作る作用を、特に生物に通ずる同化作用より區別して、之を炭酸同化作用と稱す。

タンサンナトリウム(炭酸ナトリウム)化 英 Sodium Carbonate. Na₂CO₃.

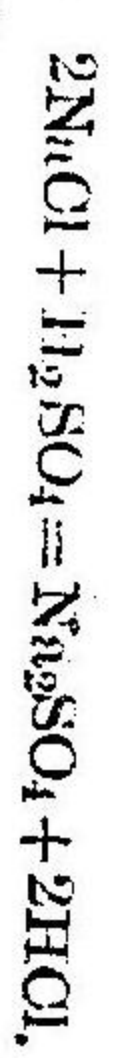
タンサンナトリウムセーシツ(炭酸ナトリウムの性質) 炭酸「ナトリウム」は水に容易く溶解す、單斜柱狀に結晶せるものは通常十分子の結晶水を含有す、而して此の結晶を空氣中に放置する時は多少水分を失ひて風化す、三十三度及び七十度にて最も多量に水に溶解する性あり、而して其の水溶液は「アルカリ」性反應を呈し、不快の鹹味を帯ぶ、硝子、水酸化「ナトリウム」其の他の製造工業に用ゐらる。

タンサンナトリウムセーホー(炭酸ナトリウムの製法) 俗に炭酸曹達又單に曹達と稱す、其の用途極めて廣し、現今は食鹽より多量に製造す、食鹽より炭酸「ナトリウム」を製する法三あり、「ルブラン」(Le Blanc)氏の法及び「ソルゲエー」(Solway)氏の法及び電気分解法是れなり、其の概

略は次の如し、

(第一)「ルブラン」氏の法 此の法に於ては、食鹽は三様の化學的變化を受けて、炭酸「ナトリウム」となる。

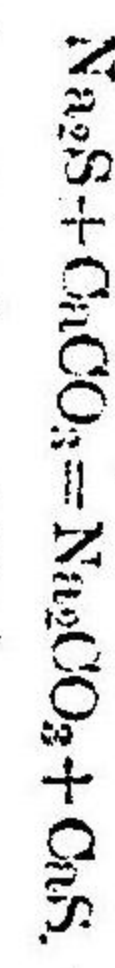
(1)、食鹽を硫酸と共に熱して、硫酸「ナトリウム」を生ぜしむ、



(2)、(1)にて得たる硫酸「ナトリウム」を石灰末と共に熱して硫酸「ナトリウム」を生ぜしむ、即ち



(3)、次に硫酸「ナトリウム」に石灰石末を加へて熱し、炭酸「ナトリウム」と硫酸「カルシウム」を生ぜしむ、即ち

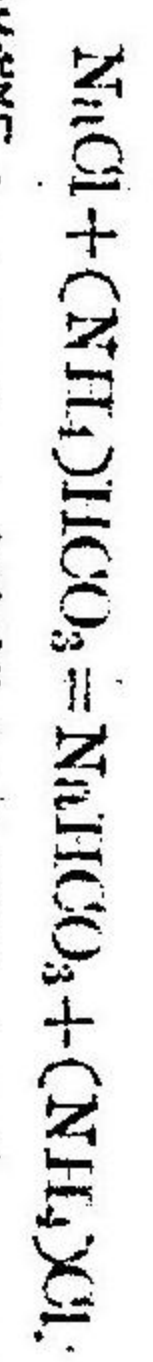


硫酸「ナトリウム」より炭酸「ナトリウム」を生ずる化學變化を一の方程式にて示す時は次の如し、

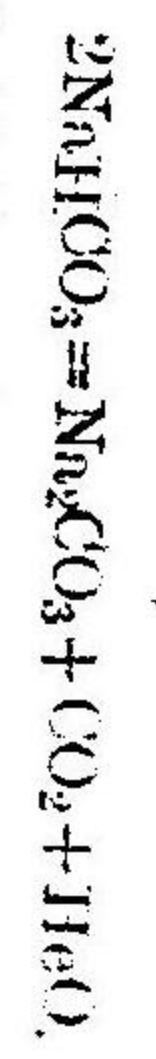


(第二)「ソルゲエー」氏の法 此の法は一名「アンモニア」法と稱す、歐米にては此の法に依りて多量に炭酸曹達を製造す、此の法は食鹽の濃厚なる溶液に炭酸「アンモニウム」水を加へて飽和せしめ、之を冷却して、最初に炭酸「ナトリウム」水素と鹽化「アンモニウム」を生ぜしむ、而して前者は後者よりは水に溶解する性乏しきを以て、溶液を放冷す

る時に液中より最初に結晶す、よりて之を鹽化「アンモニウム」より分別するものとす、其の化學的變化は次に示すが如し、



今此の炭酸「ナトリウム」水素を乾燥せしめ、之を熱する時は容易に二酸化炭素を放ちて炭酸「ナトリウム」となる、即ち



(第三)電気分解法 細長き箱を石絨の板にて三つに區分す、而して石絨の外部には銅製の金網を張り、真中の室に海水を入る、石絨の爲に海水は其の兩側の室には漏れせず、この海水中に數本の瓦斯炭を入れて陽極とし、金網を陰極となして電氣を通ずる時は、鹽素瓦斯は陽極より出づるを以て之を石灰を充したる室に導きて漂白粉を製す、又陰極に生じたる「ナトリウム」は石絨板を通して兩側の室に入り、其の中に入れたる水と化合して苛性曹達となる、これと同時に兩側の室には、水蒸氣及び二酸化炭素瓦斯を通じて、之を炭酸曹達となす、是を洗ひ落して十分に濃厚ならしめたる後冷却すれば、結晶を析出すべし、此の法によりて得たるものは、炭酸曹達の九割七分乃至九割八分を含み、僅に食鹽を含めるを以て、可なり純粋なるものなり、此の法は前

の二法より手数少く結果良好なれば、後來廣く行はるるに至らんこと必せり、

タンサナマリ(炭酸鉛)化英 Lead carbonate. $PbCO_3$ 硝酸鉛の溶液に炭酸アンモニウムを加ふれば、炭酸鉛の白色の沈澱を得、

タンシ(彈絲)植英 Filator. 苔類の雌器托は、卵子受精後發育して、子囊體を形成し、其の中に數多の胞子及彈絲(絲狀物)を生ず、此の彈絲は主として胞子を

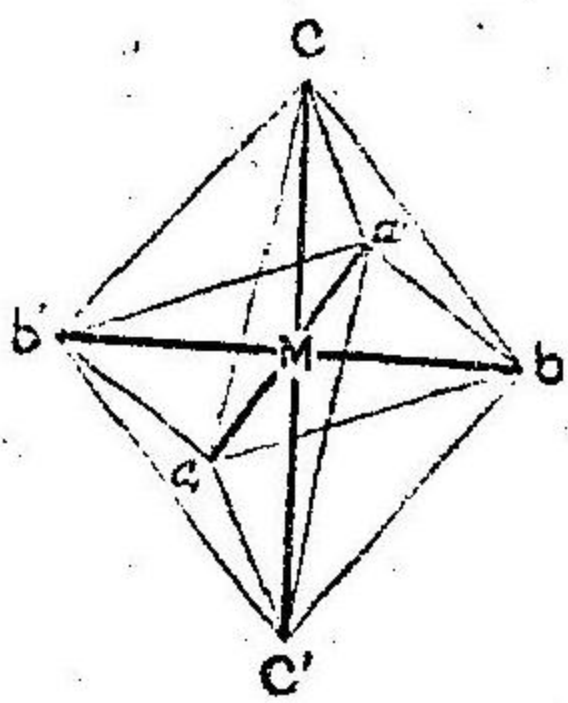


飛散せしむる用をなすものなり、「ツクシ」の胞子に存する風受も、亦彈絲の名あり、圖は「セニユケ」の彈絲を示す、

タンズイ(單雌蕊)植英 Simple pistil. 一花に單一の雌蕊の存することを云ふ、「エンドー」豌豆の如し、

タンシホー(單子房)植英 Simple ovary. 單雌蕊又は各分離せる雌蕊の子房にして、通常、唯一の房室を以て成るものを云ふ、故に又單胞と云ふ、

タンシヤシヨウケ(單斜晶系)鑛英 Monoclinic system. 三軸長さを異にし、二つの側軸は互に直交し、主軸は一つの側軸と斜交すること圖の如し、主軸に斜交する側軸を斜軸、主軸に直交する側軸を正軸とす、CCは主軸にし

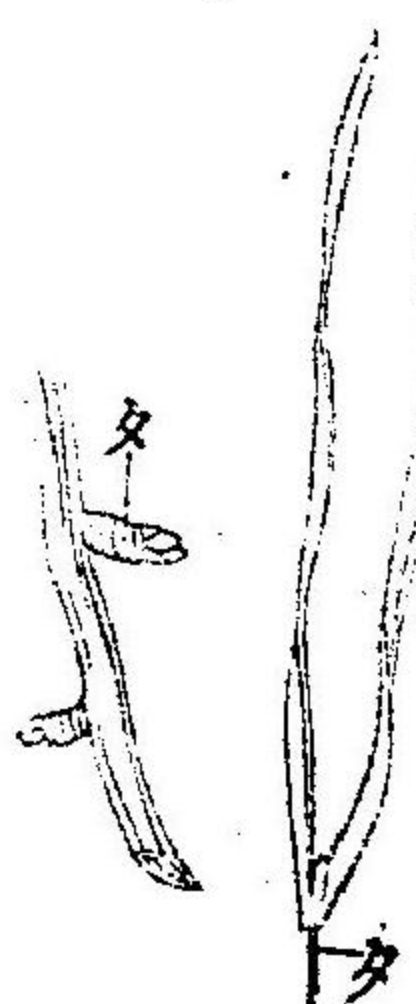


て、bbは正軸、aaは斜軸なり、而して軸の取り方は、主軸を直立せしめ、斜軸を前後におき、其の主軸と交りて生ずる鈍角を前方に向はしむ、

タンシユンリ(單純林)植 同一種の樹木よりなる森林なり、例へば杉單純林の如し、

タンシユ(膽汁)生英 Bile. 肝臓の作用により血液中より搾取分泌する汁液をいふ、其の味甚た苦く、よく脂肪を乳狀に化せしめ、以て腸壁を通過し易からしむ、

タンシヨ(短條)植英 Dwarf shoot. 條(枝)全體の伸長極めて僅少なる爲に、葉は密集して葉間の莖をあらはさざるものを云ふ、例へば、松の養生葉の枝の如し、故に二葉の松、五葉の松は、共に一針葉を以て一個の葉と見るべく、只二葉又は五葉が短縮せる條上に排列せる結果、一點より叢生せるが如き觀を呈す、其の他「イテフ」銀杏の短



葉の如き觀を呈す、其の他「イテフ」銀杏の短

き枝、顯花植物の花の如きも、亦短條に屬するものなり、圖に示すは「マツ」及「イテフ」の短條なり、

タンシヨウケ(單子葉莖)植英 Monocotyledonous stem. 一個の子葉を有する植物の莖を云ふ、禾本科の莖の如き是なり、

タンシヨシヨシツ(單子葉植物)植 Monocotyleae.

〔一〕發芽の際、一個の子葉を生じ、〔二〕維管束は有限性にして、莖の横断面に散在して現る、〔三〕葉大抵狹長にして、平行脈を有す、例へば稻、百合の如き之に屬す、

タンシヨニエト(蕈狀乳頭)生英 Functiform papilla. 舌面にある突起物にして、先端球形をなし、蕈狀をなし、廣く舌面に散在せり、藪は正音シンなり、

タンシ(單振り)物英 Simple pendulum. 伸縮することなく、且つ重量なき絲の一端に、重をありて懸積なき錘を結び附け、左右に振動せしめ得べきものを、單振り又は單一振りと稱す、此の如きものは、實際あることなく唯想像に過ぎざれども、伸縮し難き細き絲の一端に、小さくして重き球を吊れば、殆ど單振りに似たるものを得べし、今振子の長さ l とし、其の所の重力の加速度を g とし、圓周率を π とする時は、其の一振に要する時間 T を示す公式は、次の如し、

タンシヨ(淡水湖)地 Fresh lake. 水の出口を有する湖水にして、其の水に鹹味其の他の味を有することなきものを云ふ、

$$T = 2\pi \sqrt{\frac{l}{g}}$$

タンキ(彈性)物英 Elasticity. 物體が、外部より力を加へられて、其の形狀又は立積に變化を生ずることあるも、其の力を去るときは、故の形狀に復歸する性質を彈性といふ、彼の象牙球を床板上に落とすときは、よく高く彈れ上がるは、象牙球に彈性あるが爲にして、護謨板を引き延ばすときは長くなるも、一方の手を放つときは、直に舊形に復するは、其が彈性を有するによるものなり、

タンキユ(彈性護謨)化英 Elastic gum. 彈性護謨 (C_5H_8) X は、熱帶地方に産する二三の植物(例へば「オイフォルビヤセン」)より滲出する液汁の樹脂化したるものにして、空氣中にありて酸素を吸收す、硫黄を以て處分すれば護謨管等に製するを得べき含硫護謨を得べし、

タンセーカ(單性花)植英 Unisexual flower. 雄蕊雌蕊が各別花にあるものを云ふ、

例、「ハシバミ」榛、「カシハ」榊、「ヤナギ」柳、「スゲ」菅等、

タンセータイ(彈性體)物英 Elastic body. 彈性體

は、弾性を有する物體にして、各種の瓦斯體、象牙、護膜、鋼鐵及び大理石等の如きものなり。

ダンゼーノサイゲン(彈性の界限) **物 Limit of elasticity.**
鋼鐵の針金を螺旋狀に巻き、之を少しく引き延ばして放すときは、直ちに原形に復すれども、少しく引き延ばす時は、之を放すも、全く原形に復すること能はざるに至る、而して固體が、原形或は原容に復り得べき界限の變形或は變容を稱して、弾性の界限といふ。

タンシ(炭素) **化英** (Carbon. O 原子量 十二)

タンシノシヨサイ(炭素の所在) 炭素は、動植物の主成分たるのみならず、此等の化成品たる石炭、石油等に於ても、其の主成分を成し、砂糖、澱粉、纖維素、蠟等の如きは、主に炭素、水素及び酸素の化合物なり、又動物より得る所の多くの物體は主に炭、水、酸、窒の四元素より成ること、例へば蛋白質(鶏卵の白味)セラチン(膠)等に於けるが如し、且つ炭素は二酸化炭素となりて大氣中に存在し、生物の呼吸、有機物の腐敗、燃焼よりも生じ、或は火山噴出の際發生し、又は鐵泉と共に地中より噴出す。

又炭素が酸素及び「カルシウム」と化合して成れる炭酸「カルシウム」は、石灰石、大理石、白堊等となりて往々大山脈をなすものあり、此の如く炭素は極めて廣く且つ多量に自然界に存在するものなり。

界に存在するものなり。

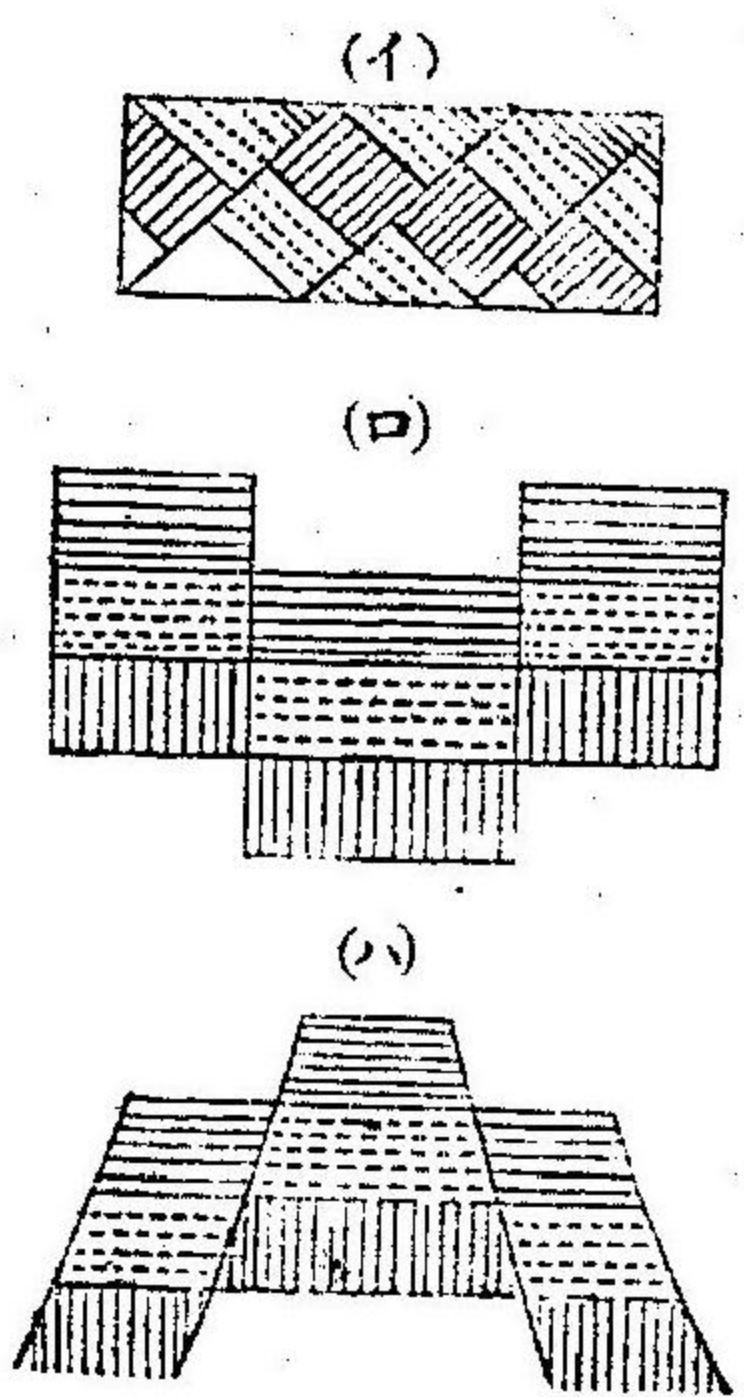
タンシノセーシツ(炭素の性質) 金剛石、石墨(黒鉛)、木炭、骨炭、石炭類、コークス、瓦斯炭、油煙等は、何れも主として炭素より成り、多少の雜物を混有せり、此等の各種の炭素は其の色澤、形狀、比重等が各相異なるのみならず、其の電氣及び熱を傳導する性に於ても亦著しく相異れり、例へば石墨、コークス、瓦斯炭は電氣の良導體なりといへども、木炭は其の性に乏しく、金剛石は全く此の性を有せず、又石墨、無煙炭は熱を傳導する力木炭に勝れり、此くの如く異なる炭素の物理學的性質は、或點に於ては著しき差異を表すれども、他の點に於ては共通なるものあり、即ち各種炭素は、皆無味無臭にして液體に溶解せず、通常の溫度に於ては不活潑の性質を有し、他物と化合する性なし、然れども高溫度に於ては窒素、硫黃等と化合し、殊に容易く酸素と化合して二酸化炭素瓦斯を生ず。

炭素は高溫度に於て容易く酸素と化合するを以て、之を金屬酸化物と共に熱する時は、其の酸素を抽出して金屬を游離せしむ、即ち炭素は有力なる還元劑なるが故に、冶金術に於て、礦物に「コークス」或は木炭等を加へて熱し、以て金屬を還元せしむるに使用すること多し。

タンシ(炭層) **地鑛英** (Coal seam. 石炭が「バン

ク(Bank)をなせるときは、之を炭層と云ふ。

ダンシ(斷層) **地鑛英** Fault. 正しき地層に破壊を生じ、其の中の一部若しくは數部が、上若しくは下或は左右に滑べりて、地層の連絡を缺くに至るときは、之を斷層と稱す、即ち地層の喰違ひなり、而して此



の斷層は所謂地じ地震の原因となる。

種類(イ)階狀斷層(ロ)渠狀斷層(ハ)堤狀斷層等あり。

ダンシヤン(斷層山) **地英** Mountain by Faulting. 地殼の一部が、其の裂罅に沿ひて或は陥落し、或は隆起するときは、一方の地は他に比して高く聳え、斷層山を造るべし、秩父山系の西方、千曲川に臨む處に、其の適例を見るを得べし。

ダンシヤン(斷層山) **地英** Mountain range by faulting. 斷層により、土地の一部が地面上に突出することあり、又其の下に陥落することあり、前の場合には其の突出せし部分は山となり、後の場合には跡に残りし部分は山

タンソ

となる、此等の宏大なるものを斷層山と云ふ。

ダンシジン(斷層地震) **地英** Earthquake by faulting. 地熱放散して地殼收縮する結果として、地殼に裂罅を生じ、地殼の一部に沿ひて上下に移動したるものを斷層と云ひ、其の急激なる變動に伴ひて起る地震を稱して、斷層地震又は地じ地震と云ふ、其の震動の區域大にして、且つ激烈なるもの夥からず、本邦にて平常感する地震は多く是なり。

タンタイ(單體) **化英** Simple substance. 異なる二のものに分解し得ざるものを單體と稱す、例へば酸素瓦斯、水素瓦斯、金、銀等の如し。

タンタイン(單體雄蕊) **植英** Monadelphous stamens. 多くの雄蕊が、互に花絲にて連りて一束をなし、葯部は全く相離るるものを云ふ。

例へば「セニアフロ」錦葵、「ツマキ」山茶、「ハウチハヤメ」等の如し。



タンチヨール(丹頂鶴) **動** (Gnus japonensis. 頭頂に赤色部ある「ツル」をいふ、尾端に黒毛ある如く見ゆるは、翼の

タンソ

内縁にある黒煙による、朝鮮、滿洲等に棲息す、「ツル」の聲の高きは、氣管が體腔内に迂曲し、其の末端即ち氣管支との界に聲帯ありて發聲するによる、恰も多く巻きて出づる「ラッパ」の音が、然らざるものより高きが如し。

タンテツ(鍛鐵) 化英 Wrought iron. 鑄鐵の含有せる炭素、燐、珪素等を減すれば鍛鐵となる。鍛鐵は其の質粘靱にして延性を有す、鑄鐵よりも遙に熔け難し、凡千分の六の炭素を含有し、尙ほ其の炭素の量の減するに従ひて延性を増し熔け難くなる、赤熱すれば鍛接することを得、其の法を行ふに當りて鐵を熱するには、豫め其の面を被ふに少許の硼砂若しくは粘土を以てす、然る時は硼砂若しくは粘土中の二酸化珪素は鐵面の鏽と結合して熔滓を造り、其の鍛接せんとする面を清潔ならしめて接合を容易ならしむることを得べし。

タンデン(炭田) 鑛 炭層の多き地を云ふ。

タントールイ(單糖類) 化英 Monosaccharide.

葡萄糖、果糖等の如く、「アルデヒド」「アルコール」若しくは「ケトンアルコール」にして、一個若しくは數個の水酸根を有し、其の中の一つは「カーボニル」Oに直接せる炭素原子に結合するものないふ、單糖類は加水分解を爲さざるものにして、他の複糖類を加水分解すれば皆單糖類に變ずる

なり、單糖類は何れも水に溶け易く、甘味を呈するものなり、葡萄糖、果糖等之に屬せり。

タンニン(單寧) 化英 Tannic acid. $C_{12}H_{16}O_6 \cdot 2H_2O$. 又單寧酸と稱す、單寧は無色塊狀の物體にして、容易に水に溶解す、「アルコール」には溶け難く、「エーテル」には殆ど不溶なり、五倍子の主成分をなし、又茶の中に存す、桑の皮、柿の實の液も亦之を含むに由る、稀酸と共に煮沸するときには没食酸を生ず、逆に没食酸を酸鹽化磷 HPO_4 を以て處理し、水を分離すれば單寧酸を製することを得、單寧は膠を加ふれば沈澱す、又單寧の溶液に鹽化第二鐵を加ふれば青色を生ず、動物の皮及び膠と強き結合力を有するを以て、鞣皮を製するに用ゐる。

タンニンサン(單寧酸) 化 「タンニン」(單寧)を見よ。

タンノイ(膽囊) 生 Vesicula fellea. 肝臓にて血液中心より搾取せる膽汁を一時貯ふる囊をいふ、肝の前面に近き裏面にあり、俗に動物の「イ」と云ふは即ち是なり。

タンバクシツ(蛋白質) 化英 Albumen. 蛋白質は炭素、水素、窒素、酸素及び硫黄の化合物なれども、其の分子式等は未だ明かならず、然れども營養上甚だ重要なものなることは夙に知られたり、卵白、「フィブリン」カゼイン「レグミン」「ゲルテン」「ゼラチン」「メプトン」等の種類あり

り、各の條下を見よ。

タンバクキ(蛋白石) 鑛 Opal. (一)非晶質にして、塊狀、腎狀、鍾乳狀、土狀等をなす、(二)斷口は貝殻狀(三)玻璃光澤乃至樹脂光澤又は眞珠光澤(四)白色、黑色、黄色、褐色、青色、赤色、綠色、無色透明なるものあり、(五)硬度五・五—六・五(六)比重一・九乃至二・三(七)成分は SiO_2 常に三乃至九分の水を含み、多くも二十一分を越ゆることなし、(七)反應……閉管中に熱すれば水を生ず、又苛性カリに溶解す、(八)識別……硬度、晶形、水の有無及苛性カリの反應を以て石英と區別す可し、(九)現出、岩石の空隙を充たし、木化石の成分をなし、又は鑛泉より生じて堆積す、蛋白石の亞種甚だ多し、

- 一、貴蛋白石 (Precious opal) 美色をおび、往々變彩色を有す。
- 二、火蛋白石 (Fire opal) 半透明にして乳白、黄色等の色を呈することあるも、多く紅色にして火様の光輝を發す。
- 三、眞珠華石 (Pearl sinter) 葡萄狀或は鍾乳狀をなし、黝白色をおび、眞珠光澤を有するものを云ふ。
- 四、常蛋白石 (Common opal) 普通種にして、樹脂光澤を有するものなり。

- 五、半蛋白石 (Semi opal) 樹脂光澤を有すれども、其の光澤の薄弱にして、又暗色を呈するを常とす。
- 六、玉滴石 (Hyalite) 無色透明にして、強き玻璃光澤あるものを云ふ、通常、魚卵狀を呈し、温泉中より SiO_2 の分離するによりて生ずるもの多し。
- 七、鐵蛋白石 (Ferrous opal) 酸化鐵を含み、不透明にして、色は赤、黄、褐、綠等なり。

(産地) 貴蛋白石は産出稀にして、中央亞米利加之「ホンテラス」「ハンガリ」「メキシコ」等に出づ、本邦にては只加賀に産するのみ。

火蛋白石、眞珠蛋白石も稀産のものなり、「フエロー」島に美なるものを産す、本邦には産出なし。

常蛋白石、半蛋白石は、外國本邦共に産す、岩代、肥後、越後、上野等にあり。

玉滴石は温泉の堆積物中に現はる、合衆國「エルロースト」温泉に良品を産す、本邦にては越中、信濃、豊後に球狀の微小粒を産す。

(效用及價格) 貴蛋白石、眞珠蛋白石、美種の常蛋白石は、指輪、鈕玉等の如き裝飾玉に用ゐる、貴蛋白石は其の價甚だ貴きものにして、曾て埃國の首府維納の寶石商が、其の大き凡一片の團子の塊の如きものを有せしが、其の

實價は五萬六千圓なりき。

タンビン(膽礬)鑛英 Chalcanthite. 硫酸銅にして、人造のものと同じ。他の銅鑛の分解物として諸處の銅山に産す。色は美藍色にして、水に溶解し易し。本鑛の溶液中に鐵を投じて、之より銅を分離することを得べし。染料、顔料、電氣製板等に用ひて、其の功用殊に廣しとす。三斜晶系に屬する結晶をあらはす。

タンビン(膽礬)比英 Blue vitriol. 硫酸銅に同じ。

タンモカ(單被花)植英 Monochlamydeous flower. 萼又は花冠の一方を缺知するものを云ふ。「アカサ」藜。「オキナグサ」百頭翁。「イチリンソウ」雙瓶梅の如し。

タンビョー(短苗)植 短條に同じ。

タンビレイ(彈尾類)動英 Elysanina. 彈尾類は、昆蟲類中最下等の者にして、其の嘴咬に適する口器は不完全なり。且つ翅を缺き、發生中に變態を爲さず。一對の單眼あり。全體に毛若くは細鱗を被り、尾端には長毛を生ずるものあり。或は劍狀物を具へ、以て地を彈きて跳行するものあり。「シミ」「ハネムシ」等此に屬す。

タンボボ(蒲公英)植 Tanacetum officinale wiggs. var. glaucescens Koch. 菊科に屬する多年生草本にして原野到處に生ず。花は黄色又は白色のものあり。春夏を

花時とし、全世界に廣く散布す。往々群落をなす。蛇、蝶、蜂、等によりて受粉す。所謂蟲媒花なり。葉を食用とし、根及葉を共に藥用とす。苦味つよくして健胃劑に適す。

タンボボノカシツ(蒲公英の果實)植 「タンボボ」は菊科植物にして、其の乾燥果の冠毛は、風力によりて其の散布を助けんが爲なり。冠毛は花後日を経ざる若き果實にては、雨天には濡れたる水筆の如く湖み、晴天には放射狀に開きてよく風を受く。

タンモ(單毛)植英 Simple Hair. 上皮の一細胞より形成する毛を云ふ。此に種々あり。A根毛(一般植物)B綿の種毛(綿)C剛毛、d有枝單毛(十字科の一種)e嫩毛(イラクサ)F短板毛(ニホヒアラセート)等は其の主なるものなり。

タンモ(單葉)植英 Dimple leaf. 單一の葉身にて成り、其の葉柄は葉身に入りて、直に肋となれるものを云ふ。例へば「サクラ」櫻。「ツバキ」山茶。「ウメ」梅。「モモ」桃等の如きはなり。

タンリ(暖流)地英 Hot ocean-current. 大洋の赤道兩側にあり、西方に流れて其の西岸の大陸に衝突するや、之に沿ひて北又は南に流れて灣流をなし、其の中央に水波靜穩なる部分を存する海流をいふ。

タンリョク(彈力)物英 Elastic force. 外部より力を加へて、物體の容積又は形狀を變ずる時は、之がため、物體内に外力に抵抗して物體に歪を生ぜざらしめんとする力を生ずるものなり。此の如き力を彈力と稱す。

タンリョク(彈力)植 彈力護謨製出用樹木に、左の四種あり。

(一)「エラミチヨムノキ」(Ficus elastica Roxb.)

桑科の植物にして木本なり。長楕圓形の厚き大葉を有し。花は「イチヤク」の花に類し、臺灣琉球に産す。

(二)「ガラゾーニホット」(Kalanhot Ghazwii Mill.)

大戟科の樹木にして、南米「ブラジル」の原産なり。此の樹液より一種の「ゴム」を製す。

(三)「ブラジルヘベア」(Hevea Brasiliensis Mill. A.D.)

大戟科の木本にして、複葉は三小葉よりなる。花は單性にして小さく、雌雄の異花を同株に生ず。

(四)「ランドルヒヤ」樹類

熱帯「アフリカ」に産し。全縁對生葉の灌木又は攀緣木にして、白色又は蔷薇色の花を開く。球狀の實を結び、革質の殻を以て包まれ、土人好んで之を食ふ。

以上の樹木の皮を傷け流出する樹液を採集して、「ゴム」を製す。

タメシイタ(驗し板)物英 Proof plate. 驗し板とは、絶緣體の棒の先きに金屬の小片を着けたるものにして、之を以て發電せる物體、又は帶電せる物體の電氣密度を知るに供す。之を用ふるには、之を物體に觸れて其の電氣を傳へ受け、次で之を驗電器に接し、其の電氣の如何を知るなり。

タラ(鱈)又大口魚(動) (Lichus Brundinii 英 Cod-fish. 北海道特に天鹽海岸に多く産する軟鱈類にして、背部は淡黒色に稍淡黄を帯び、腹部稍淡く、頭腹部に微小黑點あり。體長三尺餘に達す。晝間は岩礁間に棲息し、夜間出でて魚群を襲撃し、之を暴食す。

タラノキ(榕木)植 Avicula tinensis L. 五加科の木本なり。複葉は數多の小葉よりなる。花は白色にして、莖に鋭き針を有す。嫩枝を食用とす。一種の芳香あり。

タリツ(楕率) Ovalateness or Ellipticity. 天體の楕率とは、其の天體を其の回轉軸を軸とする回轉楕圓體と考へたる幾何學上の楕率のことなり。即ちaを以て赤道半徑を表はしbを以て軸の半分を表はせば、楕率の公式は次の如し。

楕率 = $\frac{a-b}{a}$

タルンヤギク 植 Pyrethrum Cinerariaformis. 菊科植物にして、花は大形白色なり。花部密生し、多肉なり。

タメシ

四一一

之を陰乾にして、器械にてすりつぶして粉となす、上等の「ノミトリ」粉なり、又家鷄の羽蟲を去るに適す。
タール化英 「タール」石炭或は木材を乾溜する時に生ずるものにして、石炭より生じたるものは「ゴールタール」と稱す、木材より得たるものは「木タール」と稱す、「タール」中には多くの有用なる化合物を含めり、「コールタール」及び「木タール」の條を見よ。

チ

チ(血)生英 Blood. 「ケツエキ」に同じ。
チエキタイ(チエ)キ體物英 Dielectric substance. 「チエレキ」體とは、其の局部が電氣を受けて、他の部分と如何に電氣密度異なるも、永久之を一様ならしむることなき物體にして、凡ての不導體はみな之に屬す。
チオチ(地殻)鑛英 Earth crust. 洞穴(水に溶解する岩石の)地面に近く存在するによりて起る、地面に近く地中に洞穴を生ずるに至れば、其の上の地層は支へられずして落下す、之を地落ちと云ふ。

チオフェン化英 Thiophene C₄H₄S. 「チオフェン」中に存す、「チオフェン」は無色の液體にして、「ベンゼン」の如

き臭氣あり、二十三度に於ける比重は一・〇六二なり、固體の二酸化炭素及び「エーテル」の混合物中に置くときは結晶體となる。

チオリユーサンチトリウム(チオ硫酸ナトリウム)化英 Sodium thiosulphite. 此の物は普通に次亜硫酸曹達と稱するものなり、亞硫酸「ナトリウム」に硫黄末を加へて熱するも生ず、五分子の結晶水を含む透明の大結晶にして、安定にして善く水に溶解す、水に不溶性の銀の化合物(例へば鹽化銀等)を溶解するが故に、寫眞術に於て銀鹽の溶解劑として用ゐらる、酸化劑に遇ふ時は容易く酸化するを以て、抄紙綿布の漂白等に於ては、鹽素の消滅として用ゐらる。

チカク(地核)地鑛英 Earth nucleus. 地球の内部猶ほ未だ鑛液の状態を維持せる部分を云ふ。

チカク(地殻)地鑛英 Earth Crust. 地球外部の固形部を云ふ、一般に學者の信する所によれば、其の厚さは、地球半徑の四分の一、乃至五分の一に達すべしと云ふ。

チカクノコノ(地殻の構造)地英 Structure of Earth crust. 地殻は、其の創成の際より今日の狀態なせるものならず、幾多の時代を経過し、各種の變動作用を受けて、遂に今日の如き複雑なる構造を見るに至りたるなり、

此の地殻を構造する物質を稱して岩石と云ひ、山嶽に露出する巨岩も、平野を蔽へる砂礫も、苟も其の地殻の成分たる以上は、其の質の硬軟如何を論ぜずして、皆此の名稱の下に總括せらるゝなり、岩石は其の成因により分ちて火成岩、水成岩、變成岩の三種となすを得べし。

チカクシケ(知覺神經)生英 Sensory nerve. 知覺のみを司る神經にして、脊髓の後根より出て分布するものなり、吾人が皮膚に於て痛、痒、温、壓を感じるは、皆此の神經によるなり。

チカケ(地下莖)植 Subterranean stem. 地下に存する莖にして、葉を有する事、裸出せる芽、節及節間を有する事により根と區別せらる、此に左の種類あり、

- (A) 根莖 (Rhizome).....ハヌ、ナルコネリ、
 - (B) 匍匐莖 (Stolon).....禾本科、
 - (C) 塊莖 (Tuber).....馬鈴薯、
 - (D) 鱗莖 (Bulb).....百合、葱、
 - (E) 球莖 (Corm).....水仙、クラフ井、
- チカスイ(地下水)地** 地殻内にある水をいふ、
チカミチ(近道)物英 Shortcut. 「シヤント」に同じ、
チカメ(近眼)物英 Short sighted eye. 近視眼を見よ。

チカヤ又ツバノ白茅又茅針 植 Imperata arundinacea Cyr. var. Koenigii Benth. Hack. 禾本科植物にして、春季白穂を抽くこと一二尺、其の嫩葉を食す可し、穂を「ホクキ」とし、又血止料とす。

チカラ(力)物英 Force. 静止したる物體が運動を始め、或は運動せる物體が静止し、又は運動の方向、速度等を變ずる所の原因を總稱して、力といふ。

チカラノクミナセ(力の組合)物英 Composition of Forces. 力の平行四邊形と同じ。

チカラノチーシヤホー(力の中斜法)物 中斜法とは數力が一物體に作用するとき、これらと同一の結果を與ふる所の一力、即ち其の合力を求むる法にして、其の方法は、作用する所の力幾何あるも、其の中の任意の二力を取り、其の着力點より各力の方向にその強さの割合を以て二直線を引き、之を二邊とせる平行四邊形を作り、其の着力點より對角線を引けば、其の對角線は、この二力の合力を表はす、次にこの合力と他の二力とを取りて、前法を用ひて其の合力を求め、逐次此の如くして、遂に全數力の合力を求むることを得べし。

チカラノツリアヒ(力の釣合)英 Equilibrium of forces. 二つ以上の力が一點に働きて、其の合力が零とな

る時は、これらの數力は互に釣合ひたりと稱す、二力の釣合ふためには、其の力の強さ相等しくして、方向全く反對なることを要し、三力以上の釣合ふためには、一力と他の残り數力の合力とが、其の強さ相等しく、其の方向全く反對なることを要す、

チカラノモーメント (力の能率) 物英 Moment 一つの點に關する或る力の能率とは、此の力の強さと、此の點より此の力の方向に至る垂線の長さとの積をいふ、此の點の周りを廻轉し得べき物體に、一定なる強さの力が及ぼす作用の大小は、能率の多少を以て測らるゝものなり、同じ點に關して數多の力の能率を考ふるには、其の臂を時計の針の運動と同方向に廻はさんとすると否とによりて、之に正負の符號を附す、

チカラヲ分析スル (力の分解) 物英 Analysis of force. 力の分解とは、一の力を以て合力とする所の二つ以上の力に分くることをいふ、

チキユー (地球) 地英 Earth. 地球の内部は、なほ酷熱なる物體の存在するものにして、地中の深處より湧き出づる泉水が高温度を有し、火山より噴出する熔岩が灼熱せる流動體をなせるが如き、鑛坑の底部にては、地表よりも高温度を感じるが如き、即ち此の證なり、此の地球固有の熱を稱

して地熱と云ふ、地球の球形をなすことは、海岸に立ちて、入港する船舶を望むとき、最初に其の橋頭を認め、漸次に其の船體を見るを得るによりて知るべく、又洋海をくは平原にて地平線は常に圓周を畫き、觀察者の地點を高むるに従ひ、その圓周内の面積從て増大するが如く、或は世界周航者が再び其の出發點に歸着するを得るが如き、皆以て其の證となすを得可し、されど地球は其の廻轉より生ずる遠心力の爲に、赤道の部分はやゝ膨大し、其の形は眞の球形をなさずして、橢圓體をなし、其の長短兩軸に於ける半徑の長さは、六三七七・三九七籽に對する六三五六・〇七九籽にして其の扁平の度は約三分一に過ぎざれば、殆ど球形に近きものなりとす、地球の比重は五・六にして、之を地殼の比重に比すれば大差あり、地殼を構造せる各種の岩石は平均二・八の比重を有し加之、地表の大部分は水を以て蔽はるゝが故に、之を推算すれば、地殼全體の比重は僅に二に過ぎざるべし、されば、地球内部は比重の大なる金屬を有するものたるを想像するを得べく、其の大部分は蓋し鐵なるべしと云へり、

チキユー (地球) 天英 Earth. 地球は、宇宙間に個立し殆ど球狀をなせる一の天體にして、其の中心を通過する所の殆ど一定せる直線の周圍に、凡そ一日の週期を以て自ら

回轉するものなり、

チキユーノカタチ (地球の形) 天英 Form of the Earth. 地球は、種々の事實により、其の形狀球狀に近きことを知る、其の證據となれる事實は次の如し、第一、地球は其の周圍を周ることを得、第二、地球上何處に於ても、港より出入する船の帆の出没するを以て、其の表面は平面ならずして、何所も凸狀をなすを知る、第三大洋中船にて地平線の深さを見るに、何所に於ても又何のれ方面にても同一なり、第四赤道より南或は北に行くに従ひ、緯度は赤道よりの距離に比例して變ず、即ち子午線が凡て圓狀をなす證なり、第五、月食の時地球の影が月に影するを以て見れば、其の影より地球の球狀をなすことを知る、

チキユーノオホイサ (地球の大きさ) 天英 Size of the Earth. 地球は其の形凡そ球狀をなす、測地學の研究によれば、地球の形は一つの回轉橢圓體にして、其の回轉の軸は地球の自轉の軸と一致し、赤道の方面に於て擴まれり、學者の測定によれば、六三七八二〇六・四米突なる長半徑と、六三五六八八三・八なる短半徑とを有す、但し此は「クラーク」氏に從ひたるものにして、其の兩半徑の差は二二「キロメートル」即ち凡五里程なり、

チキユーノキド (地球の軌道) 天英 The Earth

orbit. 太陽は、一年中に黃道上を西より東に一週す、此は日没に於て星を見れば、星は日々少しづゝ、東より西に進むことを見る、然れども實際は太陽が動くにあらずして、地球が動くなり、太陽より見れば、地球は太陽を焦點に有する或道の上一年に一週すべし、但し其の軌道の形は眞の圓にあらずして、太陽を一の焦點に有する橢圓なり、其の長徑及短徑は其の視直徑を計りて知ることを得、一月一日が視直徑最も大にして、七月一日が最小なり、地球が軌道上を廻轉する時畫く所の面積は、時間に比例す、從て運行の速度は太陽よりの距離に反比例するものにして、近日點近傍に於ける速度最も大にして、遠日點近傍に於ける速度は最も小なり、

チキユーノツン (地球の自轉) 天英 Rotation of the Earth. 太陽の日々東より西に運行出沒する如く見ゆること及地球の赤道にて膨れ居ることは、現今地球が自轉し居れりとの證據たること能はず、地球自轉の證據は、實に次の三つなり、第一、落體は其の落つる所は直下にあらずして夫れより少しく東の方に落つ、是れ地球自轉の爲、高處にある落體の有する惰性の然らしむる所なり、第二、「フーコー」氏の振子を用ふることはなり、高き一點より振子を吊下し之を振動せしむるに、其の振動の平面の向きが次第に右

の方に廻轉することを知れり、然るに振り子の振動平面は固より一定なるべき筈なれば、即ち地球が振り子の振動面に對し位置を變ずることを知るなり、第三貿易風の方角旋風の渦の巻き方等は、又地球自轉の證となる、

チキユノシツリョー (地球の質量) 天英 The Earth's Mass. 地球の質量を測るに數法あり、第一は山のある所の南北に於て、緯度の差を測定す、一は天文學上より他の一は測地學上よりす、此の二つの差を△とすれば、次の公式より地球の質量を測定することを得、

$$\frac{f}{R} = \frac{m}{M} \frac{R^2}{r^2}$$

f は山の引力、M は地球の引力、m は山の質量、R は地球の半径、r は振り子と山の中心との距離なり、
第二は、振秤法なり、此は小球互に引く力と、小球と地球との引く力を計りて、E を求める法にして、化學者「カベンディッシュ」の始めてなしたる法なり、
第三は、地球の表面と内面とに於て、重力を測定して其れより E を求める方法なり、内面に於て測りたる方が重力少きは重力に關する地球の質量中、其の外部の物質の質量丈減じたるに基因す、故に計算上之より地球の質量比重を知り得べきなり、

第四は山の頂上と山なき平原とに於て重量を測定し、之より E を求める方法なり

此等の方法にて、昔より地球の平均密度を計算したるか、大體五・六許を得たり、地球表面の密度は二或は三なり、以て地球内部には密度の如何に大なるもの、存在するかを知るに足る、然して地球の質量は實に一、六〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇貫なり、

チキユノイワセー (地球類惑星) 天英 Terrestrial Planets. 太陽系統の第一惑星中、水星、金星、地球、火星の四つを地球類の惑星と云ふ、此等は大小、密度及物理的性質が能く類似せり、

チキユニカシラフクセーノイチ (地球に關する惑星の位置) 天英 (Geocentric position of the planet. 惑星を地球より見たる位置を Geocentric position. と云ふ、之を示すには、惑星の位置と、其の黄道面へ下せる射影とを、夫々地球に結合せる二直線のなす角と、其の射影及脊分點を地球に結合せる二直線のなす角とを以てす、前者を Geocentric latitude、後者を Geocentric longitude と云ふ、

チキユノシキ (地球磁氣) 物英 Terrestrial magnetism 地球磁氣を見よ、

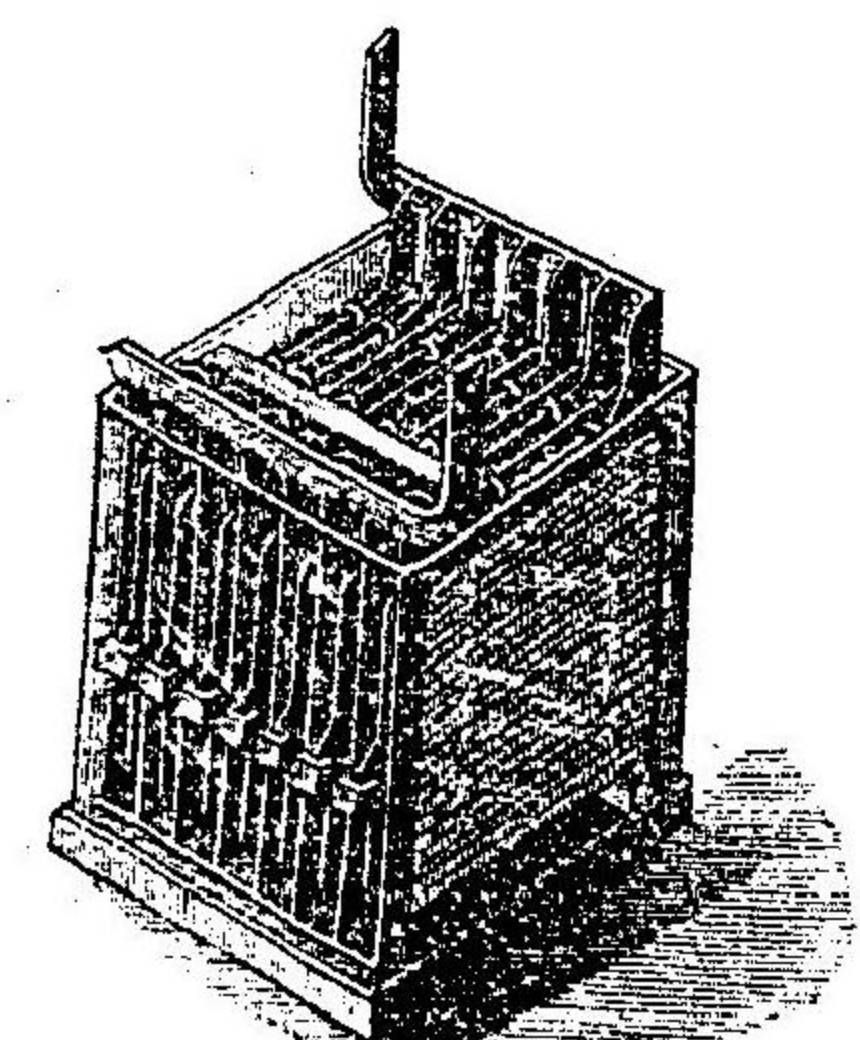
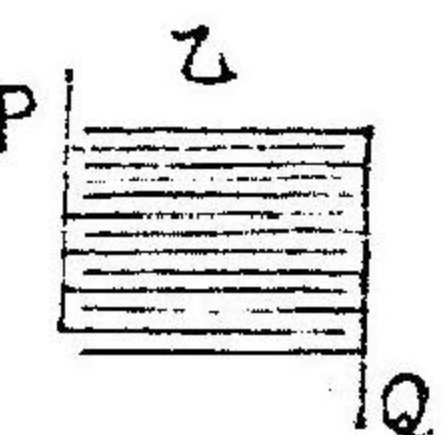
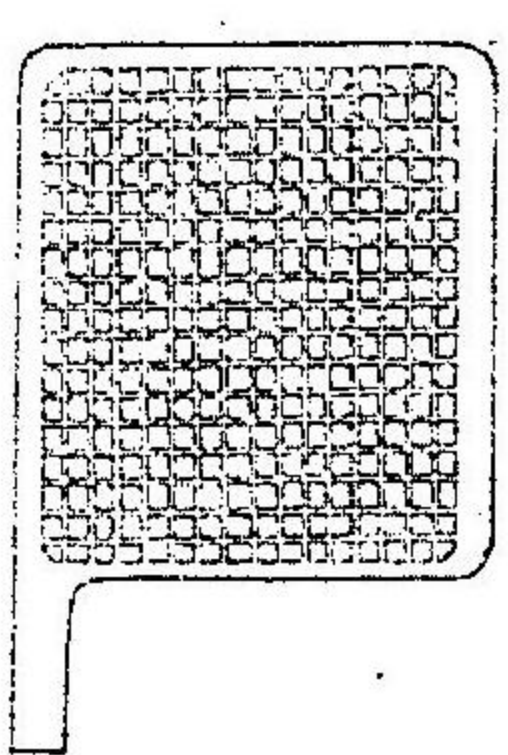
チキユノクスイ (血玉髓) 鑲「キョクスイ」を見よ、

チク (磁石の) 物英 Axis of magnet. 磁石の兩極を連ゆる所の直線を、其の軸と稱す、

チクオキ (蓄音機) 物英 Phonograph. 蓄音機は、米國人「エヂソン」の發明せる所にして、音の振動を器械に記し置きて、必要なる場合に之を聴き得べき器械なり、其の構造は、圓筒を貫くに「ネヂ」を有する軸を以てし、之を時計仕掛けにて廻はす時は、圓筒は前方或は後方に運動しながら、回轉すべきやう造れり、圓筒の側に其の形漏斗の如き管ありて、其の底部は薄き金屬板より成り、裏面に針ありて軽く圓筒面に觸る、今器械を運轉しながら、漏斗管に向かひて音聲を發する時は、底面の金屬板に振動を起し、針はこの振動に應じて、圓筒面上の錫箔又は蠟に深淺の種々に異なる長さ溝狀の痕跡を刻すべし、是れ即ち音を記す方法なり、若し之を聴かんとする時は、漏斗管を取り外すし、圓筒を原位置に戻したる後、聴く時に用ふる漏斗管(前者と大同小異なり)を前の如く附けて耳を之に當て、軸を廻はすべし、針は前に刻せる凹處に順ひて運動するを以て、金屬板には前と同一の振動を生じ、従て原音を聞き得るなり、

チクテコ (築堤湖) 地 元來地面に凹窪の個處あるにあらず、天然に堤防狀の障壁成立して、水の停滞を來せしものなり、例へば火山の破裂、山崩、水河の作用等に由り、谿谷を横

斷して、物質堆積するとき、水は之に堰き止められて湖となるが如し、岩代國磐梯山の麓なる秋本、檜原等の湖水は、同山破裂の結果にして、富士山麓の山中、川口、西湖、本栖、精進等の湖も、又同山噴火の産物なりとす、



チクテンチ蓄電池 (物英 Accumulator. 蓄電池は、電流が電解物中を通過する時、起る所の分極作用の理に基きて作られたる電氣溜にして、

副電池又は二次の電池と稱せらるることあり、其の構造は、
數多の孔を有する鉛板に、一酸化鉛を稀硫酸にて固めた
るものを詰め込み、之を交互に組み合せて、更に稀硫酸中に
立てたるものなり、今兩鉛板を兩極として、之に強き電流を
通ずれば硫酸の分解に依りて、陽極に連れたる者は二酸化
鉛となり、陰極に結べる者は、還元して鉛となりて分極の状
態を呈す、故に之を電池より離し、導線を以て其の兩極を連
絡する時は、前の電流と反對の方向に通ずる電流を得べし、
チケイツ (地形圖) 地英 Relief map. 陸地の状態を
示すものにして、其の地形の高低を寫すには、或は暈滯を用
ゐ、或は同高線を用ゐる、暈滯の濃くして短きは、地形の急
斜せるを示し、疎にして長きは、其の緩なるを表す、又同高
線とは、海面上同一の高さにある各地點を連結せるものに
して、其の多少と疎密とによりて、正確に陸地の高低緩急を
示すことを得べし、

チコ (地壺) 地 河川氷河等の内に陥れる石が、其の流勢に
よりて斷えず回轉せられ、其の底の地盤に穿つ所の孔をい
ふ、

チゴザサ 植 Bambusa argenteo-striata, Rgl. 「ネザ
サ」の一種にして、高さ僅に七八寸、葉細長にして白色の縦
線あり、又「シマザ」、「ヤナギバサ」と稱せらる、

チコツ (耻骨) 生英 P. III. 骨盤の前部をなす二骨にし
て、體の正中線に於て二骨相癒着す、

チサ (萵苣) 植 Lactuca scariola L. var. sativa
Bisch. 菊科草本なり、大形の葉を有す、花は淡黄色にして
舌狀瓣を有し、頭狀花序に排列す、葉は蔬にして食ふに宜し

チシキ (地磁氣) 物 英 Terrestrial magnetism.
地球表面上に於ける磁針が常に南北の方向を指示するの理
を、磁石の同名の極は相拒反し異名の極は相吸引すといふ
定律に對照すれば、地球は一の巨大なる磁氣體にして、其の
兩極に磁石の兩極と各反對せる磁極の存するものと想像せ
らる、之を地球磁氣又は地磁氣と稱す、地球の磁極は地理學
上の兩極と一致するものにあらずして、其の南極は北緯七
十度五分西經九十六度四十六分の所にあり、北極は南極の
近傍にあり、

チシゲート (地質系統) 鑛 (1) 界 (Group) (2) 系
(System) (3) 統 (Series) 界を系、系を統に分かつ、全系統を
四つの界に大別す、大古界、古生界、中生界、新生界是なり、
チシツネダイ (地質年代) 地 (1) 代 (Era) (2) 紀 (Pari
od) (3) 時 (Epoch) 代を紀に分ち、紀を世に分ち、全年
代を四代に大別す、大古代、古生代、中生代、新生代是なり、
チシマカイリ (千島海流) 地英 Kurole current.

「カムチャッカ」半島の西岸より、千島列島に沿ひ、本邦の東
岸を洗ひ、金華山沖に至る寒流をいふ、
チシン (地心) 地 鑛 英 Earth nucleus. 地核に同じ
其の條を見よ、

チシン (地心) 物 英 Centre of the earth. 地球の中
心をいふ、

チシン (地震) 地 英 Earthquake. 地殻中に不安の處
を生じ、之が爲に地盤に急激なる震動起り、其の震動を遠近
に傳へて各地を震動せしむるを云ふ、地震を其の原因によ
り、分ちて火山地震、陥落地震、斷層地震の三種とす、其の
中、最も普通に起るものを斷層地震とす、(各の條下を見よ)
地震の地下に於ける震動の起點を震源といひ、震源の直上
にある地表の所を震央といふ、地震の震動は震源を中心と
して四方に傳播するが故に、震央にては震動最も烈しくし
て主に上下動を感じ、漸く遠ざかるに従ひ、上下動と水平動
とを感じ、遠き地に於ては水平動のみを感じすべし、震動傳播
の速度は、地質によりて同じからざれども、大森博士の測定
に従へば、本邦にては平均一秒間に七千五百六十尺即ち二
十一町の速さなりと云ふ、此の震動を感じしうべき土地の
區域を震域といひ、其の震域の大小は、地震の種類強弱等に
よりて大に異り、即ち礫梯山破裂に伴ひたる地震の震域は

直徑僅に二十里に過ぎざりしが、尾瀧の大地震には直徑二
百六十里に及べり、但し人身に感知せざる微動となりては
非常に遠隔せる地にも達せるものにして、本邦に起る地震
が往々歐洲各地にある地震微動計に感ぜしむることありと
云ふ、我國は有名なる地震國にして、就中、利根川、淀川、木
曾川等の河域に多く、東京にては一年間約五六十回に上る、
統計によれば地震は冬季に多きもの、如し、

チシゲート (地震計) 地 英 Seismometer. 地震計構
造の要點は震動に感ぜざる不動點を設け、之に指針を附し、
震動する板面に其の尖端を觸れしめて、板面動搖の痕跡を
止めしむるにあり、而して此の板面は地震に従ひ一定の時
間に一定の運動をなすが故に、此の器械によりて地震の震
動の方向、振幅竝に週期を計るを得べし而して其の機械は
通例地震の震動を上下動と水平動とに分解し、其の各を別
々に板面に記さしむるやうに作れり、

チシツツサ (地震の強さ) 地 地震の強弱は常に一樣な
らず、靜止せる人若しくは注意せる人にして始めて感ずる
輕微の震動を微震と云ひ、何人も感じ得べき地震にして、戸
障子爲に鳴り、垂下物の動搖液體の振盪を起すべきもの
を弱震と云ふ、震動これより一層甚しくして、舊き建築物を
破損し牆壁に龜裂を生じ、石燈を倒し、振り時計を停め、瓶

チシム

水を溢出せしむるものを強震と稱し、其の震動最も激烈にして家屋を轉倒し、山嶽崩壊し、地盤に大變動を生ぜしむるに至るものを烈震と名づく、其の際往々地盤の裂罅より砂泥、地下水、水蒸氣、燃焼瓦斯等を噴出することあり、此等震動の強弱は地形地質の如何によるものにして、堅硬なる地盤は粗鬆なる地層にて成れる地方に比すれば、震動を感ずること少く、谿谷又は掘割を以て隔てられたる地は震動輕けれど、平原より来る震波若し高地に衝突せば再び反射し來るが爲に、麓の平原は比較的強き震動を感ずべし、

チシムマシ (蜘蛛膜) 生英 Arachnoid membrane. 「トロマク」の條を見よ。

チシムゲイ (地上莖) 植英 Aerial stem. 地上に生ずる莖にして、其の質の硬軟により、之を木質莖 (Woody stem) と草質莖 (Herbaceous stem) とに區別す、例へば梅、松、櫻等の莖は木質莖にして、「トリーナス」「グアイコン」「稻等の莖は草質莖なり、又其の硬軟形状及生存期に關して植物を喬木 (Tree)、灌木 (Shrub)、草木 (Herb) の三つに分かち、各其の條下を見よ、又地上莖は其の方向に關し區分することを得、即ち莖には、他物に依らずして獨立するものと、他物に倚りて上昇するものとあり、其の獨立するものには、直立するもの、傾斜するもの、及下垂するものあり、又其の上

チヌ

四二〇

昇するものには、自ら他の支柱に纏繞して上昇するものと、種々の機關によりて攀縁し上昇するものがあり、

- (1) 直立莖 (Upright stem)..... 杉、「モミ」
 - (2) 傾斜莖 (Bent stem)..... 「ハギ」「スベリヒユ」
 - (3) 下垂莖 (Pendent stem) 岩上樹上等に生ずる植物にあり
 - (4) 纏繞莖 (Twining stem)..... 「マサガホ」「ヒルガホ」
 - (5) 攀縁莖 (Climbing stem)..... 「ブドウ」「トリーナス」
- 莖より生ずる枝には増殖攀縁保護等の用を爲さんが爲に、特別に變化したるものあり、

- (1) 増殖
 - 短匐枝 (Offset)..... 例、「イハレンガ」
 - 匐枝 (Stolon) 例..... 「オリスイ」「ツルマサキ」「スゲリ」
 - 纏匐枝 (Runner) 例..... 「オランダダイダイ」「スベイチゴ」

チヌ (地層) 地英 Nitrogen N. 原子量十四・〇四、游離の窒素は大氣中に多量に存在し、又他の元素と化合しては動植物の三界に多量に存在す、窒素は無色無味無臭の瓦斯にして、常溫にては不活潑なる單體の一なり、水に溶解する性乏しく、十二度に於ける水の百容積は僅に其の一、五容積を溶解す、零下百四十度と三十五氣壓にて液體となる、其の比重は〇・八八五にして、沸點は零下百九十四度なり、又六十五氣壓零下二百十四度にて固體となる、窒素は動植物の生活若しくは物體の燃焼を保存する性を有せず、例へば小動物を窒素中に入る、時は忽ち死し、點火したる蠟燭も其の中にては直に消滅す、然れども毒性を有するが爲にあらず、窒素は硼素、硅素等の如き單體とは、高溫度に於ては直に化合す、窒素と酸素、水素との化合物は甚だ肝要なるもの數多あり、窒素を製するには、銅屑を燃焼管に入れ之を灼熱

チヌ (地層) 地英 Nitrogen N. 原子量十四・〇四、游離の窒素は大氣中に多量に存在し、又他の元素と化合しては動植物の三界に多量に存在す、窒素は無色無味無臭の瓦斯にして、常溫にては不活潑なる單體の一なり、水に溶解する性乏しく、十二度に於ける水の百容積は僅に其の一、五容積を溶解す、零下百四十度と三十五氣壓にて液體となる、其の比重は〇・八八五にして、沸點は零下百九十四度なり、又六十五氣壓零下二百十四度にて固體となる、窒素は動植物の生活若しくは物體の燃焼を保存する性を有せず、例へば小動物を窒素中に入る、時は忽ち死し、點火したる蠟燭も其の中にては直に消滅す、然れども毒性を有するが爲にあらず、窒素は硼素、硅素等の如き單體とは、高溫度に於ては直に化合す、窒素と酸素、水素との化合物は甚だ肝要なるもの數多あり、窒素を製するには、銅屑を燃焼管に入れ之を灼熱

チツ (地圖) 地英 Map. 地球表面の状態を圖として示したるものにして、其の一二の例をあぐれば、

- (一) 平射透視圖法
- (二) 直射透視圖法
- (三) 圓柱投影法
- (四) 錐投影法

チツ (窒素) 化英 Nitrogen N. 原子量十四・〇四、游離の窒素は大氣中に多量に存在し、又他の元素と化合しては動植物の三界に多量に存在す、窒素は無色無味無臭の瓦斯にして、常溫にては不活潑なる單體の一なり、水に溶解する性乏しく、十二度に於ける水の百容積は僅に其の一、五容積を溶解す、零下百四十度と三十五氣壓にて液體となる、其の比重は〇・八八五にして、沸點は零下百九十四度なり、又六十五氣壓零下二百十四度にて固體となる、窒素は動植物の生活若しくは物體の燃焼を保存する性を有せず、例へば小動物を窒素中に入る、時は忽ち死し、點火したる蠟燭も其の中にては直に消滅す、然れども毒性を有するが爲にあらず、窒素は硼素、硅素等の如き單體とは、高溫度に於ては直に化合す、窒素と酸素、水素との化合物は甚だ肝要なるもの數多あり、窒素を製するには、銅屑を燃焼管に入れ之を灼熱

チチノカイ (地中海) 地英 Inland sea or. Intercontinental sea.

大陸若しくは大嶋の間に介在する海を云ひ、其の例は歐羅巴亞弗利加間の地中海、南北亞米利加間の「メキシコ、カリビヤ」海、及び亞細亞濠洲間の亞濠地中海なり、

チチノカイ (人乳の成分) 化

乳脂	二、九〇	カゼイン	二、四〇
蛋白質	〇、五七	没食子酸に依て沈澱したる類似蛋白質	〇、一〇
糖類	五、八七	灰分	〇、一六
水	八八、〇〇		

チチノカイ (地中海) 地英 Inland sea or. Intercontinental sea. 大陸若しくは大嶋の間に介在する海を云ひ、其の例は歐羅巴亞弗利加間の地中海、南北亞米利加間の「メキシコ、カリビヤ」海、及び亞細亞濠洲間の亞濠地中海なり、

チタン

チン

四二一

し管中に空気を徐々に通ずるときは、銅は空気中の酸素と化合し、管端より發出するものは殆ど純粹の窒素瓦斯なり、其の他尚ほ二三の法あり、

チテツ (地鐵) 鑛 「シセンテツ」(自然鐵)の條に詳かなり、

チネツ (地熱) 地 「Terrestrial Heat. 地球の條を見よ、

チネツゲンシヨウ (地熱現象) 地鑛 英 「Volcanism. 地球内部の高熱に直接の關係を有する現象を云ふ、例へば、火山、地震、温泉等の如きはなり、

チネツシム 動 Sorex 英 Shrew-mouse. 地中に孔を穿ちて棲息する小形の鼠にして、作物を食害し、大害をなすものなり、口吻突出し、「ネズミ」と容易に區別することを得、食蟲類に屬す、

チビ (地盤) 地 英 「Earth crust. 地球外面の固き部分をいふ、地殻と異名同物なり、

チヒ (地皮) 地鑛 英 「Earth crust. 地殻に同じ、其の條を見よ、

チブスキ (室扶斯菌) 植 チブス病原菌にして、「エーベルト」及「ガフキ」兩氏によりて發見せられたるものなり、桿状にして其の長徑は横徑に三倍し、時としては連續して絲状をなすことあり、血温中では活潑に運動す、數多の鞭毛を有し、適當の色素を以て染むれば、蜘蛛の如き形狀を

strial Horizon なり、其の他に地平線三種あり、觀測者の目を通過する鉛直線に垂直なる平面が、天球と交はる大圓を Sensible horizon と云ひ、地球の中心を通過し、鉛直線に直交する平面が、天球と交はる大圓を Rational Horizon と云ひ、空を地球の表面と交はる線を Visible horizon と云ふ、但し終のものは觀測者の眼にて見たる形につきて云ひたるなり、即ち、觀測者の眼を頂點とし、其の眼より地球の表面への切線を母線としたる、圓錐體の面が、天球と交はりて生ずる天球上の小圓を云ふ、

チヘーゼ (地平線) 地 英 Horizontal line. 或る地方の地平線といふは、其の地の水平面と天と合一する線をいふ、海面にて水天髣髴といはるる所は、即ち地平線に相當す、**チヘーゼンラカサ** (地平線の深さ) 天 英 Dip of Horizon. 觀測者の目を通過する地平面と、觀測者の目より地球表面に引きたる切線とのなす角を、地平線の深さと云ふ、今觀測者の目の地平線よりの高さをhを以て表はし、 Δ を以て地平線の深さを秒にて現はすとせば、三角法によりて下の公式を得べし、 $\Delta = \frac{h}{R}$

チヘン (地變) 鑛 地殼の變化にして、土地の昇降、地震、火山、山崩等は、其の原因の主要なるものなり、其の他、なほ風化、水蝕等の作用も此が副因たり、

見る、芽胞を形成するや否や明かならず、此の菌に犯されたるものは、發熱四十度に及び譫語を發するを常とす、古昔傷寒と云へるものは是なり、常に空腹を感ずるとも、醫命を守り固形體を口にせざるときは、死に至ること少し、目下「チフス」豫防液てふものあり、人體に注射して、眞の「チフス菌」の侵害を免るるに至れり、

チフテリアキン (チフテリア菌) 「チフテリアキン」は「チフテリア」病の原因をなす菌にして、「ロエフレル」氏により確定せられたるものなり、結核菌と同長の桿狀體にして、其の中は殆ど之に倍せり、形狀は變じて稍肥厚せることあり、此の「チフテリア」病に對する血清療法は、千八百九十年、獨逸の醫士「ペーリング」氏の發見に係るものにして、「チフテリア」發病後七時間以内に、之を皮下に注射するときは、直に平愈し、患者殆んど死するものなきに至れり、

チマカク (地文學) 地 英 Physical geography 地學の一分科にして、地球現在の狀態を探究叙述する理科學なり、故に地球の形狀、大氣、質星運動等諸はゆる其の天體としての諸性質は勿論、種々の天然力により、其の表面に惹き起さるる諸現象も、亦其の攻究範圍内にあり、

チヘーゼ (地平線) 天 英 Horizon. 天頂點及足下點を極とする天球の大圓を地平線と云ふ、此の地平線は Celestial Horizon なり、其の他に地平線三種あり、觀測者の目を通過する鉛直線に垂直なる平面が、天球と交はる大圓を Sensible horizon と云ひ、地球の中心を通過し、鉛直線に直交する平面が、天球と交はる大圓を Rational Horizon と云ひ、空を地球の表面と交はる線を Visible horizon と云ふ、但し終のものは觀測者の眼にて見たる形につきて云ひたるなり、即ち、觀測者の眼を頂點とし、其の眼より地球の表面への切線を母線としたる、圓錐體の面が、天球と交はりて生ずる天球上の小圓を云ふ、

チヘーメン (地平面) 天 地 英 Horizontal plane. 地平線の存在する平面を地平面と云ふ、即ち觀測者の居る處の鉛直線に直角をなす平面なり、

チホーシ (地方時) 天 英 Local time. 平均太陽時、恒星時、眞太陽時と云ふも、皆是地方時なり、何となれば、此等は皆觀測者の居る場所により異なるればなり、例へば東京に於て、地方時二時なるも、神戸に於ては、時刻は其れよりも後れおれり、即ち經度の異なる所は、地方時も異なり、**チホーフ** (地方風) 地 英 Local wind. 地方に於て生ずる特殊の風をいふ、

チミツセキカイガン (緻密石灰岩) 鑛 英 Compact limestone. 「セキカイガン」(石灰岩)の條につきて其の種類を見よ、

チンキ (丁幾) 化 英 Tincture. 或る物質の「アルコール」溶液を「チンキ」といふ、例へば「沃度丁幾」の如し、**チンツ** (砧骨) 生 英 Tarsus. 中耳内にある三小骨中、中央にある骨にして、砧に似たる形を有す、**チンスイキョウ** (沈水葉) 植 水中に沈める葉にして、著しく變形し、概ね氣孔を缺如す、「ウメバチモ」の沈水葉「タメキモ」の沈水葉「カハホネ」の沈水葉に見るが如し、**チンセキサマ** (沈積作用) 地 英 Deposition. 水中に

甲蟲等其の主なるものなり、
特徴(一)花被美なり、(二)花絲強く且つ短し、
(三)花粉少量にして、重く、散り難く、粘性あり、
(四)柱頭は簡單なり、(五)花蜜を有す、
(六)花時長し、

チユーハイソー(中胚層) 動英 Mesoderm. 「チユーハイソー」に同じ、

チユーハイヨイ(中胚葉) 動英 Mesoderm. 腔腸動物の如く三層よりなる體の中層をいふ、高等動物に於ても、發生の初期には三層を生ずるものにして其の中層をも中胚葉と稱す、中胚葉發育すれば、筋肉、結組織、血管系、泌尿生殖器等を生ず、

チユーロ(重臂) 物英 Arm of weight. 重臂とは、楯杆に於て、支點より重點までの距離をいふ、

チユーフク(中腹) 地 山腹に同じ、

チユーメン(柱面) 鏡英 Prismatic faces. 單斜三斜の兩晶系に於て、主軸に平行して、二側軸に交はるか、又は主軸と一側軸とに平行する面あり、之を柱面と云ふ、

チユーヤ(晝夜) 地 太陽に面する時を晝といひ、太陽に面せざるときを夜といふ、

チユーヨースイ(蟲様垂) 生英 Vermiform appendix.

盲腸の下端に垂下する尾狀物にして、三寸内外を有し、人類以外には只類人猿即ち「シヨウシヨ」類にあるのみなり、而して其の作用は未だ明かならず、

チユーリツクスワリ(中立の座り) 物英 Neutral equilibrium. 球又は横臥せる圓錐の如く、如何に之を移動するも、常に安全に靜止するものを中立の座りといふ、

チユーワ(中和) 化英 Neutralisation. 酸と鹽基とを作用せしめて、酸性及び鹽基性を消すことを云ふ、

チユーワ(電氣の) (中和) 物英 Neutralisation. 異種の發電體間に放電をなし、其が電氣現象を現はすことなきに至る作用を、電氣の中和と稱す、

チユーワネツ(中和熱) 化英 Heat of Neutralisation. 酸と鹽基とが化合する時に生ずる熱をいふ、

チユー(蝶) 動英 Butterfly. 晝間飛翔する鱗翅類にして、内國産のもの百餘種あり、概し植物を害す、「チョールイ」の條参照、

チユーエキ(腸液) 生 小腸の内面に開口する腸腺より分泌する液にして、胃液、胆汁、胰液の作用を兼ねるも、其の作用極めて弱きが如し、

チユーガ(頂芽) 植英 Terminal bud. 定芽の一種にして、莖幹の先端に生ずるものを云ふ、

チョーカイ(潮解) 化英 Deliquescence. 多量に水に溶解する性質を有する固體を空氣中に放置すれば、漸次に空氣中より水分を吸収して、其の水分に溶解して液體となる、此の如き作用を潮解と稱す、例へば鹽化「カルシウム」鹽化「マグネシウム」の如きものは潮解す、

チョーカンマ(腸間膜) 生英 Mesentery. 腸を圍みて之を支持する透明の薄膜にして、腹の内面を被ふ腹膜と脊の前に於て合一し、以て連続す、腸に分布する血管及乳糜管は、皆此の膜内を走るものなり、

チョーキョク(褶曲) 地英 Folding. 地殼が横壓力を受けて生ずる皺をいふ、

チョーキョクサン(褶曲山) 地英 Mountain by folding. 地球收縮のため、地表に皺を生じ、かくて隆起せる部分は、即ち褶曲山を造るなり、今日地球上に連亘せる「ヒマラヤ」、「アルプス」の如き大山脈は、皆此の種に屬し、本邦の赤石山脈四國山脈の如き亦然り、

チョーキョクサンイ(褶曲山彙) 地英 Mountain range by folding. 地殼内に横壓力を生じ、之が爲に地層崛起して成りしものなり、我國の赤石山脈は其の一例なり、又「ヒマラヤ」、「アルプス」、「ピレニース」等世界有名の大山脈は、概し此の種に屬せり、

チヨシトーシツホー(直射透視圖法) 地 地球の半面を寫すに多く用ゐらるる法にして、視點を無限大の處にありと假定して、地球を其の後の紙面に投影するなり、

チヨクシレイ(直翅類) 動 Orthoptera. 直翅類は、其の口器は嚙咬に適し、變態不完全なり、觸角は絲狀或は鞭狀にして、複眼の外又更に單眼を有するを常とす、前胸は概し自在に運動す、翅脈細かに網狀を呈し、前後兩翅は或は同形にして共に薄く、或は異形にして前翅は稍剛く、後翅は薄し、脚は或は皆同形にして走行若くは單に靜息するに適し、或は又往々跳脚、掘脚に變化せる者あり、其の六脚を有する幼蟲は、陸上或は水中に棲み、漸々翅を生じて老成す、直翅類の雄は、鳴聲を發するもの多し、而して多くは玻璃質の翅を摩擦するより起るものにして、稀には第三對脚にある突起と翅縁とを摩擦するものあり、かく雄のみ鳴き雌の鳴かざるは、雌雄淘汰の結果にして、必竟雌の愛を買ひ、兼ねて自己の位置を雌に知らしめんがためなり、かの彩色の雄が雌に勝るも同様なり、

チヨド(直動) 地英 Successory motion. 地皮の垂直なる運動にして、最も恐るべき地震なり、上下動に同じ、
チヨツ(腸骨) 生英 Ilium. 無名骨をなす一對の大骨にして、薦骨の左右、骨盤の側後部をなす、腰下部を探り

て知らるる骨は、即ち腸骨の上外端なり、

チヨコトノキ 植英 (Cucurbit or co' con. 梧桐科植物にして、高さ一丈六尺乃至一丈八尺許りなり。葉は長楕圓形、花は小なり、果實は五角の蒴にして、成熟後五裂す、種子は五十乃至百粒に達す、此の種子より、「カケオ」又「ココア」即ち「チヨコレート」を製す、



チヨザメ (鱒魚) 動 Ajipenser. 紡錘形の體を有し、長さ六尺に達する硬鱗類にして、皮膚粗に、骨板多く存し、爲に堅硬なり、頭部の骨板は密布し、軀幹のものは五行排列し、背、側、腹面を縦走す、體色背部は茶褐色と黄灰色との中間なり、側面并に骨板は灰色、腹底は淡黄灰色なり、我北海道の石狩川、西別川、釧路川等に産す、常に近海に棲み、四五月頃群をなして河流を溯上し、水底の動物を掘食す、産卵を終ふれば海に歸る、肉は白色にして味美ならざるも食料に供せらる、産卵後肥大せる頃を賞讃す、卵巢は鹽藏して之を「カビア」(Caviar)と稱す、貴重なる食品なり、頭部の軟骨は之を煮乾し、清國に於ては之を鮑魚頭骨又鮑魚腦と稱し珍味と賞す、腸も亦龍腸と稱す、之を賞用す、又其の鱗の内皮を以て良質の魚膠を製し得べし、世界中露西亞は有名の産地なり、

チヨロシバラ 植 「チヨロシバラ」を見よ、
チヨロセキ (潮汐) 地英 Tide. 潮汐は、亦一種の波動にして、大洋の表面は十二時二十六分の週期を以て振動し、即ち一日二回の漲落をなすものなり、此の週期の二倍數は、恰も大陰曆の一日と同一なるが故に、月と潮汐との間に離るべからざる關係あることは、容易に推知するを得べし、凡そ各天體間には引力ありて、互に相引くものにして、月は其の體小なれども、最も地球に近きが故に、其の引力最大にして、太陽の二・三倍に當り、月は實に天體が地球に及ぼす引力の主因なり、地球には此の他其の自轉の爲に生ずる遠心力あるが故に、地球の表面を蔽へる可動性の海水は、其の合力の如何によりて、潮汐の干満を生ずるなり、されば、地球表面の月に面する處にありては、其の引力を受くること最大なるが故に、海水膨脹して満潮を來し、之に反する處にありては、月の引力最も少くして、爲に遠心力の妨げらるること前の場合の如く甚しからざるが故に、此の處にも亦膨脹して満潮をなす、而して二者の間にある處は、海水最も低落して干潮をなすべし、即ち海面上の某點は月に面する時と之に背く時とに一日二回の満潮を見るなり、
太陽の引力は、亦潮汐に影響を及ぼすものにして、新月の時満月の時には太陽と月とは地球に對し同一の方向に來るが

故に、満潮最も高くして所謂大潮を生じ、之に反して、上弦下弦の際には、太陽と月とは地球に對し直角の位置にある故に、満潮は最も低くして小潮を來すなり、潮汐干満の差は水陸の分布、海底の深淺等によりて隨處一様ならず、九州嶼原灣にては、本邦にての最大數六米を示し、太平洋岸にては二米となり、日本海岸に至れば僅に三十釐を示すのみ、狹隘なる水路にては、潮汐の漲落に際して海水の流動を起すことありて、鳴戸海峡の如きは、潮流の速度一秒時間五・五米に達することあり、支那錢塘江、「アマゾン」河口の如き喇叭形をなせる江口にては、潮流次第に迫り來り、河水を堰ぎ止め、之をして氾濫せしむるに至ることあり、

チヨセキ (長石) 鑛英 Feldspar. 長石には種類甚だ多し、皆「アルミナ」の無水硅酸化合物にして、これと石灰、加里、曹達、「バリウム」の硅酸化合物との複合したるものなり、水成又は火成を論ぜず、多くの岩石類の主成分として、極めて肝要なる鑛物類とす、單斜晶系又は三斜晶系に屬す、長晶形をなすもの多く、雙晶をなすもの多し、底面及斜軸に沿ひて完全なる劈開あり、硬度は六・七にして、比重は二・八五以下なり、熱するも決して泡沸せず、其の主要なる種類は左の如し、

一、斜長石又三斜長石(シヤチヨセキ)を見よ、

二、灰曹長石(カイソーチヨセキ)を見よ、
三、灰長石(カイチヨセキ)を見よ、
四、中性長石(チユースーチヨセキ)を見よ、
五、曹灰長石(ソーカイチヨセキ)を見よ、
六、曹長石(ソーチヨセキ)を見よ、
七、正長石(セーチヨセキ)を見よ、
長石類は、鑛物自然の分解によりて、此より粘土或は泡沸石類の鑛物を生ず、此等は土壤に入りて植物の生育に必要な養分となる、粘土の種類によりては、陶器の材料又は漆喰の原料となす、實に長石は間接に人間日常に緊要なる物品を供給するものなり、岩石の成分としては、石英、石灰石に次ぎて多量に存す、

チヨセキゲンガン (長石玄武岩) 鑛 「ゲンガン」を見よ、
チヨセシ (腸腺) 生英 Intestinal gland. 小腸の内面に散在する腺にして、絨毛以外の内面に開口す、此より分泌する液を腸液といひ、消化を助く、

チヨセマツ (朝鮮松) 朝鮮五葉又長葉五葉又新羅松又海松) 植 Pinus koraiensis, n. et n. 五葉松中其の葉最も長く太きものなり、實は長さ五六寸太さ三寸餘となり、實種共に、松屬中最も大なるものにして、種子

の大きさは三四分、厚さ二分位にして、少しも翼を有せず、幹皮赤灰色を呈す、朝鮮人は此の松の種子にて、菓子を製す、臺灣生蕃は、此の木の脂多き部を燈火用とす、材白色柔軟にして、工作を施し易し、

チヨセニアサガホ植 「キチガヒナスビ」を見よ、

チヨソコノ (貯蔵根) 植 他日植物發育の準備として、一時餘分の養料を貯ふる根にして、「グイコン」「カアラ」「サツマイモ」「ヤマノイモ」等の如き之に屬す、

チヨソフツツ (貯蔵物質) 植 蛋白質、澱粉、砂糖、脂肪等は其の主要なるものなり、

チヨクテンソ (貯蓄澱粉) 植 英 Rosowitch, 一日日光の作用にて、葉緑体内に形成せられたる澱粉粒は、

溶解して植物體の他部に移轉せられ、以て營養の料となる、然れども或ものは、塊根、地下莖、地下葉等の如き葉緑を缺ける細胞内に移りて、夥しく貯蓄せらる、是れ即ち、貯蔵澱粉たり、

チヨバカ (鳥媒花) 植 英 Ornithophilous Flower. 花粉の運搬が、主として鳥類による花を云ふ、

チヨビレイ (長鼻類) 動 Proboscidea. 長鼻類とは象類の謂にして、體の大なること陸生動物中最たる者なり、被毛は少く、鼻は圓筒狀に延長して屈伸自在なり、其の能く物を

握取すること、恰も人類の手指の如し、每肢五趾を具へ、趾端に蹄を蒙ると雖も、趾間の皮肉は相癒着せり、上顎に門齒二あり頗る延長して口外に挺出す、俗に之を象牙と曰ふ、通常下顎には門齒なく、犬齒は全く之を闕き、白齒は上下共に各側に一個或は二個(稀に三個)ありて、其の咀嚼面に横行若くは菱形を爲せる珐瑯線を具へ、専ら植物質の嚼碎に適す、現今生存するものは僅に二種あるのみ、共に性靈敏にして人に馴れ易し、象に二種あり、一は印度に産するものにして、他は亞弗利加に産する種なり、印度象は、白齒面にある珐瑯質楕圓形をなし、耳甚しく大ならず、亞弗利加象は、珐瑯質菱形をなし、耳大にして頭上に於て接す、我國に來るものは印度象なり、

チヨルイ (鳥類) 動 Aves. 鳥類は、體に羽毛を生じ、前肢が翼に變じたる温血卵生の脊椎動物なり、而して爬蟲類と近縁の者にして、即ち鰓を生ぜざること、頭骨の一課狀突起により脊梁と關節すること、下顎の方骨により頭蓋と連接すること、血球の楕圓にして有核なること、胚の羊膜及び尿管を生ずること等の諸點に於て相同じ、羽毛は爬蟲類の鱗と同じく、上皮より發生せる者にして、髮及羽の二種を區別す、共に鬮と稱する一部を以て皮膚に挿入し、鬮に在りては、羽軸は鬮に連りて兩側に羽枝を列生す、羽枝は更に小枝

を列生し、互に相密接して一面を成す、之を羽と名づく、而して鬮に在りては、羽枝至て柔かにして相分離し、且つ羽軸なくして直に鬮より發し、筆毛狀をなす、鬮及び羽は皮面一定の局部(羽域)に配布し、其の間は羽なく、或は唯鬮のみを生ず、尾根上面に一個の皮腺あり、是れ一種の脂を分泌するものにして、之を羽毛に塗着して以て濕氣を避くるに便す、鳥類の骨格は頗る堅固なりと雖も、氣窩を含むが故に輕きな特性とす、但し飛翔力を有せざる類に在りては、諸骨は常の如く中空ならず、頭骨は全成に至れば諸骨相癒着して縫線を留めず、而して髁狀突起の一個なること、及び下顎と頭蓋との間に方骨の存するとは、爬蟲類に等し、脊梁中、頸部は九乃至二十四個の前凹脊椎より成りて長く、且つ屈伸自由なり、其の此の如きは、蓋し嘴を以て啄取を營むに必要なるを以てなり、胸椎は六乃至十個あり、概ね相癒着して兩翼の基礎を固くし、皆肋骨を帶ぶ、胸椎と尾椎との間に位する數椎骨も亦相癒着して一骨を爲す、之を薦骨と云ふ、尾椎は八乃至十個ありて、可動的に相連り、其の最終の一節は大にして尾翹を支持す、胸骨は甚だ潤大にして、飛揚せざる類の外は、必ず正中に隆起を有して、非常に發達せる翼筋の附着に便す、肩帶は肩胛骨、鎖骨及び鳥喙骨より成る、鎖骨は下端を以て左右相結合し、二又形を爲し、鳥喙骨は或爬蟲類に於

けると一様に甚だ能く發達せり、腰帶を構成する所の腸骨、耻骨及び坐骨は互に相癒着し、而して腸骨は更に薦骨と結合し、幅廣き骨盤を形成すと雖も、腹部に於て左右相會合することなし、前肢即ち翼は上膊骨を以て肩帶に接し、挽骨は細く、尺骨は稍太し、腕骨は小形のもの二箇ありて、同數の掌骨之に連り、其の兩端相癒着せり、指は同じく二あり、其の二乃至三節より成り、一は僅に一節より成るを常とす、又腕骨は更に一小骨を帶ぶ、是れ拇指の痕跡なりとす、後肢中大腿骨に次ぎて脛骨あり、而して腓骨は至て細小にして脛骨と癒着し、又跗骨の上部も之と合する者なり、之に反し、跗骨の下部は蹠骨と連合し、以て跗蹠骨と名づくる一骨を形成す、趾は通常四個ありと雖も、或は三個或は二箇を具ふる者ありて、各趾の位置及び形狀も、亦生活の方法に隨ひて一様ならず、神経系中、腦の發達は、一層爬蟲類の上に出で、大脳は平滑にして、横皺ある小腦と相接し、而して中腦は兩足部に露出す、眼は其の官能常に鋭敏を極め、上下眼瞼の外に瞬膜を具ふ、聽官も亦鋭敏にして、外聽道ありと雖も耳殻を有せず、觸感も主として舌、口蓋、嘴等に存するものなるが如し、現世の鳥類は齒を有することなく、而して兩顎は角鞘を被り、似て嘴を形成す、口腔中に開通する唾腺ありて、未だ充分咀嚼せられざる食餌は、其の分泌する所の唾

液と混じて長き食道を下り、嚙嚙と名づくる糞状部に入る、是れ食道下部の擴張して成れるものにして、往々全く之を閉く者あり、食餌は暫時此の所に貯蓄せられ、次に前胃と名づくる第二囊に移りて胃液を受け、第三囊に入り咀嚼せらる、之を砂嚙と名づけ、其の壁筋肉性にして肉食を事とする鳥に在ては薄弱なれども、穀粒を食する者に於ては頗る厚強なるのみならず、其の内面角質に變じ、且つ故さらに嚙下せる所の砂石が囊中に在りて、食物を磨碎するに便なり、食餌は此れより迂曲せる小腸に移り、肝臓及び脾臓の分泌液と混じて消化を完了す、而して糞は短小なる大腸を経て排出せらる、大腸は其の初部に二盲腸を帯び、又其の肛門直内の一部は稍潤大にして排泄腔を爲し、輸尿生殖の兩管此の所に開通せり、胸腔中背部に密着せる一對の肺臓あり、俗に之を「ドリ」と稱す、其の色淡紅にして海綿様なり、而して表面に數孔を穿ちて、所謂氣囊と交通す、氣囊は鳥類に特有なる數箇の潤大なる膜囊にして、胸部腹腔等に位し、又諸骨中の氣窩と通ず、鳥は隨意に空氣を肺よりして此を氣囊中に送入し、以て全體の比重を減却し得るものなり、但し飛揚せざる鳥類には氣囊を見ず、其の理蓋し言を待たずして明かなり、氣管の咽頭と通ずる所に喉頭ありと雖も、不完全にして發音の用を爲さず、然るに鳥類に鳴轉の能ある

は、即ち氣管下部の兩氣管枝に分岐する所少しく膨大して、此に特別なる聲帯の裝置あるを以てなり、依て此の部を鳴管と曰ひ、往々殊に鳴禽の雄に於て頗る精巧の構造なり、禽類心臓の構造及血液循環の狀況は、哺乳類に肖似する者にして、心臓は即ち二心耳、二心室の四房より成り、大小兩循環の區分完全なり、而して其の血温の哺乳類よりも高度なるは、運動活潑にして氣囊中普く空氣の流通すると、羽毛の寒熱を傳達する性極めて弱きとに關するもの如し、腎は一對ありて腹腔背部に附着し、其の形扁長にして數葉より成れる觀を呈す、睪丸も亦一對ありて腎臓の上に位し、精圓若くは延長形なり、之に反し、卵巢は葡萄狀にして、唯左側の者のみ發達するを常とす、隨て輸卵管も同側に一條あるのみ、卵は頗る卵黄に富むを以て大形なり、其の卵巢を脱離して輸卵管を通過するの際、先づ該管壁の分泌に係る蛋白を以て圍繞し、且つ石灰質の卵殻を受く、而して産出せる後は概ね親鳥は羽毛にて之を包み、之に體温を付與して孵化せしむ、胚は卵黄上の一處(俗に眼と云ふ)よりして發生し、蛋白及び卵黄を吸収して成長す、其の發生中必ず羊膜並に尿管を生じ、卵殻に存する小孔を通じて入る所の空氣を呼吸す、かくて雛兒成るときは卵殻を破りて出づ、鳥は概ね産卵に際して巢を造營するものなり、其の巧拙、材料、位置

等は種々にして今茲に枚擧するに遑あらず、禽類に留鳥、漂鳥及び候鳥の別あり、留鳥とは其の生所に永住する者を云ひ(例へば雀、鳥、雉)、漂鳥とは餌を追ふて、近隣の地方に漂泊する者を云ひ(例へば「モツ」鶯、「キツ」候鳥とは寒暖の平均を得んが爲、季節を定めて遠隔(往々大洋を越えて)の地に往來する者を云ふ(例へば燕、雁、鴨)、今本綱を分類して九目とす。

- 猛禽類 例、「タカ」、「フクロ」。
- 攀禽類 例、「キツツキ」、「ホトトギス」、「オウム」。
- 鳴禽類 例、「ウグヒス」、「ツバメ」、「スズメ」、「モズ」。
- 叫禽類 例、「カハセミ」、「ヨタカ」。
- 鳥類
 - 鳩類 例、「ハト」。
 - 鶏類 例、「キツ」、「ニハトリ」。
 - 涉禽類 例、「ツル」、「コーノトリ」、「サギ」。
 - 游禽類 例、「ガン」、「ウ」、「カモ」。
 - 走禽類 例、「ダチョウ」、「ヒクイドリ」。

- チヨギ(草石蠶) 植 *Stachys affinis* Bge. 唇形科の草本なり、葉は心形、花は紫色をおぶ、地下莖は其の枝の先端に連珠狀の肥大部あり、之を食用とす、多くは漬けて食す、
- チリシヨキ(知利硝石) 化英 *Chili sal-petre*。硝酸「ナトリウム」に同じ。
- チリチチ(塵雪崩) 地 其の雪崩が、弛く結合せる塵埃狀の雪よりなれるものにして、之に伴ふに必ず暴風あり、蓋し此の暴風は雪崩の運動に原因して起るものならん。
- チレキセ(地瀝青) 鑛英 *Asphalt*。石油地方に産する所のものにして、石油中の精油の凝固せるものなり、黒褐色にして、點火すれば燃え、石油及「テレピン」油に溶解す、黑色の封劑を製し、又石油、「テレピン油」にかして、油漆(「パニッシュ」)を製す、羽後國榎木に産す、現今、之を有力なる建築材に製するに、頗る雨水の侵蝕に耐ふを見る。
- チロー(地蠟) 鑛英 *Paraffin or Ozocerite*。パラフィン
- インの原料にして、石油と共に出づる褐色の自然蠟なり、
- ツイヨツ(槌骨) 生 「テューツ」に同じ。
- ツイヨツ(椎骨) 生 「セキツイ」に同じ。
- ツガ(樹) 植 *Tsuga sieboldii* (Murr.) 枝葉「モミ」より

ツガイ

つ三四分の柄を有すること等によりて、「モミ」と區別す、效用は柱材、土臺に適す、柱として其の價値に等しく、屋根板となすに適す、薪とすれば火力甚だ大なり、ホンツガ、クロツガの異名あり、

ツガイコ (頭蓋骨) 生英 skull. 腦髓を被ふ骨の總稱なり、

ツカヅリ 動 濠洲に産し、外見七面鳥に似たる鳥にして、周圍六十尺、高さ十尺に及ぶ塚を築くものなり、嘗て發見したる最大なるものは、周圍百五十尺高さ十四尺に達せりといふ、斯の如き大なる塚は僅に一期間或は一對の鳥の業にあらざるべく、多年多くの鳥が同一の塚を用ゐる巢となせるによるなるべし、此の塚は泥及び腐敗しつつある植物の葉を以て疊み上げ、鳥は卵を其の中に産す、産卵を孵化するに自ら暖むることなく、植物質の物體の腐敗によりて起る熱のみに依るものなりといふ、

ツカヒト (傳書鳩) 動英 Carrier pigeon. 「ハト」の一種にして、場所を記憶する力極めて強く、遠方より放たれるも、一直線に故郷に歸るものなり、故に軍隊に於ては此の「ハト」を用ゐ、敵軍を隔てて味方に書簡を送ることあり、

ツガモシ 植 「マラモシ」に同じ、
ツギ (楓) 植 Zelkova stipulacea Fr and Sav ?

ツキガ

楡科木本にして「ケヤキ」に酷似すれども、葉は「ケヤキ」より小にして、三葉殆んど一所より集生し、二葉は恰も副葉の觀を呈す、樹皮老木となるも剥落せず、是「ケヤキ」と異なる所なり、材質「ケヤキ」より柔かなり、船材又は器具料とす、

ツキガサ (月暈) 物英 Halo. 暈を見よ、

ツギキ (接木) 植英 Grafting. 或植物の芽を備へたる枝條を取り、他の植物の莖に挿み、一個の植物體を形成せしむるにあり、此の際、挿入すべき枝を接穂と云ひ、接木せらるべきものを臺木と稱す、此に左の三種類あり、(A) 割接……(B) 削接……(C) 芽接……是なり

ツギエーケツ (月の盈缺) 天英 Phase of the moon. 地球より月を見るに、朔の頃は暗くして見え、夫より次第に月の表面多く見え來て、七日頃即ち矩象の頃は半分見え、十五日即ち望の時は圓く見え、夫より次第に光部減じ次の矩象の時は半分となり、再び朔に至りて暗く見ゆ、然して月の光はもと太陽より來り、反射して地球に來るものなり、三日頃には光る部分の外に、他の部分薄明に見ゆ、是は光線が地球より月に至り、月より反射して來るものが吾人に見ゆるによるなり、

ツギキド (月の軌道) 天英 Moon's orbit around the earth. 月は地球の周圍を或る週期を以て旋轉す、其

の道は黃道の面と五度九分の角をなし、地球を一つの焦點に有する楕圓なり、之を月の軌道と云ふ、

ツギノシンド (月の視運動) 天英 Apparent motion of the moon. 観測者が地球の中心にありて、月の運動を見るとす、然れば月は天球上星の間を毎日東の方に向て運動し、凡て二十七日三分の一にて地球の周圍を一週す、此の運動を月の視運動と云ふ、

ツギノサトキ (月の視差及距離) 天英 Parallax and distance of the moon. 月の軌道は楕圓なる故に其の地球よりの距離は勿論其の視差も變ず、而して平均五十七度二分なり、之より月と地球との距離を計算すれば、凡そ平均二三八四〇哩なり、

ツギノツリ (月の質量) 天英 Mass of the moon. 月の質量は、地球の質量の八十分の一程にして、二〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇貫なり、

ツギノシンド (月の伸度) 天英 Elongation of the moon. 地球より見たる月と太陽との角距離を云ふ、伸度は新月の時零にして、次の新月までに三百六十度を増す、

ツギノシテン (月の自轉) 天英 Rotation of the moon. 地球より月を見れば、常に同一表面を見る、是れ月は一恒星月の間に其軸の周圍を一回轉すればなり、此の回轉運動を

月の自轉と云ふ、

ツギノチノケ (月の直径) 天英 Diameter of the moon. 月の平均視直径は三十一分七秒にして、其れより計算すれば、月の直径は二千百六十三哩なり、之を地球の直径に比すれば其の〇・二七三に相當す、

ツギノテンペード (月の天平動) 天英 Libration of the moon. 月は、一恒星月の間に、其の軸の周圍を一回轉す、從て地球より月を見れば、常に同じ表面のみ見ゆべきなり、然るに月の自轉の軸は其の軌道平面と一度三十二分九秒程の角度をなし、又月の軌道面と地球の軌道面とは五度九分の傾斜をなし、月が地球の周圍を廻轉する速度は均一ならず、又地球の自轉をなすこと等の爲に、地球上より月を見れば、常に同一表面にあらざりて異なりて見ゆ、之を月の天平運動或は秤動と云ふ、

ツギノツリテキトツツ (月の物理的特質) 天英 Physical characteristics of the moon. 月には水なく圍氣なし、月の光及熱は皆太陽より得たるものなり、月の表面は凹凸甚しく殆ど噴火口を以て満たさる、山脈あり、平原あり、又深き谷あり、薄風色を有する一定の中ある筋は、是恐くは岩石の色ならん、又非常に高き山あり、

ツギノシサ (月見草) 植 Oenothera lamarckiana, var. *caerulea*

ツギノ

ツギノ

ツツシ

Tamarckiana Bar. 柳葉菜科の植物にして、黄昏開花す、各花弁は相次ぎて開き、此の間花弁の摩擦する音を聞くことを得可し。開き初より開き終り迄、普通十分乃至十五分を要す、夜花にして、色は白色なり、蛾媒花なり、花は翌朝にかけて萎む。

ツツシ(土筆) 植 「スギナ」の實莖なり、食用とす可し。

ツツネイ毛佛掌諸) 植 Dioscorea Batatas, Dene. 薯蕷科に属する草本にして葉は稍心形をなす、莖は他物に纏繞す、根は多肉にして扁平なり、煮又は薯汁として食用に供す。

ツツバネ又ハゴキ 植 Buckleya Quadrifida, B. et H. 檀香科の植物にして、寄生植物の一なり、果實は羽子状の翅を有す、鹽漬として食ふ可し。

ツツゲ(黄楊) 植 黄楊科の常緑木本にして、葉は小く、花は單性にして、雌雄異花を同株に生ず、材木良質にして、印刷料、櫛料として賣はる。

ツツナ(松) 植 Pinus chinensis, T. 十字科草本にして、葉は大に花は黄なり、之を鹽漬として食す。

ツツマカイリユー(對島海流) 地 黒潮の條を見よ、ツツマシーヨツツシララ(通性植物群落) 植 日光を受くる度、熱、濕氣、食物等につきて、極端の嗜好なき故に、尋常普通の状態にてよく生活し得る植物の一團なり、されば、平

ツタウ

地平野、丘陵、土手等普通の場所に生ず、即ち暖帯地方に最も多く、樹木雜草は勿論苔類等の如きは、此の種の群落をなすものなり。

ツタウルシ(野葛) 植 Plms Toxicodendron L. var. radicans Miq. 漆樹科の木本にして、大毒あり、山中に多し、莖は蔓性にして、鬚根あり、樹木岩石に附着す、葉莖赤色にして、一莖に三葉を生ず、秋に至りて紅色となり後凋落す、夏葉間に小黄花を開き、實を結ぶ、皮に毛茸ありてほぼ「ワド」の實に似たり、誤て之を食すれば、舌唇腐爛し死に及ぶ、恐るべきものなり。

ツチガヘル 動 池沼の沿岸或は濕地に棲息する「カヘル」にして、暗土色を呈し、體の全面に疣状突起多く散在し、極めて醜くけれども、其の保護色により敵の襲撃を免る。

ツチヨイタイ(通長體) 植 英 Equisetum 眞の莖、葉、根の別々に分かれざるものを云ふ、葉狀體に同じ。

ツチハンシヨ(地膽) 動 Molok 體長六七分の鞘翅類、黒藍色を呈し、腹部肥大し、翅短く後翅を缺く、草間に普通なるものにして、醫藥に發泡劑として用ゐらる、有毒なり。

ツチマズ生英 Plantar. arch. 足裏の土に接せざる凹所をいふ、人の足は恰も車にある「パネ」の如き作用あるものにして、踵及拇、小兩趾の少しく後方に於ける三點にて地に

接し、他は一切浮き上がれるにより、若し高所より飛下する如きことあれば、此凹部は少しく下り、更に反動にて浮上するものなり、若し此凹部なければ、足裏は全部地を打ち、ために體は非常の激動を感ずべし、「ツチマズ」の多少を以て徴兵の適否を定むるは、全く此による、足裏が三點にて地に接することは、古足袋の底の抜けたる場所を見れば知ることを得べし。

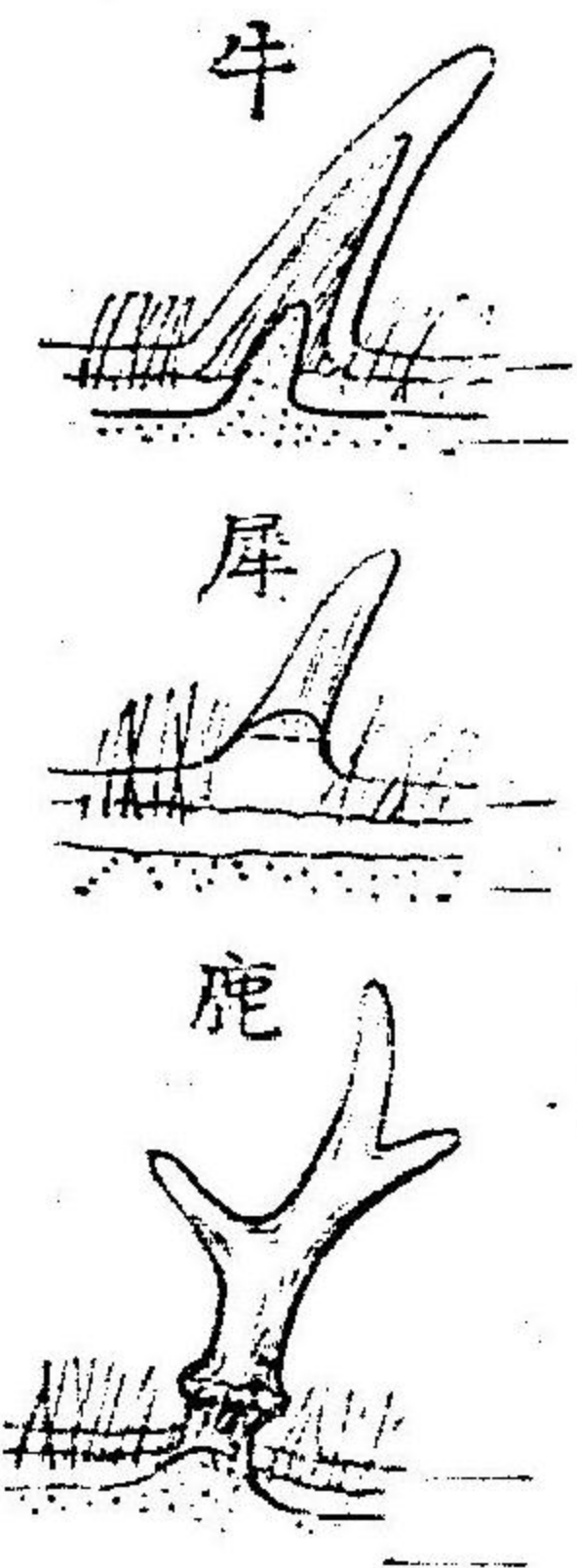
ツドーンツキ(通導組織) 植 莖 Conchuling lissne. 花柱の如き、疎理なる組織を云ふ。

ツツヌカヒキヲ(黄麻) 植 Corchorus Capsularis L. 菩提樹科の一年生草木にして、葉は長楕圓狀披針形にして、高さ六七尺に達す、夏時に黄色の花を開く、其の葉花弁共に五裂すれども下部は合著す、元來印度の産なれども、現今は廣く散布し、本邦にも之を栽培するものあり、其の内皮纖維を取るに用ゐらる、舶來の荷物を包む所の俗に「ズツク」と稱する布は、之を以て織りたるものなり、従來疊表の縱絲に專用す、又綱具等に供す。

ツツシ(津浪又海嘯) 地 英 The Wave. 津浪は、海底地震の結果陸上に溢れ來る大波を云ふ、有名なる三陸海嘯は、蓋し日本近海の大地震に起因せり、亦安政元年の豆州下田の津浪も、同港附近の地震より起れり、其の他歴史上に傳ふる

ツツ

津浪の慘害は甚だ多し。
ツツ(角) 動 英 Horns. 哺乳類の頭部にある突起にして、骨質或は皮質より成る、「シカ」の角は、前頭骨に接續する骨にして、「ツツ」の角は、主として皮膚の革化せるものより成り、心に短小なる前頭骨の突起あり、「サイ」の角は、犀角と稱するものにして、全部皮膚の變形物なり。



ツツマタ(鹿角菜又角叉) 植 Gigartina prolifera, Harlot. 紅色藻植物にして、質剛厚に、幅一分乃至二分あり、枝は本細く、末廣し、食用に堪へず、煮て粘汁を取り、衣服を滑ひ、風髪を洗ひ、又石灰を練り壁を塗るに用ゐる。

ツツキ(山茶) 植 Thea japonica (L.) Nois. Camellia japonica L. 山茶科の植物にして、常緑の喬木なり、海邊の暖地に多し、伊豆七島に多く産す、春時大なる紅花を開く、稀に白花のものあり、支那、朝鮮にも産す、蟲媒及鳥媒植物なり、果實は蒴にして種子より油を搾取す、食料に供して賞味し、髮澤料防銹等に用ゐる。

ツツ

ツバキアブラ 植 「ツバキ」を見よ。

ツバサ(翼) 動英 Wings. 鳥類の「ハネ」を翼といふ。翼は哺乳類、爬虫類及兩棲類の前肢と相同の器官にして、昆蟲類の翅とは比較すべきものにあらず。指は漸次退化して、よく發育せる一指と、他に極めて小なる二指あるのみ。翅は此の指骨及掌骨と更に橈尺骨との在る部より出づ。同一の翼を上下して以て飛翔し得ることは、不合理なるが如く思はるれど、一旦翼を取て之を験すれば、大に其の然らざる所以を知るを得べし。即ち翅は羽軸より左右に大さの異なる喙あるにより、翼を下るときは空氣壓せられ、體は上昇すといへども、翼を上るときは空間より空氣下り、ために體は甚しく沈降せざるなり。されば翼を上下すること繁ければ、體は愈々上昇すべし。

ツバメ(燕) 動英 Hirundo rustica gutturalis, Scop. 英 Swallow. 又「ツバクラ」或は「ツバクラメ」といふ。春來り、土を以て人家に巣くひ、秋去る。頭短く、嘴は短くして幅廣し。翼尖り、尾分又せり、飛ぶこと尤も速く、飛びながら廣く口を開きて小蟲を捕へ食ふ。害虫を捕食するにより禁止鳥とす。

ツムシカセ 地 「センプー」旋風と同じ。
ツボ(雙) 生英 Double. 通常、鼓膜の厚化して、少しの音の振動は之を感じる能はざるものなり、或は鼓膜を破りたるより起ることあり、聲の甚しきものは又啞なり。

ツメ(爪) 生英 Nail, Claw. 人の爪をニヒといひ、人以外の動物の爪をClaw. といふ。ニヒは搔痒搔摘の用をなし、Clawは搔痒、搔摘の外、握攬、發掘、支體等の用をなす。爪は表皮の變形物にして、人にありては其の後端下部に於て絶えず成長す。故に此の成長點以外の處は傷くることあるも、暫くして元の如くなれど、成長點を傷ければ終生歪形のものとなり終るべし。猫の爪は後端の背腹に筋肉あり、其の伸縮により爪の出入を自在ならしむ。

ツメタガヒ(幹螺) 動 Natica. 直徑一寸内外の、殆んど球形の螺殻を有する腹足類にして、殻面は滑に、螺頂突出せず。性猛惡にして食肉す。吻は細くして其の先端より一種の酸を分泌し、他の軟體動物の殻を溶かし、吻を入れて其の肉を食す。海岸の貝殻に小孔あるは多くは「ツメタガヒ」の穿てるものにして、大抵殻頂に近く穿つものなり。運動するときは外套を以て全螺を被ふ。

ツユ(露) 地物英 Dew. 露は大氣中に含有せられたる水蒸氣が、夜間冷却したる木石草葉等に接觸するとき、其の一部分が飽和の状態に達し、其等の上に濕氣を凝結したるものにして、夏秋に於て其の量最も多し、是れ晝夜の温度の

差大なるが故なり、而して此の露點の零度以下なる時は、水蒸氣は露を造らすして、直ちに結晶して霜となる。

ツムシ(鴨跖草) 植 Commelina Communis, L. 鴨跖草科植物にして、人家に近く生ず。藍色愛すべき花を開く。黄蘗あり、朝開き夕刻に萎縮す。一名「ホシバナ」と云ふ。藍色の染料を得べし。之を紙に染めて江州より出す。之を「ホシガミ」「アサガミ」と云ふ。染物の下繪を書くに必要なるものにして、此の紙を切り、皿に水を入れ、その中に紙を絞れば青き液出づるなり。之を以て下繪を描く。

ツリガネ(沙參) 植 Adenophora Verticillata Fisch. var. verticillata Fr. et Sav. 桔梗科植物にして、恰も釣鐘の如き紫色の合瓣花を開き、山野に自生す。根を燥てたる後、煮て食ふべく、救荒植物の一に加ふ。葉も同様にして食す可し。

ツリガネシ 動 Vorticella. 原始動物中纖毛類に屬する。顯微鏡的小動物にして、淡水中に棲息し、體は鐘形にして、其の縁に相當する所に纖毛輪列し、之を動かして水流を起し、以て食物を捕食す。鐘の頭に相當する所に長く細き肉絲あり、其の先端他物に附着し、時々此の絲を收縮し、暫時にして又伸長す、かかることを反覆するを常とす。

ツルナ 動 古來長壽を以て有名なる涉禽類

にして、支那、朝鮮等に多く、頸、嘴、脚共に長く、池沼中の魚類を捕食するに適す。種によりて羽毛の彩色種々なれども、尾端に黒毛ある如く見ゆるものは、翼の黒色なるものなり。食物は必ず洗濯して食ひ曾て暴食、鯨飲せず。鳴聲高く天を突くと稱するは、全く氣管の長さによる。即ち聲帯は氣管と氣管支との境界にあり、氣管は長くして體腔内を迂回し、初めて口に達するを以て、恰も數回捲曲せる「ラム」の如く、發する本來の聲はさほど大ならずといへども、長き氣管のために大にせらるゝなり。

テ

ツルナ(蕃杏) 植 Tetrageona expansa Ait. 蕃杏科植物にして、肉質卵形の葉を有す。黄色の小花を開く。其の葉を食用に供す。

テ(手) 生英 Hand. 掌と指との總稱なり、時としては上肢と同意に用ゐらるゝことあり。
テ(手) 生英 Hand. 掌と指との總稱なり、時としては上肢と同意に用ゐらるゝことあり。
テ(手) 生英 Hand. 掌と指との總稱なり、時としては上肢と同意に用ゐらるゝことあり。

テーパー

大にして、一・四一と一との比の如し、今其の比熱の定積比熱より大なる理を考ふるに、一物體に外部より「エネルギー」を與ふれば、其の一部分は分子の運動の「エネルギー」を増し、他の一部分は分子力に抗して分子の位置を變じ、以て其の位置の「エネルギー」を増すなり、而して容積を増すとなく之を熱すれば、熱は唯分子の運動の「エネルギー」を増すのみに費さるれども、壓力一定し、自由に膨脹することを得べくして、之を熱するときは、熱は分子の運動の「エネルギー」を増すのみならず、位置の「エネルギー」を増すにも要せらるゝが故に、同一の温度にせんとするには、後者は前者よりは熱を要すること大なるを以て、其の比熱も從て大なるなり、

テーパーキカン(低壓機關)物英 Low pressure engine. 低壓機關とは、蒸氣機關に於て一度使用したる蒸氣を外氣に放散せしめずして冷却器中に導き、之を冷却凝結せしむる装置をなしたるものにして、蒸氣壓力比較的小にして、よく機關を運轉せしむることを得べし、是れ、この名ある所以なり、蒸氣船には多く、この種の機關を具ふ、

デヴィーアンゼント(デヴィーの安全燈)物英 Davy's safety-lamp. 「デヴィー」の安全燈は、圖の如く細かなる目の銅網を以て二重に火焰を包みたる「ランプ」にして、全

テーパー

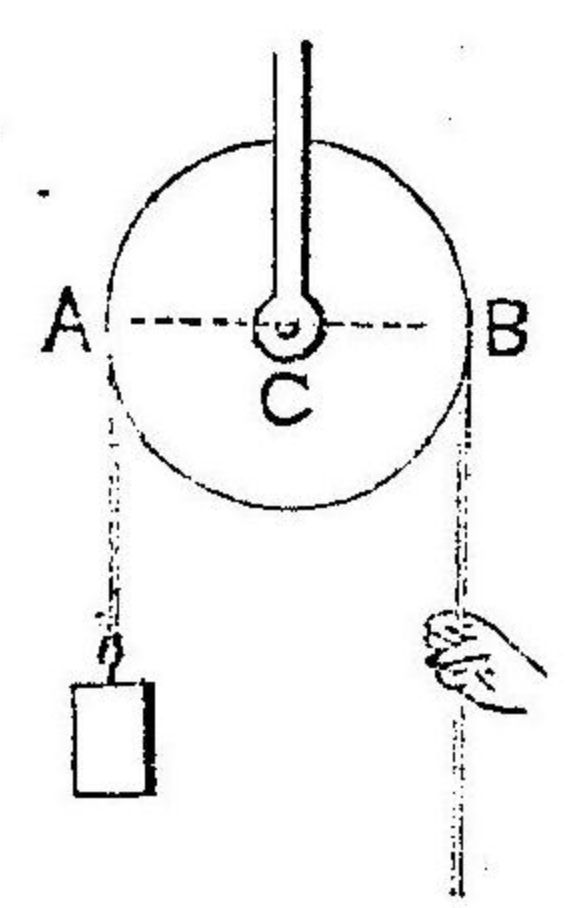
網が熱を傳導し、徐々に之を空氣中に放散するが故に、假令爆發性の瓦斯が火焰に觸ることあるも、其の爆發が内部にのみ止まり、外部の瓦斯に及ぶことなし、主に石炭坑中に於て坑夫の作業を執る際、坑内を照らすに用ゐらる、

テーパー(低音)物英 Low pitch sound. 低音とは、物體の振動緩慢なる時、生ずる所の音をいふ、

テーパー(定温層)地英 Invariable stratum. 「コーンタイル」に同じ、

テーパー(定芽)植英 Normal land or regular land. 莖幹の頂端、又は葉腋に生ずるものなり、

テーパー(定滑車)物英 Fixed Pulley. 定滑車とは、其の車が其の軸の周りに回轉し得るものにして、其の全體の位置の移動することなき滑車をいふ、このものはcを支點としA及びBを重點及び力點とする槓杆と見做すべきものにして、唯力の方向を變じ得るのみにて、毫も力に益する所なきものなり、



テキオーヘンカ(適應變化)動 動植物の體部が、外界の事情に應じ、代を累める間に其の事情に適するやうに變化することないふ、是れ即ち自然淘汰の結果なり、「シンカロン」の條参照、

テキシヤゼン(適者生存)動英 Survival of the fittest. 生物の體部の外界の事情によく適するもののみが生ずることないふ、「シンカロン」の條参照、

デキストリン(糊精)化英 Dextrin. 此の物は植物中に存在し、水に容易く溶解し、「アルコール」にて沈澱す、澱粉を百七十度乃至二百度に熱するか、或は澱粉に稀硫酸を加へて熱するときは、「デキストリン」を生ず、「コム」狀無定形の塊にして、直接醱酵に適せず、然れども「ヂアスター」が存在する時は、醱酵によりて醱酵せらるゝことを得るなり、

テキチユールイ(滴蟲類)動 Infusoria. 原始動物中の纖毛類、鞭毛類をいふ、古は顯微鏡の水棲動物のことないふ、

テキテー(滴定)化英 Titration. 規定液を用ひて、溶液中の成分の分量を測定することないふ、

テキーパー(定期風)地英 Periodic wind. 凡て時季を定めて、一定の場所に吹く風を定期風といふ、我國にて二百十日前後に吹く風の如きは、即ち其の一例なり、

テークーシヤク(蹄形磁石)物英 Horseshoe magnet. 蹄鐵磁石を見よ、

テーパー

テーパー(低原)地英 Low land. 平原に同じ、

テーパー(低原湖)地英 Lake in low land. 印幡沼の如く、低原にある湖水をいふ、

テーパー(槌子)物英 Lever. 槓杆を見よ、

テーパー(抵抗)物英 Resistance. 電流が輪道内を流る、時は、次第に其の強さを減殺せらる、斯くの如く輪道が電流に與ふる所の妨害を抵抗と稱す、抵抗は温度の上昇と共に増大し、導線の長さに正比例し、其の断面の太さに逆比例するものなり、

通常の物體の抵抗は、大略次の如し(長さ一米直徑一耗の線)

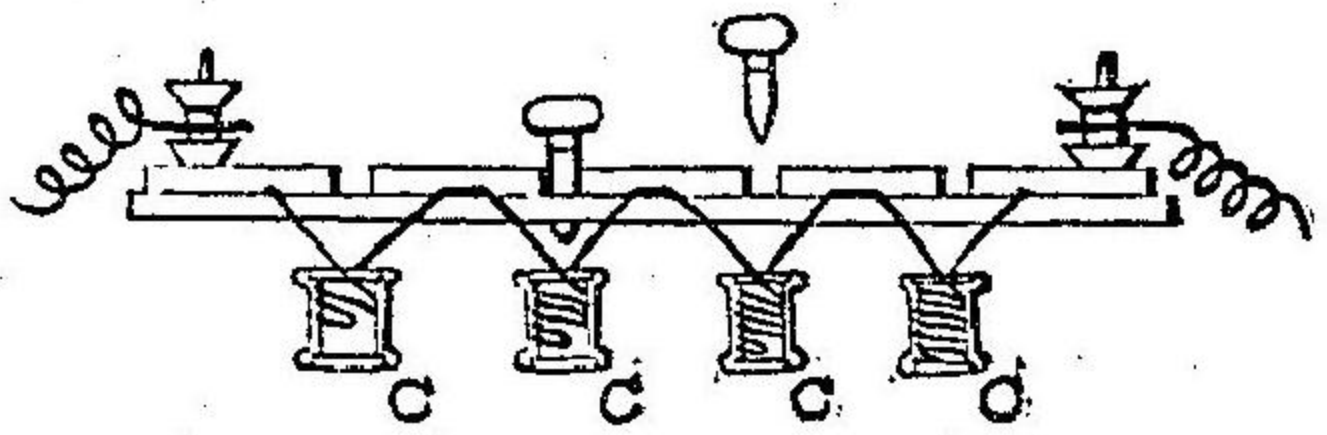
銀	〇、〇一五	銅	〇、〇一六
黃金	〇、〇二一	眞鍮	〇、〇七〇
鐵	〇、〇九八	ニッケル	〇、一三四
水銀	〇、九四三	黃鉛	一、三二三

テーパー(槌骨)生英 Malleus. 中耳内にある耳骨中、鼓膜に接するものにして、槌形をなすにより槌骨ともいふ、

テーパー(抵抗箱)物英 Resistance box. 抵抗箱とは之を輪道中に置き、電流に任意の抵抗を與ふべき器械にして、其の構造は、護謨の臺の上に數多の黃銅片を排列

テキシ

テーパー



し、其の相隣れる黄銅片の間に抵抗の知れたる「コイル」Cを連れたるものなり。又別に其の上部を不導體にて作りたる釘ありて、相接隣せる兩黄銅片間に挿入すれば、電流の通路を作り、之を去れば電流は「コイル」Cを通ずるが故に、其の上に記せる数字によりて、抵抗の値を知ることを得べし。

デーザイハ(定在波)物英 Stationary wave. 定常波と同じ。

デージョーハ(定常波)物英 Stationary wave. 長き繩の一端を固定し、他端Bを取りて之を一振すれば、茲に高低波を生じ、他端に進行し遂に他端より反射し來るべし、若し引き續きB端を振動すれば、進行波と反射波との合成波を作り、繩の各部一定の場所に於て、常に靜止する所と常に運動する所とを生ずべし、靜止する處を節云ひ、運動する處を腹と云ふ、節又は腹の位置の一定せる波を定常波といふ。

デーゼキネツ(定積比熱)物英 Specific heat of constant volume. 體を密閉したる器内に入れ、之を温むるも其の立積を變ずること能はざらしめ、以て其の比

熱を測りて得たる數を定積比熱といふ。

デーゼーチー(汀成地層)地 河川の作用により陸地より放流せらるゝ土砂が、海岸を距ること若干距離の處まで進み、遂に水中に浮游することを得ずして沈澱したるが爲に生ずる地層を汀成地層といふ。

デーゼーブンキ(定性分析)化英 Qualitative analysis. 化合物を分析して、其の成分は如何なるものなるかを知るることなり。

デーゼンシヨウ(汀線の昇降)地英 Elevation and depression of coast line. 地殼の變動若し急激に起るときは、斷層地震を生じて容易に之を認識するを得と雖も、其の緩慢なるものによりては、地殼の褶曲徐徐に造られ、若干の歲月を経たる後にあらざれば、其の變化著しく知られざるものなり、此の地盤昇降の事實は、海岸の汀線の昇降するに徴して之を知るを得べし、今日にありては「シマリア」北海岸、「スカンヂナビヤ」半島の海岸、並に「ラブラドル」南「アメリカ」西部の如きは、陸地次第に隆起し、「グリーンランド」の南部、北「ドイツ」及び「オーストラリア」の海岸の如きは、漸次降下するの傾向あり、本邦に於ても、太平洋沿岸は漸次隆起し、之に反し、日本海岸は汀線次第に上昇し、北陸地方に於て殊に其の著しきを見る。

テツ(鐵)化英 Iron Fe. 原子量 五十五・九

テツイオン(鐵イオン)化英 The ions of iron. 鐵は二種の單「イオン」を生ず、一は二價にして「二價の鐵「イオン」(Diferion)」と稱し、他は三價の鐵「イオン」(Triferion)」と稱す、前者より生じたる化合物は、第一鐵鹽(Ferrous salt)と稱し、後者より生じたる化合物は、第二鐵鹽(Ferrie salt)と稱す、二價の鐵「イオン」の純粹なるものは殆ど無色にして、此の「イオン」を含める鹽の多くは綠色を呈す、通常其の綠色を二價の鐵「イオン」の色なりとせり、二價の鐵「イオン」は「インキ」の如き味なり、「インキ」の味は此の「イオン」あるが爲なり、二價の鐵「イオン」は三價の「イオン」に變ずる傾あり、鐵は酸によりて容易に二價の鐵「イオン」に變ず、三價の鐵「イオン」は亦殆ど無色なり、然れども第二鐵鹽の水溶液は黃色を呈す、之は三價の鐵「イオン」の色にあらずして水酸化鐵が「コロイドイオン」狀を爲せるが爲なり、三價の鐵「イオン」は酸化劑によりて、二價の鐵「イオン」より容易に生ず、

テツウシモ(鐵雲母)鑛英 Lepidomelane. 白雲母の一變種なり、

テツカルシウム守合セキ(鐵カルシウム柘榴石)鑛英 Ca. Fe. Garnet. 柘榴石の一變種にして、SGAO.

テツ

Fe₂O₃, SiO₂なる成分を有す、綠若くは褐色なり、又赤褐色又は黑色のものあり、其の黑色なるものを Melanite と云ふ。

テツ(鐵鑛)鑛英 Iron ores. 鐵鑛の主要なるものは左の如し、自然鐵として産出するもの甚だ稀にして、多くは酸素、硫黄等と化合して、酸化鐵、硫化鐵、及び炭酸鐵等となりて生ず、

- (一) 自然鐵, Native Iron. 「シマンテン」を見よ、
 - (二) 黃鐵鑛, Pyrite. 「オーテツコー」を見よ、
 - (三) 毒砂, Arsenopyrite. 「ドクシヤ」を見よ、
 - (四) 磁黃鐵鑛, Pyrrhotite. 「ツオーテツコー」を見よ、
 - (五) 磁鐵鑛, Magnetite. 「シテツコー」を見よ、
 - (六) チタン鐵鑛, Titanite. 「チタンテツコー」を見よ、
 - (七) 赤鐵鑛, Hematite. 「セキテツコー」を見よ、
 - (八) 褐鐵鑛, Limonite. 「カンテツコー」を見よ、
 - (九) 菱鐵鑛, Siderite. 「リョーテツコー」を見よ、
 - (十) クローム鐵鑛, Chromite. 「クロームテツコー」を見よ、
- テツセキエー(鐵石英)鑛英 Ferruginous quartz. 「サキエー」を見よ、

テツコ

テツセ

テツセン(鐵泉)鑛英 Chalybeatic springs. 炭酸鐵を多量に含む鑛泉なり、上州伊香保温泉、上州磯部の温泉の如き是なり。

テツタンバクセキ(鐵蛋白石)鑛英 Ferruginous opal. 「タンバクセキ」を見よ。

テツシユルイ(鐵の種類)化 鐵に左の三種あり、

(イ) 銑鐵 最も多く炭素を含む、碎け易く、熔け易し、鑄物の原料たり、故に鑄鐵とも云ふ、

(ロ) 鍛鐵、又は鍊鐵、鍛へ易し、「レール」、鐵線、鐵板、鐵材を作る、

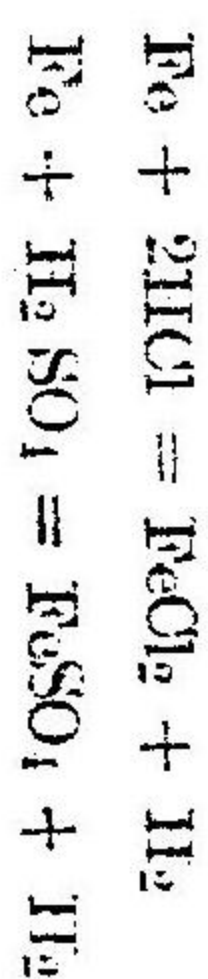
(ハ) 鋼鐵 鍛鍊の方法によりて益々硬く、又は彈力を備へしむることを得べし、諸種の刃物、甲鐵櫃、針、「パネ」、「ゼンマイ」等とす、

テツシヨサイ(鐵の所在)化 鐵は赤鐵鑛、磁鐵鑛、錳鐵鑛、炭酸鐵鑛、黄鐵鑛となりて存在す、

テツセーシツ(鐵の性質)化 純鐵は銀白色にして、比重七・八熔點千八百度なり、一般の性質は鍛鐵に似たれども、之よりも少しく軟靱なり、磁氣を感受すれども、鋼鐵の如く永久に之を保有することなし、空氣中或は酸素中にて強く熱すれば燃焼して四酸化鐵となる、又硫黄の蒸氣中にて燃焼せしむれば、硫化鐵を生ず、乾燥せる空氣中或は空氣を含ま

ざる水中に置くも、錆を生ぜず、然れども濕れる空氣中に置けば、其の表面は赤色の錆即ち酸化鐵及び水酸化鐵の混合物にて被はるべし、又鹽分を含める水に觸るれば、錆ぶること一層速し、常温にては鹽素等と直接に化合し、高温度に於ては、水を分解して水素を游離し、四酸化鐵となる即ち

多くの酸に溶解して第一鐵鹽を生ず、例へば鹽酸或は硫酸を注げば、鹽化第一鐵、若しくは硫酸第一鐵を生ず、即ち

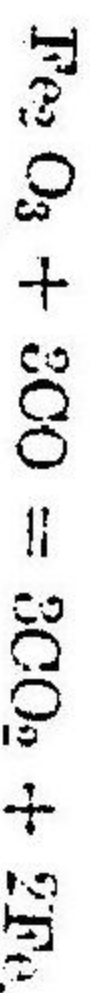


稀薄なる冷硝酸に入れば、硝酸第一鐵、硝酸「アムモニウム」等を生ず、然れども熱したる硝酸を以てすれば、酸化炭素を游離して硝酸第二鐵を生ず、炭素、硫黄及び硅素等の少量を含むも、著しく其の性質を變ぜらる、即ち、炭素、硫黄及び磷は鐵を脆くし「マンガ」及び硅素は却て鐵を柔靱ならしむ、

テツセーホー(鐵の製法)化 鐵鑛を燒きて水及び炭酸五斯を除き、硫化物をも酸化物とす、之に「コークス」及び石灰石を混じ、鼓風爐に入れて強熱し、以て熔融せしむ、鼓風爐中に於ける化學變化は、複雑多様にして、部分によりて異れりと雖ども、主要なる變化は次の如し、即ち熱したる鼓風

テツン

中の酸素は炭素に觸れて、一酸化炭素を生ず、此の一酸化炭素の爲に酸化鐵を還元せらるること次の如し、



又石灰石は二酸化炭素及び石灰に分解せらる、還元せられて生じたる海綿狀鐵は、爐の熱したる部分を降る時に炭素を吸収す、而して全く熔融して爐底即ち渣に集まる、最も熱したる部分を通過する際に、石灰は鐵鑛中の硅酸類と結合して熔滓となる、鐵の熔液は其の下に沈めり、之を模型に流入せしむ、

此の鐵は即ち鑄鐵なり、熔滓は熔滓口より排出し、更に直に鐵鑛を入れて前の手段を繰り返すなり、蓋し此の爐を熱するには、多量の熱を要するを以て、一度作業を始むれば、少くも數年間は休止せず、

斯くして得たる鐵は不純にして、炭素、磷、硅素、硫黄及び「マンガ」等を含有するを以て、之を純粹にすることを要す、市販の鐵中比較的純粹なるは鍛鐵なり、鑄鐵を鍛鐵に變ずるには、之を反射爐に入れて酸化し、以て不純物を一酸化炭素、五酸化磷、二酸化硫黄等として除き、かくて糊狀なせる鐵塊を小くなし、之を蒸氣鎚にて鍛ふれば不純物は熔滓となりて除かる、然れども全く純粹とはならずして、一分中六乃至十五分の炭素を含めり、

テツン

テツン

テツンテリア(鐵細菌)植 非常に多く繁殖するときば、鐵管(水道用)等を閉塞し、水の流通を妨ぐる、ことあり、歐洲の某處には、嘗て此の如き例ありしと云ふ、

テツンボウウ(動英) Toxotes. 「トクンテス」に同じ、

デーテッコー(泥鐵鑛)鑛英 Bog iron ore. 「カンテツコー」の條につきて、種類の部を見よ、

デーテツシヤク(蹄鐵磁石)物英 Horse-shoe magnet. 蹄鐵磁石とは、磁石を馬蹄形狀に曲けたるものをいふ、其の兩極互に近づく故に、鐵片を吸引する力強し、

テナガザル(動) Hylobates 英 (Tilhon. 印度及其の南方の諸島に産し、前肢極めて長く直立するも地に達す、丈三尺餘にして、運動甚だ活潑なり、

デーナホーシク(デーナの法則)地 大陸表面の地勢に一定の規律あることを説きたる法則なり、

第一、大陸は概して高き山脈を以て輪廓とし、其の内部に低き盆地を有せり、

第二、輪廓をなす山脈中最も高きものは、亦最も大なる大洋に面す、

デーヒーンテリツ(定比例の定律)化英 Law of Definite Proportion. 數種の物質互に作用して、一種或は數種の新物質を生ずるときは、各物質の重量の間に一定

デーブ

不變の比あり、此の定律を定比例の定律と稱す、
デーブー(定風)地英 Permanent wind. 時季方向
場所等の一定せる風なり、

デーブ(茶素)化 茶素に同じ、

デー(黃鮑)動 Mustela. 英 Mustela. 體長く、尾亦
長大なり、四肢短けれども運動敏捷なり、樹木を渡り鳥類を
捕へて其の血を吸ふ、北海道にも産すれども、本島のもの
は其の種を異にす、

デーイ(電位)物英 Potential. 「ポテンシャル」と同
じ、

デーオーケー(天王星)天英 Uranus. 天王星は比較的
近時の發見に係る、其の初めは慧星ならんと考へられたる
が、「ラプラス」によりて其の惑星なることを知られたり、其
の衛星は四個知らる、何れも逆運動をなす様に見ゆ、天王星
の自轉するか否かは定かならず、

デーカイ(電解)化物英 Electrolysis. 電流にて化合
物を分解することないふ、諸種の電氣鍍金は此の理を應用
したるものなり、電氣分解に同じ、

デーカイシツ(電解質)化物英 Electrolyte. 溶液を爲
して之に電流を通すれば、分解し得る性質を有する化合物
をいふ、又此の如き化合物を稱して電解物又は電氣分解物
と云ふ、

デング

と稱す、

デングイダ植 「シタマカリ」を見よ、

デングカイブ(電解物)化物 電解質に同じ、

デングキ(天氣)地英 Weather. 氣壓、氣温、風向並に濕
度等目に觸れ、或は身に感じ得べき其の時の氣圈の状態を
總合せしものを天氣と云ふ、

デングキツ(天氣圖)地英 Meteorological Map.
廣き區域内に於ける或時の天氣を觀測し、等温線、等壓線其
の他氣象上の諸種の符號を以て、其の天氣の有様を圖上に
録したるものを天氣圖と云ふ、中央氣象臺に於ては、全國の
各測候所より報知し來る觀測の結果を集めて、天氣圖を調
製するなり、

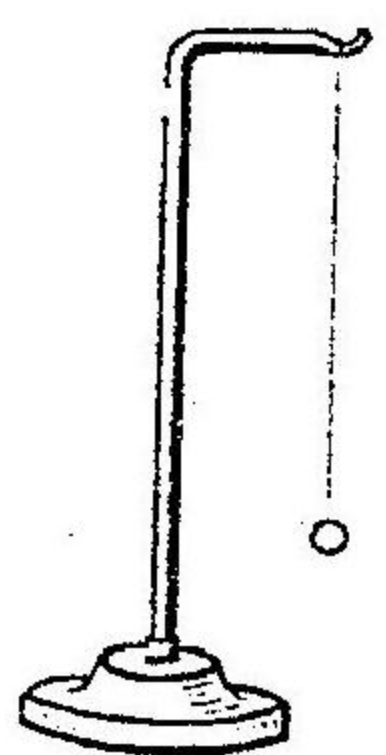
デングキヨホー(天氣豫報)地英 Meteorological no-
tice. 天氣圖によりて、近き將來の天氣を豫察し、之を報告
することないふ、

デングキョー(天球)天英 Celestial sphere. 晴夜空を
仰視すれば、空には殆ど球狀をなせる青き天井の有るが如
く見え、且つ其の天井の中に星が配列する如く見らる、今觀
測者の目を中心とし、非常に大なる半徑を有する球面を考
ふるときは、此の球面を名けて天球と稱す、時として此の中
心を地球の中心に置くことあり、

デングキョー(天球儀)天英 Celestial globe. 天
球の半徑を小さくして作りたる天球の小模型を、天球儀と云
ふ、

デングキョク(天極)天英 Celestial pole. 日々天體の運
動する如く見ゆるは、天體自身の運動にあらずして、地球の
自轉の爲に基けるものなるが、若し眼が地球の中心にある
ときは、毎日の天體の運動を見ることなかるべし、天體運
動の Diurnal circle. が小さくなりて零となりたる天球上の
點を天極と云ふ、即ち地軸の延長が天球と交はる點を天極
と云ふなり、

デングキ(電氣)物英 Electricity. 電氣とは、電氣現象
を生ずる所の原因をいふ、其の何物たるかに就きては、古來
種々の説を出せるものあり、米國人「フランクリン」は、電氣
を以て一種の流體と考へ、各物體みなこの流體を含み、當時
は其の量適當なれども、若し二個の物體を取りて互に摩擦
すれば、この流體は一方より他方に流れ、之を得たるものは
陽に發電し、之を失ひたるものは陰に發電すとせしが、此
の説は未だ以て電氣諸現象を説明すること能はざりき、其
の後、英國人「フアラデー」、諸種の研究を積み、遂に電氣は
物體分子の間にある「エーテル」の歪にして、其の陰陽ある
は「エーテル」の歪に正負あるがためにして、物體の導體不



拒斥せらるゝかによりて、其の發電體電氣は、先に振子に與
へたる電氣と異種なるか又は同種なるかを知り得るなり、
デングキシンドー(電氣振動)物英 Electric oscilla-
tion. 異種の電氣互に火花を放ちて放電するに際しては、

導體は其の一方より他方に自由に「エーテル」を通過せしむ
ると否とによるものとなし、之に次で、英國人「マクスウェ
ル」、英國人「タムソン」及獨乙國人「ヘルツ」等は、諸種の考
究と實驗を積み、この説を承認せり、

デングキゲンシヨウ(電氣現象)物英 Electric Phenom-
enon. 電氣を帶ぶる物體が、互に吸引或は排斥し、又は紙
片燈心片等の如き輕き物體を吸引する等の現象を稱して、
電氣の現象又は電氣現象といふ、

デングキシンシ(電氣振子)物英 Electric pendulum.
電氣振子は、物體が發電せりや否やを驗するに用ゐるもの
にして、一種の驗電器なり、即ち曲りたる硝子棒の端に、乾
きたる細き絹糸を以て木髓球を吊したるものなり、今發電
體を此の小球に近づければ、忽ち之に吸引せらるゝ、又之を用

めて電氣の種類を判定するには
之に換へ種類を知れたる電氣を
與へ、然る後之に發電體を近づ
けて之に吸引せらるゝか、又は

デングキ

デングキ

兩電氣互に一度に中和するものにあらずして、中間の空氣を通じて彼此反覆流動すること、恰も水を盛りたる器を傾けて急に舊位に復したる時、水の彼此動揺するが如し、之を電氣振動と稱す。

デンキセキ (電氣石) **鑛英** Tourmaline. (晶系性質) (一)六方晶系(二)色は黒、褐、濃綠、青、紅等あり(三)條痕は白色(四)光澤は玻璃光澤(五)硬度は七・七・五(六)比重は三・三・三(七)成分は $Al_2O_3 \cdot 4H_2O \cdot NaAl_3Si_3O_{12}$ (八)加熱により發電す。

(產地及效用)西比利亞、「ヘルバ」島、瑞西、「コルンウチー」ル「スコットランド」は外國に於ける有名の產地なり、本邦にては甲斐、美濃、近江、常陸、豐後等の諸州に産す、美なるものは寶玉に用ゐ、普通種は物理學上光學、電氣及熱に關する實驗用とす。

デンキタイリユー (電氣對流) **物英** Electric convection. 導體の尖端は、其の彎曲甚しくして、多量の電氣に集積するが故に、之に近き所の空氣はために分解せられて、「イオン」となりて拒反せられ、或は空氣中に浮游する塵埃の吸引せられたるものが、電氣を受けて烈しく反撥せられ、其の近傍に風を起す、斯くの如くにして、導體の電氣の漸次消失する所の現象を電氣對流と稱す。

デンキトリー (電氣燈) **物英** Electric lamp. 電氣燈は電流の發熱作用を應用して作りたるものにして、弧狀電氣燈及び白熱電氣燈の二種あり。

デンキトキン (電氣鍍金) **化** 電鍍に同じ。
デンキノゲンシヨウ (電氣の現象) **物英** Electric phenomena. 電氣現象を見よ。

デンキン (電氣波) **物英** Electric wave. 或る場所に電氣振動起る時、其の周圍の「エーテル」中に生ずる處の一種の波動を、電氣波或は單に電波と稱す。

デンキノハイフ (電氣の配布) **物英** Distribution of Electricity. 一の導體に電氣を與ふるときは、電氣は流動して其の全體の表面に擴布せられ、決して其の實質中にあることなし、又其の表面の内にて彎曲少き部分に電氣の密度小にして、尖りて彎曲甚しき所は、電氣密度大なり。

デンキノドーキ (電氣發動機) **物英** Electric motor. 電氣發電機は、「ダイナモ」の「アーマチュア」に纏ひたる「ユイル」に外部より強き電氣を通ずる時、この電流と磁石との拒反或は吸引の働きのよりて「アーマチュア」の廻轉するに由るものにして、此のことを利用して電流によりて物體の運動を起さしむる装置を電氣發動機と稱し、之を利用して電車其の他種々の器械を運轉せしむ。

デンキバンジツ (電氣版術) **物英** Electro typing.

電氣分解の理によりて、模型を用ゐて原物と同一のものを作る所の方法を、電氣版術又は電版術と稱す、其の最良の方法は軟かにしたる「ガタヘルカ」を原物に壓し着けて、其の陰模型を作り、之に石墨を塗りて電氣の傳導を良くし、之を電池の陰極に結びて、硫酸銅の水溶液中に入れ、其の陽極に銅片を吊す、然る時は銅は分解して陰模型に附着するを以て、之を模型より離せば、原物と同一の形狀を有する銅版を得べし。

デンキヒナ (電氣火花) **物英** Spark. 異種の電氣が相中和する時、音と共に生ずる所の光を、電氣火花と稱す、其の色は、電氣の通過する所の中間物によりて異なり、

- 空氣又は酸素中 青白 紫素
- 水素 深紅 炭酸瓦斯 紫青
- 鹽素 綠 綠

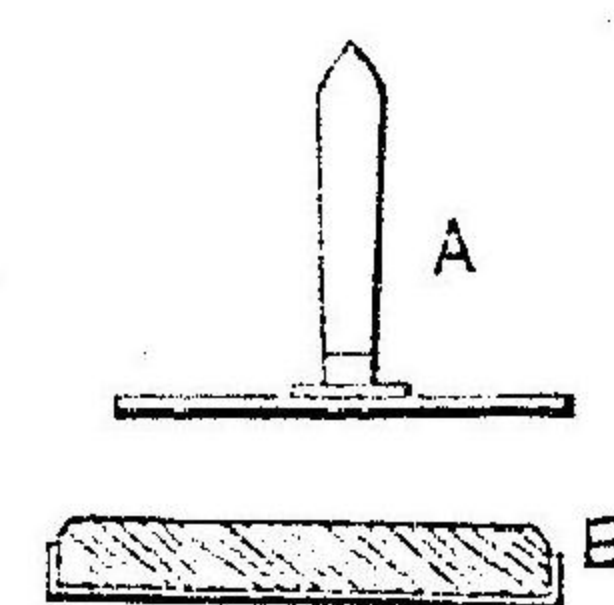
デンキブンカイ (電氣分解) **物化英** Electrolysis. 電

流により諸種の酸類及び金屬の鹽類の水溶液等を分解せしむる現象を、電氣分解といふ、其の電解作用の理を考ふるに、水溶液中に於ける電解物の幾分は解離して「イオン」となり、一は陽電氣を負ひ他は陰電氣を帶ぶ、而して此の「イオン」は常に化學當量の割合に存して、各同量の電氣を

負ぶが故に液外には何等の電氣現象をも呈せざるなり、今此液中に電氣を通ずれば、「陽イオン」は陰極に動き、「陰イオン」は陽極に動き、各其の負ふ所の電氣を失ひ、各其の極に現はれて全く分解を爲すものなり。

デンキブンカイツ (電氣分解物) **物化英** Electrolyte. 電解質を見よ。

デンキボン (電氣盆) **物英** Electrophorus. 電氣盆は、少量の電氣を得るに簡便なる器械にして、圖に示すが如く、徑一尺許りの金屬の圓盤内に、樹脂又は他の不導體を熔かして注入せるものBと、玻璃の柄を有する金屬板Aとより成る、此の器を以て電氣を得るには、能く之を乾燥し、猫皮又は「フタネル」を以て盆を打撃すれば、之に陰電氣を生ずるが故に、其上に金屬板Aを載すれば、盆の電氣の感應によりて板の下面に陽電氣を生じ、上面



に陰電氣を生ず、よりて指頭を板の上面に觸るれば、陰電氣は身體を経て地に逃れ、金屬板には陽電氣のみを留む、故に指頭を去り、玻璃の柄を執りて盆より離し、指節を之に近づくる時は、兩者の間に小なる火花を發し、板に電氣の存在することを示すべし、而して盆の陰電氣は少しも變化なきが

故に此の方法を幾回も繰り返して得べし、

デンキシッド (電氣密度) 物英 Electric density. 導體表面の一平方種中に存在する電氣の分量を、其の部分に於ける電氣密度と稱す、

デンキキャパシティー (電氣容量) 物英 Electric capacity. 導體の電氣容量とは、此の物體をして單位に等しき「ポテンシャル」の増加を生ぜしむるに必要な電氣の量をいふ、

デンキヨウク (電極) 物英 Electrodes. 電極とは電流の電解物に出入する所をいふ、

デジサヌトコロデジサ (石花菜) 植 Gelidium cornutum. 我國諸州の海濱に産する藻類なり、製して「トコロテン」(心太)となす、二三の種類あり、形狀相似たり、又之にて寒天を製し、多く支那に輸出す、

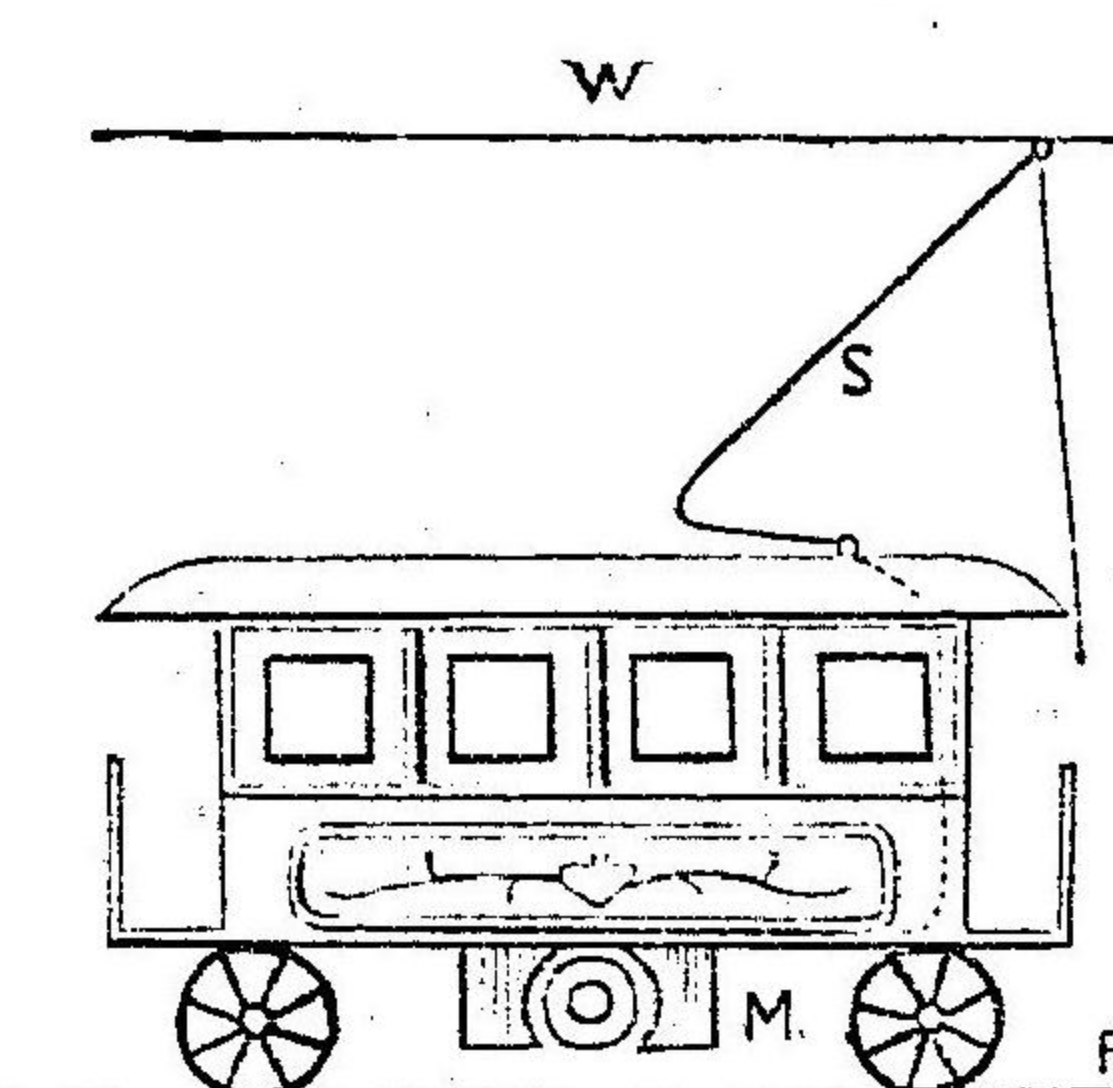
デンジュー (填充) 地 河流によりて放下する土砂の堆積するが爲に湖水に起る現象を云ふ、

デンシキ (電信機) 物英 Telegraph. 電信機は電磁石の理を應用して、大なる距離に即時に音信を通すべき器械にして、現今普通に用ゐらるるものは「モールス」の工夫せるものなり、電信機は、電池、電線、發信機及び受信機の四部分より成る、

デンシシク (電磁石) 物英 Electromagnet. 軟鐵の

棒を心とし、其の周りに絶縁したる導線を巻き、之に電流を通ずるときは軟鐵棒は強き磁石となる、之を電磁石と稱す、其の兩極は「ソレノイド」の同じ、

デンシヤ (電車) 物英 Electric-car. 電車は、其の車臺の下部に電氣發動機を装置し、之に電流を通じ、「アーマチュア」の廻轉することを利用し以て運動を起さしむるものなり、發電所より來る電流は、空中に架したる導線Wより彈機Sを経て、電氣發動機Mに入り、遂に「レール」Rを経て、遂に發電所の周圍に於て、其の作用の及ぶ場所を、その電場と稱す、



所に歸るなり、又空中に二導線を架し、電流の來去ともに其の線に由るやうに造られたる電車あるも、理に於ては大體相異なる所なし、

デンシヨウ (電場) 物英 Electric field. 電氣を帯びたる物體の周圍に於て、其の作用の及ぶ場所を、その電場と稱す、

デンセキドール (天赤道) 天英 Celestial Equator. 天極を極とする大圓を天赤道と云ふ、即ち地球の赤道を含む平面が天球と交る大圓を云ふ、又觀測者の居る場所を通過し地球の赤道に平行なる平面が、天球と交はる大圓と云ふもよし、

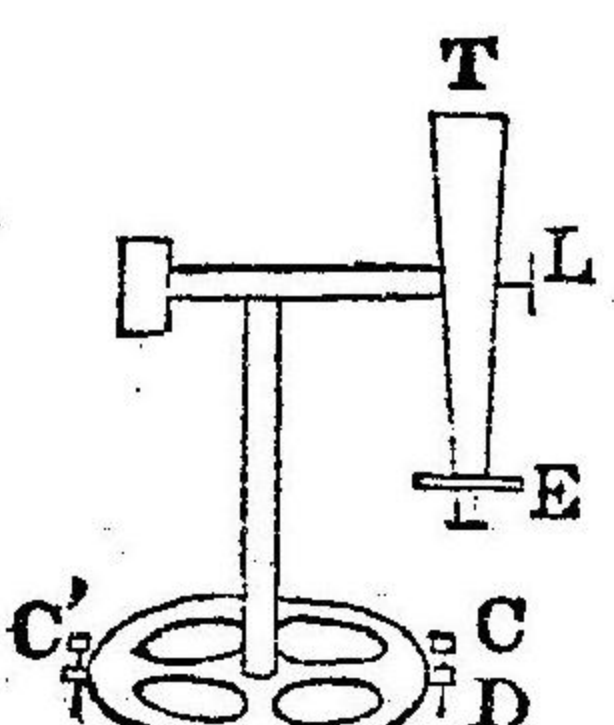
デンセン (電線) 物英 Telegraphic wire. 電線は、甲地と乙地との間に張る導線にして、通例鐵線にして、其の酸化を防がため、之に亞鉛を鍍す、電線は或は之を空中に張り或は地中に埋め、或は水底に沈むることあり、地中に埋め又は水中に沈むる導線は、之を不導體にて包被するを常とす、

デンチ (電池) 物英 Cell. 電池とは、化學的「エネルギー」を變じて電流の「エネルギー」となす所の装置にして、其の種類多し、「ボルタ」電池、重「クロム」酸電池、「ゲローブ」電池、「アンゼン」電池、「ダニール」電池、「レクランシエ」電池等は其の主なるものなり、

デンチノキョク (電池の極) 物英 Electrodes. 電池の兩端の金屬を、其の極といふ、其の中電流の流れ出づる方を陽極とし、電流の流れ入る方を陰極といふ、
デンチノク (電池の分極) 物英 Polarization. 化學作用に基く電池の輪道を閉ぢて之を放置する時、次第

に輪道に於ける電流の強さを減する所の現象を、電池の分極と稱す、其の理は、發生したる水素が漸次に銅板の面を被ひて、電流の通するを妨ぐるのみならず、液を通じて陽極より陰極に向かひて電流を生ぜんとするによるなり、

デンチョウシツ (電鑄術) 物英 Electro-typing. 電氣版術と同じ、
デンチョウウ (天頂雨) 地 熱帯の雨の條を見よ、
デンチョウキ (天頂儀) 地 英 Zenith telescope. 天頂儀は、天頂の南及北の方に於て殆ど相等しき天頂距離を以て子午線を經過する星の天頂距離の差を精密に計ることとを目的とするものなり、此の器械は子午儀に似、望遠鏡が子午面にある様に備へたり、Dは望遠鏡の方位を變ずると共に廻轉す、即ち望遠鏡の縱軸に固着せるものにして、此の器械を廻



するときは共に廻轉し、DがCなる支への爲に止まるときは、望遠鏡の動く平面が子午面になる様に爲せり、又Cの反對の側にある支への爲めにも止めらる、其の時望遠鏡の廻轉面が子午面と一致する様に備へ附けたるものなり、圓板には目盛ありて器械の方位角を計ることを得、望遠

鏡のEの所に測微鏡ありて、之を以て二つの天體の天頂距離を精密に計るなり、先づ南或は北の星の中にて初め見ゆる星の天頂距離に器械を向け、此の星の千午線經過の時を觀測し、次に器械を百八十度廻轉し、次の星の千午線經過をなす時を待ち居り、第二の星の千午線經過の時を觀測するなり、而して初めに見たる時と後に見たる時とに於て、測微鏡を廻轉して星と蜘蛛の絲とを一致せしめたる爲に必要なりし廻轉度數を讀みて、精密に天頂距離の差を計るなり、

テンチーテン(天頂點) 天英 Zenith. 觀測者の目を通過する垂直線が頭上にて天球と交る點を、天頂點或は天頂又時として頂點とも云ふ、

デント(電鍍) 化英 Electroplating. 電流にて鹽類を分解し、其の中の金屬を他の物に附着せしむること、即ち鍍金することなり、

デントリツ(電鍍術) 物英 Electroplating. 電流の鹽類を分解するや、金屬は「カソード」に附着し、酸根は「アノード」に集まるの理に基きて、電流により金屬をして其の化合物の水溶液より分解して、他の物體の表面を被はしむる所の方法を、電鍍術若しくは鍍金術と稱す、之を行ふには、先づ鍍金に用ゆる金屬の水溶液を作り、之を器に入れ、鍍金を施すべき物體を電池の陰極に結び、其の金屬を其

の陽極に連れ、之を器中に垂るべし、然る時は、溶液は分解して金屬は物體の表面に附着し、陽極にある金屬は漸次に溶解して溶液の稀くなるを防ぐ、

デンドー(電氣の) (傳導) 物英 Conduction. 電氣が、物體の或る一端より他端へ、其の状態を變ずることなくして傳達すること、電氣の傳導と稱す、

デンドー(熱の) (傳導) 物英 Conduction. 鐵火箸の一端を炭火中に挿入すれば、其の端が熱せらるゝのみならず、他の端までも熱くなり、殆んど支持すべからざるに至るが如く、物體の一部より他部にまで、熱が熱として移行行く所の現象を、熱の傳導といふ、

デンドータイ(熱の) (傳導體) 物英 Conductor. 良導體を見よ、

デンドー(熱の) (傳導度) 物英 Conductivity of Heat. 傳導率を見よ、

デンドーリツ(熱の) (傳導率) 物英 Conductivity of Heat. 切斷面一平方厘、厚さ一厘なる物體の兩側の溫度の差常に一度なる時、一秒時間に此の物體を通過して、其の高温の面より低温の面に向かひて流るる所の熱量を以て、其の物體の傳導率又は傳導度と稱す、

デンドーリツ(電動力) 物英 Electromotive force.

導線を通じて電流を流動せしむる所の原因を電動力といふ、其の強さは電池を作る物質にのみ關し、毫も其の構造及び形狀に關することなし、

デントーシ(紅娘) 動 Coccinella. 英 Lady-ling.

半球形をなせる小甲蟲にして、朱色に黒點を有す、此の黒點の數により種を分つ、或は害蟲あり、或は益蟲あり、例へば七黒點を有する「七星テントーシ」の如きは、其の幼蟲が「アリマキ」を食するにより、農家に利あり、

テンジューニキー(天の十二宮) 天英 The twelve zodiacal signs. 天球上に於て黃道より兩側に八度程づゝ即ち全體にて十六度の幅を有する帶を黃道帶と云ふ、黃道に沿ひて其帶を十二等分す、即ち三十度づゝに分つ、其各を天の十二宮と云ふ、今其の名稱を擧ぐれば次の如し、白羊宮(Aries) 金牛宮(Taurus) 雙女宮(Gemini) 巨蟹宮(Cancer) 獅子宮(Lion) 寶女宮(Virgo) 天秤宮(Libra) 天羯宮(Scorpio) 人馬宮(Sagittarius) 磨蝎宮(Capricornus) 寶瓶宮(Aquarius) 雙魚宮(Pisces) 是なり、

テンピン(天秤) 物英 Balance. 天秤は、物體の質量を測る器械にして、成るべく軽くして撓まざる竿の中央に鋼鐵製の刃を設け、堅くして平滑なる面上に支へられ、以て竿の廻轉を自由ならしむ、又竿の兩端にも上に向ひたる刃あり、

りて、之に皿を懸く、之を以て物體の質量を測らんには、左方の皿に物體を載せ、右方の皿に分銅を載せて、竿をして水平ならしめ、其の分銅に記せる數字を讀みて其の物體の質量を知るなり、

デナン(澱粉) 化植英 Starch. (C₆H₁₀O₅)

デナンセーシツ(澱粉の性質) 此の物は、肉眼にて見れば白色の粉末なれども、顯微鏡にて見れば、卵圓、長圓、稜形等の無色の小顆粒をなせり、其の大小及び形狀等は、植物によりて同一ならず、空氣中に於て乾燥したるものは、一割乃至二割の水を含有す、水及び「アルコール」に不溶なり、水を加へて五十度に熱するときは、膨脹して破裂し、一部分は溶解して粘稠塊となる、之を澱粉糊と稱す、其の水溶液に沃素を作用せしむれば青藍色を呈す、熱すれば其の色は消ゆれども冷ゆれば再び顯る、煮沸せる稀薄酸類は、澱粉を「デキストリン」及び葡萄糖に變ず、又百六十度乃至二百度に熱するときは、全く「デキストリン」となる、

デナンセーホー(澱粉の製法) 馬鈴薯より澱粉を製する法、馬鈴薯を水と共に大桶に入れ、木板を以て攪拌して其の皮を去り、次に之を磨り碎き、大なる篩に入れて水を注ぎながら篩へば、澱粉は水中に出て、纖維等は篩に残る、而して水中の澱粉暫時にして水底に沈むが故に、其の上水を去

デンプ

り、再び清水を注ぎて攪拌し、浮きたる夾雜物を取り去る、斯く水を取り換ゆること數回なれば、終に清淨なる澱粉を得、次に之を日光にて乾燥す、葛根、甘藷より澱粉を取るも殆ど同様なり、

デンプンハコソ (澱粉酸酵素) 化英 Distase. 澱粉に作用して、之を砂糖類に麥芽糖に變化せしめ、以て可溶性のものとなす所の酸酵素を云ふ、

デニモガク (天文学) 天英 Astronomy. 天文学或は星學とは、宇宙間に存在する天體に對する學問なり、但し此の學問にては、物理及化學に於てなざるべきことと研究せず、尙ほ精しく云へば、夫等の天體の運動、即ち地球表面にて見たる運動、及實際の運動、及夫等の運動を支配する規則諸天體の形、大さ、物理學上の性質、現象等を研究する學問なり、此の學問の卑近なる應用は、航海、測量、時の測定、其の他なり、物理及化學に關しても應用あり、此の學問は又分ちて六部門となす、即ち記載的天文學、實地星學、球的天文學、理論的天文學、重學的天文學、及物理的天文學是なり、
デシリ (電離) 化英 Electrolytic dissociation. 溶液に於て、溶質が陽イオン及び陰イオンの二つに分かるることを云ふ、解離の條を見よ、

デリユー (電流) 物英 Current. 電池の輸道中を流動

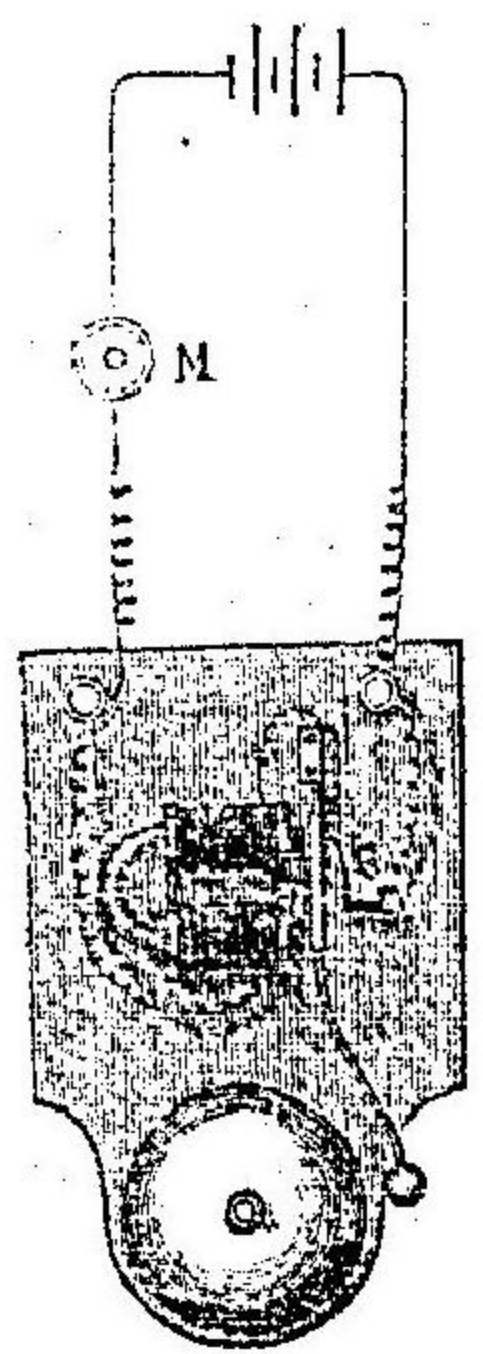
デシリ

する電氣を電流と稱す、
デリユーゲー (電流計) 物英 Galvanometer. 磁石の偏りは、電流の方向を示し、又其の偏りの多少は、電流の強さを示す理に基きて、電流の強弱と其の方向とを計るべき器を「ガルバニ」電流計又は「ガルバノメートル」と稱す、普通用ゐらるるは、正切「ガルバノメートル」及び無定位「ガルバノメートル」等なり、

デリユーノホーナー (電流の方向) 物英 Direction of current. 電流は、電池の陽極より陰極の方に向かひて流るゝものと定む、

デリユーハシテキ (電流反轉器) 物英 Commutator. 「コンミュテーター」を見よ、

デリー (電鈴) 物英 Electric bell. 電鈴は、電磁石の理を應用して作りたる器にして、蹄形の軟鐵を巻きて作



れる電磁石ありて、其の兩極の前に「バネ」にて支へられた

る軟鐵片あり、輕くSなる螺旋の尖端に觸る、其の先端に小球を附して槌とす、今Mなる釘を押して輸道を開く時は、電磁石は忽ち鐵片を吸引し、槌は釘に一撃を與ふ、之と同時にSなる螺旋止めと「バネ」との接觸絶たるを以て、電磁石は磁性を失ひ、鐵片は舊位に復して輸道再び成り、槌は再び釘を打つべし、斯くして釘を押す間は、鐵片は反覆振動して鈴を連撃するなり、

デシキ (電話器) 物英 Telephone. 電話器は、感應電流の作用により、遠距離の所に音響を送る器械にして、其の主要なる部分は、送話器及び受話器より成る、

デーリユー (泥流) 地英 Stream of mud. 火山噴出の際、熔岩の霽爛せるもの、若しくは其の粉碎したるものに水を混じて泥土状を爲せるものを流下することあり、之を泥流と稱す、

デーリユー (定量) 化英 Determination. 化合物中の各の成分の重量を知ることを云ふ、

デーリユーフシキ (定量分析) 化英 Quantitative analysis. 化合物を分析して、各の成分の重量の割合を知る法なり、

テルペンチン (松根油) 化英 Terpentine oil. 松柏科植物の樹幹、樹皮、枝葉等に存在し、これらの樹皮の切口よ

デンプ

り水を用ひて抽出したる脂油、即ち粗製の「テルペンチン」を蒸留して製す、無色の流動し易き液にして、特異の惡臭を有す、水に不溶にして、「アルコール」の水溶液には少しく溶解し、無水「アルコール」、「エーテル」、「二硫化炭素等」には全く混和す、此の物は沃度、硫黄、燐等を溶解するのみならず、固形油及び樹脂の如き水に溶解せざる物を溶解するを以て、「アニス」及び染料を製するに使用せらる、

テレニユ (テンピン油) 化英 Oil of turpentine. 「テルペンチン」に同じ、

デレーヤシ 植 「アフォカサカヤシ」に同じ、

デロヤキ又ドロヤキ又ドロキ 植 楊柳科木本にして、成長迅速なり、楊子、總楊子とし、又其の材を「マツチ」製造に用ゐる、

ト

ト (省藤又紫藤) 植 Calamus Rotang L. 棕櫚科植物にして、東印度諸島及琉球諸島に産す、其の十分に生長せるものは、一五〇乃至四〇〇尺に達すと云ふ、而して周圍四五寸にすぎず、葉の長は六尺に達す、椅子、寝臺、杖、其の他日用必要の器具を作る、又繩の代用とす、我國臺灣に之を

テレビ

産す、百斤の價は神戸着三圓許なりと云ふ、

ド一(銅)化 「アカガネ」銅の條を見よ、

ト一アツセン(等壓線)地 同壓線に同じ、

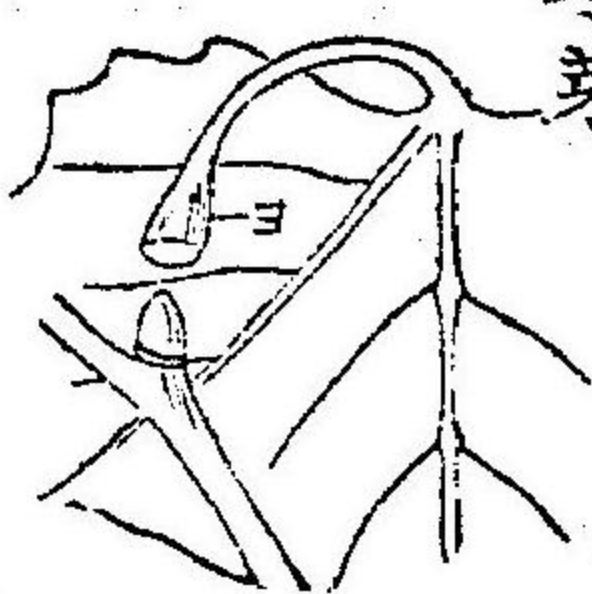
ド一アツセン(同壓線)地 英 Isohar. 同一氣壓の地點を
連れたる線をいふ、

ト一オンセン(等温線)地 同温線に同じ、

ド一オンセン(同温線)地 英 Isothermal line. 地球上
同一温度を有する地點を連れたる線をいふ、

ト一カ(糖化)化 英 Saccharification. 他の物質(例
へば澱粉)が糖(例へば葡萄糖)に變ずることを云ふ、

ト一ガ(冬芽)植 英 Winter bud. 冬を越す芽を云ふ、
即ち冬眠をなす芽なり、其の越冬の方法、大概左の如し、



一、鱗狀葉(鱗苞)にて被はるるも
の……梅、櫻、桃等

二、鱗狀葉の一種、籜にて被はる
るもの……竹「ヨシ」等

三、鞣皮様の毛茸にて被はるるも
の……梧桐、桐、枇杷等

四、絹絲様の毛茸にて被はるるもの……「ヤナギ」、
五、鱗狀葉にて被はれ且つ樹脂を分泌するもの……「ト
チノキ」、

六、葉枕にて被はるるもの……「モミヤ」(圖中ヨ)

ド一カ(銅貨)化 英 Copper coin. 我國の銅貨は、銅
九十五分、錫四分、亞鉛一分の合金なり、貨幣法にては青銅
貨と稱せり、

ト一カゲ(蜥蜴又石龍子)動 英 Funecus quinquelin-
entus, L. 英 Lizard. 彩色美にして有毒なるが如しと
いへども然らず、昆蟲を食し寧ろ害をなすものにあらざり、其
の尾は切れ易しといへども、亦容易に再生するものなり、凡
て生物の負傷し易き部は容易に再生するものなり、此れ自
然淘汰の結果なり、

ト一カゲルイ(蜥蜴類)動 英 Sauroi. 蜥蜴類は、概れ四
脚を全具し、稀に前後中一對のみを存し、或は全く之を闕如
す、其の四脚ある者は、體色「イモリ」に肖ると雖も、尾は圓
筒狀にして、指趾は心す鉤爪を具へ、而して皮は鱗若くは顆
粒狀物を被るを常とし、體色鮮美なり、胸骨は蛇形の類を除
く外皆之を有す、上下顎の諸骨は蛇類と異なりて動搖自在
ならず、故に口を開くこと潤大ならず、齒は皆至て小に、肛
門は横裂せり、此の類は殊に多く熱帶地方に産し、種數の多
きこと爬蟲類中第一たり、概れ無害無毒にして昆蟲類を餌
食となす、

ド一カサヨ一(同化作用)植 英 Assimilation. 葉綠

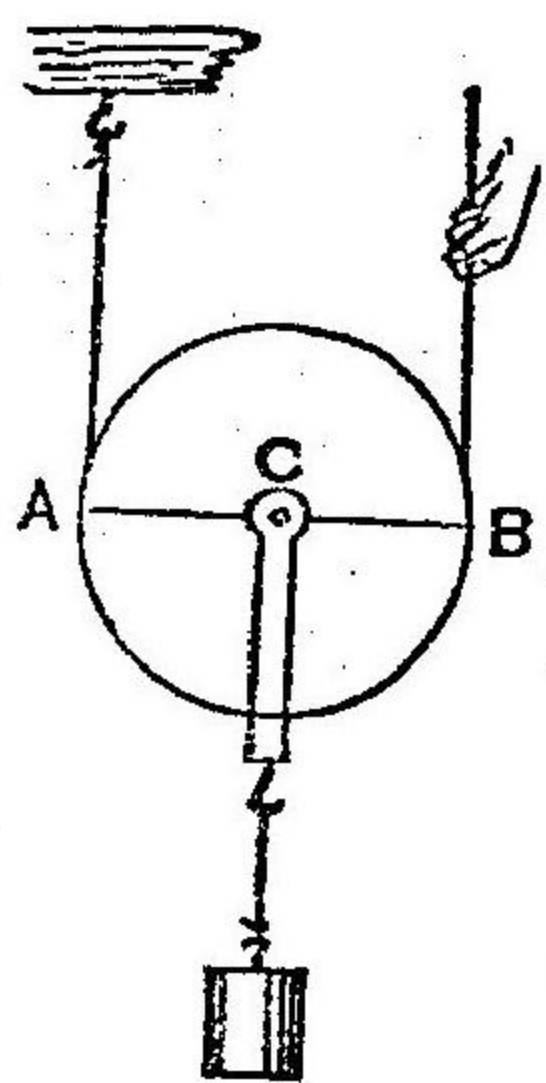
を有する植物が、日光の力によりて、炭酸瓦斯を分解し、其
の中の炭素を取り、根より吸上げたる養液と共に、澱粉を形
成し、酸素を空中に放出する作用を云ふ、詳言すれば、先づ
無機物質を化して有機物質となし、更に之を植物の組織と
同一の物質に化成する作用なり、

ト一カシヨクツ(豆科植物)植 Leguminosae.

特徴、兩性花、不整齊、萼五、花瓣五、雄蕊十ありて合一す、
又は九個合一して一個分離し、所謂兩體雄蕊をなす、
時としては全く分離す、雌蕊一、羽狀複葉にして、果
實は莢となる、

例、大豆屬、葛屬、ナタマメ屬、ゲンゲ屬、ソラマメ屬、ウ
マエヤシ屬、アカツメクサ屬、ハギ屬、ハリエンジュ
屬、ネムノキ屬、アカシヤ屬、ハブソ一屬、サイカチ
屬等、

ド一カシヤ(動滑車)物 英 Movable Pulley. 動滑



車とは、車が軸の周り
に回轉し得るのみなら
ず、其の位置をも移動
するものにして、この
ものはAを支點とし、
Cを重點とし、Bを力

點とする横杆と見做すべく、其の力臂は重臂に二倍するを
以て、重物の二分の一の力にて之を引き上ぐることを得る
ものなり、多くは定滑車と組み合はせて使用し、大なる力を
要する場合に於ては、數個を複れ用ゐる、

ド一カデン(同化澱粉)植 日光の作用にて、葉綠體內
に形成せられたる澱粉粒にして、貯藏澱粉に比すれば其の
形小なり、

ド一カン(導管)植 英 Vessel. 細胞互に合併し、相隣
接せる細胞膜の一部或は全部は消失して、一條の長管とな
れるものを云ふ、此に左の種類あり、

1. 篩管 (Sieve tube.)
2. 有孔導管 (Pitted vessel.)
3. 螺旋紋導管 (Spiral vessel.)
4. 網紋導管 (Reticulated vessel.)
5. 環紋導管 (Annulated vessel.)
6. 楯紋導管 (Scaliform vessel.)

ト一カキセキ(燈火用石油)化 地中より湧出する石
腦油を採りて之を分餾するや、百五十度以下にて餾出する
ものは、揮發油と稱し、其の質軽く容易に引火する故に危
險なり、洗濯用又は特別の構造を有する「ランプ」に使用す
る外、外科醫、又は植物種子より油を抜き取るに用ゐる、百

五十度以上三百度以下にて蒸餾するものは、燈火用石油にして、比重は通常〇・八一内外なり、三百度以上にて溜出するものは、之を重油と稱し、其の質甚だ粘り、比重亦や、大なり、之を冷却すれば石蠟即ち「パラフィン」と稱するものを沈降す、之を絞り取りて西洋蠟燭の材料となし、絞りたる重油は、主として機械油に用ゐる、此の重油をも蒸餾し去りたる残渣は、熱きときは濃き粘りたる液體をなし、冷却すれば堅き黒塊となる、瀝青と同じく道路に敷く等の用に供す、燈火用石油は分留したる儘にては多少著色して不純物を混する故に、之を精製するために、強硫酸の百分の一乃至三を加へて攪拌し、硫酸の黒色となりて沈降するを待ちて、其の上澄を取り、更に苛性ソーダ或は炭酸ソーダを入れて攪拌し、硫酸にて取り得ざりし夾雑物、及び硫酸の殘量を去り、再び此の「ソーダ」等を水にて能く洗ひ取りて賣品となす、此の際洗滌が不充分にして、硫酸の少量にても殘存すれば、之を「ランプ」に用ゐるとき、絲心の焦ぐる憂あり、又「ソーダ」を殘留すれば絲心中に浸入し、心の孔隙を充たし、以て油を吸收する力を減する患あり、重油は重く且つ粘りして、「ランプ」の心に吸ひ上げられざる故に、之を燈用石油に混すべからず、然れども此の制限を越ゆるもの甚だ多く、我國に輸入する米國油の如きは百五十度以下にて溜出する

もの、多量と、三百度以上にて溜出するものの三割以上を含むもの多し、幸にも輕き部分は重き部分の爲に緩和せられて危険の度を減じ、重き部分も輕き部分と混するが故に、幾分か燈心に吸ひ上げらるゝを以て、其の害は想像する所よりも小なり、唯、斯かる混合油を用ゐるときは、「ランプ」の油壺に油を一杯に入れ、之に點火するに、始めは明るきも、油が減して半分以下になりしときより、漸くに光力を減じ、猶ほ多量の油の囊中に殘存するに拘らず、甚だ暗さを感ずることあり、凡そ、石油の危害は、「ランプ」に點火したるまゝ、之に石油を加ふるか、或は「ランプ」の墜下して破裂するか、或は古き心を用ゐる其の吸上力の減ざるが爲に、心は自ら燃え、遂に油壺中に及ぶことあるか、或は石油を貯藏する場所に於て誤りて之に火を近づくるが如き場合に歸するなり、此の危害を避けんには、石油を用ゐるときは温度及「ランプ」の油壺中に於ける温度に於て、其の石油中より燃焼すべき瓦斯を發生せざれば即ち可なり、或學者の研究によれば、油壺中の油は、其の「ランプ」の點火せらるゝが爲に熱せらるゝこと、油壺の物質によりて異れども、凡そ二度乃至八度なりと云ふ、今室内空氣の温度を假りに二十八度とし、油壺中に於て油の熱せらるゝこと七度なりとせば、三十五度以下にて燃焼すべき瓦斯を發することなき石油は危険

なき理なり、

ト一ガランシ (蕃椒) 植 *Capsium longum* L. 茄科の草本なり、花は白色にして小なり、果實は通常長く、熟して紅色となる、或は其の葉を煮て食用とす、果實亦食ふ可し、**トキ (朱鷺) 動** *Nipponia* 英 *This*. 涉禽類にして、全形鶴に似、嘴は長くして下曲し、脚は太短く、池沼中にありて小魚を食す、

ト一キ (陶器) 化 粗質にして、色白ならず、不透明なるものを云ふ、磁器よりも原料稍不純なるものを用ゐる、薩摩焼、粟田焼等之に屬す、

ト一キ (動悸) 生 心臓の鼓動を動悸といふ、「コト」の條を見よ、

ト一キセキ (透輝石) 鑛 英 *Diopside*. 「ギセキ」(輝石)の條につきて、其の種類を見よ、

トキシメーター (時の測定) 天 英 *Determination of time*. 第一法 或る恒星の子午線經過をなす時の恒星時は、其の恒星の赤經度に等し、故に恒星時計の差を正すには、其の子午線經過の時の観測すればよし、

第二法 平均時計を用ゐれば、太陽の子午線經過の時を觀測す、太陽の子午線經過をなすときは、太陽の時角は零なる故に、其の時の眞太陽時は零時なり、夫れに時差を加へ、

其の時の平均時を知るなり、
第三法 太陽の高度を觀測によりて定め、其の高度より計算上にて其の時の時角を求むるなり、今其の公式を示せば左の如し、

$$\sin H = \sqrt{\sin(\phi + \delta) \sin(\phi - \delta)}$$

(Case 1) $\phi > \delta$

但し ϕ は太陽の中心の時角、 δ は天頂距離、 H は緯度、 ϕ は赤緯度なり、
トキシメツ (鍍金術) 物 英 *Electroplating*. 電鍍術を見よ、

トクツツギ 植 *Cornaria Japonica* A. (Fr. 雙子葉毒空

木科の落葉灌木なり、諸國向陽の地に生じ、河原に普通に見る所なり、一名「シマツツギ」一名「イチロモロシ」とも云ふ、花小にして雌雄の別あり、春夏の候開花す、多肉にして極めて鮮美なる紅色の果實を結ぶ、此の果實に大毒あり、口にすべからず、葉には三條の脈明かにして「シマツツギ」の名は之より生じり、莖葉根共に毒あり、搔痒、疼痛、灼熱等を起し、甚しきは呼吸困難となり、痲痺を起して死す、小兒にして此の實を食し、死に至るもの少からず、年々官報に報する所の被害者數によりても明かなり、

トクサ (木賊) 植 *Equisetum hiemale* L. var.

Japonicum Milde. 木賊科の草本にして、形状「スギナ」の如し、莖に珪酸を含み、物を磨くに用ゐる、木匠の使用する所なり、

トクサレイ(木賊類) 植 Equisetaceae. 莖は中空にして結節あり、葉は不完全にして十分に發達せず、綠色なる莖は専ら營養を司る。

例 トクサ、スギナ、イヌトクサ等、

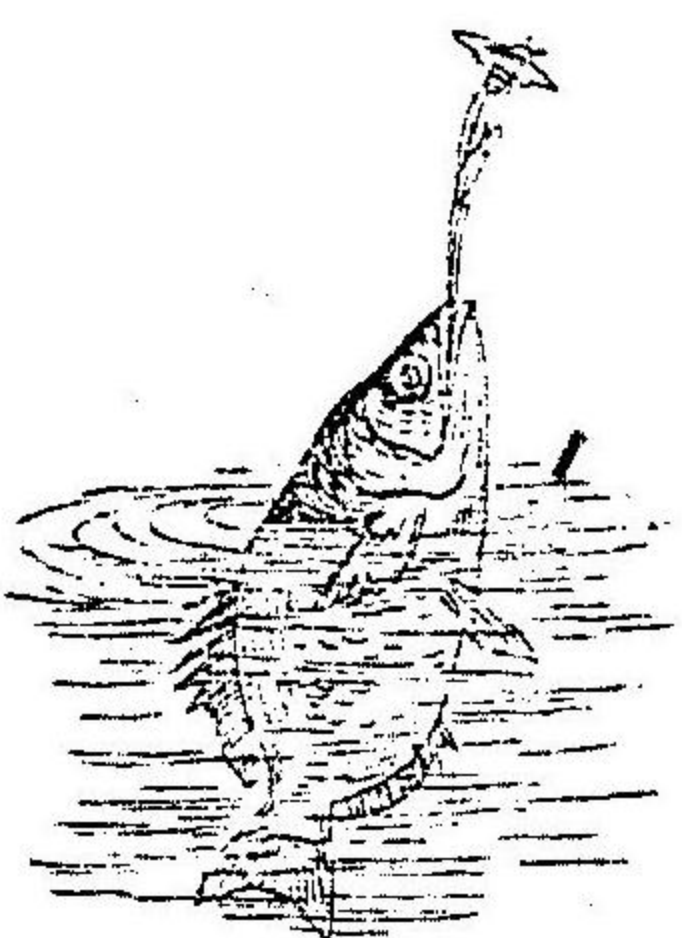
ドクシヤ(毒砂) 鑛化英 Arsenopyrite or Mispickel. 硫黄、砒素、鐵より成り、FeS, FeAs の化學式を有す、鋼色をなし、砒又は亞砒酸製造の原料なり、多くは銅鑛に伴ひて産す、「毒」「白ドーキヤン」「白日」等と俗稱す、俗間鼠殺しとして販賣するは、此の毒砂を燒きて製造したるものなり、

ドクシヤセキ(毒重石) 鑛化英 Villenite. 炭酸「バリウム」より成れる鑛石なり、又砒重石と云ふ、

ドクシ(毒腺) 動英 Poisonous gland. 毒液を分泌する器をいふ、「クモ」

の大顎の基部にある囊状物、「マムシ」等の類にある囊の如き是なり、

トクテス 動英 Fox-



Otes. 印度「ジャバ」等の近海に産する魚にして、昆蟲の來るあれば、口より水を射出して之を落とし食ふものなり、「テッポウウチ」ともいふ、

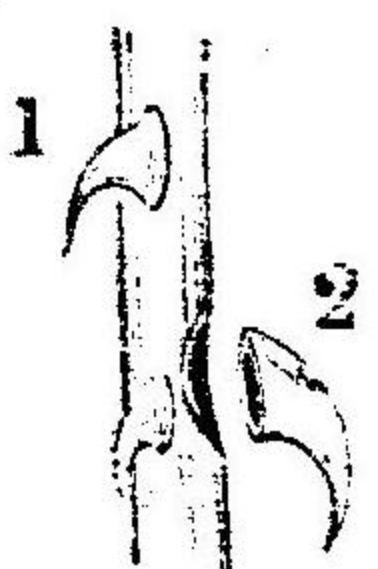
ドクダミ(戟又ジューヤク) 植 Houttuynia Cordata Thunb. 三白草科の多年生草本にして、臭氣高し、路傍、平地に生ず、無被花にして白色瓣の如きものは苞なり、夏開く、蟲媒植物にして、根莖より盛に芽を生じ、蕃殖力に富みて他草を壓倒して群生す、支那にも産す、

ドクリツカイ(獨立海) 地 太平、太西、印度の三洋の如く其の中に獨立の海流系を有する海をいふ、

ドクゲイ(動徑) 天英 Radius vector. 太陽と地球とを結合する直線を地球の動徑と云ふ、

ドクゲイ(同形) 動英 Symmetry. 一物を鏡に寫したるとき、其の物體と影像とが互に等しき如き關係を同形といふ、されば林檎の縱軸を含みて切りたる如く、或は人の胸骨及脊柱の中央を通して縱斷せる如き場合に、其の兩半は同形なりといふ、

トゲ(刺) 植英 Pickle. 針の如く莖の内部と連接するものにあらず、且つ節及腋芽を有せず、一定の順序ありて生ずるものにあらず、只



表面の細胞及表面に近き部分の細胞が、共に突出してなれるものなり、

實例……バラ(薔薇)、イチゴ(懸鈎子)等の「トゲ」是なり、

トゲ(峠) 地英 A high mountain pass. 山脊の一部分にして、山を踰ゆる道路の通ざる處なり、

トゲウヲ 動 Gasterosteus. 淡水に産する小魚にして、脊腹に硬棘あり、粘液を絲とし泥を附着せしめ巢を作り、此の中に産卵し、雄は之を守り、外敵の來るよきは棘を以て之を攻撃す、かく巢を作り、加ふるに棘を有する雄が之を保護するにより、自然の結果として卵數少し、大抵五十粒前後を産卵す、岐阜、近江、東京附近の淡水に産す、又「イトツツナ」と云ひ越後高田の絲魚川の名産なり、

ドクゲイ(同傾線) 地 磁針の同じ傾角を有する地點を連ぬる線をいふ「トーフクカクセン」に同じ、

ドクゲイ(瞳孔) 生英 Pupil. 眼球の前方中央にあり、其の面積を大小に變じ得る黒點にして、其の色の黒きは網膜の色なり、光線強きときは小となり、然らざれば放大す、是れ寫眞撮影の際、大小異なる圓孔ある板を以て、光線の強弱を加減するに等し、太陽に向かひて後突然室内に入れば、四圍暗黒にして咫尺を辨する能はざるは、瞳孔が未だ放大せざるため、光線の入ること少きと、網膜の色素が過多に消

費せられたるとによるなり、「ネコ」、「クマ」、「ヒ」の或種、及「ヤモリ」等の瞳孔は縦長なり、

- ドクゲイ(銅鑛) 鑛 Copper ores. 銅は自然に産出し、又硫黄、酸素、砒素、マンチモニー等と化合して産す、今其の種類を左に示す、
- (一) 自然銅 Native copper. 「シヤンブー」を見よ、
 - (二) 黄銅鑛 Chalcopyrite. 「オードロー」を見よ、
 - (三) 班銅鑛 Bornite. 「マンブー」を見よ、
 - (四) 黝銅鑛 Tennantite. 「モドロー」を見よ、
 - (五) 赤銅鑛 Cuprite. 「シヤクドロー」を見よ、
 - (六) 孔雀石 Malachite. 「クシヤクセキ」を見よ、
 - (七) 藍銅鑛 Azurite. 「ランブロー」を見よ、
 - (八) 膽礬 Chalcantite. 「タンパン」を見よ、

トクゲイ(東濠洲流) 地 南赤道流の濠洲附近に至りて派する一支流にして、濠洲の東岸を南下するものをいふ、

トクシヤミナキキムシ(床蝨) 動 Acanthia Teutharia. 「トクシヤ」 Bedbug. 蝦茶色を呈し、體横に扁平にして、頭小に、胸部横に大なる膨起を有し、腹部大にして多くの環節

を有す、扁平なるにより常に板の接目等に棲息し、夜間出て人血を吸ふといへども、黎明に至れば既に去りて跡を止めず、人血を吸ふ場所は必ず裸出部と被服部との境界なり、人之に吸血せらるれば、其の所膨脹し、数日間悪痒を覺ゆ、半翅類に屬するも無翅なり。

トコツ(鐙骨) **生英** *Stapes* 中耳にある骨にして、鐙の形をなし、其の頭端は砧骨に、下端は内耳の卵圓窓に接す

トコツ(橈骨) **生英** *Radius*. 先端膨大して腕骨に接し、後部稍細くして上膊骨の下端に連り、拇指の在る方であり、此の骨は上膊骨に緊着せざるにより、腕を前内方に回轉することを得べからしむ、脈を檢するとき握る部分は、即ち此の橈骨の前内端なり。

トコシ **動** 「トコフシ」は、介殻楕圓形をなし、殻頂は判然し較や隆起す、吸水孔は其の縁低く、六乃至九個貫通す、殻は外面淡褐色に着色を帯び、内面は眞珠色を帯ぶ、蹠は淡褐色を含み、殻長二寸餘、幅一寸五分餘、高六分餘に達す、東海諸洲に饒産す、此の種は「アロビ」の棲息する所には必ず産出せざることなし。

トコマ(蓖麻) **植** *Ricinus Communis* L. 大戟科草本にして、種子より油を取る、「ロシマアブラ」是なり、此の油は有名なる下劑なり、此の植物は大戟科中大形に屬する

ものにして、葉は掌狀に分裂し、花は單性にして雌雄同株なり、果實は蒴にして數多の鋭尖なる突起を有す。

トコテンサ **植** 「テンゲサ」を見よ。

トコサンイ(洞山堂) **地** 斷層、褶曲の兩山麓、久しく水の作用を被りたる爲に、其峯嶺は削磨、蝕殺せられ、多少圓滿なる群山と爲りたるものなり。

トコジ(冬至) **天地英** *Winter solstice*. 二十四節氣の一にして、太陽が南回歸線を直射する時をいふ、即ち大陽の赤緯度の最も小(負數二十三度半)となれる時なり、十二月二十一日頃にして、晝間の最も短き日なり。

トコジセン(冬至線) **地** *Tropic of capricorn*. 南回歸線即ち南緯二十三度半の線をいふ、太陽は此の線より南を直射することなし。

トコシセン(等深線) **地** 同深線に同じ。

トコシセン(同深線) **地** *Lines of equal depth*. 海中同一の深さを有する地點を連れたる線をいふ。

トコシヤカク(投射角) **物英** *Angle of incidence*. 反射の條下を見よ。

トコシヤゼ(投射線) **物英** *Line of incidence*. 反射の條下を見よ。

トコシキ(吐酒石) **化英** *Purta emetic*. 此の物は

重酒石酸加里及び酸化「アンチモン」を水と共に熱して得べし、單斜晶系の風化し易き八面體の結晶なり、有毒にして吐劑又は發汗劑とす、染色術に於て媒染劑となす。

トシヨロ **植** 「シヨロ」を見よ。

トシヨ(泥鰌) **動** *Misgonyx* **英** *Toad*. 體は圓柱狀にして、尾部に至り側扁す、皮膚は粘質にして、眼は小なり、口は皮膚によりて伸縮し、背部は蒼黒にして、濃褐の斑點を有す、腹部は灰白或は淡黄を帯ぶ、大なるものは五寸餘に達す、泥中に潛在し游泳すること稀なれども、時に水面に浮かびて空氣を呼吸す、「ドシヨ」は腹の内面に於て嚙下せる空氣により呼吸す、俗に「ドシヨ」が「ツケ」といふことあれど、元來宇宙間に「ツケ」といふことなし、「カビ」の如きも、胞子來りて附着するにより繁殖を初むるなり、況んや「ドシヨ」の如き脊椎動物が自然に「ツケ」出づることあるべき理なし。

トシヨ **カタク**(頭狀花托) **植英** *Ceaulanthium*. 菊科植物の花托の如し。

トシヨ **セキカイカン**(土狀石灰岩) **鑛英** *Earthy limestone*. 「セキカイカン」(石灰岩)の條を見よ。

トシヨ(島嶼) **地英** *Island*. 陸地の小なるものをいふ、**トキ**(土星) **天英** *Saturn*. 土星は、其の赤道平面の

所に輪狀物を有する扁平なる星なり、此の輪は小さき衛星の群なるもの、如し、此の他に九個の衛星を有す、土星の外観は木星に似たれども、模様なきを異にせり、輪は三つに分かつことを得て、外の二つが明かくして、内部のは暗し、又輪の厚さの薄きことは、地球が其の輪の平面に入りたるとき、其の直線に見ゆるによりて知らる。

トシ(土泉) **鑛英** *Earthy Springs*. 硫酸鹽、炭酸鹽類等、諸種の物質を混有する源泉なり。

トシ(豆素) **化英** *Leginin*. 大豆、小豆等の中に存する蛋白質にして、豆腐は苦汁によりて豆素を凝固せしめたるものなり。

トシヨウ(等速運動) **物英** *Uniform motion*. 物體の運動するに當り、時の長短に係はらず、常に相等しき時間に物體の經過する路程の相等しき所の運動を稱して、等速運動といふ。

トシヨ(頭足類) **動英** *Cephalopoda*. 頭足類は體制最も高等なる軟體動物を包含し、足は翼狀の兩鰭に變じ或は數個の觸手及一個の管狀物(所謂漏斗)を成す、「タコ」「イカ」等之に屬す。

トシヨ(同素體) **化英** *Allotrope*. 同じ元素より成れる單體にして、性質を異にせるものをいふ、例へば木

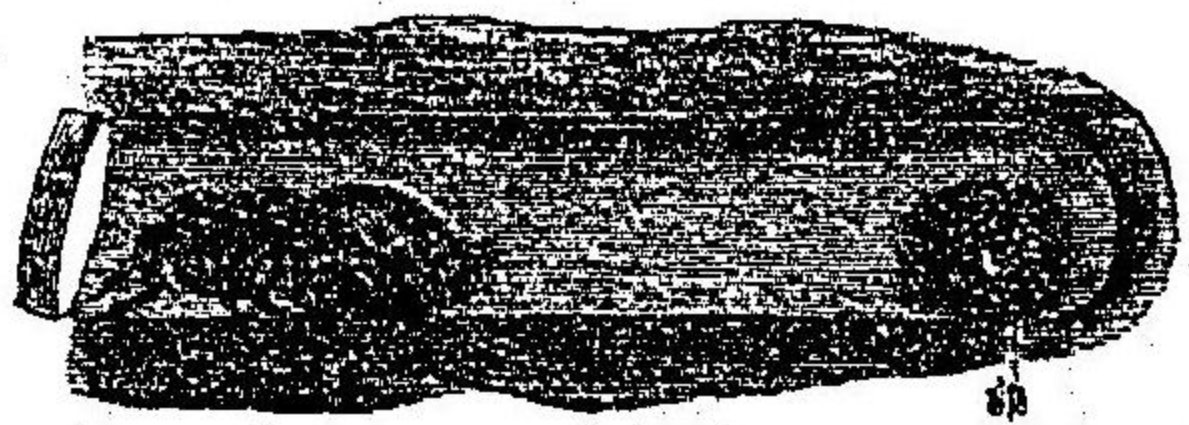
炭、金剛石及び石墨は同素體なり、

トータ (淘汰) 動英 Selection. 淘汰とは多くのものを或る目的を以て擇り分ることをいふ、例へば外界の事情に適應するものは、擇り残されて生存し、然らざるものは生存を許されざるが如し、

トータイ (電氣の) (導體) 物英 Conductor. 金屬、酸類、炭、木綿、人體等の如く、電氣を導き易き物體を、電氣に對する良導體或は導體といふ、

トタテモ 動 Oteniza. 餘り砂の多からざる崖に横穴を掘り、其の入口に糸にて作れる戸を建て其の戸の外面には土苔等を附して、よく外界の地色と區別すること能はざらしむ、而して晝間は太陽を以て此の戸を引き暮し、夜に入り出でて食を求む、町噂に古崖を索むれば必しも發見し難きにあらず、

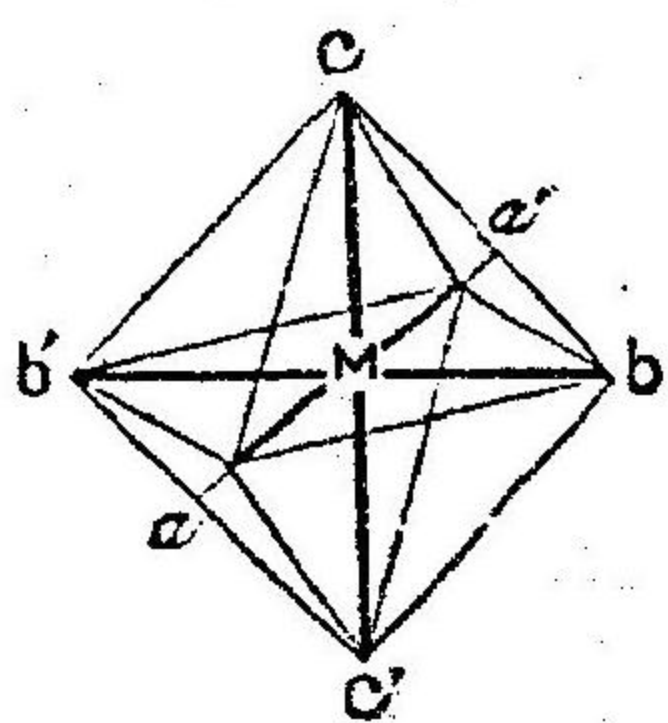
トチクシヨウケイ (等軸晶系) 鑛英 Tesseral, Regular, Cubic system. 三軸同長にして、互に直角に交叉す即ち圖の如し aa', bb', cc' の三軸は其の中の一つを以て、任意に主軸となすことを得、而して此の三軸は、互に直角をなし、且つ同長なるが故に、



此の結晶系に屬する結晶は、上下左右を變ずるも、常に、同様の位置を保つものなり、

トチサヤフダシイ 蕪菜又甜菜 植 Beta Vulgaris

「L. 藜科に屬する草本なり、葉は大形にして、花帶綠色を呈し、根は肥大す、赤色黄色或は白色を呈す、黄赤の二種は通常食用に供す、其の味甘美なり、白色の根よりは砂糖を製す、



トチノキ (七葉樹) 植 Aesculus turbinata, Bl. 七葉樹科木本にして、葉は掌狀に分裂し、小葉の數は五乃至七なり、材木を種々の用に供し、果實は食すべし、

トチシヨウケイ (土地の昇降) 地英 Secular Uplaval and depression. 地殼褶曲の變動は、其の創成の際より恒に絶ゆることなく、彼の火山脈の成るも、此の緩慢の作用が永續したる結果に外ならず、而して此の作用は今なほ絶えず働きて、あるものにして、之が爲に地盤の水準を變じ、陸地の徐々に隆起し、又は陥没する處少しとせず、本邦太平洋岸には隆起の痕多く、日本海濱は次第に陥没して、汀線の上昇したる痕あり、彼の安宅關の故跡の如きは、今は遠く去す、

りて海底にありと云ふ、

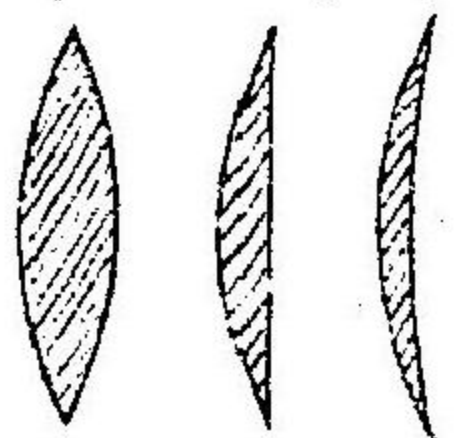
陸地隆起の跡は、今日海岸よりも内方なる地に汀線の痕跡を認め、或は海産生物の化石を發見し、或は昔時の沙濱が今は段丘となりて存在する等の事實によりて知るべく、其の陥没の證は、陸上建築物、若しくは森林の遺跡、又は泥炭層等を水中に發見し、或は淺海にあらざれば棲息する能はざる珊瑚を深海の底に得る等によりて説明するを得べし、土地昇降に關する尨大なる説少からず、然れども、現今の陸洋昇降説によれば、陸地は或程度まで上下すべしと考へらる、即ち、これは斷層によりて起るものにして、其の區域狭小なるものなり、決して大洋と大陸と全く其の位置を變換するものにあらず、

トチユー (土柱) 地 輕鬆なる土地の層中に石礫の混ざる時、其の石下の部のみ侵蝕を免れ、他は雨水のために削磨せられて生ずる柱狀物を云ふ、

トチユー (土壤) 鑛英 Soil. 岩石が風化作用を受け、且つ植物の根によりて、次第に腐朽して成れるものなり、之に礫土、砂土、壤土、植土の別あり、

トツオーレンズ (凸凹レンズ) 物英 (Convexo concave lens. 凸凹「レンズ」は、凸なる球面と凹なる球面とを有する凹「レンズ」なり、

トツキョウ (凸鏡) 物 Convex mirror. 凸面鏡を見よ、**トツメンキョウ (凸面鏡) 物英** Convex mirror. 凸面鏡とは、球面の一小部分にして、其の外面凸なる處を反射面となしたる鏡をいふ、



トツレンズ (凸レンズ) 物英 Convex lens. 「ランズ」の中央の處最も厚くして、縁に至るに従ひ次第に薄くなるものを、凸「レンズ」と稱す、凸「レンズ」は其の形狀によりて、兩凸「レンズ」、平凸「レンズ」、凹凸「レンズ」等の種類あり、皆光線を收斂するに用ゐらる、

トツド (陶土) 鑛英 Kaolin. 正長石 $K_2O \cdot Al_2O_3 \cdot 6SiO_2$ が分解し、其の中加里は水に溶解し得る成分なるにより、硅酸の一部分と共に洗ひ去られ、礬土及硅酸の一部分、後に殘留し、之に水が加はりて陶土となる、其の成分は $Al_2O_3 \cdot 2SiO_2 + 2H_2O$ なり、耕土の基礎を爲すものは是なり、

トツド (土塔) 地 土柱に同じ、**トツド (椒、青椒、フツブ) 植** Alies sachalinensis Mast. 「マチモリトクヤマン」に比すれば、針葉長く「モミ」類中針最も長く、裏面に、二個の白條を有す、實は綠灰色にして、圓錐形をなす、幹最も美にして、高さ十四丈に達す、材

トナカ

柔かにして普通に用ゐらる、内地の杉の如く北海道の主林木たり、

トナカイ(馴鹿) 動 *Ruminifer* 英 *Rein-deer*. 北極地方に産する鹿の一種にして、角は大にして曲り且つ枝不整なり、北極の人民は之をして橇を引かすも、雪下の植物を食して生活す、

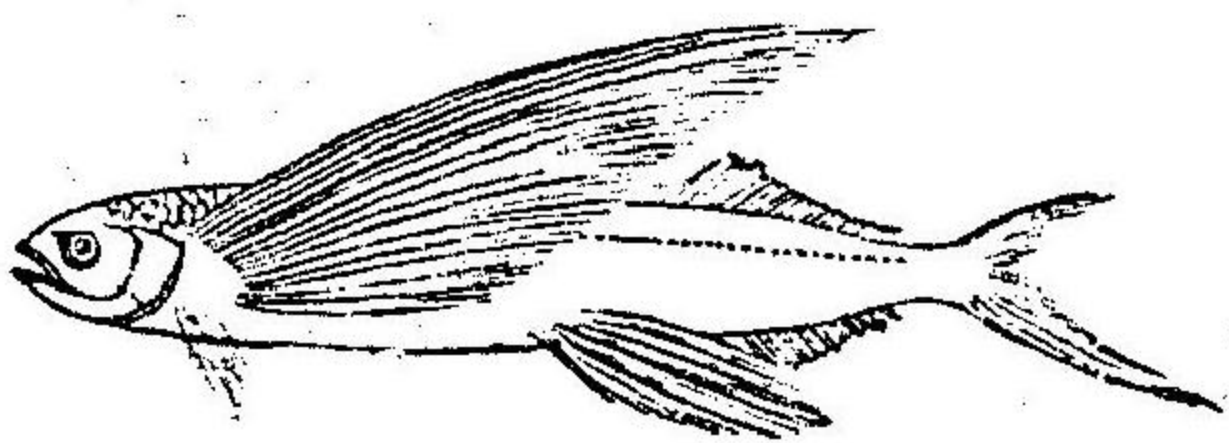
トノサマガエル(金線蛙) 動 *Rana esculenta*, Tr. 長二寸に達する「カヘル」にして、背に黄褐色の縦縞あり、後肢の發達極めてよろしく、飛躍力強し、河川池沼の畔に棲み、蟲類を食し、農家に益あり、鳴くときは叫聲を膨大す、

トノヒ(唐檜) 植 *Picea japonensis*, Mayr. 高山植物にして、海面上凡そ三千尺以上の地に生ず、「エツマツ」に似たれども、小枝は多く淡赤色を帯び、且つ彼の「エツマツ」の如く長き葉を有せず、葉の長さ平均五六分あり、器具材及建築用材とす、

トビ(鳶) 動 *Milvus melanotis*, L. & G. 英 *Kite*. 猛禽類に屬し、人家に近く棲息し、體長一尺五寸、翼長一尺三寸、體褐色、嘴強大なり、上嘴の先端は下曲す、他の猛禽類と異りて、肉を食し、飛翔力強く、多く翼を動かすことなくしてよく空中に懸り、環状に飛びて移動す、飛翔の状を窺へば尾は常に開展し、或は水平にし或は傾斜せしめ、以て巧に

トビ

運動の方向を變ずるものなり、倒鼠を放棄し置くときは、忽ち之を發見し、先づ環状をなして漸降し、二十間内外の所に達すれば、急に直下して攫み去り、飛翔中脚を以て之を支へつつ食することあり、

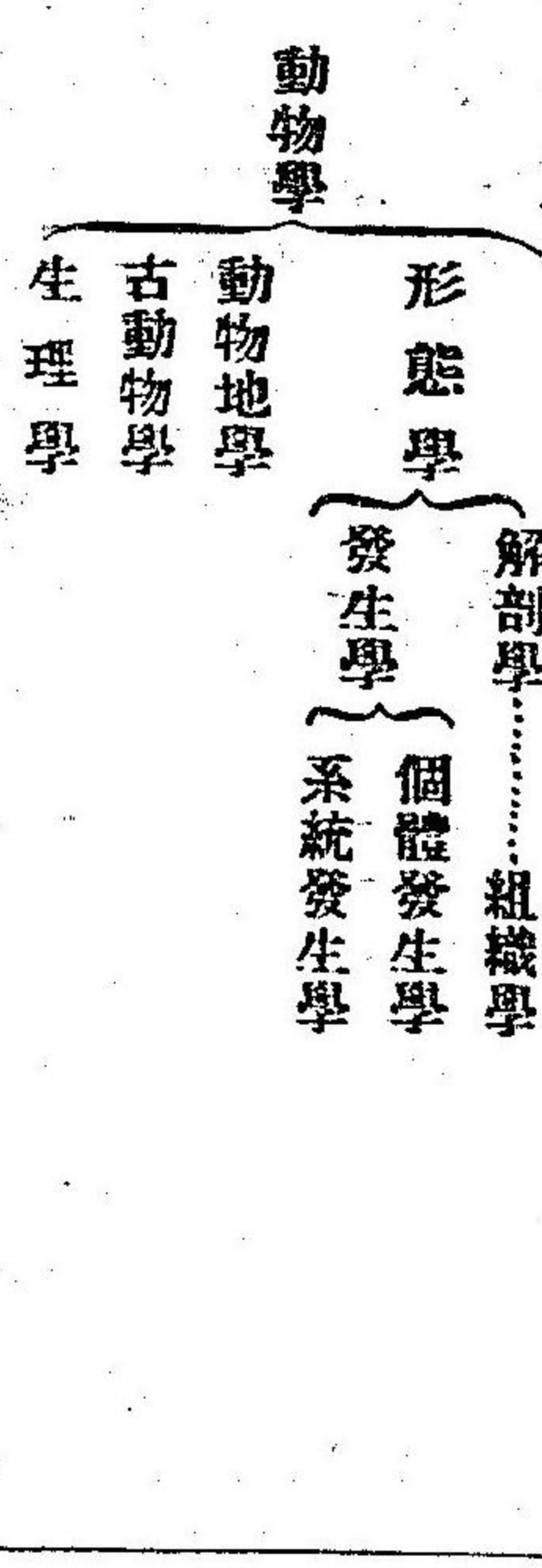


トビウヲ(飛魚又文鰩魚) 動 *Exocoetus* 英 *Flying fish*. 喉鰭類に屬する魚にして、體は圓筒状をなし、一尺内外の長さを有し、胸鰭よく發達し、或は體より大なることあり、此の魚は海中にて「イルカ」等のために捕食せらるるにより、其の害を免れんがため空中に飛上り、其餘勢にて水上を横飛し、三四回波状をなして遂に又海に入る、而して海に入るや、必ず一度來れる方向に躍り反し、然る後水中を游泳す、空中に於ては此の翼を用ゐるものにあらず、即ち翅翼等とは全く其の作用を異にするものにして、寧ろ「トビ」が空中に翼を張りて落下せざるごとく作用をなすものなり、

トフツケン(等伏線) 物地 英 *Isoclimic line*. 等伏角線に同じ、

トフツカクセ(等伏角線) 物地 英 *Isoclimic line*. 等伏角線とは、地球上各地に於ける磁石の相等しき伏角を有する地點を連絡して成る所の線をいふ、

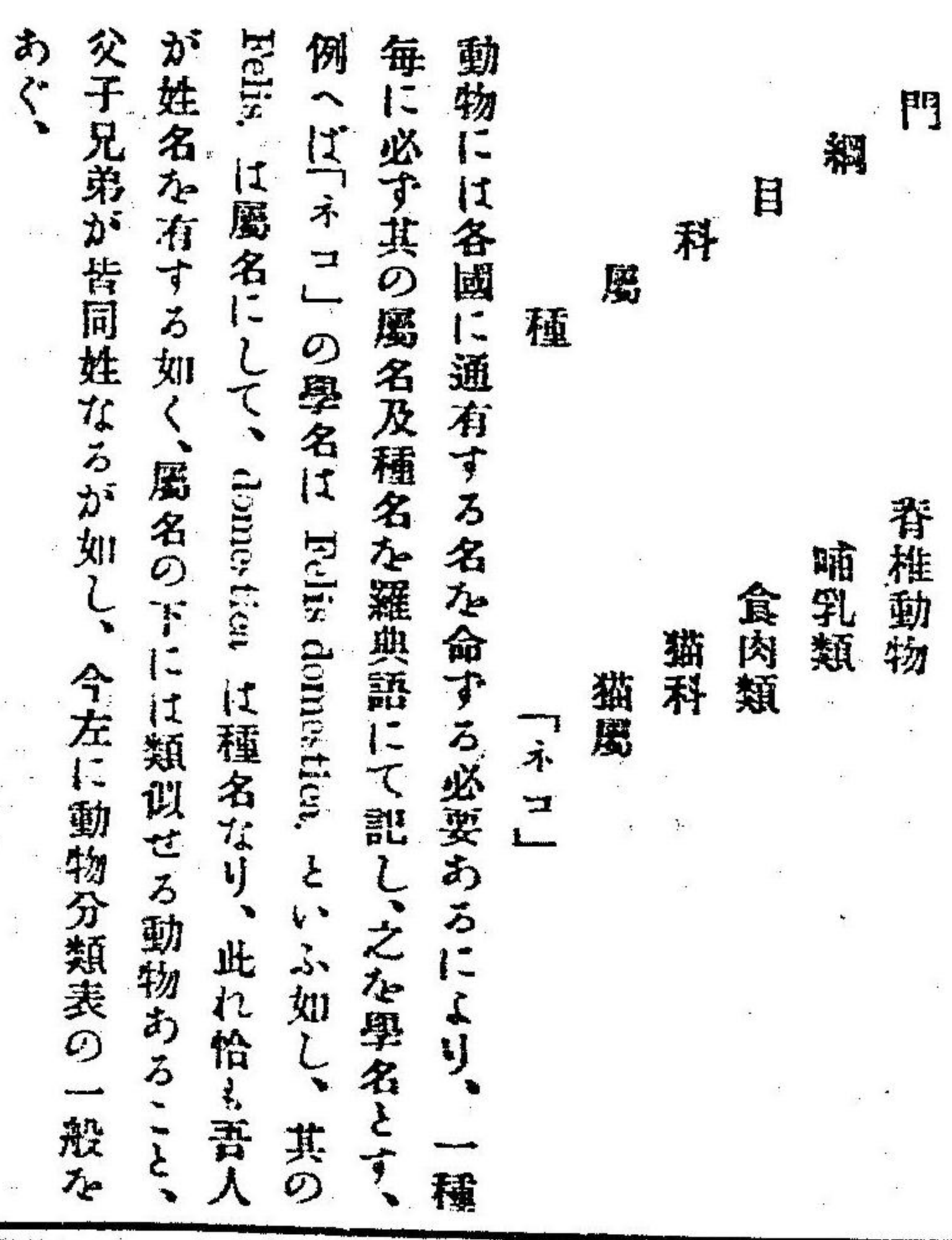
トフツカイ(動物界) 動 英 *Animal kingdom*. 動物全體の總稱にして、生物の一分界なり、
トフツガク(動物學) 動 英 *Zoology*. 動物學は、動物の形態、構造及生理并に生活の現象、諸動物交互の類縁、外界との關係等を講究する學なり、之を分ちて次の諸科とす、



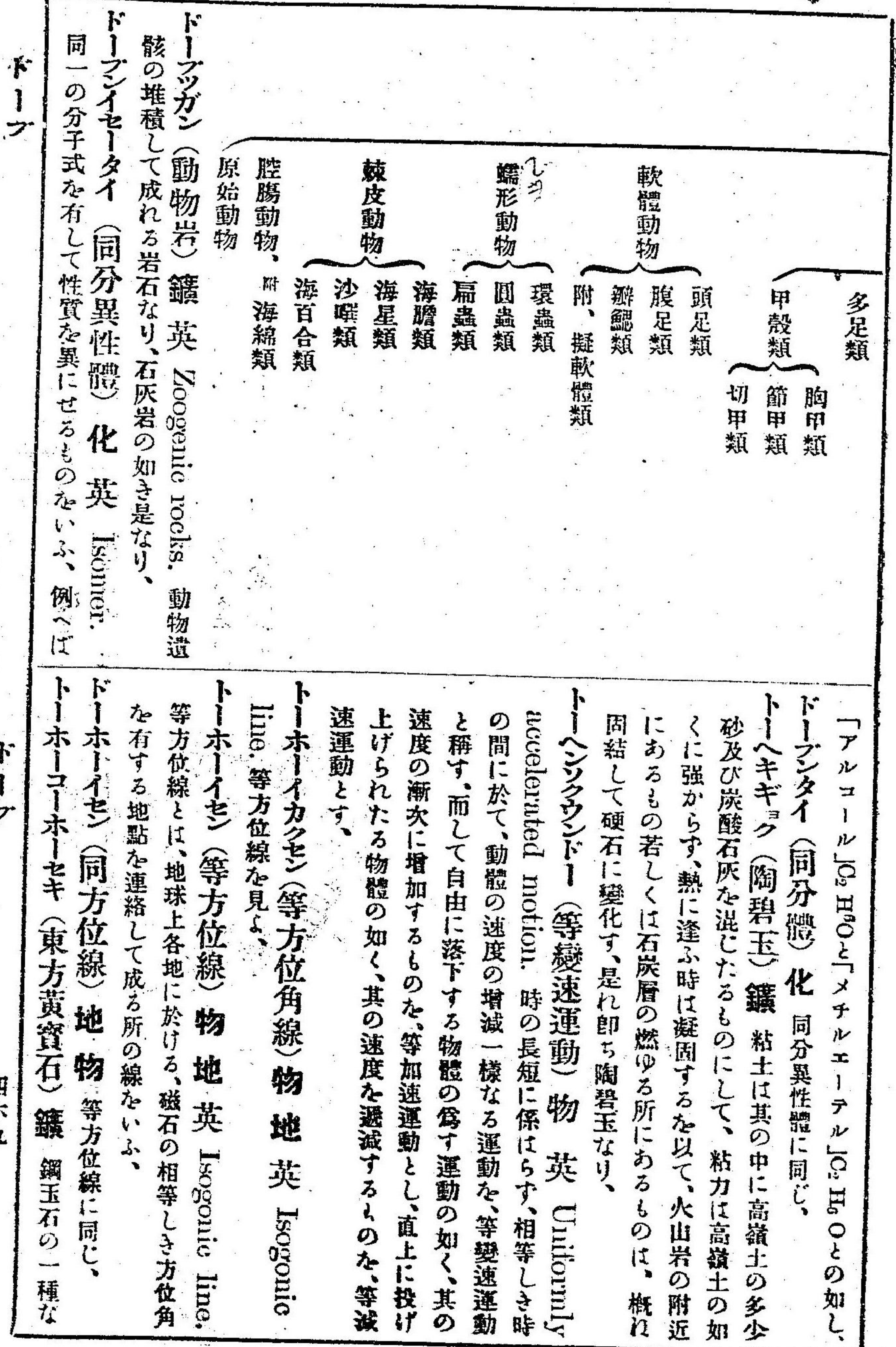
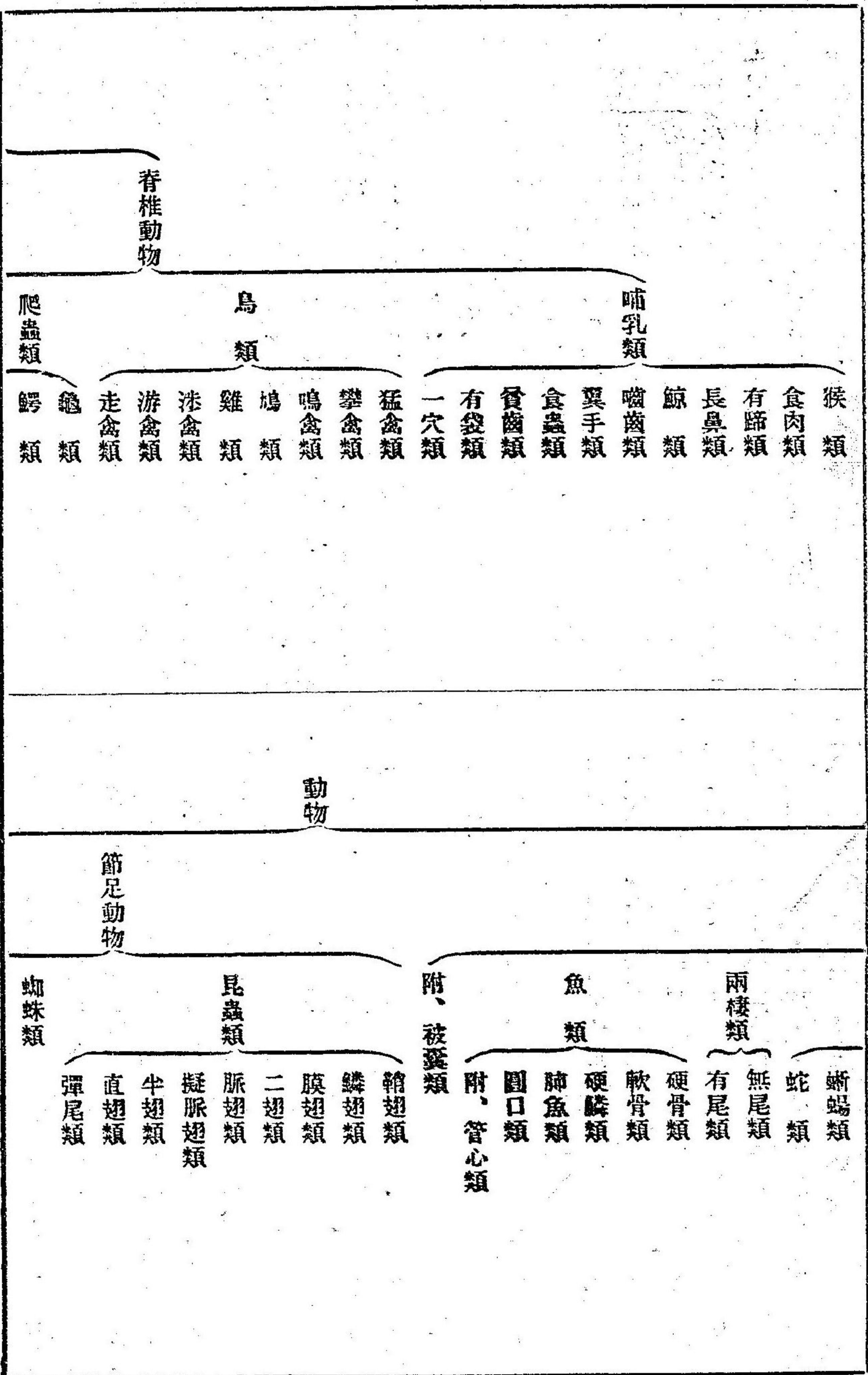
トフツケトフツガク(動物系統學) 動 英 *Phylogeny*. 一個の動物が、如何なる祖先を経て、現動物となるかを考究する學なり、

トフツ

トフツガク(動物地學) 動 英 *Zoogeography*. 動物の地球上に分布、散在する區域を究むる學なり、
トフツケルイ(動物分類) 動 動物界を若干の大なる區分に分ち、之を門と稱し、其の下に綱、目、科、屬と漸次小なる區分を立て遂に種と稱する單位に至るなり、此れ恰も我國を道、國、郡、市、町、村等に分ちつに等し、今「ネコ」を例に取りて分類法を表示すれば、次の如し、



トフツ



「アルミニウム」 $Al_2O_3 \cdot 2H_2O$ 「メチルヘーテル」 $CO_2 \cdot H_2O$ の如し、トープイセータイ (同分異性體) 化 同分異性體に同じ。
 トーヘキギョク (陶碧玉) 鑛 粘土は其の中に高嶺土の多少砂及び炭酸石灰を混じたるものにして、粘力は高嶺土の如くに強からず、熱に逢ふ時は凝固するを以て、火山岩の附近にあるもの若しくは石炭層の燃ゆる所にあるものは、概ね固結して硬石に變化す、是れ即ち陶碧玉なり、
 トーヘンツウド (等變速運動) 物 英 Uniformly accelerated motion. 時の長短に係はらず、相等しき時間の間に於て、動體の速度の増減一樣なる運動を、等變速運動と稱す、而して自由に落下する物體の爲す運動の如く、其の速度の漸次に増加するものを、等加速運動とし、直上に投げ上げられたる物體の如く、其の速度を遞減するものを、等減速運動とす、
 トーホーイカクセン (等方位角線) 物 地 英 Isognonic line. 等方位角線を見よ、
 トーホーイキ (等方位線) 物 地 英 Isognonic line. 等方位線とは、地球上各地に於ける、磁石の相等しき方位角を有する地點を連絡して成る所の線をいふ、
 トーホーイキ (同方位線) 地 物 等方位線に同じ、
 トーホーコーホーキ (東方黃寶石) 鑛 鋼玉石の一種な

り、

トホーシホーセキ(東方紫寶石) 鑲 鋼玉石の一種なり、
トホーリョクホーセキ(東方綠寶石) 鑲 鋼玉石の一種
なり、

トーマキ 植 「コーヤマキ」を見よ、

トーマシ(冬眠) 動英 Hibernation. 動物が、冬季、地
中或は洞穴中に蟄居して、飲食、運動等を絶ち、只僅に呼吸、
循環の作用のみ行はるる所の状態をいふ、

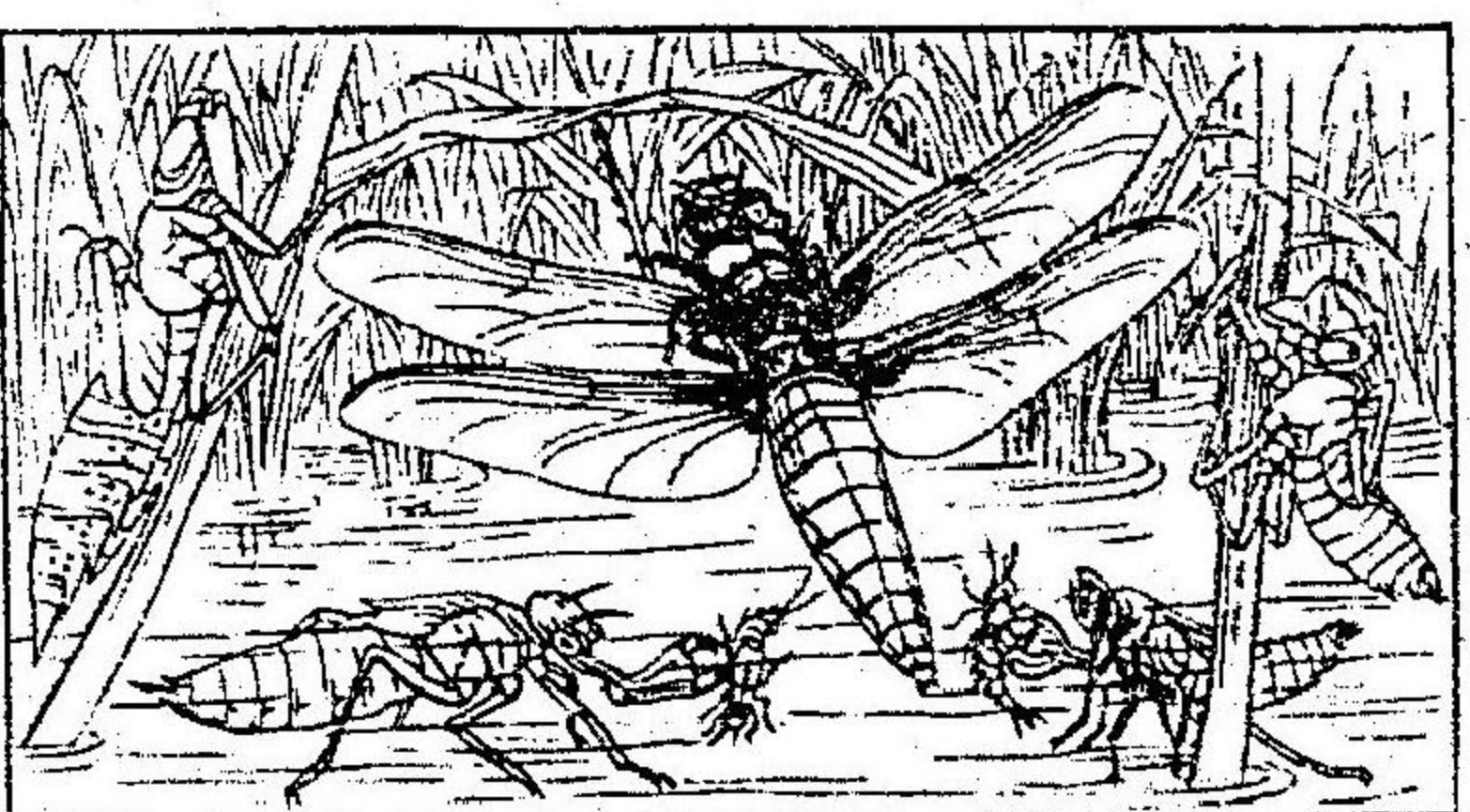
トーマツ(動脈) 生英 Artery. 心室より出づる血管
を動脈といふ、體循環の動脈は清血を有し、肺循環の動脈は
汚血を有す、動脈は必ず脈搏を有する血管にして、血流急激
なるにより、之を傷ければ危険多し、故に動脈は深き肉下に
伏在するを常とす、

トーマツ(動脈血) 生 普通に動脈血と稱すれば、清血
をいふものにして、酸素を含めども炭酸瓦斯を有せず、乳
糜に富み、組織を養ふに足る血液なり、肺動脈の血は普通の
靜脈血に等しく、汚血なり、

トムギ又ハトムギ(薏苡) 植 Coix Lacryma L. 禾本科
草木なり、果實は穎果にして堅く、小孔を有す、食用に供し、
又煎餅を製す、

トシヨク(褪色) 植 英 Albinism. 葉緑素の發育せざ
るが爲に、白色になりたることを云ふ、

るが爲に、白色になりたることを云ふ、



トンボ(蜻蛉) 動 邦産百餘種あり、口器よく發達し、雌雄其
の彩色を異にし、降雨の際は
樹間に棲止し、晴天にありて
は河沼湖邊を徘徊するものあ
り、或は一定の場所に棲止し、
他處の來るを待ちて捕食する
ものあり、二匹の「トンボ」が
頭と尾とにて連り居るは、交
尾せんとするものにして、更
に後者の尾が前者の腹に接し
居るは、交尾しつつあるなり、
即ち前者は雄にして後者は雌
なり、幼蟲は「タイコムシ」と
いひ、水中にありて子子を食
し、蚊の驅除に大效あり、其の
頭は長く突出することを得、之を以て食物を捕ふるなり、

トメイトイ(透明體) 物 英 Transparent body.
透明體とは、水、空氣、硝子等の如く、光をよく通過せしむる
所の物體をいふ、

トモリ(共鳴り) 物 英 Resonance. 「キョーメー」な
るが爲に、白色になりたることを云ふ、

見よ、

ドモリ(吃) 生 英 Stammer. 聲帯に缺損あるにあらず、
精神の落付かざるより起る、故に心を沈着にし、言葉靜かに
修練すれば矯正することを得べし、

トモロシ(玉蜀黍) 植 Zea Mays L. 禾本科草本に
して葉長し、花は單性にして、雄花は莖の頭上に開出せる圓
錐花序をなす、雌花は葉腋に穗狀花序をなす、長き毛狀の花
柱を有す、果實は穎果にして種子を食用とす、

トマヤ(凍野) 地 平時全く凍結し、唯夏季少時の間のみは、
其の表面纔かに溶解し、其の上に蘚苔類を生ずるも、内部は
依然として氷結する地をいふ、

トモ(島嶼) 地 「トマシ」に同じ、

ドモ(土用) 地 雜節の一にして、一年に四回あり、其の各
は十八日と六時間の長さなす、而して各の土用の初めの
日は大抵、一月十八日、四月十七日、七月二十日、十月二十一
日頃とす、

トモガス(燈用瓦斯) 化 英 Illuminating gas.
石炭瓦斯に同じ、

トモ(湯浴) 化 英 Water bath. 湯煎に同じ、湯を
沸かして其の蒸氣にて物を暖むることなり、

トラダケ(虎班竹) 植 「ウンモンチク」を見よ、

ドラモンド(ドラモンド燈) 化 英 Diamond's
lamp. 「ドラモンド」燈は、酸水素燐にて石灰を熱して、強
き光を發せしむるものなり、多くは幻燈等の如き、強き光を
要するものに用ゐらる、時としては石炭瓦斯を水素に代用
することあり、

ドリ 動 英 Lung of Bird. 主として鳥を解剖するとき
出づる赤色の臟腑を俗稱す、此れ即ち肺臟なり、

トリガヒ(鳥貝) 動 Caridium japonicum, Dunker.
全體を乾製にして、食用に供する貝にして、全形卵圓形を
なす、高さ二寸七分、幅三寸許あり、淡黒色にして、殻頂より
放射狀に多くの線あり、我が東海西海に多し、

トリカブト(烏頭又附子) 植 Aconitum Sinense Steud.
N. 雙子葉類毛茛科の多年生草本にして、山野に自生す、花
紫色にして美なり、花冠は能樂に用ゐる烏冠に似たり、花に
は白色なるもありて、之を「ハナツル」と云ふ、人家に栽植し
て花を賞す、夏秋に開く、蟲媒花なり、西比利亞にも産す、根
塊ありて其の形大根の如くにして小なり、此の根に激毒あり
り食す可からず、毒性「ドクウツギ」に類し、呼吸困難と痙攣
とを起して斃る、莖葉にも毒あり、北海土人は此の根の煮汁
を箭鏃に塗り、以て毒矢を製すと云ふ、

トリキ(壓條) 植 英 Layer. 植物の枝を撓めて地に達
するものなり、

せしめ、先端より少しく隔たりたる處を土にて被ふなり、かくすれば、早晚此の部分より根を新生す、屢々桑に施す所のことなり、

トリチエリーノシクター (トリチエリーの真空) 物

英 Torricellian vacuum. 「トリチエリー」の實驗に於て、玻璃管の上部の空虚なる部分を「トリチエリー」の真空と稱す、(其の處は眞に空虚なるにあらずして、水銀の薄き蒸氣の充満せるものなり)

トリチエリーノヂッケン (トリチエリーの實驗) 物

英 Torricellian experiment. 「トリチエリー」は、太氣の壓力を試験せんとして、長さ一米許りにして、其の一端を密閉したる玻璃管に、水銀を充たし、其の口を指頭にて塞ぎ、之を倒にして水銀槽中に立て、指頭を放ちたるに、管内の水銀稍下りて、其の上端に空虚なる處を生じ、管外の水銀面上凡七百六十粒の高さを保ちて静止したるを見たり、これ管内に留りたる水銀柱は、管外の水銀面に働ける太氣の壓力の支ふる所となりたるによるものなり、而して水銀の比重は、一三・五九なれば、太氣の壓力は一平方厘米毎に凡一千五(760×13.59=10328)即ち百萬「ダイン」なり、

トリチエリーノホーン (トリチエリーの法則) 物
英 Torricelli's law. 「トリチエリー」の法則は、流出液

の速度に關して言ひ表はせるものにして、其の法則に曰く、容器の側壁若しくは下底に穿てる小孔より、自由に流出する液體の速度は、其の比重の如何に關らず、其の液面の高さより落下せる物體が、其の小孔と同高の處に達せし時に有する速度に等し、

ドレイキンク (土類金屬) 化英 Earth metal. 「カリウム」族、カルシウム「族及び「アルミニウム」族等の元素は、化合物となりて地中に多量に存在せるを以て、此の名あり、

ナ

ナイ (地震) 地 地震のことなり、

ナイモ (内燭) 化英 Inner flame. 燭(ホノホ)の條を見よ、

ナイカイ (内海) 地 英 Inland sea. 殆ど陸地を以て圍まらるる海をいふ、

ナイコッカク (内骨格) 動英 Endoskeleton. 脊椎動物の如く、體の内部にある骨格をいふ、

ナイサイホーン (内細胞層) 動 「ナイハイヨー」に同じ、

ナイシ (内耳) 生 英 Labyrinth. 「ミミ」の條を見よ、
ナイスイ (内錐) 動 英 Endostile. 「ハヤ」の腹面に當る

總籠の内面にある凹所にして、粘液を分泌し、内に長き纖毛あり、食物は此の所にて塊となり下方に送らるるものなり、
ナイアーシクキー (内臟神経球) 動 英 Visceral ganglion. 貝類の内臟にある神経球をいふ、

ナイタイ (内帯) 地 崑崙山系の條を見よ、

ナイチョーケー (内長莖) 植 英 Endogenous stem. 單子葉種子を有する植物の莖に於ては、數箇の維管束は基本組織系中に點々と散在し、維管束は新生組織を有せざるを以て、其の形を増大することなし、又かくの如き莖の内方にある維管束群は、外方にある維管束群よりも新成部に屬するが故に、之を内長莖と云ふ、

ナイテロー (内抵抗) 物 英 Internal resistance. 電池の内部の液に於ける抵抗を内抵抗といふ、

ナイハイヨー (内胚層) 動 「ナイハイヨー」に同じ、

ナイハイヨー (内胚葉) 動 英 Endoderm. 腔腸動物の如く、三層よりなる動物體の内層をいふ、高等動物に於ても、發生の初期には三層を生ずるものにして、其の内層をも内胚葉と稱す、内胚葉發達すれば、消食系内面の皮膜、香索、肝、脾等を生ず、

ナイリョク (内力) 地 地熱の力をいふ、

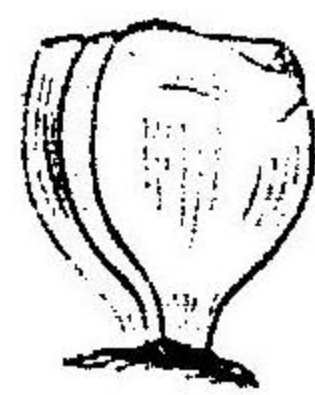
ナイワセー (内惑星) 天 英 Inferior planets. 地球より

ナイン

りも太陽に近き惑星は、水星金星なり、之を内惑星と云ふ、
ナガシ (長辛螺) 動 Nuts. 螺は長くして尖り、殻孔卵圓形をなし、内面に條線あり、殻管長くながにしして眞直に、肉食性なり、其の卵殻は「ウミホーンキ」といひ、兒女の玩弄に供するために販賣せらる、



うみほーんき



ナカレムシ 動 Annelida. 「アメーバ」に同じ、

ナギ (風) 地 英 Calm. 朝夕、海陸風の交代する爲めに生ずる無風の時をいふ、

ナギナタホーンキ 動 「アカニシ」といふ腹足類の卵囊なり、
ナカザンシヤク (那須火山脈) 地 北海道の西部より南を指し、膽振の「タルマイ」より内浦(噴火灣)の沿岸に「ウス」、

惠山、駒ヶ嶽を起し、津輕海峽を渡り、青森灣頭に恐山を爲し、之より本邦中央山脈に沿ひ、八甲田、岩手、駒ヶ嶽、藏王、吾妻、磐梯、那須、日光の諸山より、赤城、榛名の二山を経て、淺間山に至る火山脈をいふ、
ナタナ (蕪菜又油菜) 植 Brassica chinensis L.

ナガニ

ナダレ

十字科の模範植物にして、三月黄花を開き、一種の芳香あり、果實は長角にして裂開す、種子より油を製し、從來唯一の燈火料たりしが、石油を使用せる今日にては、其の用途甚だ狭くなりぬ、此の油を食用に供す、

ナダレ (雪崩) **地英** *Avranche*. 山上又は山腹より突然に迂り落つる雪又は氷の大塊をいふ、此に塵雪崩、低雪崩、氷雪崩等あり、

ナチン (那智黒) **鑛** 本邦に産する石英の一種にして、色黒く、其の大なるものは多少板状に劈開す、通例は粘土と炭質物とを夾雜せるものなり、此の石は、基石(廉價のもの)は粘板岩にて之を製すに製し、又試金石と稱し、黄金の條痕を検するものを作る、「シキンセキ」試金石の條を見よ、

ナツメ (薺) **植** *Capsella Bursa Pastoris (L.) Moench.* 十字科の草本にして、白色の花を開き、軍扇状の果實を結ぶ、所謂短角なり、嫩莖葉を食用とす、一種の芳香あり、

ナツメヤシ (棗椰子) **植** *Phoenix Sylvestris, Roxb.* 幹の高さ、十五乃至二十五メートル、頭部に凡そ五十枚の羽状葉を生じ、其の葉の長さ、二乃至三メートルあり、實の棗に似たるを以て此の名あり、雌雄異株にして、古來人工受粉を行ひたり、百個以上より成る集實を結び、一個の實は漿質にして、中に核を有す、土人は此の實を生食す、産地は

ナデシ

「サハラ」砂漠及「ヘルシヤ」沙漠中の低地とす、棕櫚科に屬す、

ナデシ (瞿麥又撫子) **植** *Dianthus superbus L.* 石竹科植物にして、秋の七草の一なり、河原に自生して淡紅花の色を開く所の「カハラナデシ」は、即ち本邦に自生するものにして、所謂「ヤマトナデシ」なり、

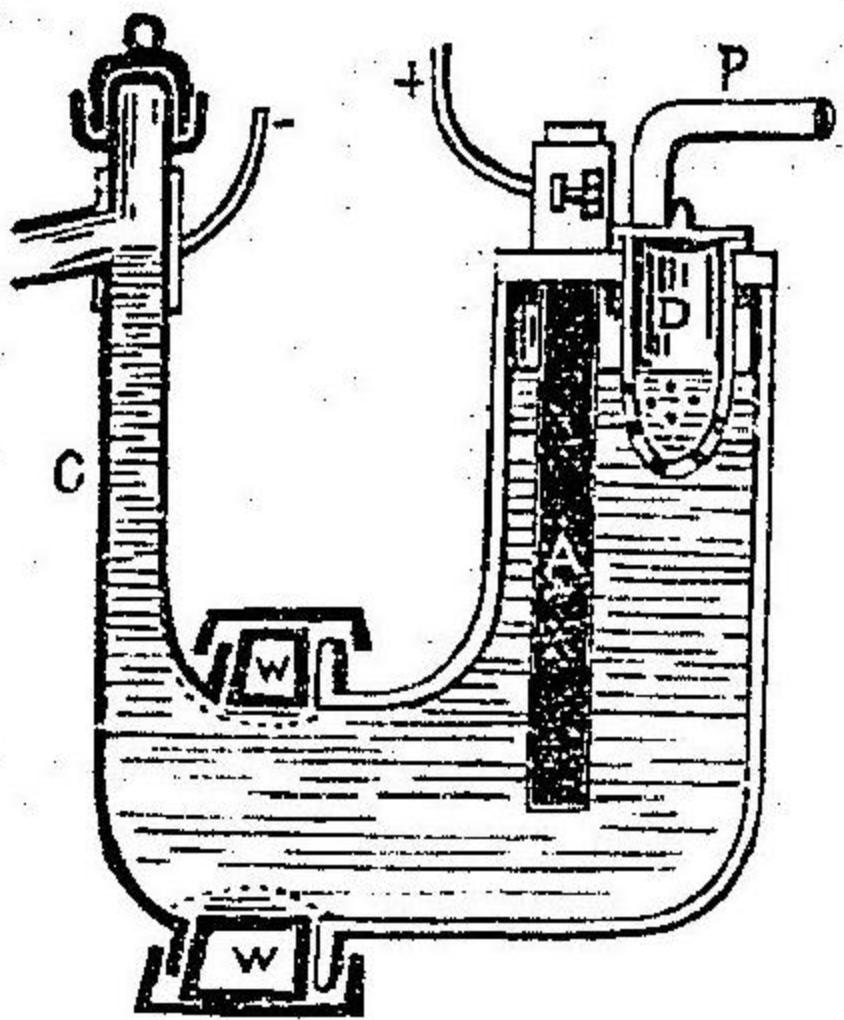
ナトリウム **化** *Natrium*. **英** *Sodium Na.* 原子量二十三・〇五
ナトリウムイオン **化** *Solion.* 「ナトリウムイオン」は一價にして無色なり、其の性質甚だ「カリウムイオン」に類似せり、

ナトリウムシ **サイ** (ナトリウムの所在) 「ナトリウム」は鹽化「ナトリウム」即ち食鹽となりて、海水中に多量に存在す、又硫酸鹽となりては、多量に岩石及土壤中に存し、從て多少動物體中にも存せり、海生植物は割合に多量の「ナトリウム」化合物を含有す、

ナトリウムシ **シツ** (ナトリウムの性質) 「ナトリウム」は輝ける錫の如き光澤を有し、常温にては軟かきこと蠟の如く、軽くして水に浮ぶ、其の比重は〇・九七二にして九十五度五に於て熔融し、七百四十二度にて氣化す、而して其の蒸氣の深層は紫色を呈す、「ナトリウム」を空氣中に曝せば、

忽ち酸化し、之を水中に投すれば、水素を發して水酸化「ナトリウム」を生ず、然れども水を分解することは「カリウム」の如く劇烈ならず、酸化し易きを以て、之を石油に入れて貯ふ、

ナトリウムセーホー (ナトリウムの製法) 「ナトリウム」は、専ら水酸化「ナトリウム」或は食鹽を電氣にて分解して製す、「カストナル」氏の法及「ホルチェルス」氏の法あり、「ホルチェルス」氏は、「カストナル」氏よりも經濟的なるを以て左に之を説かん、



「ホルチェルス」氏の装置は、左に切斷面を示せり、主要部はU字形をなし、圖の右方の太き方は、耐火粘土にて造り、左方の細き方Cは鐵管なり、而して二つの部分に「カスガイ」にて連結し、二の部分の間より漏るるを防がんが爲に、Wなる四角の管を挿入せり、且つ、其の中に水を流れしめて冷すを以て、U字管中の食鹽は、其の所に固結すること點線にて示したるが如くなりて、分解生成物の漏るることを防止し得、電氣分解に

四七四

ナトリウムメルガム **化** *Sodium amalgam.* 「ナトリウム」と水銀との合金を云ふ、
ナトリウムメチラート **化** *Sodium methylate.* 「アルコラート」の條を見よ、

ナチカマド **植** *Pinus anemparia Gaertn, var japonica Maxim.* 薔薇科植物にして山地に生ず、葉に鋸齒あり、小形の花を生ず、秋期黄葉を飾り、以て紅葉に對す、森林地の下木即ち雜木の一なり、

ナラシムシ **動** *Braconius*. 直翅類に屬する昆蟲にして、體は細長に、前胸長く、頭小に、一見竹に似たり、故に又竹節蟲ともいふ、草食にして、至りて遲鈍なり、

ナフタリン **化** *Naphthaline.* 「ナフタリン」は、百八十八度乃至二百三十度の間に於て溜出する所の「ユールタール」中より結晶せしめて分取することを得べし、水に溶解せざる光澤ある板状結晶にして、熱したる「アルコール」、「エーテル」には容易に溶解す、熔點八十度、沸點二百十七度なり、

ナトリ

ナトリ

特異の臭氣を有するを以て、他の化合物より容易に區別し得べし、「フタル」酸、「ナフタラフィン」及び「ナフトール」、「アソ」染料の製造に用ゐる、其の他石炭瓦斯の光輝を強烈ならしむるに使用し、又防腐劑となせば、其の作用強し。

ナマコ (沙噀) 動 Stichopus japonicus, selenka.

英 Sea slug. 尋常の「ナマコ」は、背面に多くの凸起を列生し、汚色の者なり、吸盤を具ふる歩足は、腹面に三縱帯を爲して發達せり、其の皮肉は酢に浸し、又は乾製して「イリコ」と爲し、食用に供す、其の鹽藏したる内臓は「コノワタ」と稱し、頗る佳味なり、「ナマコ」は、やゝもすれば其の内臓を口より吐出する性あり、而して又之を新生する力ありと云ふ、「ナマコ」類の條參照。

ナマコイ (沙噀類) 動 Holothuridea. 沙噀類は、

體軀長形にして蠕蟲狀をなし、其の同形は他の棘皮類一般輻狀なりと雖も、概ね扁平にして、其の一面(即ち腹面)を以て海底に横はり、且つ腹背面は往々異狀なるが故に、多少左右同形の觀を呈す、口は前端に、肛門は後端に在り、口の周縁には伸縮自在なる數觸手を環生す、體面に縱走せる五條の步帶中、三條は腹面に屬し、而して其餘の二條は背面に屬するものなり、腹背兩面の歩足は往々其の形狀を異にし、稀に全く無足の者あり、皮膚は柔皮様にして、中に無數の石

灰質小體を含藏す、然れども極めて微少にして、顯微鏡に非ざれば視ること能はず、其の形狀は、穿孔板狀、輻狀、車狀、輪狀若しくは櫛狀なるもありて、各種之を異にせり、皮膚の裡面には、横行筋及び步帶毎に排列せる縱行筋あることを見る、食道の周圍に環狀水管ありて、所謂「ボリ」氏囊並に體腔に開通せる石管を帯び、且つ縱筋に従ひて縱走せる五水管を送出す、腸は長く體腔中を回旋し、腸間膜に因りて體壁に懸着す、腸の肛門に接する一部は少しく膨大し、之を排泄腔と稱す、該腔と交通せる大形の樹狀器官あり、是れ呼吸を營むものにして、之を水肺と名づく、又往々別に許多の長管の開通することあり、之を「キュービエー」氏器官と名づく蓋し泌尿器ならんが、循環器の主部は、食道周圍の血管竝に腸に沿ひて走れる二脈管より成る、生殖器は分岐せる管狀體にして、背部體壁より懸下せる腸間膜の一個若しくは兩側に位し、其の輸管は必ず唯一にして前方に進み、前端に接近して門を開く、此の類は概ね雌雄異體なれども、稀に同體の者亦之れあり、

ナマケモ (樹懶) 動 Bradypus. 英 Sloth. 南米の密林

中に棲息する貧齒類にして、全形稍猿に似、肢に各三個の曲れる爪あり(之を以て枝を渡るものなり)、爪曲れるにより、別に筋肉を用ゐざるも懸垂することを得、樹葉を食す、

ナマ (鯰) 動 Silurus 英 Cat-fish. 頭部は扁大にして、尾

部は側扁す、皮膚は鱗なく粘質に富む、口は彎形にして頗る潤く、下顎稍や前出し、細齒兩顎に列生し皆内鈎す、觸鬚の上顎にあるもの最も長く、之を伸ぶれば胸鰭の後方に達す、下顎にあるものは其の中に到らず、體は背部は蒼黒色、腹部は白色なり、體長通常一尺餘に達す、我邦到る所の湖、沼、河、川等の淡水に産す、平素泥の水底に棲み、運動不活潑にして浮游すること稀なり、多くは夜間出で、食餌を貪食す、

ナマリ (鉛) 化鑛 英 Lead. Pb. 原子量二百六・九

ナマリイオン (鉛イオン) 英 Plumbion. 鉛イオンは二價にして無色なり、高等の有機體即ち動植物等に對して有毒なり、少量にても之を體中に入れば、有害なるを以て注意するを要す、

ナマリシヨザイ (鉛の所在) 鉛は、主に硫鉛鑛、(Galinite)

Pb₂ 白鉛鑛、(Cerussite) PbCO₃ 黄鉛鑛、(Wulfenite) PbMoO₄ 紅鉛鑛、(Crocoisite) PbCrO₄ 硫酸鉛鑛、PbSO₄ 燐酸鉛鑛 Pb₃(PO₄)₂ 等となりて存在す、

ナマリセーシツ (鉛の性質) 鉛は、灰白色の美麗なる光澤を

有する金屬なり、其の質柔軟にして爪にて傷け得、比重は十一・三五、熔點三百三十四度、白熱にて氣體に變ず、空氣中にて熔融すれば、容易く酸化す、鹽酸或は稀薄なる硫酸は僅に

鉛に作用するのみなれども、熱したる濃硫酸には少しく溶解して、硫酸鉛を生ず、市販の硫酸は常に少量の硫酸鉛を含む有するを以て、水にて稀釋すれば、硫酸鉛は白色の沈澱となる、硝酸は容易く鉛を溶解して硝酸鉛を生ず、水に溶解性の鉛の鹽類は、皆有毒にして、若し其の少量といへども、人體組織中に入る時は、神經を侵し、不隨病其の他の病患を起し、之を多量に服すれば厭々死す、

ナマリセーホー (鉛の製法) 硫鉛鑛より鉛を製するには、

岩石を去り、之に少量の石炭を混して、反射爐中にて熱す、最初は温度の餘り上らざるやうにし、且つ空氣を十分に流通せしめ、時々攪拌しながら數時間熱すれば、硫化鉛の一部は酸化して硫酸鉛となり、他の一部は酸化鉛となる、然れども鑛中に含有せる硫化鉛の多分は、變化せずして殘る、更に石炭を入れて温度を高め、爐口を閉ちて熱すれば金屬鉛を生ず、

ナマリセート (鉛の用途) 鉛板は硫酸製造の鉛室及び硫酸

を蒸發する鍋を造るに用ゐる、其の他鉛管、彈丸、合金等を製す、

ナミ (波) 地 英 Wave. 水面に於ける風の摩擦によりて

起る水の昇降起伏を波と云ふ、水は波の爲に前進するものあらず、たゞ同一の處に昇降起伏するのみ、唯、海岸に於て

は、陸岸に向かひて進み又退きて其の運動を反復す、而して先に岸を洗ひて退く水は、後より進み来る波と衝突し、此の處に水の泡沫を飛ばすものなり、

ナミダ (涙) 生英 Tear. 涙腺より出づる液にして、眼球面を濕らす用をなすものなり、

ナシキムシ 動 「トコムシ」に同じ、

ナシキョクケン (南極圈) 地 英 Antarctic circle. 南極より二十一度半を隔つる緯線をいふ、

ナシキョク (軟玉) 鑛 英 Jadeite. ソーダ輝石の一種にして、古代の人類は、之を以て、石斧其の他の武器を作れり、其の遺物は東洋諸國に廣く分布す、緻密堅實にして、白色乃至灰色の「アルカリ」性の輝石にして、支那、印度、「ニユーシ」ランドに産す、

ナシグレイ (軟鱈類) 動 Anacanthini. 此の類の諸鱈は、皆柔撓にして硬棘なし、腹鱈は胸下若くは喉部に位置し、鰓は食道と交通することなく、鰓は櫛齒状をなし、上顎は可動的なり、皆海産にして「タラ」、「ヒラメ」、「サヨリ」等の科此に屬す、

ナソツ (軟骨) 動 英 Cartilage. 耳介、鼻先等の骨は、皆軟骨よりなるものにして、硬骨に比し硬度の異なる外、構造も異れり、發生の初期に於ては、軟骨多けれども、漸次硬骨化

せるものなり、

ナソコ (軟骨類) 動 Solenitii. 軟骨類とは、「サメ」、「エイ」等の類を云ふ、其の體紡錘狀にして長く、或は扁平にして幅廣し、骨格は全く軟骨性なるを常とし、鱗は概し顆粒状を爲し、胸鱗及び腹鱗は通常大にして、尾鱗は歪形なり、口は頭の下面に開き、大抵許多の鋭齒を數列に生ずるものなり、胃は廣潤にして、腸は螺旋瓣を具ふ、咽頭は五對(稀に六對乃至七對)の鰓を帯び、大率各自に裂狀の鰓孔を外開す、又往々眼の直後に噴水孔と名づくる一孔ありて、口腔より水を噴出するに便す、鰓は存在することなく、鰓及び諸感覺器は甚だ長く發達す、此の類は一種の硬き包囊を被る、卵(俗に之を「サメノカケマモリ」と云ふ、蓋し蔓狀の絲を有し、形懸守に似たるを以てなり)を産し、或は又往々胎生の者あり、其の性皆肉食にして、巨大なる種類には強暴恐るべきものあり、之を分ちて鯨類及び鰐類の二目とす、

ナシサン (軟脂酸) 化 「パルミチンサン」に同じ、
ナスイ (軟水) 化 英 Soft water. 炭酸「カルシウム」及び硫酸「カルシウム」等の礦物を溶かし含まざる水を云ふ、
ナシドローツ (軟體動物) 動 Mollusca. 軟體動物とは、二枚貝、螺類及び「タコ」、「イカ」の類を云ふ、而して其の

體形一様ならずと雖も、皆左右同形にして、無環節なり、有節肢を具有することなれども、腹部に足と稱する肉質の一體部ありて移動に便するを常とす、且つ其の柔軟なる體壁の一部は膜状をなし、外套状に擴張す、之を外套膜と名け、其の表面に石灰質の介殻を生ず、而して其の介殻の最も普通なるものは、或は左右二枚の一對より成り、或は不對にて螺旋狀に回旋せり、又往々無旋の軟體動物あり、殼の外表面に其の縁と並行せる條線の存するを見る、是れ殼の成長と共に生ずるものにして、之を成長線と云ふ、呼吸器は概し鰓にして、外套の圍める腔中に隱在し、或は稀に體外に裸出するものあり、又時に鰓に代ふるに一種の肺を以てする者あり、口は嚙咬及び舐喰を司る器(顎及び舌)を具へ、或は全く此の器を缺く者あり、消食管は食道、胃及び腸より成り、肛門は必ず存在す、腸は多少捲曲し、其の始部に大なる肝臟の開通するあり、循環系中心臟は能く發達すと雖も、血管は體腔と交通し、血液は無色或は青色を帶ぶ、必ず腎臟ありて泌尿を營む、此の物囊狀の器官にして、内は體腔と通じ、體の側部に於て開口す(是れ恐らくは環節器と相同なるべし)、神經系は概し三對の神經球を具へ、神經に由て相連續す、其の一對は食道直前に位し、之を腦となす、一對は食道の下若くは足中に在り、之を足神經球と云ふ、又一對は後體部に

在り之を内臟神經球と云ふ、觸官は口外に位する瓣狀物(所謂觸唇)若くは頭端又は外套膜縁に存する突起物(觸角又は觸手)の營む所なり、眼は頗る發達すと雖ども、之を闕知する者亦尠からず、又往々聽官器を具有するものあり、是は胞狀器官にして、腦若くは足神經球に密接して位するを常とす、此の類の多數は雌雄同體なりと雖も、亦異體のものあり、其の幼蟲は體制上環蟲の幼蟲に近似する點ありて、往々甚だ複雑なる變態を経て、終に老成するものなり、軟體動物は、概し皆水産にして、殊に鹹水に多く、其の陸上に棲息するものは僅少なり、又此の類は化石と爲り、地層中に存在するもの極めて多きを以て、地質學上甚だ緊要のものなりとす、此の門を分ちて三綱とす、

頭足類 例、「タコ」、「イカ」、
軟體動物 腹足類 例、「カタツムリ」、「タニシ」、「ホラガヒ」、
瓣鰓類 例、「ハマグリ」、「カラスガヒ」、

ナシテン (南天竹) 植 Nandina domestica Thunb. 小蘗科植物にして、複總狀花序を有し、葉は常緑なり、果實は熟して美なる紅色を呈す、「ヒヨドリ」等の小鳥來り、之を啄み以て種子を散布す、人家に栽植して之を賞す、
ナシヨリ (南水洋流) 地 南水洋より來る寒冷なる海流をいふ、

ナニナ (軟風) 地英 Breze. 風の條を見よ.

ナニガニ (軟滿掩鑛) 鑛英 Pyrolusite. (一) 斜方晶系 (二) 鐵黑色又は暗鋼色なり (三) 黑色又は青黑色の條痕を顯はす (四) 金屬光澤 (五) 硬度二・二・五 (六) 比重四・八二 (七) 成分は MnO₂ なり (八) 產地及效用、ボヘミヤ、マサチュセツ等にて多量に産す、我國にては陸奥、羽前、羽後、能登等にあり、マンガンを得る最上の良鑛なり、化學上酸素及鹽素を製するに用ゐる、陶器又は硝子の黑色或は紫色の彩色料に供し、又褐色又は綠色の硝子を褐色せしむるに用ゐるものなり、(九) 識別、硬「マンガン」より硬度低く、纖維狀の特種の形像を有するを以て區別す、又鐵鑛よりは「マンガニース」の反應を以て識別し得べし.

ナメクシ (蛞蝓) 動 Rulomyces 英 Slug. 殻を有せざる腹足類にして、肺呼吸をなし、背に淡紫色の縱線あり、體面より粘液を分泌し、移動を滑かにす、此の液は乾けば銀白色を呈す.

ナメクシウラ 動 Amphioxus lanceolatus, yareel. 「ナメクシウラ」は、諸邦海濱の沙中に埋没して棲息し、運動頗る迅速なり、本邦にては曾て之を瀬戸内海、博多灣等に發見せり、長さ二寸許の半透明なる魚狀動物にして、兩端は尖り、頭部の區別判然せず、而して四肢を闕如し、背部正中

に低き脊鰭を有し、且つ後端に尾鰭を具ふ、口は頭部の端の下面に開き、其の周縁に數條の絲狀物を垂る、口腔は廣潤なる咽頭に通ず、是れ、其の左右の壁に夥多の裂孔狀を通ずるを以て、鰓縫と稱すべきものなり、口に入る呼吸水は該鰓孔を通過し、鰓囊周囲の所謂鰓腔に出で、更に腹腔と名づくる一開口より流出するものなり、鰓囊下部に被囊類と同一なる縱溝(鰓下溝)あり、囊に纖毛を簇生す、鰓囊に次ぎ消化管あり、直走して尾部に至り、腹面正中線より少しく一方に偏して位する所の肛門に終る、又消化管は鰓囊の左方に横はる一盲囊を帶ぶ、是れ肝臟の作用をなすものなり、血液は無色にして、收縮性の血管中を循環し、心臟と稱すべき特部あるを見ず、體の全長を走れる單一の脊索あり、其の他口縁及び鰓孔を支持する軟骨棒狀體の外、骨格を具ふることなし、脊索の直上に沿ひて脊髓の走れるあり、其の前端に腦部なし、感覺器には頭端上面に單一の眼點並に嗅溝あり、筋肉は能く發達し、明かに環狀構成を顯はす、此の類は雌雄異體にして、敏對の生殖器は體壁に生じ、環節的に排列す、而して生殖物は鰓囊中に落ち、口より産出し、其の發生の方法被囊類と甚だ相似たり.

ナルコ (黃精) 植 Polygonatum giganteum Dietr. var. Plumbergii Maxim. 百合科の草本にして、葉は披

針形をなす、花は筒狀にして、綠白色を呈し、莖は地上又は地中にあり、地下莖を食用とし、又之より澱粉を製出す.

二

ニヒカサクサン (二鹽化醋酸) 化英 Dichloroacetic acid CHCl₂COOH

ニヒカサクサンセーシツ (二鹽化醋酸の性質) 此の物は、百九十度より百九十一度の間に沸騰する液にして、零度以下にて結晶す、「アルカリ」を以て煮沸する時は、醋酸及び醋酸に分解す、又溶解性銀鹽を生ず、此の溶液に酸化銀を混じ、七十五度乃至八十度に熱するときは、一酸化炭素及び二酸化炭素の混合物を得べし.

ニヒカサクサンセーホー (二鹽化醋酸の製法) 此の物を製するには、黃血鹽の二分を水の三分に溶解し、之に抱水「クロラル」の一分を加へ、約二時間「フラスコ」中にて熱す、「フラスコ」には、還流冷却器及び反應により生ずる苛性水素酸の逃るゝ管を附す、而して得たる溶液を濾過して蒸發乾涸し、「アルコール」を加へて二鹽化醋酸加里を溶かして分かつ、次に「アルコール」溶液を鹽化水素瓦斯の流の中に、蒸溜す.

ニガタケ 植 「マダケ」に同じ.

ニギビ (面皰) 生英 Pimples on the face. 又「ニギミ」ともいひ、妙齡の頃、面部に多く生ずる腫物なり、是れ、毛囊に附屬する皮脂腺内に脂の集積するにより、或は「ニギビノムシ」と稱する紡錘狀の小蟲が、皮脂腺内に寄生したるによりて生ずるなり.

ニギビノシ (毛囊蟲) 動 Demolex folliculorum, Sm. 蜘蛛類に屬する小動物にして、細長楕圓形を呈し、長さ六厘乃至一分餘にして、腹面に四對の小脚あり、此の蟲は人類の毛根に寄生し「ニギビ」を生ずる原因となるものなり.

ニギヨニーノイ (二強雄蕊) 植英 Dilymanous stamens. 四雄蕊ありて、其の中二蕊は長く二蕊は短きもの、例へば「シソ」、「ハクカ」等の長形科の雄蕊の如し.

ニラカンテキ (肉眼的) 動 肉眼にて見得る物の大きさを形容する詞なり.

ニラカン (肉冠) 動英 Crest of

ニラキヨクスイ (肉紅玉髓) 鑛英 Kunzeol. 「ギョク



強雄蕊 短雄蕊 中二蕊は長く二蕊は短きもの、例へば「シソ」、「ハクカ」等の長形科の雄蕊の如し.

ニクチ

ズイ」を見よ、

ニクチー(肉柱)動英 Adhutor muscle. 二枚貝類の殻を閉づる筋肉をいふ、「カホッシラ」と稱するもの即ち是なり、

ニクチー(肉柱痕)動英 Adhutor impression. 二枚貝の閉殻筋が殻に附着せる痕跡をいふ、

ニケー(二形)動英 Dimorphism. 多形の一種をいふ、

ニチン化英 Nicotine. $C_{10}H_{14}NO_2$ 「ニコチン」は、煙草の葉の中に林檎酸鹽若しくは枸橼酸鹽となりて含有せらるる

此の物は、無色油状の液にして、空氣中にありては直に褐色に變ずるなり、水に溶け易く、煙草に類する臭氣あり、沸點は二百四十六度七、極めて有毒にして、二三滴を胃中に入れば、忽ち死に至る、

ニルソソウキバカリ (ニコルソンの浮秤) 物英 Nicholson's Hydrometer. 「ニコルソンの浮秤」は、圖に示すが如く、中空なる金屬の圓筒Bと、其の上部の皿Aと、圓筒の下に吊りたる圓錐狀の重き金屬器Cとより成り、



之を水中に入れるれば、Cの重さによりて直立して浮かぶものにして、比重を測るに用ゐらるゝものなり、今之を水中に入れ、Cの皿に比重を測らん

ニサン

とする物體と分銅とを載せて、桿の一定點Oまで沈ましめ、次にこの物體をAに載すれば、O點まで沈ましめんに、之に或る分銅を加へざるべからず、是れは物體と同容積の水の重さなり、故に之を以て物體の空氣中の重量Wを除したるものは、この物體の比重なり、

ニサンカタン(二酸化炭素)化英 Carbon dioxide.

CO_2 二酸化炭素は、火山の噴火口より發し、或は地殻中に埋没せる有機物の徐々の酸化若しくは燃焼に由りて生ず、空氣中に存在するは、主に有機物の燃焼、腐敗、醱酵等より來るものなれども、動物の呼吸も主なる原因なり、透明なる石灰水中に呼吸を吹き込めば、白濁を生ず、一人が二十四時間によりて吐き出す量は、平均二百二十二匁なり、植物の葉は日光によりて、空氣中より二酸化炭素を吸收し、同化作用に由りて炭素を取り酸素を遊離し、以て空氣中に於ける二酸化炭素の量を平均せしむ、而して通常空氣の一萬容中平均三乃至四容を含有す、地球上に存在せる二酸化炭素の化合物の量は非常に多量なり、例へば炭酸「カルシウム」は大理石、白堊等となりて往々大山脈を成す、

工業上多量の二酸化炭素を製するには、無煙炭若しくは「コークス」を爐中に燃焼す、又實驗場にて此の瓦斯を得る法は、大理石片を「フラスコ」に入れ、之に稀薄なる鹽酸を加

ふ、其の反應は次の如し、



此の瓦斯は空氣よりも大に重きを以て、下方置換によりて集め得、無味無臭の瓦斯にして、高壓と低溫とによりて無色の液體となる、此の物は零下七十八度にて沸騰し、空氣中に放置する時は、盛に氣化して寒冷を生じ、其の一部は雪の如き白色の固體となる、固體のものは之に指を觸るゝも寒冷を覺えず、是れ固體より盛に發散する處の瓦斯が其の周圍を包めるを以てなり、然れども指を以て之を壓迫する時は、指頭に水腫を生ずること、熱したる物體に觸れて火傷を生ずるが如し、

二酸化炭素瓦斯は電氣の火花を通じ、若しくは之を一干三百度以上に熱する時は、分解して一酸化炭素及び酸素と爲る、又「カリウム」若しくは「ナトリウム」と共に熱すれば、炭素を遊離す、



「マグネシウム」にてするも、亦炭素を遊離す、二酸化炭素瓦斯を灼熱せる木炭に通ずる時は、還元して一酸化炭素となる、二酸化炭素は通常毒性を有するものとせらるれども、有毒性のものにあらず、動物が此の瓦斯中にありて窒息するは酸素の缺乏に由るなり、

ニサン

ニサン

常溫にては、一容の水は二酸化炭素の同容を溶解し、零度にては一・八容を溶かす、又氣壓の増すに隨ひて溶解する量多し、炭酸水は壓力によりて多量の二酸化炭素を水に溶解せしめたるものなり、

ニサンカチツ(二酸化窒素)化英 Nitrogen dioxide.

N_2O_4 二酸化窒素を製する最も便利なる法は、金屬の硝酸鹽を熱して之を分解するにあり、例へば乾燥せる硝酸鉛の粉末を堅牢なる硝子管に容れて熱する時は、容易に二酸化窒素と酸素との混合瓦斯を得、二酸化窒素の純粹なるものは低溫に於ては液體にして、零下九度にては變色の結晶となり、十五度にては茶褐色の瓦斯體となり、二十六・七度に於ては其の色益濃くなる、尙高溫後に於ては暗黒色となる、此の瓦斯の比重を低溫に於て試むる時は、其の一分子は N_2O_4 を以て示し得ることを知る、然れども温度の上るに隨ひ、瓦斯は漸々に其の比重を減じ、百四十度にては NO_2 なる式に符合する比重を有す、此の事實より見れば過酸化窒素 N_2O_4 は高溫度に於ては二酸化窒素 NO_2 となるを知る、

二酸化窒素を常溫度に於て水に通ずる時は、硝酸及び酸化窒素となる、即ち



ニサン

ニサン(マンガン) (二酸化マンガン) 化英 Manganese dioxide MnO₂

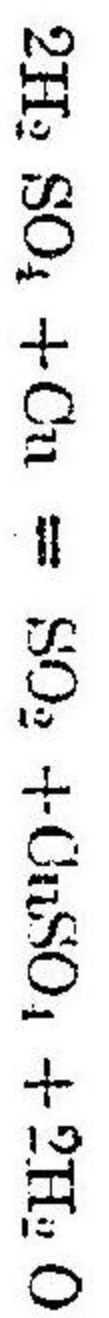
此の物は「マンガン」の礦物中最も主要なるものにして、「マンガン」化合物を製する主なる原料なり、過酸化「マンガン」は、高濃度に熱すれば、酸素瓦斯を發して二酸化「マンガン」となる、濃厚なる硫酸と共に熱すれば、四酸化「マンガン」となる、濃厚なる硫酸と共に熱すれば、酸素を游離して硫酸第一「マンガン」を生ず、即ち



二酸化「マンガン」と硫酸との混合物は強き酸化劑なり、二酸化「マンガン」に濃厚なる鹽酸を加へて熱すれば、鹽素瓦斯を發生して液中に鹽化第一「マンガン」を残す、二酸化「マンガン」は、漂白粉、含「マンガン」鋼、及び酸素瓦斯、硝子の製造に多く用ゐらる、

ニサン(カネオ) (二酸化硫黄) 化英 Sulphur dioxide SO₂

二酸化硫黄は硫黄を空氣中若しくは酸素中に於て燃焼する際生ず、日常硫黄付木に點火して惡臭を發するは、此の瓦斯の生ずるに由る、而して之を製する法種々あれども、實驗場に於て最も便利なるものは、銅に硫酸を加へて熱するに在り、其の反應は左の如し、



二酸化硫黄は、無色の瓦斯にして、低温度と高氣壓とにより

て容易く液體となし得、液體は零下八度にて沸騰す、又其の少量を皿に盛り、吹子を以て其の表を吹く時は、白き結晶體を生ず、此の熔融點は、攝氏零下八十度なり、鹽素にて漂白し難き絹布若しくは毛織等は、二酸化硫黄を以て漂白す、又防腐劑として多く用ゐらる、そは此の瓦斯が他の物體に觸る、時は、其の組成中の酸素を奪ひて自ら酸化し、若しくは其の物體と結合するに由るなり、

二酸化硫黄の無水なるものは、酸素と容易く化合すること能はざる故に、之を用ゐて諸物を漂白するには、常に水の存在するに必要なり、

ニシン(ニ次)の電池) 物英 Secondary cell.

蓄電池を見よ、

ニシン(鱈) 動 Clupea harengus 英 Herring.

體長一尺に達する魚にして、背部藍色、腹部銀白色を呈し、鱗は粗大柔軟にして剥げ易し、北海道西南沿岸に多く産し、産卵期には海岸近くに來れども、平常は深海に棲息す、山地にて食用に供する「ニシン」は、此の魚を割きて乾燥せるものなり、各尾約四萬乃至十一萬粒の卵を産むものにして、是を「カズノコ」と稱す、

ニシン(クセツ) (二重屈折) 物英 Double refraction.

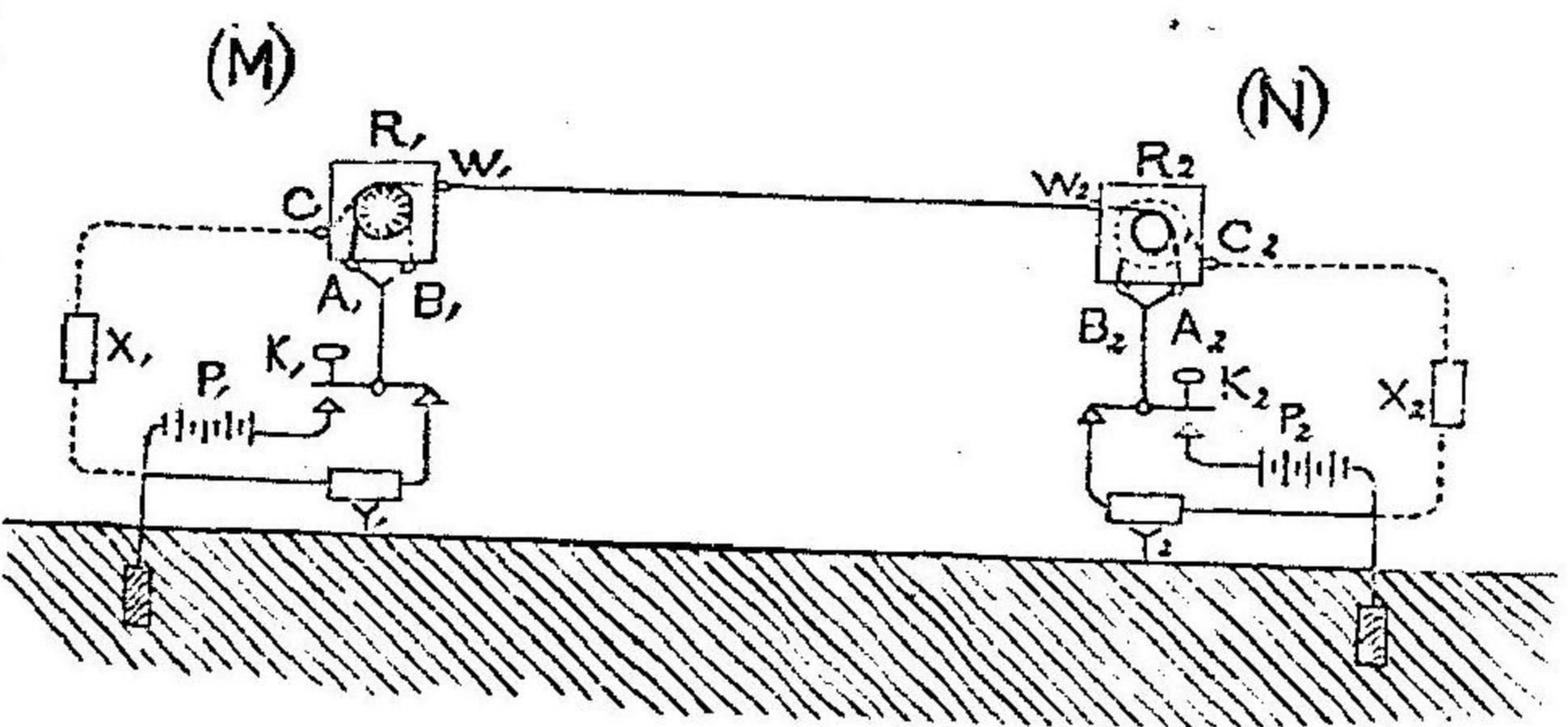
方解石、水晶等の結晶體に一條の入射線を送る時は、二條の

屈折線あり、此の内一は通常の光線の如く、反射屈折の法則に従ふものなれども、他は然らず、前者を常光線と稱し、後者を非常光線といふ、斯くの如く一條の入射線に對して二條の屈折線を生ずる所の現象を、二重屈折又は複屈折といふ、今方解石の結晶を取りて、書物の上に載せて、其の字を見るに、字の二重に重なり合ふを見るべし、

ニシン(セッキ) (二十四節氣) 地 黄道圈を二十四分し、各分點に附したる名なり、各條を見よ、

立春	雨水	啓蟄	春分
清明	穀雨	立夏	小滿
芒種	夏至	小暑	大暑
立秋	處暑	白露	秋分
寒露	霜降	立冬	小雪
大雪	冬至	小寒	大寒

ニシン(アンホ) (二重電信法) 物英 Duplex photogram. 二重電信法は、一條の電線によりて、同時に發信と受信とを爲し得る装置にして、圖に示すが如く、R₁R₂は一種の「リレー」にして、其の電磁石の周圍には、同一の二條の導線を接近せしめて巻き、電線W₁W₂電池P₁P₂發信器K₁K₂及び電池と同一の抵抗を與ふべき抵抗箱Y₁Y₂を具へ、又實線と點線は「リレー」に巻きたる二條の導線にして、點線



の電路には、其の抵抗、電線、電池及抵抗箱Y₁Y₂の和に等しき抵抗箱X₁X₂を含む、今M局にて發信器を押せばP₁より起る電流は二つに分かれ、一はA₁W₁A₂及びY₂を経て地に入り、Y₁に歸り、他の一はB₁C₁X₁を経て直にP₁に歸る、而してこの二電路の抵抗は相等しきが故に、電流の強さ相等しくして其の方向反對なればR₁に作用せずしてN局のR₂のみに作用す、又N局の發信器を押したる時は、M局のR₁のみに作用す、若し又兩局同時に發信器を押す時は電流はA₁W₁W₂A₂間を流れざるも、B₁C₁X₁間及びB₂C₂X₂間を流るゝが故にR₁R₂は共に作用するを以て、二局の受信は其の發信を妨げず

ニシン(二翅類) 動 Diptera. 口器は刺螫及び吸吮に

適し、一翅は唯前翅一對あるのみ、變態完全なり、體面に往々毛を生ず、頭は球狀にして頸甚だ細く、觸角は種々の形狀

をなし、覆眼は大にして別に三單眼を具ふる者多し、胸の三環節は相固着し、前翅は膜状にして透明なり而して其の脈網細からず、後翅は頗る細小となり、其の形太鼓の撥の如し、之を平均棍と稱し、往々鱗状物を以て蔽はる、時に全く無翅の者あり、脚は皆同形にして、末端に鈞、爪及び吸盤を具ふ、其の幼蟲は無脚にして、蛹は卵状或は袋状なり、本目中更に左の三亞目を置く、

蚊類、例、「カ」「ブヨ」
二翅類 蠅類、例、「ンク」
隱翅類、例、「ノミ」

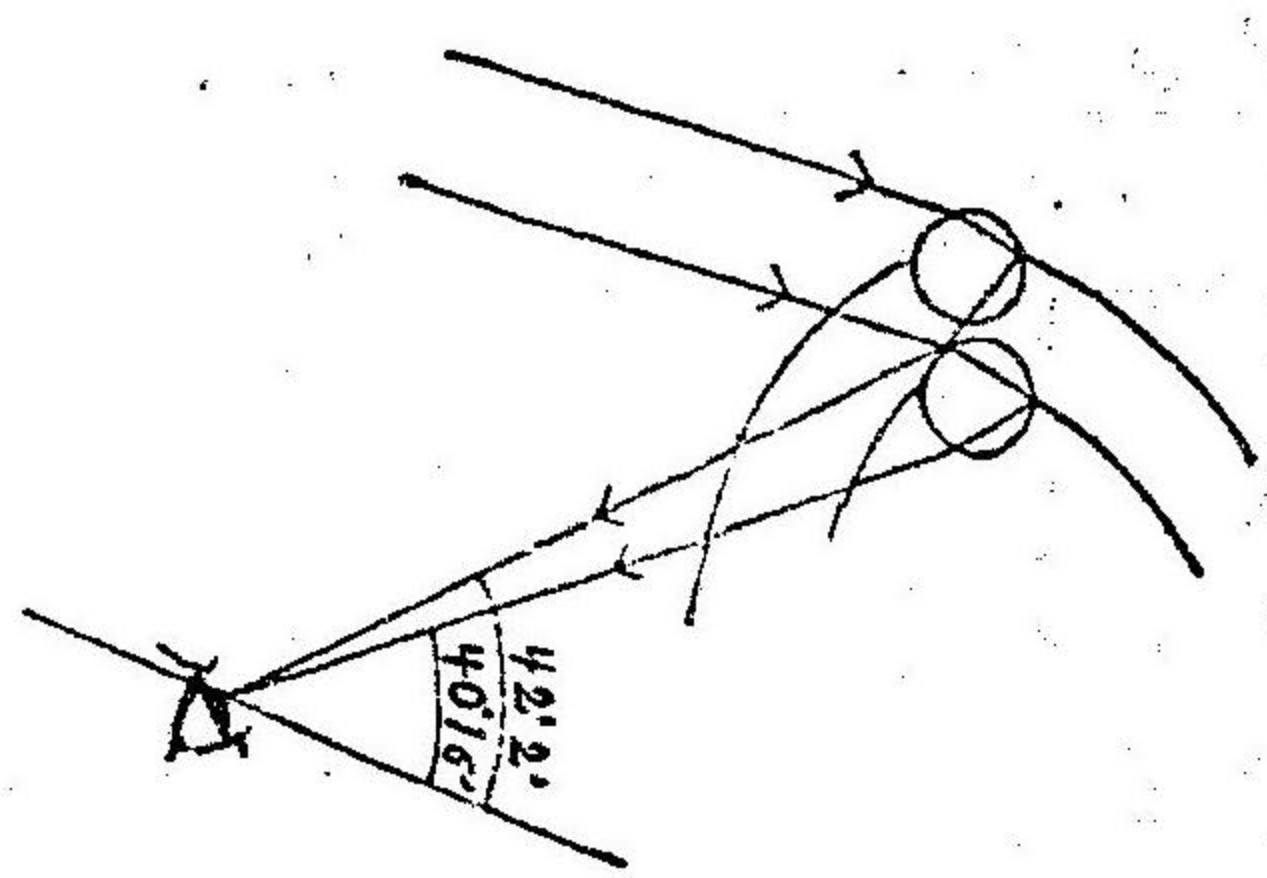
ニチ(虹) 物英 Rain-bow. 虹は、雨後太陽と反對の方向に於て現はる、所の、弓形をなせる色帯にして、其の色配列の順序は、「スペクトル」と全く同じく、紅は外輪をなし、紫は其の内輪をなす、虹は太陽の光線が空中に浮遊する雨滴内に入り、其の内面にて反射し、更に屈折して空中に出づるに當り、分散せられて起るものなり、此の分散せられたる光は、各其の屈折率を異にするが故に、各異りたる角を以て空中に出づべしと雖も、投射線と反射線とが一定の角をなす時、其の光最も強きものなり、此の角は紅色は四十二度二分、紫色は四十四度十六分なり、故に赤は眼と太陽とを連ぬる線に對して、四十二度二分の方向に現はれて外輪をな

し、紫は四十四度六分の方向に現はれて内輪をなす、
ニチホツ(日没) 地英 Sun set. 太陽が地平線下に降るをいふ、

ニケル 化 鑛 英 Ni
keloni 原千量五十八・七
ニケルイオン 鑛 英 Niokelion. 「ニッケル」は二價の單「イオン」(Ni²⁺)を生ず、此は美しき綠色を有す、

ニケルノシザイ(ニッケルの所在) 「ニッケル」は砒「ニッケル」鑛 Ni₂S₃及び砒硫化「ニッケル」鑛 Ni₃S₂等となりて存在す、

ニケルセーシツ(ニッケルの性質) 「ニッケル」は銀に類せる色澤を具へ、鐵の如く硬く、延性及び展性に富み、少しく磁性あり、空氣中に放置するも容易に變化せず、鹽酸或は硫酸に溶解す、硝酸には良く溶解す、銅、亞鉛等に融和して合金を製造す、例へば洋銀は二十五分の「ニッケル」と二十五分の亞鉛及び五十分の銅との合金にして、五錢の白銅貨



は二十五分の「ニッケル」と七十五分の銅との合金なり、此の外鐵、銅、洋銀其の他金屬製の器物の面を鍍金するに用ふる、

ニツコモミ 植 「タケモミ」の條を見よ、
ニツコーケンビョーキー(日光顯微鏡) 物英 Solar microscope. 日光顯微鏡は、太陽の光線を籍りて甚だ小なる物體の肖像を生ずるための器械にして、其の構造は大なる凸「レンズ」及び焦點距離の甚だ短き凸「レンズ」より成る、今

後の「レンズ」の焦點の少しく外方に物體を置き、暗室の外に設けたる平面鏡によりて太陽の光線を反射せしめ、前の「レンズ」を透過せしめて收斂し得たる強き光を以て、之を照らす時は、後の「レンズ」によりて、非常に擴大せられたる實像を得べし、

ニツジュツ(日出) 地英 Sunrise. 太陽が地平線上に昇上するをいふ、

ニツヨク(日蝕) 天英 Solar eclipse. 月が地球と太陽の間に入り、太陽が月の陰に入るために、地球より太陽の一部或は全部が見えざることあり、之を日蝕と云ふ、

ニツヨクゲンカイカク(日蝕限界角) 天英 Solar eclipse limit. 日蝕は新月の時に起る、詳しく云へば月は白道上を、太陽は黄道上を運動す、若し新月の時に、太陽と月が

くひ違へば、此に日蝕起り、白道と黄道との交点より月と太陽とが遠ざかれば食起らず、故に食には限りあり、太陽若し交点に居れば、食の起ること勿論なり、太陽の中心が、新月の時交点を距ること十八度三十六分より大なれば、食起らず、十三度四十二分より小なれば必ず蝕あり、此の二つの角を日蝕限界角と云ふ、此の限界の間に太陽の中心があるときは、日蝕の起ることも起らざることもあり、

ニトローキン(二頭股筋) 生英 Biceps femoris. 股の裏にある大筋にして上は大腿骨の上部に起り、先端二分して脛骨、腓骨の上部に連り、收縮して下脚を屈せしむ、

ニトローキン(二頭膊筋) 生英 Biceps brachii. 膊の前面にあり、起點二分して上膊骨並に鎖骨に接し、着點は橈骨の後端にあり、腕を屈する作用をなす、膊の前に力瘤を生ずるば、此の筋の收縮膨大せるによる、

ニトローキン(二頭腓腸筋) 生英 Gastrocnemius. 二頭を以て大腿骨の下端に起り、下端は跟骨に連る、足頭を伸ばす筋は即ち是にして極めてよく發達し、跟骨に連る腱は「アキリス」氏腱といひ、體中最も強大なる腱なり、

ニトローグリン 化 英 Nitroglycerin. C₃H₅(ONO₂)₃. 「ニトローグリン」は、強硝酸と硫酸との冷き混合液に「グリセリン」を徐々に滴下して得らる、無色油状の液體にし

て水には溶けず、甘味を有し有毒なり、零下二十二度にて固体となる、之を燃やすも爆發せざれども、速に熱するか或は打撃するときは烈しく爆發す、之を硅藻土と三と一との割合に混合するときは、「ダイナマイト」となる、千八百六十七年に「ノーベル」氏の發明したるものなり、此の物は觸るるのみにては爆發することなきも、雷酸水銀の作用によりて激しく爆裂す、故に爆裂彈の名あり、

ニトロベンゼン、化英 Nitrobenzene. C₆H₅NO₂.

ニトロベンゼンキシシ (ニトロベンゼンの性質) 此の物は淡黄色の油状物にして、苦扁桃油に類せる香氣を有するを以て、毒性あるに關せず、燃料として使用す、然れども主なる用途は「アニリン」製造にあり、沸點二百八度、比重は一・二〇四(二〇度)なり、

ニトロペンゼンセーホー (ニトロペンゼンの製法) 強硝酸百瓦と強硫酸百五十瓦を冷却しながら少しづつ混合したる液を、少しづつ五十瓦の「ベンゼン」に加へながら、能く振盪すれば、亞硝酸瓦斯及び熱を發す、而して溫度を四十度乃至五十度の間にあらしむれば、「ニトロペンゼン」は褐色油状の液体となり生ず、之を湯煎にて六十度乃至七十度に二十分間熱したる後、之を冷却して分液漏斗にて酸を分つべし、次に數回水を加へて振盪したる後、炭酸曹達の稀薄溶液

を加へ、再び水にて振盪洗滌すれば、「ニトロペンゼン」は油状となりて器底に沈む、之を水より分ち、熔融したる鹽化「カルシウム」を其の液の透明になるまでは時々振盪すべし、而して酸化「カルシウム」より分ちて蒸餾す、二百四度乃至二百七度にて蒸溜するものは、純粹の「ニトロペンゼン」なり、

ニナ(河貝子) 動 Melania. 淡水に普通なる腹足類にして、黒色を呈し、螺層多くして全體細長なり、螺尖は白色を呈し破ること多し、

ニネン (二年根) 植英 Biennial root. 初年に種子より萌發し翌年に至り開花結實して枯死するもの、即ち二年植物の根を云ふ、十字科植物に此の例あり、

ニウデ 生 屑より肘までをいふ、

ニトリ (雞) 動 Gallus domesticus, Briss. 英 Cock, Hen, chicken. 人家に飼育せらるる鳥にして、間歇的に鳴くにより、俗に時を告ぐといふ、産卵すること多きは人爲淘汰の結果にして雄の雌に比して美なるは、雌雄淘汰の結果なり、主に穀物を食し、胃は肉筋多く内面革質に變するを以て消化力強し、且つ砂等を嚥下して消化を助く、故に「ニトリ」には料理せざる穀類を與へざれば、却て消化に困難するものなり(「チョーレイ」「ニハトリルイ」の條参照、)

Ouek, は雄鶏 Hen は雌鶏 Chicken. は雞鶏のことをいふ、

ニハトリルイ (雞類) 動 Gallinacei. 雞類は、嘴は短く、上嘴下方に彎曲し、其の縁は下嘴を蔽ふ、鼻孔裂状にして鱗状

の下に在り、翼は肥大の體軀に比して短く小なるを以て、飛力强からず、足は疾走に適し、後趾短小にして多くは他趾よりも高く位す、往々頭頸に裸出部あり、即ち肉冠、肉瓣等を具有す、雄は概し距を有し羽色雌よりも鮮美なり、此の類は専ら地上に棲み、穀物、嫩葉、蟲等を食とす、

ニハクローカ (二百十日) 地 雜節の一にして九月一日頃なり、稻の花咲く盛りにして、暴風の之を害することある時なり、

ニホシノリ (日本紙の糊) 植 日本紙の糊料には、米、小麦の澱粉を始めとし、稀に馬鈴薯の澱粉を使用す、又「トロロアフロビ」「ノリノキ」「南五味子」の粘液を用ゐるもあり、

ニマイガヒイ (二枚貝類) 動英 Bivalvia. 「ヘンサイレイ」に同じ、

ニシ (仁) 植 小核の條を見よ、
ニシシ (人參) 植 Aralia quinquefolia A. Gr. var. Ginseng. Pae. et Mack. 五加科植物にして、肥大なる根あり、掌狀複葉を有し、花小なり、根を藥用とす、
ニシシ (胡蘿蔔) 植 Daucus Carota L. 繖形科の草本

にして、葉は大形にして細裂す、花は白色を呈し、其の形小にして複繖形花序に排列す、蟲媒花なり、根は赤黄色にして肥大し、甘味ありて滋養に富む、日常食用とする野菜なり、
ニウカ (乳果) 生英 Emulsion. 脂肪が膽汁のために動物膜を通過し得る如き小粒となりたるものをいふ、腸壁は通常の脂肪を通過せざるものなれば、乳果となりて後初めて乳糜管によりて吸收せらるるものなり、

ニウカン (乳管) 植英 Lactiferous Tubes. 大戟科尋麻科等の植物に見る所にして、此の管を構成する細胞は、其の長さを増し、「メーテル」に達することあり、其の細胞膜は彈力に富み、其の中に「ゴム」、樹脂、蠟、アルカロイド、タンニン等を含む、

ニウサン (乳酸) 化英 Lactic acid. C₃H₅(OH)COOH 乳酸の水溶液を蒸發するときには稠厚となりて結晶し、吸濕性ある舍利別を得べし、此の物は水、「アルコール」及び「エーテル」に混合し易し、又此の化合物を硫酸上に曝すときは、漸次に水を失ひ、固體の無水乳酸を生ず、

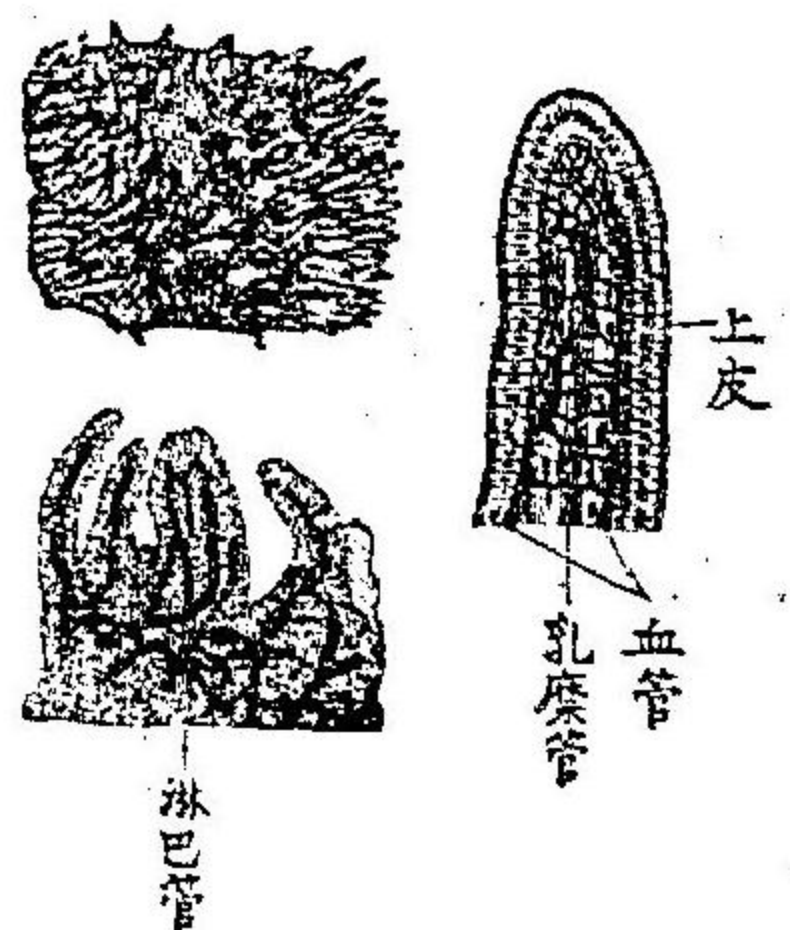
ニウサンバク (乳酸醱酵) 植英 Lactic Fermentation. 乳汁、乳糖、澱粉等が酸素の存在する場合に、乳酸菌の誘起によりて乳酸化することを云ふ、
ニウシサン (乳脂酸) 化 酪酸に同じ、

ニトスイカン(入水管) 動英 Inhalent siphon. 貝類の呼吸の爲に水を吸入する肉管にして、二枚貝にありては、殻の後端にある二本の中、下部にある管をいふ、此の管より水の入ることは、少しく塵芥のある水中に貝を入れて、其の水流を検すれば、容易に知ることを得べし。

ニトト(乳糖) 化英 Lactose or Milk sugar. $C_{12}H_{22}O_{11} + H_2O$. 此の物は哺乳動物の乳汁の主成分をなせり、白色堅硬の柱状の結晶にして、一分子の結晶水を含有す、冷水には溶解し易からざれども、温水には能く溶解し、「アルコール」には溶けず、少しく甘味を有す、水溶液は偏光面を右方に回轉す。

ニトト(乳頭) 生英 Papilla. 舌面にある種々の形状をなせる突起にして、鏡に對して見得る突起は普通二種あり、即ち先端細裂せるものを絲狀乳頭といひ、稍「キノコ」に似るものを齒狀又蕈狀乳頭といひ、舌根に少しく散布せる輪廓ある突起を輪廓乳頭といふ、共に味覺及觸覺を司る、ニトトトッキ(乳頭突起) 生英 Papilla. 表皮の粘液層真皮に接する部分に多くの小凸凹あり、此の凹所に入り込める真皮の突起を乳頭突起といふ、此の突起には神経球毛細管等來りて配布せり、ニトバイ(入梅) 地 雜節の一にして、六月十一日頃なり、

梅雨の季に入る日にして、梅實の熟する頃なり、ニトビ(乳糜) 生英 Chyle. 食物が器械的磨碎と化學的變化を受け、肉體を養ひ得る乳様物質となりたるものをいふ、乳糜は小腸、乳糜管、血管内に含有せらる、ニトビカン(乳糜管) 生英 Lacteal. 小腸の内面にあ



る絨毛の内部には、比較的太き淋巴管來りて分布す、而して此の管内には淋巴液滿つるがため、交流の作用により、腸内の乳糜は此の淋巴管内に滲入す、此の淋巴管を乳糜管といふ、

ニトホーカサン(乳房火山) 地英 Mamelon. 一火山の横腹に生ずる小塊状火山をいふ、

ニトホーセン(乳房腺) 生 女及雌の乳房内にある小腺にして、血液中より乳汁を搾り取りて分泌するものなり、

ニト(尿) 生英 Urine. 體の全部にて生ずる排泄物を腎臓にて濾し出し、一旦膀胱に集め、之を體外に排泄するものなり、尿は次の如き種々の物質よりなる、

尿素、尿酸、食鹽、色素(膽汁の色に同じ) 諸種の鹽類、

西洋人の統計によれば一晝夜の排尿量は、

男、約七合内外
女、約六合内外

而して夜は濃厚にして、晝は稀薄なり、

ニトサン(尿酸) 化英 Uric acid. $C_5H_4N_4O_6$. 少量は人類及び他の食肉動物の尿中に存在す、尿を空氣中に置くととき淡黄色の粉末の析出するは、即ち此の物なり、又鳥類及び匍匐動物の排泄物中に存在す、殊に「グアノ」中に存在す、蛇の糞は殆んど全く尿酸「アムモニウム」より成れるものなれば、之れより尿酸を製するを便とす、尿酸は水には極めて溶解し難けれど、濃硫酸には溶解す、其の溶液に水を加ふれば再び沈澱す、尿酸は弱き二鹽基性の酸にして、之を尿酸「アルカリ」にて處分すれば、水に溶け難き酸性「アルカリ」鹽「 CO_3 , $H_2N_2O_5$, KO 」を生ず、

ニトソ(尿素) 化英 Urea $CO(NH_2)_2$. 此の物は西暦千七百七十三年始めて尿中に發見せられたる

を以て此の名あり、千八百二十八年に至り、「ウニール」が「イソシヤン」酸「アムモニウム」より之を合成し、以て有機化合物に關する世人の誤謬を打破したるを以て、歴史上有名な物質なり、尿素は哺乳動物の尿中にあり、人類は日々凡そ三十グラムの尿素を生ず、尿素は含窒素有機體に於て酸化より得べき最後の生成物なり、之に由りて人尿を取り、之を蒸發して濃厚となし、濃硝酸を加へて熱すれば、硝酸尿素を結晶す、之を炭酸「カリウム」を以て分解すれば尿素を得べし、尿素は斜方系の長柱状に結晶し、水には極めて溶け易く、百三十二度にて熔融し、猶熱すれば主として「アムモニヤ」より成れる氣體を發生し、暫時にして全塊凝固す、ニトド(尿道) 生英 Urethra. 膀胱の下前部に始まり尿を體外に排泄する管道をいふ、

ニトマ(尿膜) 動英 Allantois. 脊椎動物の發生の途に於て腸前壁より突出する膜嚢にして、血管に富み、延びて胚體外に擴張し、以て胚の呼吸作用を營む用をなす、

ニトウカタン(二硫化炭素) 化英 Carbon disulfide CS_2 . 二硫化炭素は木炭若しくは「コークス」を土管に入れて灼熱し、之に硫黄の蒸氣を通じて生ずるものを冷却せる受器中に集む、二硫化炭素は、稀薄なる液體にして、零度に於ける比重は

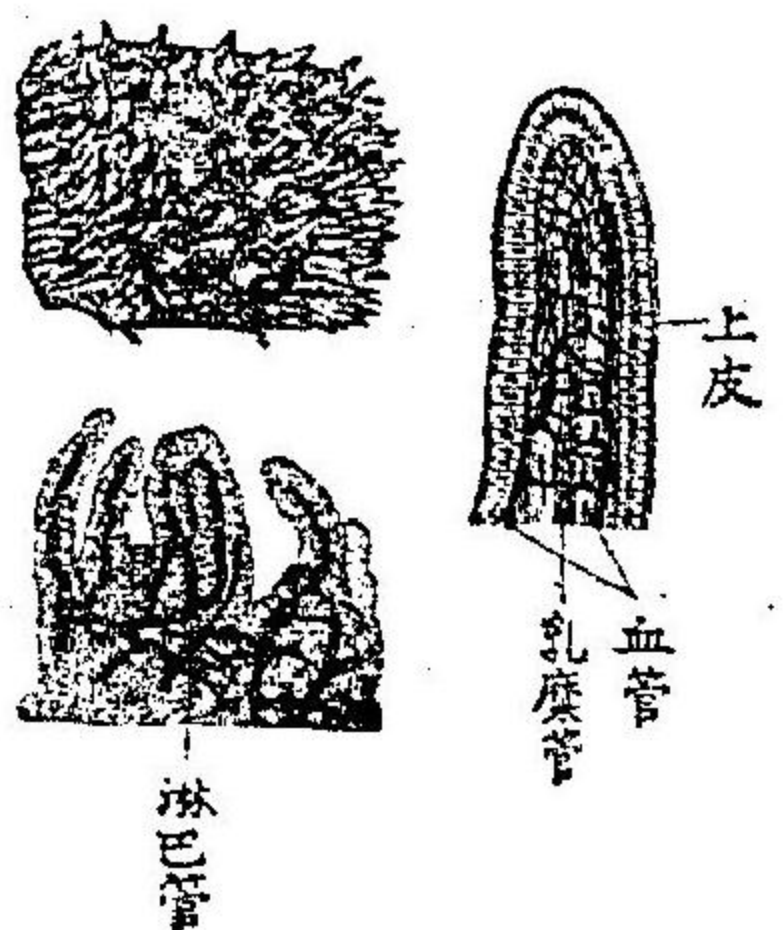
ニースイカン(入水管) 動英 Inhalent siphon. 貝類の呼吸の爲に水を吸入する肉管にして、二枚貝にありては、殻の後端にある二本の中、下部にある管をいふ、此の管より水の入ることは、少しく塵芥のある水中に貝を入れて、其の水流を検すれば、容易に知ることを得べし。

ニートー(乳糖) 化英 Lactose or Milk sugar. $C_{12}H_{22}O_{11} + H_2O$. 此の物は哺乳動物の乳汁の主成分をなせり、白色堅硬の柱状の結晶にして、一分子の結晶水を含有す、冷水には溶解し易からざれども、温水には能く溶解し、「アルコール」には溶けず、少しく甘味を有す、水溶液は偏光面を右方に回轉す。

ニートー(乳頭) 生英 Papilla. 舌面にある種々の形状をなせる突起にして、鏡に對して見得る突起は普通二種あり、即ち先端細裂せるものを絲狀乳頭といひ、稍「キノコ」に似るものを菌狀又蕈狀乳頭といひ、舌根に少しく散布せる輪廓ある突起を輪廓乳頭といふ、共に味覺及觸覺を司る。ニートートッキ(乳頭突起) 生英 Papilla. 表皮の粘液層真皮に接する部分に多くの小凸凹あり、此の凹所に入り込める真皮の突起を乳頭突起といふ、此の突起には神経球毛細管等來りて配布せり。

ニーパーイ(入梅) 地 雜節の一にして、六月十一日頃なり、

梅雨の季に入る日にして、梅實の熟する頃なり、ニートー(乳糜) 生英 Chyle. 食物が器械的磨碎と化學的變化を受け、肉體を養ひ得る乳様物質となりたるものをいふ、乳糜は小腸、乳糜管、血管内に含有せらる。



ニートー(乳糜管) 生英 Lacteal. 小腸の内面にある絨毛の内部には、比較的太き淋巴管來りて分布す、而して此の管内には淋巴液滿つるがため、交流の作用により、腸内の乳糜は此の淋巴管内に滲入す、此の淋巴管を乳糜管といふ。

ニーパーカザン(乳房火山) 地英 Mamelon. 一火山の横腹に生ずる小塊狀火山をいふ。

ニーパーセン(乳房腺) 生 女及雌の乳房内にある小腺にして、血液中より乳汁を搾り取りて分泌するものなり。

ニーパー(尿) 生英 Urine. 體の全部にて生ずる排泄物を腎臓にて濾し出し、一旦膀胱に集め、之を體外に排泄するものなり、尿は次の如き種々の物質よりなる。

尿素、尿酸、食鹽、色素、(膽汁の色に同じ) 諸種の鹽類、

西洋人の統計によれば一晝夜の排尿量は、

男、約七合内外
女、約六合内外

而して夜は濃厚にして、晝は稀薄なり、

ニースン(尿酸) 化英 Uric acid. $C_5H_4N_4O_6$. 少量は人類及び他の食肉動物の尿中に存在す、尿を空氣中に置くととき淡黄色の粉末の析出するは、即ち此の物なり、又鳥類及び匍匐動物の排泄物中に存在す、殊に「グアノ」中に存在す、蛇の糞は殆んど全く尿酸「アムモニウム」より成れるものなれば、之れより尿酸を製するを便とす、尿酸は水には極めて溶解し難けれども、濃硫酸には溶解す、其の溶液に水を加ふれば再び沈澱す、尿酸は弱き二鹽基性の酸にして、之を炭酸「アルカリ」にて「處分」すれば、水に溶け難き酸性「アルカリ鹽」 $C_5H_3N_4O_6K$ を生ず。

ニースン(尿素) 化英 Urea. $CO(NH_2)_2$. 此の物は西暦千七百七十三年始めて尿中に發見せられたる

を以て此の名あり、千八百二十八年に至り、「ウエーレル」が「イソシヤン」酸「アムモニウム」より之を合成し、以て有機化合物に關する世人の誤謬を打破したるを以て、歴史上有名な物質なり、尿素は哺乳動物の尿中にあり、人類は日々凡そ三十グラムの尿素を生ず、尿素は含窒素有機體に於て酸化より得べき最後の生成物なり、之に由りて人尿を取り、之を蒸發して濃厚となし、濃硝酸を加へて熱すれば、硝酸尿素を結晶す、之を炭酸「カリウム」を以て分解すれば尿素を得べし、尿素は斜方系の長き柱狀に結晶し、水には極めて溶解し易く、百三十二度にて熔融し、猶熱すれば主として「アムモニヤ」より成れる氣體を發生し、暫時にして全塊凝固す、ニートー(尿道) 生英 Urethra. 膀胱の下前部に始まり尿を體外に排泄する管道をいふ。

ニーマク(尿膜) 動英 Allantois. 脊椎動物の發生の途に於て膀胱より突出する膜囊にして、血管に富み、延びて胚體外に擴張し、以て胚の呼吸作用を營む用をなす。

ニールカタン(二硫化炭素) 化英 Carbon disulfide. CS_2 . 二硫化炭素は木炭若しくは「コークス」を土管に入れて灼熱し、之に硫黃の蒸氣を通じて生ずるものを冷却せる受器中に集む、二硫化炭素は、稀薄なる液體にして、零度に於ける比重は

一・二九にして、強く光線を屈折す、四十六度にて沸騰し、百四十九度に熱すれば青色の燐を放ちて燃焼し、二酸化炭素と二酸化硫黄とを生ず、二硫化炭素の蒸気に酸素を混合せるとものは、劇烈なる爆発性を有せり、

二酸化炭素の純粋なるものは、「クロ、ホルム」の如き臭氣を有すれども、通常のものには、夾雑物を含有するが爲に黄色を有し、非常の悪臭を放つ、有毒にして驅蟲劑或は「ゴム」脂肪等を溶解するに用ゐる、

ニリユカテツ(二硫化鐵) 化英 Ferrie disulphide, FeS₂ 二硫化鐵は、黄鐵礦となりて存在す、真鍮の如き光澤を帯べる立方形の結晶なり、熱すれば含有せる硫黄の一半を游離するを以て、硫酸製造に用ゐらる、

ニモミ 植 「ニッコモミ」の條を見よ、

又

ヌベトハギ(山菜豆) 植 Desmodium podocarpum, DC var. Japonicum Maxim. 豆科に屬する植物にして節莢を結び、節片毎に一種子を含み、成熟するに従ひ斷絶して落下す、若し莢中を徘徊する動物來りて之に觸るとときは、其の莢面に密生せる小鈎にて動物體に附着し、以て種子

を散布せしむ、到る處の山野に生ず、

ネ

ネ 植 英 Root. 根は植物體の下行部にして、葉を有せざる部なり、

種類、

(A) 直根 (Axial root)、幼根の下端より生じたるものを云ふ、(B) 副根 (Adventitious root)、幼根の下端は、直に根とならずして、其の少しく上方より數條の細根に分裂し、各根鞘を被りて枝出するもの、「タコノキ」の氣生根、「キツタ」

「ツタワルシ」等の氣生支根等は其の例なり、
ネイロ(音色) 物 英 Timber. オンシヨク(音色)を見よ、

ネカリザサ 植 「ネマガリザサ」に同じ、

ネコ(猫) 動 Felis domestica, L. 英 Cat. 尤もよく猛獸の性態を備へ、吻の短きは槓杆の理により嚙咬に力を與へんが爲にして、又頭の高きは嚙みたるものを引き切るに充分の力を與へんが爲なり、足は趾のみを地に接するを以て歩行に響を生ぜず、瞳孔は開放すれば圓けれども、光線多き場合には 0 形に縮小す、鬚は長く觸角の用をなし、爪

は銳利にして曲り、出入自在なり、性隱險にして、外見は溫和の如くなれども、小兒等に對しては甚しく威嚇す、

ネサメ 動 Oestacion. 頭は鐵槌の如く方形にして刺なく、背部は淡茶色と微紅色とを含み、深褐色と淺褐色との横條線あり、腹部白色にして、體側に紅色の斑點あり、體長三尺餘に達し、我東海及西南諸州に産す、

ネツメイシ(猫睛石) 鑛 英 Cat's eyes. 「セキエー」 を見よ、

ネザサ 植 稈の高さ六尺許、肉瘦せて、葉は「メダケ」の如し、本州中央部の原野に自生す、

ネズ 植 「ネツミサシ」に同じ、

ネズ(鼠) 動 Mus decumanus, Pall. 英 Rat. 人家の器具、建具を嚙害し、屢々大害を興ふるものにして、門齒よく發達し、上下に各二本あり、此の齒は齒根部より絶えず伸長するにより、常に物を嚙みて其の先端を磨滅せし

めざれば、遂に唇を合すること能はざるに至るべし、「ネツミ」の上下門齒の中其の一を抜き去り、飼養すれば、之に對する門齒は嚙咬のため磨滅せざるにより、遂に伸長して之に對する頭肉をも破るに至るべし、而して其の前面部には球那質薄く一面にあり其の他は皆齒質なるより、恰も鑿の如く磨滅し、嚙咬に便なり、鬚は長くして觸覺の代用をなし、之により穴の大小を認識することを得、爪は小なれども鋭く攀上に適す、尾は長く、攀上する際其の助をなすこと、幾分か「キツツキ」の尾に似る、毛色は所謂鼠色を呈し、暗所にありて體を隠すに便なり、かかる色を保護色といふ、

ネズミサシ又台又ネズ(杜松) 植 Juniperus rigida, S. et Z. 枝は針狀三角形をなす、各節に三本の葉を輪生す、核果狀の種子を結ぶ、材黄色にして、水に堪ゆるを以て桶材とす、實より油を取り、又藥品とす、木は焚きて蚊遣となす

ネツ(熱) 物 英 Heat. 熱は物體分子の有する所の運動の「エネルギー」にして、物體寒冷なりといふは、其の分子の振動緩慢にして、有する所の運動の「エネルギー」少なきことにして、溫暖なりといふは、分子の振動激烈にして、其の運動の「エネルギー」の大なることなり、

ネツカイリ(熱解離) 化 熱離に同じ、
ネツセン(熱線) 物 英 Heat line. 熱の輻射するに際

ネツタ

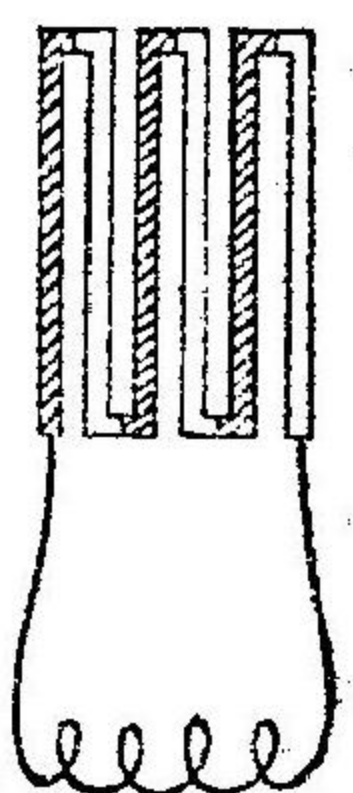
し、其の通過する途たる直線を熱線と稱す、このものは太陽の光線と伴ひて存するものにして、其の屈折率小なれば、日光「スペクトル」の赤以外を検するに、「ホロメーター」を以てする時は、其の存在を認めべし、故に又之を赤外線と稱することあり、

ネツタイ (熱帯) 地英 Tropical zone. 南北兩緯各二十一度半の間をいふ、此の地方は一年に二回若しくは一回必ず大陽の直射を受け、大氣の温度常に高く、四季の變は殆ど之を感ずることなく、晝夜長短の差最も少き所なり、

ネツタイノアメ (熱帯の雨) 地 熱帯に降る雨にして二種あり、一は赤道雨にして、一は天頂雨なり、赤道雨とは赤道無風帯即ち専ら空氣の上昇する所に於てのみ見る雨にして、其の地上に降り来るは殆ど毎日に及び、其の時は必ず午後にあり、且つ其の勢猛烈にして宛然盆を覆すに異ならず、又天頂雨とは赤道風帯以外の熱帯(南北兩緯二十八度邊まで)に於て、大陽頭上に在る時に降る雨にして、回歸線附近にては一年に一回其の他の處にては、一年に二回見るものとす、蓋し此の天頂雨は熱帯に於ては期限を定めて降るが故に、同帯に於る一箇年は、爲に濕潤季(雨季)と乾燥季との二期に分かつことを得べし、

ネツデンタイ (熱電堆) 物英 Thermopile. 化學作用

ネツテ



を借らず、異種の金屬を接合して其の接合點を熱し、以て電流を起さしむる所の器械を、熱電堆又は熱電池と稱す、

其の構造は、二種の金屬例へば蒼鉛と銅とを屈曲して互ひ違ひに接合し、一方の接合部を熱すれば、電流起り、而して恰も數個の電池を連れたるが如く、其の電動力は組みの數に比例するものなり、

ネツデンリユー (熱電流) 物英 Thermoelectric current. 化學作用に依らずして、唯異種の金屬を融合し、其の接合點を熱する時は電流起り、其の點に於ける一方の金屬より他の金屬に向かひて流動す、此の電流を稱して熱電流といふ、左記の金屬の中の二つを取り、其の接合點を熱する時は、一般に電流は上位にある金屬より下位にある金屬に向かひて流動するものなり、

蒼鉛、白金、鉛、錫、銅、金、銀、亞鉛、鐵、「アンチモン」

ネツサヨ (熱の作用) 物英 Action of heat. 熱は物體を膨脹せしめ、或は固體を變じて液體となし、液體を變じて氣體となす等の機械的仕事をなし、又は液體中に固體の溶解を促し、化學的の結合又は分解を起さしめ、及び導體に電氣現象を起さしむ、而して熱作用集積すれば、物體

は遂に發光するに至る、

ネツシゴトトリ (熱の仕事當量) 物英 Mechanical equivalent of heat. 熱の仕事當量とは、單位熱量に相當する仕事の量をいふものにして、英國人「ジャッカル」が精密なる實驗を重ね、以て測定し得たるものなり、其の成績に依れば、一「瓦」カロリーの熱量は、四百二十五瓩の仕事に相當するものなり、即ち重き一「瓦」の物體が四百二十五米の高さより落ち、其の地面に衝突したる時、有する所の「エネルギー」が盡く熱に變じたりとすれば、其の熱は以て一「瓦」の水の温度を一度だけ昇らしむることを得べしとなり、

ネツヨリ (熱容量) 物英 Heat Capacity. 一物體の温度を攝氏の一度だけ上昇せしむるに要する熱量を、其の物體の熱容量と稱す、

ネツリ (熱離) 化英 Thermolysis. 熱の爲に化合物が分解して「イオン」に分かるることを云ふ、

ネシカツラ 植 「マメダチ」の條を見よ、

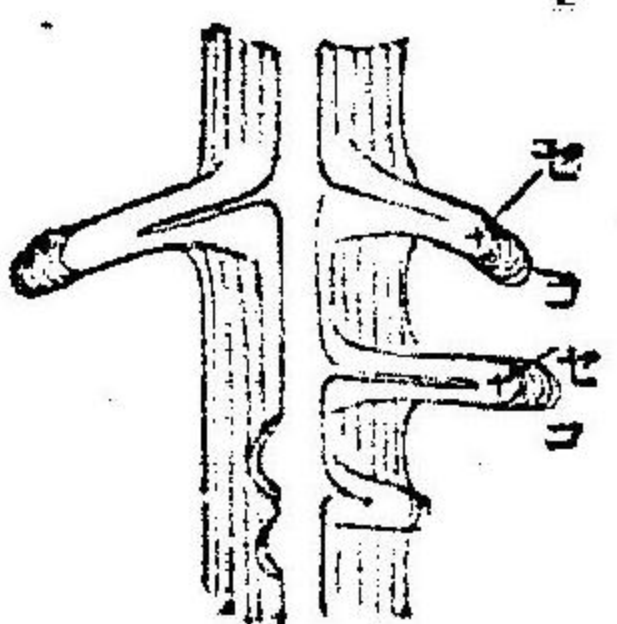
ネネーチョーテン (根の生長點) 植英 Growing point. 根冠の直後に位する、一帯の柔組織にして、此の部の細胞は生活力を有し絶えず分生して、外部に新組織を發生し、以て根冠の消耗せる部分を輔給する部なり、根の伸長するは全く此の部の作用なり、同より點と稱すれども、幾何學上の點

ネツ

の如きものにあらずして、其の實特別に生活力を有する幾多の細胞の群なりとす、下圖「セ」は生長點、「コ」は根冠を示す、

ネフタノキ 植 「ネムノキ」に同じ、

ネマガリダケ 又 ネカリササ 植 「コザサ」と異にして、幹の基部常に屈曲す、



ネムノキ (合歡木) 植 Albizia julibrissin, Boiv. 草科に屬する木本なり、二回羽狀複葉をなし、小葉は夜間に相合す、花は恰かも細絲を集めたるが如く、半は白色、半は淡紅色を呈す、材質堅硬にして、下駄の齒、車輪の骨其の他器具に作り、葉は煎じて、衣服を洗濯するに用ゐる、

ネシツ (粘質層) 生英 Mucous layer. 「ア」の條を見よ、

ネシヨ (燃焼) 化英 Combustion. 燃焼とは、最も廣き意義に於ては、物體が劇烈なる化合をなして、熱及び光を發する現象をいふ、例へば「アンチモン」末は鹽素瓦斯中に於て燃え、銅が硫黄瓦斯中に燃ゆるが如きも、一の燃焼なり、然れども狭き意義に於ける燃焼は、物體が大氣中に酸素と化合するに當りて、熱及光を發する現象をいふ、

ネシヨネツ (燃焼熱) 化英 Heat of Combustion.

ネフタ

燃燒する時に生ずる熱を云ふ、即ち一種の化合熱なり、

ネンド(粘土) 鑛英 Clay. 粘土は微細にして土状をなせる粘土微分子の集合なり、之を顯微鏡下に見るに、是等微分子は多く結晶質にして粘土の六角形小板なり、純粹なる粘土の成分は「合水硅酸アルミナ」にして、長石を含める岩石の分解によりて、生成せらるる、と多し(種類) 壩埤(ポルト) 赤土、陶碧玉、(詳細は各條を見よ)(功用) 瓦及煉瓦を製するにあり、粘土より成れる土地は概れ耕作に適せず、是其の質密にして水を貯へ易く、且つ空氣の流通不良なるのみならず、其の乾くときは固結して、植物の細根を容れざるが爲なり、されば斯かる土地には、砂、石灰等を混和して、土質を輕鬆ならしむべし、

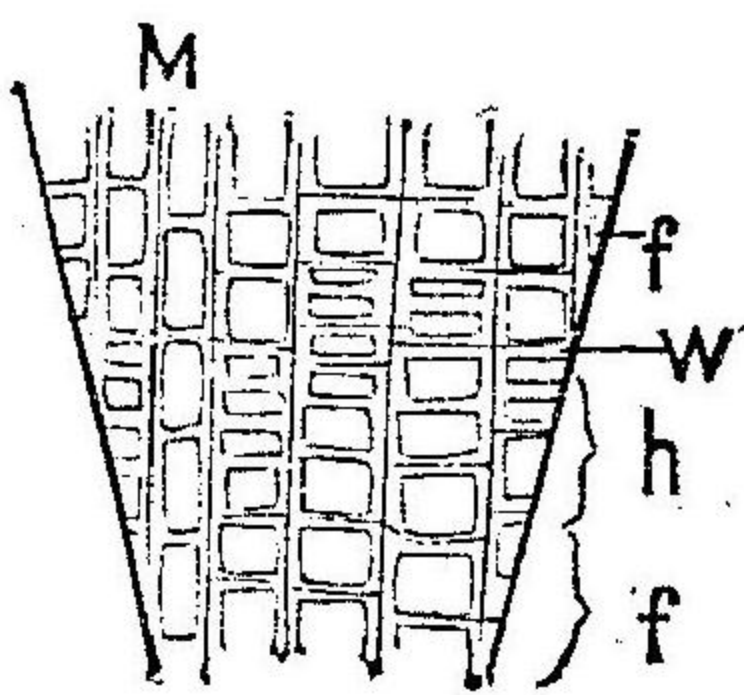
ネンガン(粘板岩) 鑛英 Clay slate. 黑色又は灰色を常とし、稀に黄、赤、綠等あり、其の質は肉眼にて見れば、頗る緻密なるが如しと雖も、之を顯微鏡下に照すときは、他の岩の粉末の塵埃状をなせるもの、及び其の中に存在せる輝石、角閃石、雲母等の小結晶より成る、

是元と粘土の凝結し變成したるものにして、石版又は黒き基石は大概之なり、抑も粘板岩の黑色なるは、其の中に浸潤せる炭質物の爲に生じ、又其の赤黄綠等の色は、主として酸化鐵の爲に生ずるものなり、

産地は陸前雄勝濱最も有名なり、

効用は屋根板、石盤、硯、基石、文鎮等を作るにあり、

ネンリン(年輪) 植英 Annual ring. 雙子葉の横断面には、年毎に成長せる輪層は、悉く同一中心を圍繞して環状に排列す、之を年輪と云ふ、即ち、年々一輪層を増す(温帯地方に於て)、故に輪層と植物の生存年數とは、略ぼ一致す、



蓋し、此の如き輪層をあらはすは、春生の材部の導管は、秋生の材部の導管に比すれば、其の直径大なるにより、甲は粗にして、乙は密なり、故に今秋生長の材部と翌春生長する材部との間に、界線をあらはすに至る、即ち圖の如し、

ネンリョー(燃料) 化英 Fuel. 石炭、薪炭等の如く、燃やして熱を生ぜしむるものを云ふ、

ノイ(腦) 生英 Brain. 「ノーズイ」に同じ、
ノキシツ(瓦葺) 植 Polypodium lineare, Thunb.

羊齒類植物にして、葉の裏面に子囊群を生ず、恰も竹の葉の如く、長さ六七寸巾一吋以内、老樹に着生す、

ノギリサメ(鋸蕨) 動 Pristiplorans. 「サメ」の一種にして、頭部稍扁平にして、吻甚しく延長し扁平にして、其の左右に鋸齒状の數多の突起を生ず、此の鋸齒状突起は、敵に對して緊要なる攻撃及び防禦の器たり、

ノイギンゴ(濃紅銀鑛) 鑛英 Pyragite. (晶形性狀) 六方晶系、六方柱及斜方六面體の聚形、塊狀、粒狀等、をなし、又粉末となりて、他の鑛物を被覆す、断面は貝殼狀、光澤は金屬光澤に類する金屬光澤なり、黒黝色を帯び、或は深紅色のものあり、條痕色は、コチニール紅色なり、硬度二・二五、成分は Ag₂Si₂なり、

(反應) 閉管中に熱すれば熔融し、硫化「アンチモニー」の赤色の蒸昇物を附す、又開管中には硫氣を散し、白色の酸化「アンチモニー」の蒸昇物を着く、炭壙上には炭面に白色の蒸昇物を附し、金屬粒を生じ、之を酸化燐にて熱すれば、硫化銀を得べし、「ソーダ」を混じて還元燐を以てすれば、終に銀粒を生ず、硝酸を以て分解すること、硫「アンチモニー」銀鑛の如し、

(産地及用途) メキシコ、米國ネバダ、チリ、サキソニー、ノールエー、西班牙等にも産す、我國羽後、但馬、陸奥等の諸銀坑

に生産すれども、割合に多く産せず、輝銀鑛に次ぎて製銀に必要な鑛物なりとす、

ノシタケ(冬蟲夏草) 植 Sphaeria sinensis. 「スフユリア」(Sphaeria) 「トルカマ」(Turkoma) 「イサリア」(Isaria) と稱する菌類が、昆蟲に寄生したるもの、蓋し是等菌類の胞子が、年内昆蟲體に附着し、翌夏菌體を發現するを以て此の名あり、

ノシンケイ(腦神經) 生 腦髓より出づる神經をいふ、但し必しも大、小腦のみより出づる神經にあらずして、一部は延髓より出づ、而して皆對をなす、今左に其の名稱及官能の一般をあぐ、

- 第一對、嗅神經、嗅覺、
- 第二對、視神經、視覺、
- 第三對、動眼神經、眼球の運動、
- 第四對、滑車神經、眼球の運動、
- 第五對、三叉神經、知覺運動、
- 第六對、外轉神經、眼球の運動、
- 第七對、顔面神經、運動、分泌、
- 第八對、聽神經、聽覺、
- 第九對、舌咽神經、味覺、運動、
- 第十對、迷走神經、知覺、運動、

第十一對、副脊髄神經、

運動、

第十二對、舌下神經、

運動、

ノーズ (腦髓) **生英** Brain. 頭蓋骨内を充たす白色柔軟なる器官にして、形略卵形をなし、左右の兩半より成り、表面には複雑なる褶襞を有せり、腦は上面より見れば略同質の如く見ゆれども、其の後部の下面には横褶を有し少しく他に異なる部あり、之を小腦といふ、之に對し他の大部を大腦といふ、腦は精神作用并に運動調節の作用をなすものにして、全身の行動云爲一に腦の命令に従ふものなり、されば腦を安全ならしめんがためには、あらゆる保護をなすものにして、外部には毛あり、次に皮膚、次に厚く堅き骨あり、此の骨の如きも一の骨箱にあらずして、多くの骨片の結合よりなり、一部に加へらるる劇動を他に傳へざらしむ、更に骨下に三枚の膜あり、而して其の中央の膜には液體を含有するにより、劇動するも頭蓋と腦と觸れしめず、打撃を被るも毛髮及頭蓋は之を軽減して腦に傳ふ、

ノーチュー (囊虫) **動** Cystic. 「サナダムシ」が中間宿主の體内に潛在する間のものを囊虫といふ、

ノド (喉頭) **生英** Pharynx. 俗に「ノド」といふ所は、甚だ漠然たるものにして、或は頸の前部をいふことあり、或は喉頭、氣管を合せ稱することあり、或は喉頭のみを稱する

ことあり、然れども多くは喉頭のことを意味す、

ノード (濃度) **化英** Concentration. 「リットル」の水に一瓦分子量を溶かしたる溶液を單位とし、溶液の濃度「或は「モル」といふ、同理によりて「リットル」の水に二瓦分子量を溶かしたる溶液の濃度は二或は「モル」なり、以下類推すべし、

ノミジン 植 「ヤブシラミ」に同じ、

ノーマ (腦膜) **生英** Meninges. 腦を包被する膜にして、三枚よりなる、其の最外膜即ち鞏膜は頭蓋骨に密接し、其の内面に網状をなし、淋巴の如き液を滿せる膜あり、此は所によりては膜とならぬ部分もあり、之を蜘蛛膜といふ、蜘蛛膜と腦との間に脈絡膜あり、此の膜には血管頗る多く分布す、而して頭蓋を去れば、鞏膜は之と共に離れ、蜘蛛脈も其の大部は頭蓋と共に離れ、脈絡脈を以て蓋はるる腦のみ残るべし、かく腦が多くの膜を有するは、元より腦を保護せんがためにして、蜘蛛膜内に液體の充滿する如きは、劇動の際、頭蓋骨と相衝突せしめざらんがためなり、

ノミ (蚤) **動** Pulex irritans. **生英** Flea. 哺乳動物の皮膚を刺し、其の血液を吸收する二翅類にして、脚は飛躍に適し、體扁平なり、「ノミ」の幼蟲は床下、塵芥中に棲息し、殆んど無色にして成蟲よりも遙に大なり、俗に「ノミ」は登

の間より出づるといふは、此の處に卵、幼蟲、蛹及成蟲の多く存するによる、

ノミトリギク (蚤取菊) 植 「ノミトリゲキ」又は「除蟲菊」とも云ふ、之に二種あり、「ダルマシヤギク」及「バルシヤギク」之なり、詳細はその各條につきて見よ、猶除蟲菊を見よ、

ノミトリコ (蚤取粉) 植 菊科の一種、除蟲菊の花を乾燥して作れる粉なり、蚊遣に使用して功あり、

ノリツヒ (能率の臂) 物 英 Arm of moment. 或る一點より力の方向に至る垂線の長さを、其の力の能率の臂といふ、

ノリキ又サビタ 植 Hydrangea paniculata Sieb.

虎耳草科の植物にして、葉は稍卵形をなし、花は白花にして圓錐狀の聚繖花序に排列す、其の樹皮を製紙の糊料に供し、材を「パイプ」として實用す、

ノトリヨギョクノズイ (濃緑玉髓) 鑛 英 Pluma. 「ギョクノズイ」を見よ、

ハ

ハ(齒)生英 Tooth. 口内表皮の落ちめる部即ち齒槽より生ずるものにして、口の入口にあるを門齒といふ、「イト

ノミト

キリバ」を犬齒といひ、奥齒を臼齒といふ、門齒は一本の根を有し、臼齒は二乃至三本に岐れたる根を齒槽中に有せり、齒の外面に現はるる部には、一面に珐瑯質を被る、此の物質は極めて硬きものにして、容易に磨滅することなし、肉及齒槽に接する面には白堊質と稱する比較的硬からざる物質を被る、珐瑯質、白堊質の内面に齒質あり、齒質の内部に空所あり、此に齒髓、毛細管、神經等分布せり、齒質は此の珐瑯質并に齒質を破りて穴を生じ、食物が神經に接し痛を感ずるなり、齶齒の生ずるは食物が腐敗して齒面を犯すものと、稀には「バクテリア」の腐蝕に原因するものとあり、門齒は鑿形をなし食物を切斷するに適し、犬齒は食物を引き裂くに用ひ、臼齒は表面不規則に凸凹し、食物の粉碎に便なり、齒には生涯脱落せざるものあり、或は脱げ代はるものあり、前者を永久齒といひ、後者を乳齒といふ、大白齒及智齒は初より永久齒にして、小供の時代に生ずる門齒、犬齒、及小白齒は、他日抜け代はるにより乳齒といふ、即ち大人の齒は何れも永久齒なり、凡て動物の齒は、其の形態を見て、其の動物の習性食物等を察知することを得、例へば人の犬齒に似る形狀の齒のみを有する動物は、肉食性にして、門齒即ち鑿に似る形狀の齒を有するものは、物を噛む性質を有し、臼齒の發達よろしきものは、咀嚼の必要多き食物を食する動物な

ノミト

ることを察するに足る、又白齒面にある珙那質突起の形状により、下顎の運動をも知ることを得、例へば「ネズミ」は、白齒面に左右に珙那質の山脈状突起を有するにより、下顎を前後に運動し、牛は之に反し前後に山脈をなすにより、下顎を左右に動かすが如し、

ハイ(肺)生英 Lung 肺は左右一對をなし、心臓の兩側に位して、これと共に胸腔を填充す、その質柔軟にして、内部は海綿状を呈し、無数の小胞にて成れり、この小胞を氣胞と名づく、氣胞は各々細管に連續し、この細管次第に集りて太き管となる、こと恰も樹木の枝の如し、かくて生じたる最大の管部を氣管支と稱す、左右兩肺の氣管支は、體の中央線にて合して一本の氣管となり、咽喉に到りて鼻及び口に通ぜり、されば各肺は極めて複雑に分岐せる一種の囊なりと考ふることを得べし、

肺は體内に在る間は、心臓と共に全胸腔を填充すれども、もし胸壁を切り開きてこれを取出さんとせば、忽ち自己の彈力の爲に收縮して、小形となること、少しも「ゴム」囊に異らず、かく常に收縮せんとする肺は、何故に體内にありては擴張して胸腔を充せるかと尋ねるに、こは全く鼻、口、氣管、氣管支等を過ぎて氣胞に通ぜる外氣の壓力に外ならず、胸壁の内面を蔽へる、肋膜又は胸膜と稱する、光澤ありて強靱な

る薄膜は、その續きを以てまた肺の外面をも包み、この兩膜の間の空所は外界と通せずして、絶えて空氣を含むことなきが故に、胸壁の完全なる間は、肺は外氣の壓力によりて擴張せられて、胸腔を充せども、もし胸壁傷つきて肋膜間に空氣入り來らば、肺内の氣壓と肺外の氣壓と相平均するが故に、肺は直に自己の彈力によりて收縮す、肺は肺動脈及び肺靜脈によりて心臓と連絡せり、肺動脈は右心室より出で、分れて左右の肺に入り、更に分れて無数の毛細管となり、網状をなして氣胞を圍みたる後、次第に相集りて肺靜脈となり、左心室に歸る、氣胞及び毛細管の壁は極めて薄く且つ濡れたるにより、血液と空氣とは此の處にて殆ど直接に接觸ると言ひても誤ならず、故に全身を循環し來れる暗紅色の靜脈血は肺の氣胞壁に達し、滲透作用により空氣より酸素を取り、炭酸を排出することを待て、鮮紅色の動脈血となりて心臓に歸り、更に全身に酸素を輸送するなり、

かくの如くにして、空氣と血液との間に起る瓦斯交換の運速は、この二者の接觸る、面の廣さと直接の關係あるものなるが、肺の複雑なる囊状をなせるは、大に二者の接觸る、面を廣くするが故に、その瓦斯交換を易くして、少時に多量の血液を變化せしむるに有效なること明かなり、吾人の肺は狭く胸腔内にあれど、その内面を測れば五十疊に餘る

程なれば、能く一脈搏毎に心臓より入り來る一合弱の靜脈血をして、忽ち動脈血となすことを得べし、肺が無数の小氣胞に分かれたるは即ちこの便利あらんがためなり、且夫れ血液の得る所は空氣の失ふ所にして、血液の失ふ所は空氣の得る所なるが故に、肺内の空氣は常に血液と反對なる變化を受け、その中なる酸素は絶えず減少し、炭酸は絶えず増加す、されば若し肺内の空氣を入れ換ふる装置なくば、忽ちして瓦斯交換の途絶え、血液中に炭酸堆積して一切の生活作用忽にして止り、窒息して斃る、に至るべし、吾人の暫時も呼吸を休む能はばざるは、この理に由るなり、然るに肺は外氣の壓力によりて擴張して胸腔を充たせるものなれば、肺内の空氣を入れ換ふる爲にこれを伸縮せんとするには、

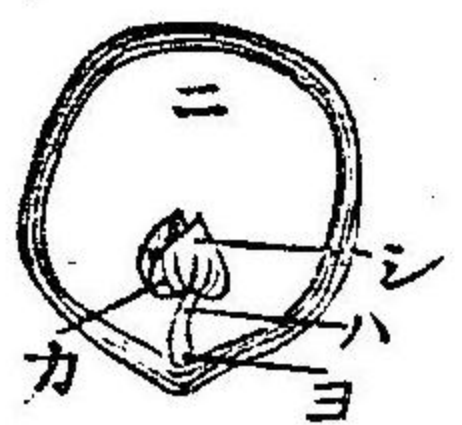
勢ひ胸腔を伸縮せざるべからず、この際に主として働く筋肉は、横隔膜及び肋間筋なり、これらの筋肉の伸縮するを呼吸運動と名づく、

胸腔の床を造れる横隔膜は、椀形をなせる筋肉板なり、この膜は收縮すれば稍、扁平となるにより、この上なる胸腔の廣さを増し、隨ひて肺内の氣壓減するが故に、外氣は鼻口より入り來る、これ吸氣なり、横隔膜の下に位する諸臟腑は、この際に壓されて腹壁を前方に張り出す、收縮止めば、横隔膜は腹壁の彈力によりて直に舊形に復し、肺よりは空氣溢

れ出づ、これ呼氣なり、かく横隔膜の伸縮により呼吸するときは、腹壁常に動くが故に之れを腹呼吸と名づく、

胸腔の周邊を造れる肋間筋には、内外の二層あり、收縮するときは相反したる働をなし、一は肋骨を擧げ胸腔を廣くし、一は肋骨を下げて胸腔を狭くす、故に二層交々伸縮するときは空氣は肺に入出すべし、かく肋骨の上下運動による呼吸を胸呼吸と名づく、通常呼吸する際には以上二種の呼吸相混じて働けり、

ハイ(胚)植英 Embryo 種子中の嫩植物にして、子葉、胚



軸、幼根、幼芽等の部分よりなる、圖に示すは一の種子なり、「シ」は子葉、「ハ」は胚軸、「ヨ」は幼根、「カ」は幼芽にして之を合せて胚とす、胚以外の部分「ニ」は胚乳を示せり、

ハイ(胚)勸英 Embryo 發生の初期に於ける動物體をいふ、

ハイウ(梅雨)又(微雨)地 入梅後降る霖雨をいふ、
ハイエキ(肺炎菌)植 此の菌は「アフレンケル」及「ライセルバウム」兩氏の確定せる所にして、其の形圓形にして稀に稍々長形をなし、屢二個排列して雙球菌となり、或は數個排列して有包膜中に存す、而して、固有の運動力なし、肺炎の原因をなすものにして、患者の咯痰、及び肺膿又は血

液中にも存すと云ふ。

ハイオン(陪音) **物英** Harmonics. 發音體は其の主な振動の外に、其の振動數が之に二倍三倍する所の他の振動をなすことを得るものにして、此等に原因する音を其の倍音と稱す。

ハイガ(胚芽) **植英** Embryo bud. 不定芽の一種にして、樹皮の外部に出て、其の内面に位するものを云ふ。こは次第に生長して内方の材質に達すれば、其の木理及び斑紋に著しき變狀を呈す、「ブナ」(山毛櫨)に其の例あり。

ハイカッリョー(肺活量) **生英** Vital capacity. 充分に空気を吸入したる後之を吐き出し得る量をいふ、平均男子は一升七八合、女子は一升二三合なり、肺の活量は強壯なるものほど通例多きが故に、之により身體の強弱を判する一標準となすことを得。

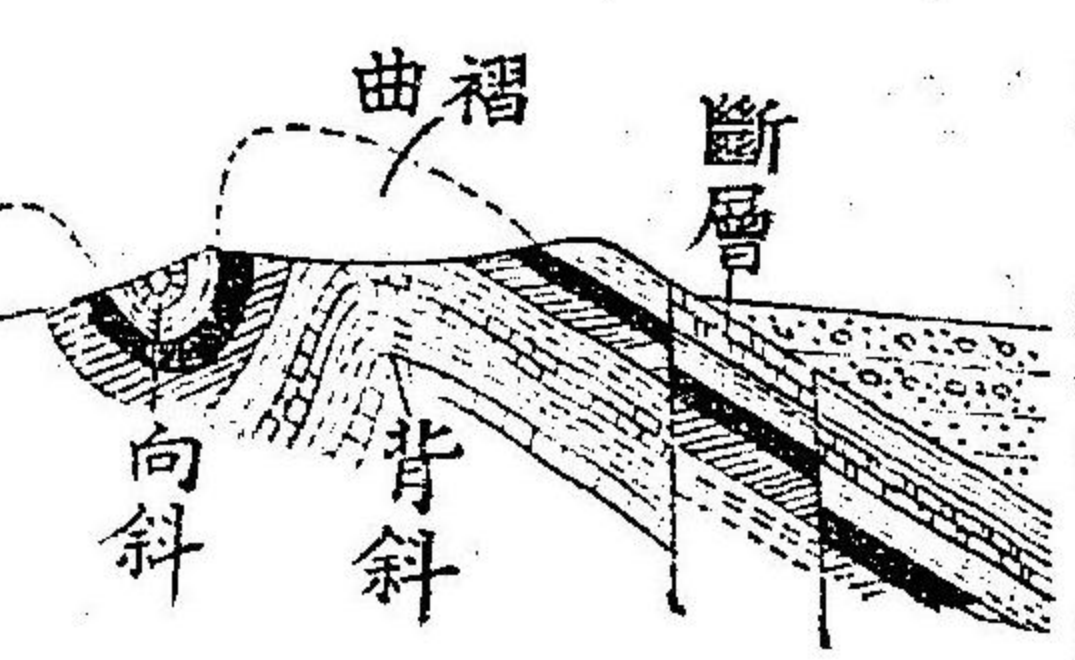
ハイキキ(排氣器) **物英** Air-pump. 空氣「ポンプ」を見よ。
ハイキショト(排氣鐘) **物英** Air-pump. 空氣「ポンプ」を見よ。

ハイギョルイ(肺魚類) **動** Dipnoi. 肺魚類は、鰓狀の魚類にして、覆瓦狀の鱗を被り、偶鰓は絲狀或は樹葉狀を爲し、骨格は不完全に化骨す、鰓は鰓蓋を以て蔽ひ、鰓は食道と交通し、其の作用を變じて肺と成る、即ち此の類は二様の呼吸

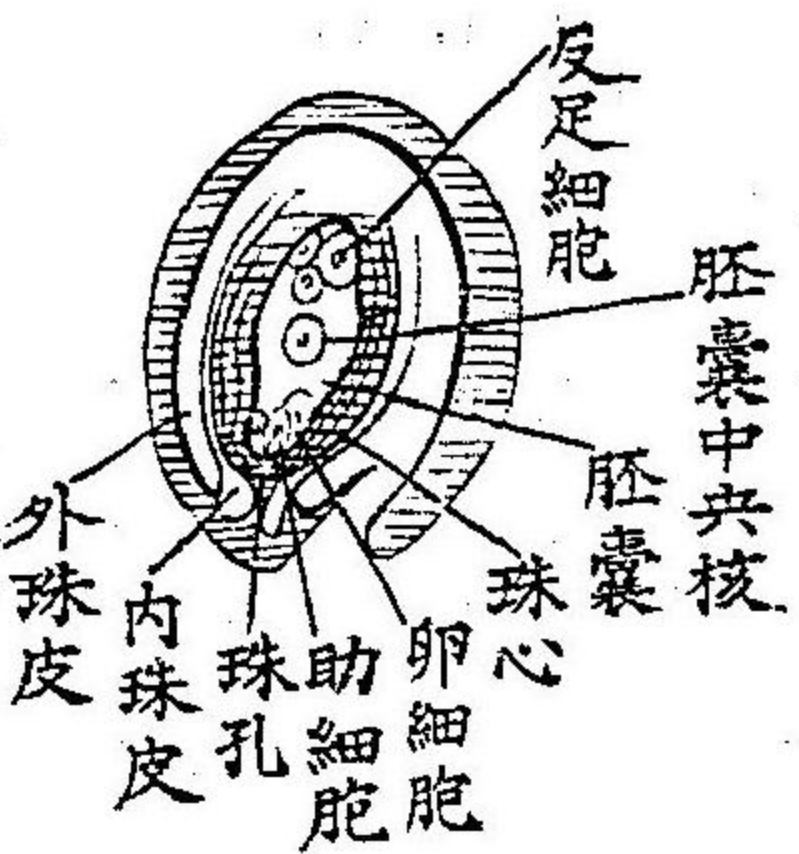
法を營む者にして、雨季節には鰓を以て水を呼吸し、乾燥季節には土中に埋没し、肺を以て空気を呼吸す、其の肺の存すと共に鼻腔は口腔と開通し、心臓も亦複雑の構成となり、體制一般に兩棲類に近似せり、世に知られたるもの、三種あり、「ケラトツス」[Ceratodus]「ハドミン」[Lepidosteus]「プロトプテルス」[Protopterus]是なり。

ハイケッカキン(肺結核菌) **植** 「コッホ」氏の確定せる所にして、其の形細桿狀をなし、直徑は殆ど人體血球の大きさに近似し、稍彎曲し、屢二個又は數個の連結をなし、稀には大なる連結を以て集り、固有の運動を有せず、結核菌は恐るべき傳染病菌にして、患者の咳嗽する際吐出する咳痰の小分子が空中に飛散し、又は咳痰が乾燥して塵埃と共に空中に浮遊し、人之之を呼吸するによりて傳染す、其の他患者の使用せる器物は亦傳染の徑路たるべきを以て、十分に取扱に注意せざるべからず。

ハイシヤ(背斜) **地鑛英** Anticlinal. 地層の褶曲の爲に、其の處の地層が恰も屋根の狀をなし、兩側に向かひ斜めに下の方傾に斜することを云ふ。



ハイシユ(胚珠) **植英** Ovule. 花の雌蕊の下部子房中にある物體にして、成熟すれば種子となるものなり。



ハイシユツラン(胚珠の部分) **植** 上圖の如し。

ハイシユカン(肺循環) **生英** Pulmonary circulation. 血液が右心室より射出され、肺動脈を通りて肺に入り、此の處にて空氣中の酸素を取り、炭酸瓦斯を呼出して、以て血液を清淨にし、後、肺靜脈を通りて、左心耳に歸る所の循環をいふ。

ハイシヨナツ(盃狀軟骨) **生英** Arytenoid cartilage. 喉頭の一部をなす所の一對の小軟骨にして、聲帯は此の軟骨より甲狀軟骨の裏面に滲れり、盃狀軟骨は或は接近し、或は離隔するものなれば、聲帯をして相遠近せしめ、以て音聲を出さしむ。

ハイシヨシヤク(肺靜脈) **生英** Pulmonary vein. 肺の氣胞を被ふ毛細管に起り、左心耳に開口する血管にして、炭酸に對して身體中尤も清淨なる血液を容る。

ハイスイセー(背水性) **植英** Negative Hydrotropism

植物體が水を避くる現象を云ふ、「カビ」は此の性を有す、一名、陰性向水性と云ふ。

バイス、**バット**及**フェレルニシノホンソ**(**バイス**、**バット**及**フェレルニシノホンソ**の法則) **地氣流**に關する法則にして、一、大氣は、常に高壓の地より低壓の地に向かひて流れ、風力は、兩者の距離に従ひて消長す。

二、氣流は、高壓の地より低壓の地に進むに當り、地球自轉の影響を受けて一直線に進まず、北半球に於ては右に偏し、南半球に於ては左に偏し、迂路を取りて旋動すべし。

バイスビーノテリツ(倍數比例の定律) **化英** Law of multiple proportion. 甲なる元素と乙なる元素とを含める數種の化合物存在する時は、甲の元素の同一量に對する乙の元素の量は、互に整數の比をなせり、之を倍數比例の定律と稱す、此の定律は「ダルトン」(Dalton)の發見せしものなり。

バイセツ(排泄) **生** 血液が持來る老廢物を血液外に出すことをいふ。
バイセツキ(排泄器) **生** 血液が集め來れる老廢物を、血液申より搾り取る器官をいふ。

バイセツ(排泄腔) **動英** Oloca. 哺乳類以外の脊椎

動物、節足動物等の體外に開く排泄孔の直内に、一の膨大せる腔所あり、此の處には腸、輸尿管、及輸卵管を開き、更に一孔を以て體外に開口するものなり、此の腔所を排泄腔といふ。

ハイゼンサイ(媒染劑) **化英** Moriant. 可溶性の色素と化合して、不溶性の色素化合物の沈澱を生ずる物にて、染色に用ゐらるるものを媒染劑と稱す、例へば水酸化「アルミニウム」、明礬類等の如し、水酸化「アルミニウム」等は、色素と化合して、布帛等の纖維の間に不溶性の色素化合物を生ず。

ハイパー(肺臟) **生** 「ハイ」(肺)に同じ。

ハイチセー(背地性) **植英** Negative Geotropism. 莖の如く重力に背きて、上方に伸長する性を云ふ、又之を陰性向地性とも稱す。

ハイドロミヤン(肺動脈) **生英** Pulmonary artery. 右心室に起り、肺に入りて分岐し、氣胞を蔽ふ毛細管に終る、此の動脈は汚血を容るるものなり。

ハイニユー(胚乳) **植英** Albumen. 胚囊の中央核と一の雄性核との合同融和して成れるものにして、専ら胚の養料となる、種子によりては、胚乳は胚以外に獨立し、又は、胚の子葉中に含有せらるることあり、甲を有胚乳種子、乙を無

胚乳種子と云ふ、胚乳成分は、澱粉、油質、含窒素物質等なり、**ハイノ**(肺囊) **動** 「クモレイ」の肺をいふ、其の構造恰も緩く紙を合せたるが如く、空氣其の間を流通するなり。

ハイボ化英 Hypo. 寫眞術に於て「ハイボ」と稱するは、「チオ」硫酸「ナトリウム」のことなり、此の語は Hypo-phite of soda. (次亜硫酸曹達)の略なり。

ハイラン(毒爛) **地** 地殼の表面、大氣に暴露する處が、酸素、炭酸瓦斯等の作用を受けて、次第に其の質を變ずることな

いふ、殊に雨水の幫助を得るときは、其の分解一層速かなり、**パウダル物英** Poundal. 英國にて用ゐる所の力の單位にして、一秒時間「パウダル」の質量を有するものに働きて、一秒に付毎秒一呎の加速度を與ふる所のものなり、

ハガネ(鋼) **化英** Steel. 鋼鐵は鍛鐵に比すれば稍多量の炭素を含有し、鑄鐵よりは少し、即ち千分中の四乃至二十の炭素を含有す、灰白色にして、鍛鐵に比すれば稍熔融し易けれども、鍛鐵よりも硬くして脆し、熱して急に冷やせば脆く且堅硬となる、然れども之を徐々に冷やせば彈性を帶ぶ、**ハカリ**(秤) **物英** Balance. 天秤と同じ。

ハギ(胡枝子) **植** Lospendeza sp. 豆科の草本にして、種類多し、秋の七草の一なり、萩の文字は俗字なり、花を賞

し莖を筆軸等を作る、

ハキユー(波丘) **地** 一つの波に於て、最も高き位置を波丘と云ふ。

ハク(膊) **生** 肩と肘との間に當る部分をいふ。

バク(猿) **動** Papirus 英 Papir. 印度并に南亞米利加に産する有蹄類にして、全形熊に似、吻突出し、耳介小に、眼は口に近く存して小なり、尾極めて短く、前肢四蹄、後肢三蹄あり。

ハクア(白雲) **鑛化英** Quilk. 主として炭酸「カルシウム」より成れる白色の粉末なり、尙ほ「セキカイガン」(石灰岩)の條につきて、其の種類を見よ。

バクンキ(白雲石) **鑛英** Dolomite Ca.Mg(CO₃)₂. 炭酸石灰と炭酸苦土との抱合物より成る、方解石と同様の結晶をなせども、方解石より硬く且つ酸に溶け難し、歐洲には厚層をなして生ず、我國には甚だ少し。

ハクシ(白鉛) **化英** White Lead. 白鉛は唐の土とも稱す、主に鹽基性炭酸鉛及び水酸化鉛の混合物なり、白鉛は亞麻仁油の如き乾性油と共に練りて「ペンキ」となし、又顔料として使用す。

ハクカ(薄荷) **植** Mentha arvensis L. var. piperascens Holmes. 「メンサ」と云ふ、唇形科植物なり、花小にし

て、帶紫色をなし輪生す、地下莖を以て盛に蕃殖す、此の植物の莖葉を乾して、薄荷油及薄荷腦を製す、一種の香氣あり、服用すれば頗る清涼を覺ゆ、「ハクカパイプ」は人のよく知る所なり。

バクカキン(麥角菌) **植** Claviceps purpurea, Tul. 麥角は種々の禾本科植物特に「ライ麥」の穗に寄生する害菌にして、大麥小麥にも往々發生するを見る、外部は暗紫色を呈し、内部は灰白色をなす、其の形狀角の如きを以て、麥角の名あり、長さ七八分に及ぶ、麥角は毒性強く、人畜誤りて之を食すれば、種々の病害を惹き起す、然れども此の菌の菌核は古來麥角と稱し、有名なる止血劑を製し、咯血等を治する效あり。

バクアト(麥芽糖) **化英** Maltose or Malt sugar. C₁₂H₂₂O₁₁ + H₂O 澱粉に麥芽を作用せしむれば、麥芽中の「ヂアスターゼ」のために、澱粉は麥芽糖と「マキストリン」とに變ず、麥芽糖は細針狀に結晶す、稀薄酸と共に熱すれば葡萄糖を生ず。

ハクケッキュー(白血球) **生英** White corpuscle. 血液中にある白色の血球をいふ、「ケツキ」の條を見よ。

ハクシヤント(白熾電燈) **物英** Incandescent lamp. 白熱電氣燈と同じ。

ハクシヤ(白砂) 鑛「シヤガン」砂岩の條を見よ。
ハクチョー(白鳥又鶴) 動 Cynus 英 Swan. 游禽類
中大なる鳥にして、全體純白に、脚は黒く、脚、尾共に短けれ
ども、頸は極めて長し、全長四尺に達す、寒地に棲息し、我青
森澤の如き甚だ多し、

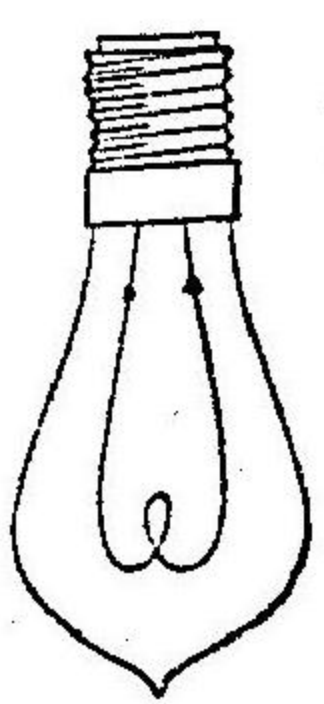
バクテリア 植 細菌に同じ、

ハクドー(白道) 天英 Moon's path among the stars.
天球上月の軌道は、黄道と五度九分の角をなす平面内にあ
る大圓なり、之を白道と云ふ、

ハクドー(白銅) 化英 German silver. 「ニッケル」と
銅との合金なり、

ハクドーカ(白銅貨) 化 我國の白銅貨は、銅七十五分、「ニ
ッケル」二十五分の合金なり、

ハクネツデキトー(白熱電氣燈) 物英 Incandescent
Lamp. 白熱電氣燈は、米國の人「エヂソン」の創作せしもの
にして、殆ど真空なる玻璃球内に
竹又は綿絲等にて作りたる炭素の
細線を封入せるものなり、今之に
強き電流を通すれば、炭素線は烈
しく熱せられて、遂に白光を放つに至れども、球内には空氣
あらざるを以て、炭素線は燃焼することなし、



氣の密度異なる爲所々にて反射す、薄明の時間は古來多く
の觀測によれば、太陽が地平線下十八度以内にあるときに
して、其れより以下にあるときは、薄明起らず、之より計算
すれば、東京にては夏冬によりて異なれども、平均一時三十
五分間薄明起る、又之によりて空氣が反射したる光線が、觀
測者の目に入るには、如何なる高さの空氣より來るかを知
ることを得、即五十哩程の高さの空氣より反射したるもの
なることを知る、之によりて、空氣は少くとも地平線より五
十哩の高さまで存在すること明かなり、

ハクリン(白藍) 化 藍白に同じ、

ハクリン(白燐) 化 赤燐に對して普通の燐を白燐又は黃燐
と稱す、燐の條を見よ、

ハク(白露) 地 二十四節氣の一をいふ、陰曆八月節、陽曆
九月七日なり、

ハクロー(白鐵) 化英 Solder. 「シロメ」白目に同じ、
ハコク(波谷) 地 一つの波に於て、最も低き位置を波谷と云
ふ、

ハコネダケ(箱根竹) 植 「メダケ」に似て小なり、高さ丈餘
に至る、箱根の名産なり、

ハコラダカハシラ 動 Ostracion caninus. 全形箱の如く
堅く、尾部に緩く連接する所あり、之を動かして運動す、從

ハクシイロ(薄板の色) 物英 Color of thin plate.
薄膜の色を見よ、

ハクシツ(白木質) 植 英 Aluminium. 木質部の外層、
即ち新成部を云ふ、特に沈堆物質なく、液汁に富み、堅牢な
らず、通常白色を呈す、根より來る液汁は此の部を上昇する
ものなり、

ハクシイロ(薄膜の色) 物英 Color of thin membrane.
薄膜上に單色光の投射するときは、一部は膜の表面より反
射し、一部は裏面に出づる處より反射し、この兩反射光線
が、膜の厚さと光の波長との關係により、峯と谷とが重なる
ことあらば、兩波互に消し合ひ反射光はあらざるべし、故に
若し此を日光が照す時、膜の厚さが赤色の反射光線を消え
しむる如くならば、之より反射する光は赤の餘色なるべし、
彼の石鹼球、及び水上に浮かぶ石油の薄膜が、種々に其の色
を變するは、其の厚さの變するによるものにして、青貝の種
々の色を呈するは、亦此の理による、

ハクシ(薄明) 地 英 Twilight. 日没後或は日出前に、
太陽は地平線下にあるに拘らず、空一體に薄明かに見ゆ、之
を薄明と云ふ、是れは空氣中にある小さき塵埃が光線を反
射する爲にあらざして、空氣其れ自身が光を反射するなり、
即ち太陽より來る光線が空氣に當りて反射するなり、即ち空

て緩漫なり、然れども外骨格堅きにより、外敵の襲撃を受く
ることなし、

ハクシキ 植 Populus tremula, L. var. villosa, Wesm.
楊柳科植物にして、效用「ドロヤナギ」に同じ、

ハクシキ(蚯蚓) 動 Fontinalia 英 Fontinalis. 體細長
にして黒褐色を呈し、尾端に缺状物ありて、敵に襲はるるこ
とあれば之を以て防禦す、翅は全く缺如するものあり、或は
前翅短く鱗片状をなすものあり、他蟲を食し又作物を害す、

ハクシ 植 銹菌族(ウレヂネー Uredineae)の寄生に起因する
病症にして、此の銹菌の種類甚だ多く、一種の菌にして、
冬胞子、夏胞子、銹胞子等の數個異形の胞子を生ずる者あり、
小麥の黒銹菌、葱、玉蜀黍、李等の銹病、松の瘤病、桑の銹病
等は、皆此の銹菌植物の寄生によりて生ずる病症なりとす、

ハクシ(芭蕉) 植 Musa Basjoo Sieb. 普通の芭蕉にし
て、花は黄白色にして、實は食する能はず、又よく結實
せず、多く賞觀するに過ぎず、
ハクシトフ(芭蕉布) 植 琉球産の芭蕉の葉柄の纖維にて織
りなせる布なり、

ハクシドコロ(莨菪) 植 Scopolia japonica Maxim.
茄科植物にして、山中陰地に生ず、之を食へば狂亂奔走す、
故に此の名あり、又「チキメグサ」と云ふ、

ハス(蓮) *Nelumbium speciosum, wild.* 睡蓮科に

屬する水生草本にして、葉は楕形をなし、花は美麗にして大なり葉柄甚だ長く、水上に抽出す莖の上部は肥大して地中に埋没す、之を蓮根と稱す、澱粉を含有し、食用に供せらる。

パスカルゲリ (パスカルの原理) 物英 Pascal's Principle. 「パスカルの法則」と同じ。

パスカル・ホーネ (パスカルの法則) 物英 Pascal's Law. 「パスカルの法則」は、液体内に壓力の傳播せらるる所の規則を述べたるものにして、其の法則に曰はく、平均せる液體の一部に壓力を加ふる時は、其の壓力は液體內凡ての方向に一樣に傳播すべく、且つ此が爲に或る部の受くる壓力は、其の面積に比例するものなり。

ハナハナ(蓮花) 蓮の花は、紅色又は白色にして、夏に開く、花は初日の早朝蕾の口の如く半開し、朝の内又は午刻頃に閉ち、二日目早朝に全開し午刻前後に閉ち、三日目の早朝開き、午後には半ば閉ち、四日目の午後に落花す、支那印度等に分布す、蟲媒花にして和漢共に之を賞す。

ハセ(鰐虎魚) 動 Gobius. 體長四寸許の魚にして、背は褐色に淡黄色の斑紋あり、背鰭二あり大にして灰色を帯び、尾鰭は黄色を帯びて圓し、近海の魚にして、「アジモ」に産卵し、雄はよく之を守る、「ヤキハセ」と稱し販賣するものは、

即ち此の魚を焼きたるものなり、此の外「トビハセ」と稱するものあり。

ハセノキ(櫛) 植 *Rhus succedanea L.* 又「ローノキ」と稱す、漆樹科の木本にして、羽状複葉を有し、花は小にして、果實は乾核果なり、此にて蠟を製す。

ハタオリ(蟹螯) 動 *Tryxalis.* 變種多く、或は大なるあり、或は小なるあり、綠色なるあり、縞あるあり、何れも體細長にして、第三對の脚大なれども、飛躍力強からず、前頭部前上方に向かひて突起し、其の先端に一對の觸角あり。

ハダカホトツキヤマホトツキ (龍珠) 植 *Cuscutam anomalum Fr. et Sav.* 茄科植物にして、子實に毒あり、食ふ可からず。

ハチク(淡竹) 植 一名「オホタケ」又「カラダケ」又「アハタケ」とも云ふ、籜上に細線狀の紫紋理及細毛あるも、「マダケ」の如き斑點なし、「マダケ」は筍の籜の先に長さ二三分の毛を生ずれども、「ハチク」には毫も之なし、筍の味は淡にして甘し、稈の高さ五六間周圍七八寸に達す、稈質堅韌緻密にして、細かに割り易く、種々の工藝品例へば籠、籃、篋、釣竿となすに適す。

ハチジュ(ハチヤ(八十八夜) 地 雜節の一にして、立春より八十八日目に相當し、五月二日頃なり、八十八は米に等しき

により、苗代に飯を蒔くなりといふ。

ハチドリ(蜂雀) 動英 Humming-bird. 南米に産する美なる彩色を有する小鳥にして、體は拇指大のもの多く、嘴長きを以て、之を花中に入れて蜜を吸収す、されば植物の結實には與かりて力あるものなり。

ハチュールイ(爬蟲類) 動英 Reptilia. 本綱は、「ヘビ」「トカゲ」「ワニ」「カメ」等の類を總括し、皆空氣呼吸の動物にして、鰓を生ずる者一もなし、「カメ」類を除き其の他は、皆體軀延長、圓筒狀なり、其の外観上、頭は兩棲類と一樣に判然ならずと雖も、尾は概ね長大なり、四肢は蛇類の如く全く之を闊くものあれとも、多くは之を具備して、或は爬行に或は游泳に適す。

皮膚は、剛質にして皮腺に乏きこと兩棲類の反對なり、上皮は角質に變し、一種の鱗を成形し、加之、往々下皮中に骨板を生じ、堅牢なる甲を成すことあり、又皮膚は色素を含有し、種々の體色を表はす、而して上皮外層は、時々之を更脱するものなり、此の類の鱗は上皮の化角するによりて生ずるものなれば、下皮中に生ずる魚鱗とは、全く性質を異にするものなり。

骨格は、大概皆充分に化骨して、脊梁の諸部(頭、胸、腰、薦、尾)は兩棲類に於けるよりも區別稍、判然たり、但し蛇類の

如きに在りては、唯軀幹及び尾を識別し得るのみ、椎體は多くは前凹にして只稀に兩凹なり、頭骨に接する第一(載域)及び第二頸椎(樞軸)は、頭をして稍自在に運動せしむ、肋骨は常に能く發達せり、頭骨は一個の髁狀突起に由りて脊梁と關節を爲し、而して下頸の頭蓋と關節するには、必ず方骨と名づくる一骨の媒介に由る、蛇及び蜥蜴の類に在りては、方骨は頭骨と緩く接し互に動搖するが故に、口は甚だしく開張することを得るなり。

神経系は、兩棲類に比して、一層高等に發達せり、而して大脳兩半球は其の最大の部分たり、眼は蛇並に「ヤモリ」の類に在りては、角膜前に更に一透明膜ありて、兩膜の間には涙液を充たす、其の他諸類には此の裝置を見ずと雖も、更に上下眼瞼を具ふることを見る、蜥蜴頭は往々第三の眼を具

有す、此の物至て小にして顛頂部の正中に位す、故に之を顛頂眼と名づく(是れ他の脊椎動物の間腦上部に普通に見る所の所謂松果腺に相當するものなり)、耳は概ね「ユースタキ」氏管により咽頭に交通する所の鼓室を有すれども、蛇類及び某種の蜥蜴類には之を闕けり、外耳は唯鯉魚に甚だ不完全なる者を見るのみ。

口は潤大にして、齒は概ね顎縁のみに列生し、其の作用は音に食物を捕獲するに止り、且つ眞正の齒槽に挿入する者は

稀なり、獨、龜鼈類は全く無齒にして、頸骨は角鞘を被り、其の状鳥の嘴に異らず、口腔中唾腺の闊くもあり、又毒腺を具ふるものあり、舌は肥厚なることあり、又細長にして出沒自由なることありて、之を以て感觸し若しくは食物を攫取す、食道廣潤にして、胃は概ね縦行し、其の横行する者は砂し、腸の末端は排泄腔を成して肛門を開く、

心臓は、二心耳を具へ其の心室不完全なる隔膜を存すと雖も、恰も一室に異ならず、故に動靜脈血の混淆したる者を循環せしむ、特り鰐魚は高等脊椎動物に似て、全く隔絶したる二心室を有す、然れども此の動物と雖も尚ほ冷血なることを免れず、

腎臓は、腹腔中後方に位し、兩棲類腎臓のや、後部に位するものに同じく、輸尿管は極めて短少なり、蜥蜴類及び龜鼈類は、排泄腔前壁に膀胱を帯ぶるを常とす、卵巢或は睪丸は必ず二個あり、生殖輸管は長大迂曲して、輸尿管と共に排泄腔に開口す、

此の類は、多くは卵生なりと雖も、毒蛇類には胎生するものあり、其の卵は構造鳥卵に等しく、頗る卵黄に富み、且つ蛋

白及び軟殻を以て圍包す、又胚の發生も頗る鳥類に類似せり、必ず羊膜と稱する包膜を生じ以て胚體を被包す、此の膜は胚體壁と連續し、始めは胚體の周圍に隆起せる膜褶として起り、終に胚體上にて相癒合し囊状をなすに至る、此の膜は特り爬蟲類のみならず、鳥類及び哺乳類の胚も亦之を生ず、故に此の三綱を合して有羊膜類なる一部類となし、其の他の脊椎動物(無羊膜類)と相對立せしむることあり、胚は又尿膜と名づくる緊要の一器を發生す、此の物終腸前壁より突出する膜袋にして、血管に富み、延びて胚體外に擴張し、以て胚の呼吸作用を營む、胚體完成するときは、臍部に於て羊膜及び尿膜との連續を絶ちて孵化す、蓋し尿膜の根部は往々膀胱と成りて遺存す、兩棲類に見る所の膀胱も亦此の尿膜に外ならず、

爬蟲類は、殊に多く熱帯に産し、寒地に産する者は、一般に冬眠を爲す、陸上或は河海に棲息し、草食性の龜鼈類を除き、其の他は皆肉食を爲す、之を分ちて四目となす、

- 爬蟲類
 - 鰐類 例、「カメ」「スッポン」
 - 蜥蜴類 例、「トカゲ」「ヤモリ」
 - 蛇類 例、「ヘビ」「マムシ」

ハツエンリョーサン(發煙硝酸)化英 Fulminating nitric acid.

硝酸に多量の過酸化窒素を吸収せしめたるものにして、赤褐色を呈し、空氣中に放置すれば過酸化窒素の煙を發す、故に此の名あり、普通の硝酸よりも作用激烈なり、

ハツエンリョーサン(發煙硫酸)化英 Pyrosulphuric acid. 發煙性の粘液にして、其の作用は通常の硫酸よりも激烈なり、之を熱すれば通常の硫酸及び三酸化硫黄に分解す、其の化學式は $H_2S_2O_7 = H_2SO_4 \cdot SO_3$ なり、

ハツカオンド(發火溫度)化英 Ignition point. 物を燃焼せしむるに要する最低の溫度なり、發火溫度は物質によりて異れり、例へば黄燐の發火溫度は凡五十度にして、硫黄は凡二百五十度なり、

ハツカテシ(發火點)化 發火溫度に同じ、
ハツカネズミ 動英 Mouse. 極めて小形の「ネズミ」にして、人家、倉庫等に棲息す、

ハツキン(白金)化鏤英 Platinum. Pt. 原子量百九十四・八
ハツキンシヨサイ(白金の所在) 白金鏤或は天然白金は「パラヂウム」「オスミウム」「イリヂウム」等の混合物なり、又小粒をなして存在せるものあり、

現時多くの白金を産するは、「ブラジル」「ホルネホ」「カリホルニア」「オーストラリア」「ウラル」等なるも、其の産出は金銀に比し一層寡小なり、我國北海道夕張地方に些少發

見せりといふ、

ハツキンセーシツ(白金の性質) 白金は等軸晶系に屬し、銀白色に少しく鍛鐵様の光澤を帯び、條痕は銀白色なり、硬度四乃至五にして、二十一、五の比重を有す、堅韌にして展性及び延性に富み、高温に熱すれば、軟き塊となりて鐵の如く鍛接し得、熔融せる白金は酸素を吸収し、冷ゆるに従ひて之を放散す、

海綿狀の白金及び白金黒は大に酸素を吸収する性を有せり、海綿狀白金は常溫にては其の容積の八百倍の酸素を吸收す、水素を海綿狀の白金若しくは白金黒に觸れしむる時は、白金は烈光を發し、水素は燃焼して水を生ず、又海綿狀白金を百度に熱して之に二酸化硫黄と空氣とを通すれば、二酸化硫黄は酸化せられて三酸化硫黄となる、是れ硫酸製造に於て用ゐらるる方法なり、

白金は「セレンニウム」酸を除く外、單獨なる酸類の作用を受けず、然れども王水には溶解す、此の如く白金は容易に酸に侵蝕せられず、又熱の爲に變化せられざるが故に、化學實驗場若しくは工業に於て使用する坩堝、皿、「レトルト」、針金等を製す、硫酸製造所にて硫酸を蒸發して濃厚ならしむるに用ゐる「レトルト」は多くは白金にて製す、

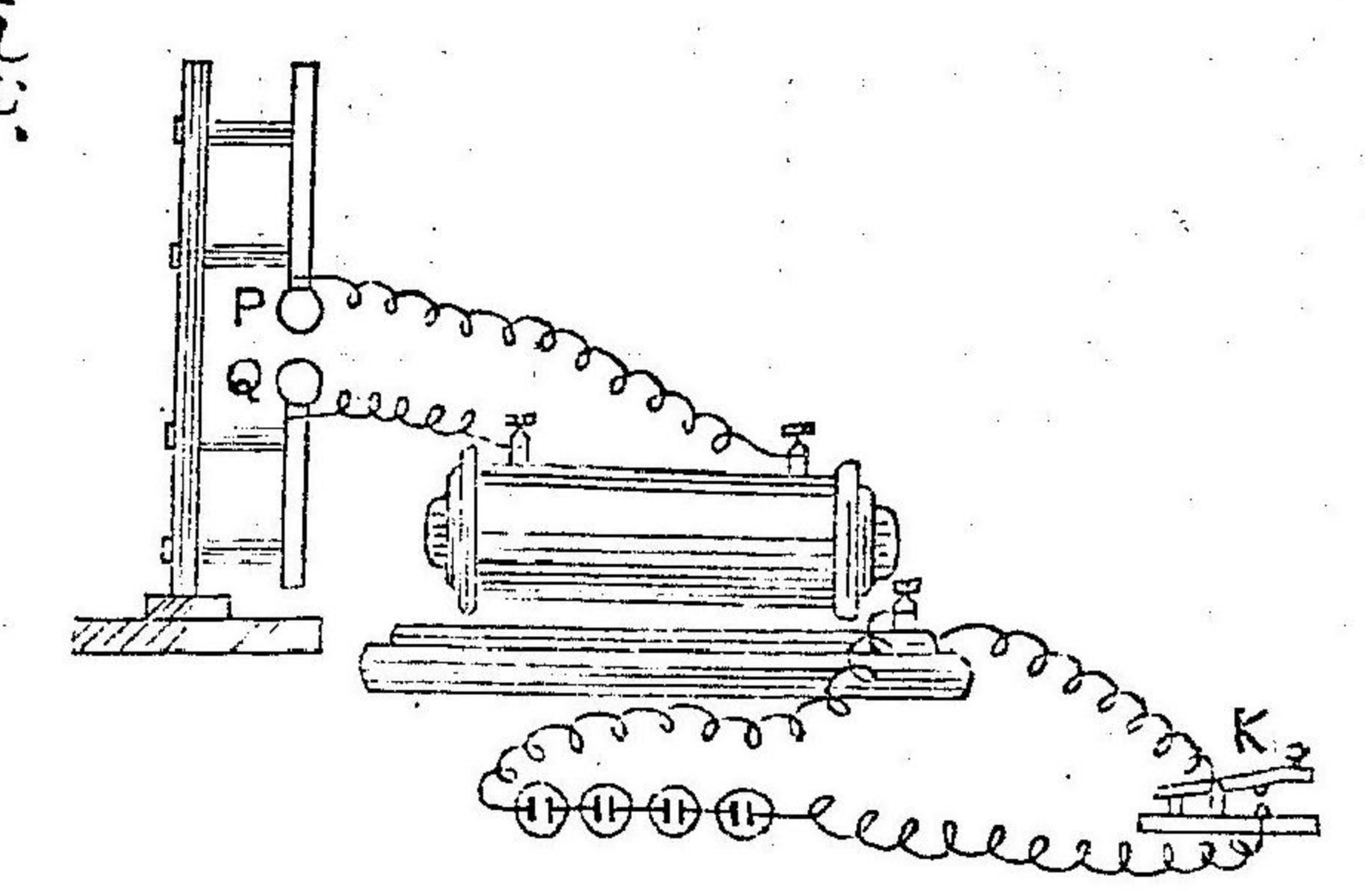
白金は高温に於ては苛性「アルカリ」、硝酸「カリウム」、硫

化「アルカリ」、「シヤン」化「アルカリ」等によりて侵蝕せらる、又燐、砒素、鉛、「アンチモン」等の金属は白金と合金を生ずるを以て、此等の物體を白金の器中に於て熱すべからず、九十分の白金と十分の「イリヂウム」の合金は、非常に堅硬にして鋼鐵の如き弾性と美麗なる光澤とを具へ、空氣の爲に變化せられず、又容易に熔融せざるを以て、度量衡の原器を造るに用ゐらる。

ハツゴ (醱酵) **化英** Fermentation. 糖類を含める溶液が、酵母(芽生菌)の爲に「アルコール」と二酸化炭素とに變するを醱酵と稱す、然れども廣義にては細菌の作用によりて、複雑なる化合物が分解せられて簡單なる化合物となることを一般に醱酵と稱するなり、例へば細菌の作用によりて醋酸、乳酸、「アムモニア」等を化成するが如し

ハツゴ (白光) **天英** Corona. 太陽の燐氣の外圍に一面に白色のものあり、之を白光と稱す、日蝕の時に見ることを得。

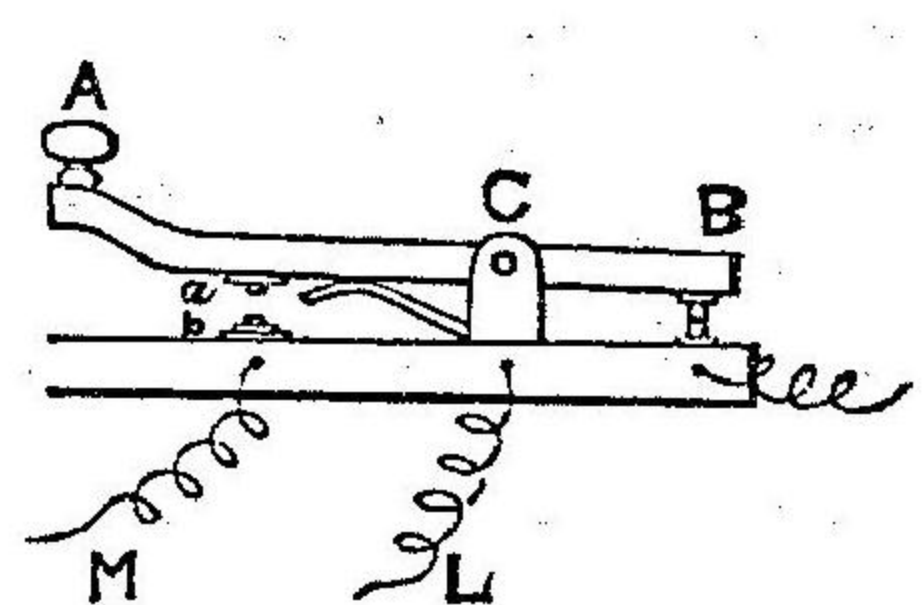
ハツサンサヨ (發散作用) **植** ツョートーサヨに同じ、**ハツサンリユー** (發散流) **植** 發散作用によりて、草木の莖幹を傳ひて昇る水分の流を云ふ、迅速なるものありては、一時間に二「メートル」の上昇をなすものなり、**ハツサンレンズ** (發散レンズ) **物英** Diverging lens.



器に「モールス」の「キー」kを結合したるものなり、振動器は先端に金属球を有する金属棒PQを相對せしめ、其の各を感應「コイル」の第二「コイル」に連絡したるものなり、今「キー」を押して第一「コイル」の輪道を閉つるときは、感應「コイル」の作用によりてPQ間に火花を生じ、以て電波を起さしむ。

ハツセーガン (發生學) **動英** Embryology. 動物が卵より起り、成體に至るまでの變化、狀況を講究する學をいふ、**ハツセーキノスイソ** (發生機の水素) **化英** Nascent Hydrogen. 化合物より遊離したる際の水素は、普通の水素よりも其の作用遙に活潑なり、之を發生機の水素といふ、**ハツセ**

凡ての凹「レンズ」は、光線を一所に集合せしむることなく、却りて之を散開せしむ、故に之を發散「レンズ」と稱す、**ハツシキ** (發信器) **物英** Transmitter. 發信器は、輪道を閉閉して以て音信を發するための器械にして、之を「キー」と稱す、即ち金属の横杆ABありて、其の支點Cは他局との間に架する電線Lと連續し、A鈕を押して之を下せば、其の下部にある尖端aはbに觸れ、M線によりて電池の陽極に連なる、依りて此の電池の電流は、aを経



て横杆に移り、次で電線に傳はりて他局受信器に達するなり、此のAを押す時間の長短を變すれば、他局の受信器に至る所の電流の時間を意の如く變ずることを得べし若又Aを押すことを止むれば、撥條の仕掛けにて、横杆のA端を押し上げ、B端を下して下部の尖端を塞に觸れしめ、塞は其の局の受信器と連なるにより、電線Lと其の局の受信器とは、横杆を経て相通するが故に、他局の發信器を押して通知し來る通信は其の局の受信器にて受くることをうべし、**ハツシキ** (無線電信機) (發信器) **物英** 無線電信の發信器は、音信を他所に送るべき器械にして、電氣振動

ハツタケ (青頭菌) **植** *Tractarius hatsutake*. 菌類にして、松林などの地上に生ず、莖と笠との區別あり、胞子を作る狀「シロタケ」と同じ、秋生じ食用とす、茶色にして、紫色を帯び、背は淡褐色なり、傷くるときは青變す、一種「マカハツタケ」あり、**ハツデンキ** (發電器) **物英** Electric machine. 起電器を見よ、**ハツデンル** (發電する) **物英** Electricity. 絹布を以て硝子を摩擦し、又は封蠟或は琥珀の類を「フラスコ」にて摩擦する時は、紙片又は燈心片等の輕き物體を吸引すべし、物體が斯くの如き特殊の性質を得たることを、發電せりと稱す、**ハツネツハン** (發熱反應) **化英** Exothermic reaction. 反應する際に熱を發する反應をいふ、例へば苛性加里と硫酸と反應する時には熱を發す、故に此の反應は一の發熱反應なり、**ハドレーツ** (光の) (波動説) **物英** Wave theory of light. 光の波動説にいふ所のは、光の現象てふものは、發光體の分子の振動が、吾人の稱して真空となす所の場所にも又凡ての物體の中にも充滿する所の「エーテル」と稱する媒質中に傳はりて、之に横波を生じ、之が四方八面に擴がるによりて起るものなりとす、この説は和蘭人「スイゲン

ハツタ

ス」の主唱せる所にして、近世諸大家の研究によりて確かめられたるものなり、

ハトムギ 種 「トームギ」に同じ、

ハトレイ (鳩類) 動英 Columbinæ. 鳩類は、嘴は短く、其の少しく膨大せる末端のみは角質にして、其の餘は軟皮を被り、鼻孔上に鱗状の軟瓣を有するを常とす、翼は長大にして能く飛翔し、足は常に赤色にして短小なり、而して後趾は他趾と同水平に位す、此の類は専ら樹上に棲息し、穀物を食さず、鳩類は常に雙棲し、単一の巢を樹上に營みて、概ね毎歳二回産卵し、雌雄交々之を抱す、其の雛は微弱にして、親鳥の哺育を仰がざるべからず、其の北地に産する者は候鳥にして、多く群棲す、「カハラバト」は諸邦に多く馴養するものなり、「キシバト」「シラコバト」「アチバト」等之に屬す、

ハナ (花) 植英 Flower. 植物體に於ける生殖機關にして、花被及花蕊より成る、其の種類左の如し、

- (A) 具備花……不具備花、(解は各の條に詳かなり)、
- (B) 整齊花……不整齊花、(同上)、
- (C) 完全花……不完全花、(同上)、
- (D) 雄花……雌花……雑性花、

- (E) 雌雄同株……雌雄異株、
- (f) 單被花……兩被花……裸花、

ハナ (鼻) 生英 Nose. 鼻は、鼻骨の先端と及其の中間にある軟骨とに筋肉と皮膚とを被ひて成れるものなれば、骨格につきて見るときは、單に鼻骨のみありて形狀大小の差を認め難し、鼻孔を入れれば奥に水平をなせる道あり、而して此の道には上中下の三段あり、平常の如く呼吸するときには空氣は其の下鼻道を出し、物を嗅ぐとき、或は「クサメ」のとき、上中の兩鼻道を出し、而して嗅神經は主に此上鼻道に分布するにより、深吸氣にあらざれば、臭氣を嗅ぐこと能はず、鼻毛は塵芥を去り、多少吸氣を温むる用あり、されば抜き或は刺るはよろしからず、鼻汁は精膜の排泄物并に涙液なり、故に寒冷の候皮膚の排泄減少すれば、鼻汁出づること多く、又涕泣するときも、鼻汁の流下すること多し、

ハナケ (石蕊) 植 Chalonis rangiferina. 本邦諸山に産する地衣類の一種なり、北極地方にては馴鹿の食となす、「スカンデナビヤ」地方にては、之より一種の「アルコール」を製す、本邦に産するものにては、數多の變種あり、

ハナシヨブ 種 Iris laevigata Fisch. var. Kämpferi Steud. 鳶尾科植物にして、葉に中肋あり、花は大なり、觀賞植物の一なり、

ハナセリ 動 Lepidoptera. 一見蛾に似る小蝶にして、頭及眼は大にして、短觸角を有し、其の末端少しく彎曲す、翅は茶黑色にして五の白紋あり、飛翔力強し、之に似る「イチモヂセセリ」は、後翅にある四白紋は一字形をなし、幼蟲は有名なる害蟲にして、「ハマケリムシ」と稱し、葉を捲きて食害す

バナナ 種 Banana. 芭蕉の一種「カンシヨウ」又「ミバシヨウ」(甘蔗)の實なり、

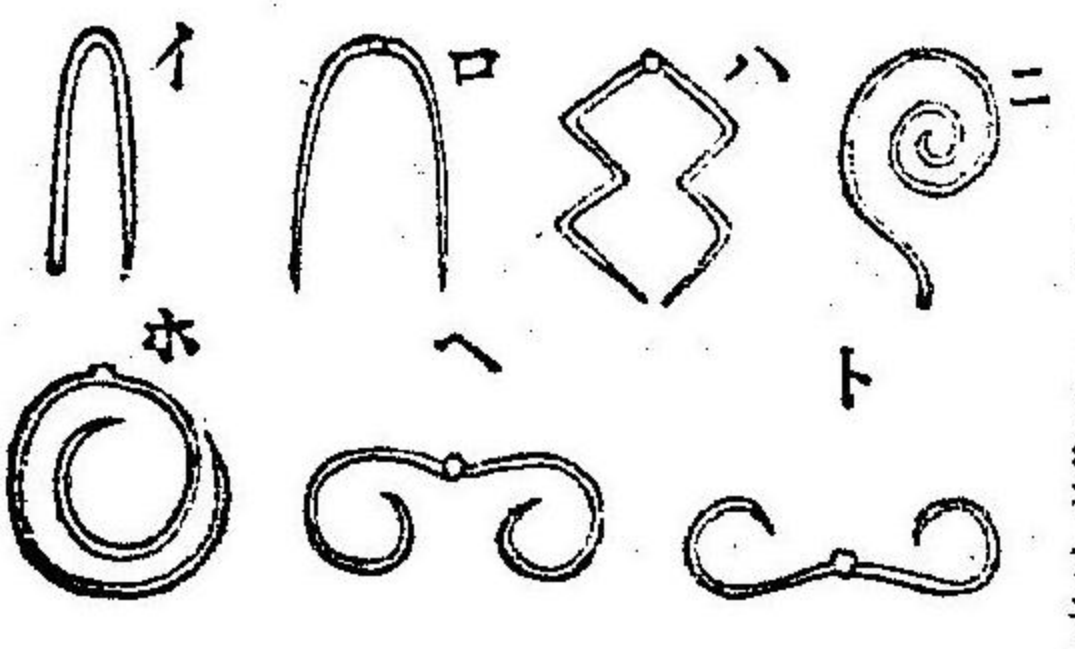
ハナキ 種 「シキミ」を見よ、

ハネ 動英 Feather, Wing. 俗に「ハネ」と稱するときは、鳥類の翼并に昆蟲類の翅を意味するものなれども、兩者決して同一のものにあらずして、只作用に於て一致するのみ、形態學及發生學上より論すれば、決して同一の價値を有せず、かく作用のみが似たる器官を相似の器官といふ、Feather は翼といひ、専ら鳥類の「ハネ」に用ゐ、Wing は動物の飛翔器に適用す、

ハナカド (葉の開度) 種 Angular divergence of leaves. 莖の周圍に著生する葉は、互に一定の關係を有するものにして、相隣れる二葉間の横距離を葉の開度と稱す、通常莖周の分數を以てあらはす、今絲を以て順次に葉の著點を連結し、最初の葉の直上の葉に至りて止めたりとせよ、之を一葉序と稱し、一葉序を完結するに要する螺旋の回轉

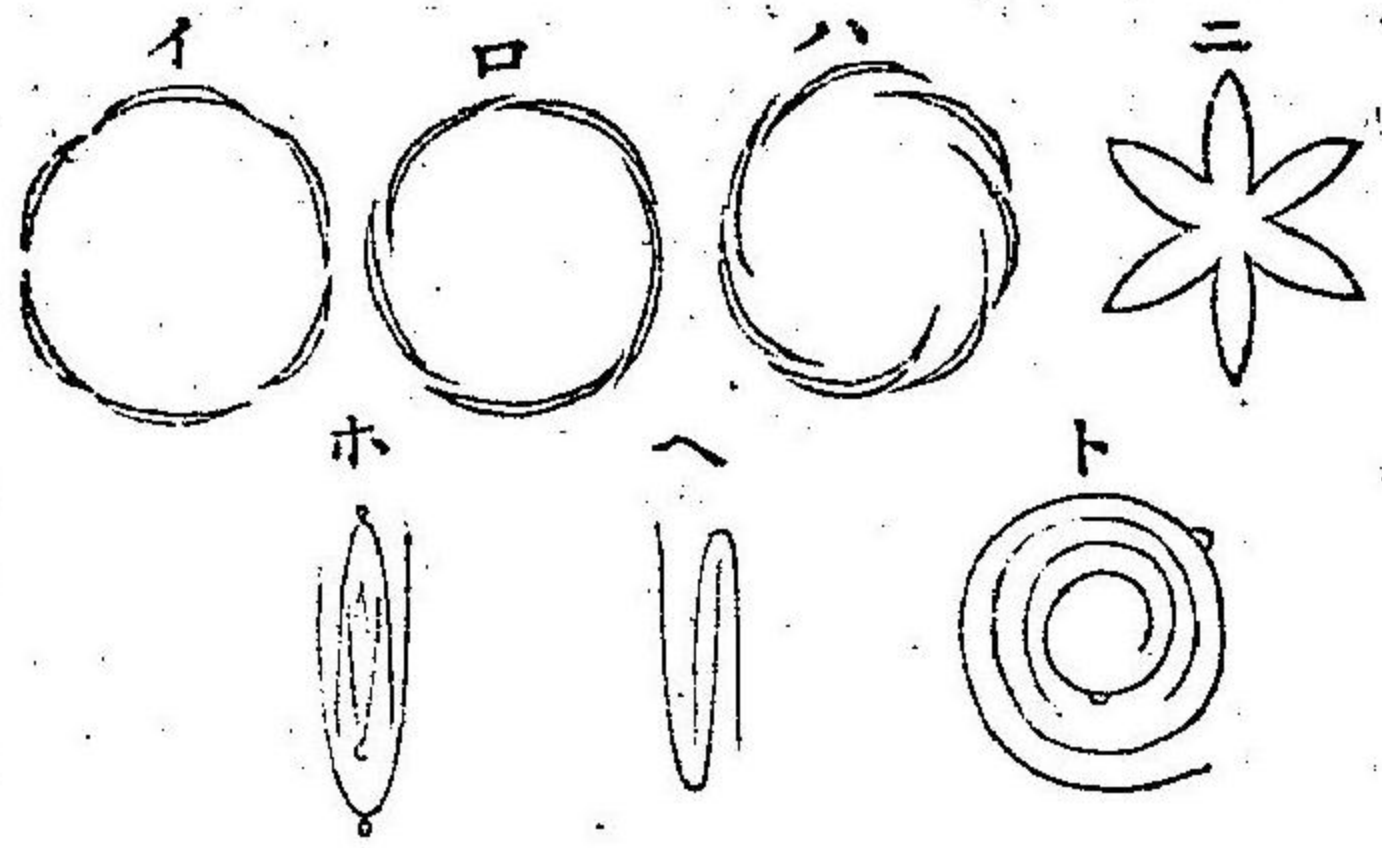
數を求めて之を分子とし、一葉序中にある葉數を以て分母とすれば、葉の開度を示す數を得べし、 $\frac{1}{2}$ $\frac{1}{3}$ $\frac{1}{5}$ 等は、其の普通なるものなり、

ハナツシヨ (葉の發狀) 種 Venation. 芽中に於ける嫩葉の位置形狀を云ふ、今之を(一)各葉の發狀(二)一の芽中に於ける諸葉全部の發狀に區別して、詳述す可し、



- (一) 各葉の發狀、
- 芽中に於ける嫩葉は、大概種々に屈折するものなれども、稀には、扁平にして屈折せざるものあり、例へば椗の如し、次に其の屈折の状態には種々あり、
- (イ) 内曲狀……葉尖内折して葉脚に近く者、例へば「チュリブ」の如し、
- (ロ) 摺合狀……葉の兩半が中肋に沿ひて、内合せるもの、例へば「カシハ」「モクレン」の如し、
- (ハ) 摺裂狀……葉の兩半が扇の如く數回摺疊するもの、例へば「モミヂ」「アドー」「アナ」の如し、
- (ニ) 盤旋狀……葉の先端が内方に巻旋して葉脚に至り、渦卷をなすことあり、例へば「ソラビ」「モーセンヨケ」「ソテツ」の如し、

ホ包旋状、葉の一半が、中肋に向かひて内方に巻旋し、其の他半が、又其の上を捲くことあり、例へば、「アズ」
 「バナナ」の如し。
 へ外旋状、葉の兩半が、各中肋の方に向かひて外方に捲反するものをいふ、例へば、「ツツジ」「ダイオウ」「スイバ」の如し、
 ト内旋状、葉の兩半が、前者と同じく、反對の方向即ち内方に巻旋することあり、例へば、「ハス」「ヒツシグサ」「スミレ」の如し。



(二)の芽中に於ける諸葉全部の發狀。
 甲)各葉扁平なるか、若くは稍屈折するもの
 乙)鑷合狀、諸葉同高の位置にありて、環狀に直立し、唯其の兩縁にて隣者と相觸るるもの。
 丙)覆瓦狀、諸葉同高の位置に立たず、且つ屋瓦の如く順次相被ふもの。
 ハ)螺旋狀、前者に類し

更に深く被覆するもの。
 乙)各葉屈曲し、或は巻旋するもの。
 丙)内向鑷合狀、内旋葉が環狀に排列し、唯其の兩縁のみ相接し、更に被覆せざるもの。
 ホ)勝狀、摺合葉が、互に相抱合するもの。
 へ)半勝狀、摺合葉の一半のみ、相抱合するもの。
 ト)複包旋狀、一包旋葉の周圍に、更に他の包旋葉が被覆するもの。

ハハコサ(鼠麴草) 植 *Gnaphalium multiceps* wall.
 菊科に屬する二年生草本にして、隨所に生ず、黄花なり、春より秋に開く、蟲媒植物なり、春の七種の二にして「ユキヨロ」御形と云ふもの足なり、支那印度にも分布す、印度にて之を薬用とし、又は火口と稱するものを製す。
 ハハコク(矮檜) 植 *Juniperus chinensis*, L. var. *pseudohibernica* (Endl.) 「ヤツクマン」の變種にして、日光の白根山、東北地方の諸高山に産す。
 ハハコツ(偃松、臥松) 植 *Pinus pumila* pall. 一名「イハネマツ」、又「センヂョーマツ」、又「シモフリマツ」と云ふ、葉は五葉にして、地に匍匐して生長し、且つ單一の幹を形成せずして數多に分かれ、其の先端より根を生じ、非常に擴が

り、元一樹にして遂に數反歩の面積を占領するに至る、其の狀恰も疊を敷きたるが如し、故に之を千疊松と云ふ、又葉に霜の降りたるが如き白條あるを以て「シモフリマツ」とも云ふ、白山、御岳、八甲田山等其の他の高山頂に生ず、故に又絶頂松と云ふ、其の實は食すべし、翼を有せず。

ハハコ(飯匙倩) 動 *Trinomesurus pinkianus* Hilgdt.
 我琉球、臺灣等に棲息する毒蛇にして、五尺以上に達するものあり、外見稍内地の「シマヘビ」に似て、斑紋明瞭ならず、毒激しきを以て、土人に怖れらる、嘗て琉球にて懸賞して其の頭を集めたるに、立どころに數百を得たることあり。

ハハコ(蠅) 動 *Brachyera* 英 [F.] 夏期盛に繁殖する二翅類にして、種類多く、就中有害なるは、蠶を食する「ウツムハ」「獸類に寄生する「ウツムハ」「ウツムハ」「ヒツツムハ」等なり、其の幼蟲は皆蛆と稱し、多くは腐敗物に群集す、
 ハハコ(蠅) 植 「ハハトリグサ」に同じ。

ハハトリグサ(蠅虎) 動 *Salticus* 書間壁を徘徊して、「ハハ」を捕食する「クモ」にして、體扁平に、脚長からずといへども、歩行極めて速く、「ハハ」を捕ふる時は數寸の遠方より之に飛びかかり、嘗て失敗することなし、絲腺の發達なく、板の隙間等に入りて身をかくすものなり。

ハハトリグサ(蠅取草) 動 *Dionaea muscipula*.

北米合衆國「フロリダ」地方の特生植物にして、葉片は縱に蝶鉸狀をなし、葉の中央部に近く存する六個の剛毛は、感覺力に富み、蠅其の他の蟲類の來りて之に觸るるや、忽ち葉片を閉合して之を捕へ、葉片の縁邊にある齒は左右相交し、蟲類をして復た出づるに由なからしむ、其の後漸く消化液を分泌して、蟲體を溶解す。

ハハド(野豌豆) 植 *Lathyrus maritimus* (L.) Bigel. var. *flumbertianus* Miq. 豆科植物にして、其の種子食ふ可し、葉は茶に代用す。

ハハド(文蛤) 動 *Cytherea menetrix*, L. 英 *Clam*. 二枚貝中上品にして味美なるを以て賞せらる、殻は外面暗褐色の太き放射狀の帶紋あり、内面白色を呈す、大なるものは長さ二寸餘、高さ一寸八分位に達す、我東海及内海に饒産す。

ハハド(玫瑰) 植 *Rosa rugosa* Thunb. 海岸に自生する灌木にして、薔薇科に屬す、花は楕大形にして淡紫色を呈し、莖に剛き刺ありて人を刺す、果實は小さき「トマト」の